宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第120集

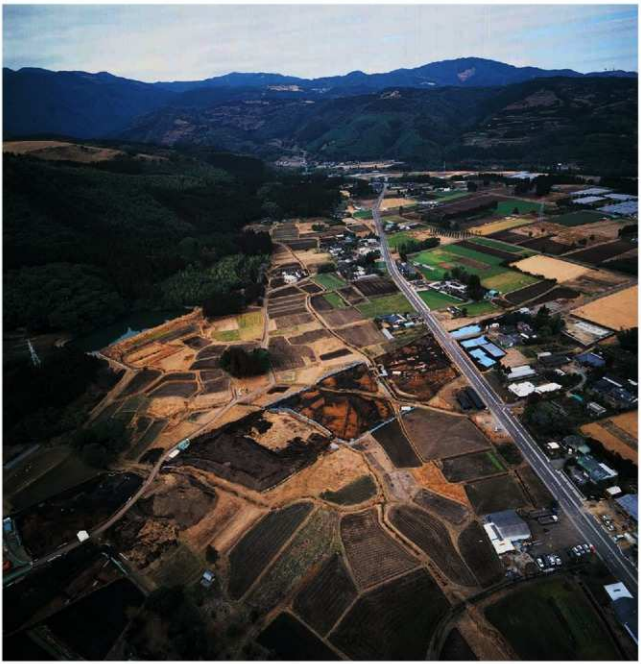
銀座第1遺跡
（一・二・三・四次調査）

Ginza 1 site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書25

２００６

宮崎県埋蔵文化財センター



銀座第 1 遺跡近景（南から）

巻頭図版2

一次・二次・三次調査区

四次調査区

A区全景（一次調査）

C区全景（二次調査）

B区全景（三次調査）

D・E区（四次調査）

道路状遺構とピット群（二次調査）

中世土坑墓（四次調査）

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成１１年度から実施しております。本書はその発掘調査報告書であります。

本書に掲載した銀座第１遺跡は宮崎県児湯郡川南町に位置し、平成１４年度から１５年度にかけて四次にわたる発掘調査を実施し、旧石器時代から近世までの遺構・遺物を確認することができました。

縄文時代の成果としては、丘陵下の低地に展開する集石遺構群があり、当時の生活域が台地上にとどまらなかったことが分かります。また溝から出土した弥生土器の数々は、付近に集落の存在を暗示するものです。

特筆すべきは中世～近世の成果で、方形区画を基礎とする集落の存在が明らかとなりました。そこから出土した多種多様の遺物は盛んな交流をうかがわせ、土師器には豊後国との関わりを強く感じさせるものも含まれていました。

ここに報告する内容は、今後当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になると考えられます。

本書が学術資料としてだけでなく学校教育や生涯学習などの場で活用され、また埋蔵文化財保護に対する理解の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して厚くお礼申し上げます。

平成１８年３月

宮崎県埋蔵文化財センター
所　長　　宮　園　淳　一

例　言

1．本書は、平成14～15年度に実施した東九州自動車道（都農～西都間）建設に係る埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は日本道路公団の委託により宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。

なお、日本道路公団は平成17年10月１日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社となったが、本報告書中では日本道路公団として記載する。

3．本遺跡（銀座第１遺跡）は38,600㎡（変更前33,700㎡）を調査対象範囲とする遺跡であるが、本書はそのうち14,040㎡の調査成果について掲載した。

4．現地での実測等の記録は、永山博一・鶴戸周成・阿部直人・小山博・高橋浩子・藤木聡・高木裕志・松尾有年・金丸史絵・成相景子・嶋田史子・小宇都あずさ・黒木修が行ったほか、発掘作業員が補助した。

5．本書使用の遺物実測図の作成は、谷口武範・永山・鶴戸・堀田孝博・藤木が行ったほか、整理作業員が補助した。

6．本書使用の実測図等の浄書は、永山・鶴戸・堀田・藤木が行ったほか、整理作業員が補助した。

7．現地での写真撮影は永山・鶴戸・阿部・今塩屋毅行・高木・金丸・小宇都が行い、遺物写真は鶴戸が撮影した。

8．グリッド杭設置・空中写真は次の機関に委託した。

グリッド杭設置：有限会社黒木測量設計コンサルタント（一・二・四次）
有限会社タイユー測量設計（一・二・四次）
株式会社外山測量設計コンサルタント（三次）

空中写真　：有限会社スカイサーベイ九州（一～四次）
九州航空株式会社（一・二・四次）

9．本書で使用した遺跡位置図は、国土地理院発行の２万５千万分の１図「川南」・「石河内」をもとに作成した。

10．本書で使用した方位は座標北（座標第Ⅱ系）を基本とし、平面図の一部に磁北（本地域における真北との偏差は約6° 15'W）を用いている。図中にそれぞれG. N. ないしM. N. と標記して区別した。また標高は海抜絶対高である。

11．出土遺物の石材同定については赤崎広志、藤木が行った。

12．本書の執筆分担は以下のとおりである。

【第Ⅰ章】　第１節：谷口、第２・３節：永山
【第Ⅱ章】　第１・２節：永山
【第Ⅲ章】　第１～３節：永山
【第Ⅳ章】　第１・２節：永山、第３節１（１）・（２）：藤木、第３節１（３）：谷口、第３節２（１）：永山、第３節２（２）①：堀田、②：永山、③：藤木
【第Ⅴ章】　第１～６節：鶴戸
【第Ⅵ章】　１：堀田、２：鶴戸、３：堀田、４：堀田

なお編集は平成16年度に永山・鶴戸が行ったものを引継ぎ、平成17年度に堀田、金丸琴路が最終的な編集を行った。

13．出土遺物、その他の諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに
第１節　調査の経緯と概要 …… 1
第２節　調査の組織 …… 1
第３節　報告書の記載について …… 2
第Ⅱ章　遺跡の環境
第１節　地理的環境 …… 4
第２節　歴史的環境 …… 4
第Ⅲ章　調査の方法と経過
第１節　確認調査の概要 …… 6
第２節　調査区の設定と調査経過 …… 7
第３節　整理作業及び報告書作成 …… 11
第Ⅳ章　一次・二次・四次調査の記録
第１節　調査の概要 …… 12
第２節　基本層序 …… 13
第３節　遺構と遺物
１　旧石器時代～古墳時代の遺物
（１）　旧石器時代の石器 …… 20
（２）　縄文時代～弥生時代の石器・石製品 …… 20
（３）　縄文時代・弥生時代～古墳時代の土器 …… 22
２　中世～近世の遺構と遺物
（１）　遺構
①溝状遺構 …… 27
②掘立柱建物跡 …… 50
③土坑 …… 68
④土坑墓 …… 75
⑤道路状遺構 …… 83
⑥石積遺構 …… 88
（２）　遺物
①土器・陶磁器類 …… 89
②金属製品類 …… 101
③石器・石製品 …… 106
第Ⅴ章　三次調査の記録
第１節　調査の概要
１　縄文時代早期の調査 …… 113
２　アカホヤ火山灰（K-Ah）降灰後の調査 …… 114
第２節　基本層序
１　基本層序 …… 115
第３節　縄文時代早期の遺構と遺物
１　縄文時代早期の概要 …… 117
２　遺構と遺物
（１）　遺構（集石遺構） …… 118
（２）　遺物 …… 137
第４節　弥生時代後期の遺構と遺物
１　遺構（溝状遺構） …… 139
２　遺物 …… 146
第５節　中世以降の遺構と遺物
１　遺構（溝状遺構）と遺物 …… 155
第６節　その他の遺構と遺物
１　遺構 …… 162
２　遺物 …… 162
第Ⅵ章　まとめ
１　旧石器時代 …… 169
２　縄文時代早期 …… 169
３　弥生時代 …… 170
４　中世～近世 …… 171

挿 図 目 次

第１図　銀座第１遺跡と周辺遺跡位置図……５
第２図　確認調査トレンチ配置図……７
第３図　調査区位置図及びグリッド配置図……９
第４図　Ａ・Ｄ区基本層序とＥ区北西壁
　土層断面図 ……13
第５図　遺構分布図 ……14
第６図　Ａ区遺構分布図 ……15
第７図　Ｃ区遺構分布図 ……16
第８図　Ｄ区遺構分布図 ……17・18
第９図　Ｅ区遺構分布図 ……19
第10図　旧石器時代～弥生時代の石器・
　石製品実測図 ……21
第11図　縄文時代・弥生時代～古墳時代の
　土器実測図① ……23
第12図　縄文時代・弥生時代～古墳時代の
　土器実測図② ……24
第13図　ＳＥ１・16実測図 ……29
第14図　ＳＥ２・８・11・13実測図……31
第15図　ＳＥ３・４・５・７・９・10・12
　実測図 ……33
第16図　ＳＥ３土層断面実測図 ……34
第17図　ＳＥ５土層断面実測図及びＤ区
　北東隅壁土層断面実測図 ……35
第18図　ＳＥ４・７・９・10土層断面
　実測図 ……36
第19図　ＳＥ６実測図 ……37
第20図　ＳＥ14・15・41実測図……38
第21図　ＳＥ17・18・19・20・21・22・23
　実測図 ……39
第22図　ＳＥ24・25・26・27・40実測図……40
第23図　ＳＥ30・31・33・36・37・42・43
　実測図① ……41
第24図　ＳＥ30・31・33・36・37・42・43
　実測図② ……42
第25図　ＳＥ33硬化面・ＳＥ28・29実測図……42
第26図　ＳＥ31・32・35実測図 ……43
第27図　ＳＥ44・51・ＳＣ68実測図 ……44
第28図　ＳＥ44・45・46・47・48実測図……45
第29図　ＳＥ44・ＳＣ68土層断面実測図……46
第30図　ＳＣ68土層断面実測図 ……47
第31図　ＳＥ49・50実測図 ……49
第32図　ＳＢ１実測図及び柱穴土層断面図……51
第33図　ＳＢ２実測図 ……52
第34図　ＳＢ３実測図 ……52
第35図　ＳＢ４実測図 ……53
第36図　ＳＢ５実測図 ……53
第37図　ＳＢ６実測図 ……55
第38図　ＳＢ７実測図及び柱穴土層断面図 ….56
第39図　ＳＢ８実測図 ……57
第40図　ＳＢ９実測図 ……57
第41図　ＳＢ10実測図 ……58
第42図　ＳＢ11実測図……58
第43図　ＳＢ12実測図……59
第44図　ＳＢ13実測図……59
第45図　ＳＢ14実測図及び柱穴土層断面図….61
第46図　ＳＢ15実測図及び柱穴土層断面図….62
第47図　ＳＢ16実測図……62
第48図　ＳＢ17実測図及び柱穴土層断面図….63
第49図　ＳＢ18実測図及び柱穴土層断面図….64
第50図　ＳＢ19実測図……65
第51図　ＳＢ20実測図……65
第52図　ＳＢ21実測図……67
第53図　ＳＢ22実測図……67
第54図　ＳＣ２・３・４・６・８・10実測図……69
第55図　ＳＣ13・14・26・49実測図……71
第56図　ＳＣ65実測図 ……72
第57図　ＳＣ66実測図 ……73
第58図　ＳＣ67実測図 ……74
第59図　ＳＤ１・２・３・４実測図 ……76
第60図　ＳＤ５・６・７実測図 ……77
第61図　ＳＤ８・９・10実測図 ……79
第62図　ＳＣ５・ＳＤ11・12・13・14・
　15実測図 ……80
第63図　ＳＤ14・15実測図② ……81
第64図　ＳＤ16実測図・出土遺物実測図 ……82
第65図　ＳＧ１・２実測図 ……84
第66図　ＳＧ１・２土層断面実測図 ……85
第67図　ＳＧ２（波板状凹凸面）実測図 ……86
第68図　ＳＧ３（波板状凹凸面）実測図 ……87
第69図　１号石積遺構実測図 ……88
第70図　中・近世土器・陶磁器類実測図① ….90
第71図　中・近世土器・陶磁器類実測図② ….91
第72図　中・近世土器・陶磁器類実測図③ ….93
第73図　中・近世土器・陶磁器類実測図④ ….94
第74図　中・近世土器・陶磁器類実測図⑤ ….95
第75図　中・近世土器・陶磁器類実測図⑥ ….97
第76図　中・近世金属製品実測図① ……102
第77図　中・近世金属製品実測図② ……103
第78図　中・近世石器・石製品実測図① ……105
第79図　中・近世石器・石製品実測図② ……106
第80図　中・近世石器・石製品実測図③ ……107
第81図　中・近世石器・石製品実測図④ ……108
第82図　中・近世石器・石製品実測図⑤ ……109
第83図　調査範囲 ……113
第84図　縄文時代早期調査範囲 ……113
第85図　溝状遺構分布図 ……114

第86図　先行トレンチ土層実測箇所……115
第87図　先行トレンチ土層実測図……116
第88図　縄文時代早期遺構・遺物・礫分布図・117
第89図　縄文時代早期集石遺構実測図①……119
第90図　縄文時代早期集石遺構実測図②……123
第91図　縄文時代早期集石遺構実測図③……125
第92図　縄文時代早期集石遺構実測図④……127
第93図　縄文時代早期：礫の接合状況……129
第94図　礫の赤化度・完形率……134
第95図　接合礫（集石遺構を構成する礫）
　　の赤化度・完形率……134
第96図　集石遺構集中域周辺の遺物・礫
　　分布図……138
第97図　縄文時代早期石器・土器実測図……138
第98図　ＳＥ10平面実測図及び底面直上
　　出土遺物分布図……140
第99図　ＳＥ10断面実測図①……141
第100図　ＳＥ10断面実測図②……142
第101図　ＳＥ10断面実測図③……143
第102図　ＳＥ10断面実測図④……144
第103図　ＳＥ10断面実測図⑤……145
第104図　ＳＥ10出土弥生土器実測図①……147
第105図　ＳＥ10出土弥生土器実測図②……148
第106図　ＳＥ10出土弥生土器実測図③……149
第107図　ＳＥ10出土弥生土器実測図④……150
第108図　ＳＥ１・６実測図……156
第109図　ＳＥ１出土遺物実測図……156
第110図　ＳＥ２・３・５実測図……157
第111図ＳＥ２・３出土遺物実測図……157
第112図ＳＥ４実測図……159
第113図　ＳＥ７・８実測図……160
第114図　ＳＥ７出土遺物実測図……160
第115図　ＳＥ９実測図……161
第116図　ＳＥ９出土遺物実測図……161
第117図　ＳＥ11実測図……163
第118図　その他の遺物（石器）実測図……165
第119図　その他の遺物
　　（土器・須恵器・陶磁器）実測図……166
第120図　銀座第１遺跡の方形区画……172
第121図　前ノ田村上第１遺跡の方形区画……173
第122図　池開・江口遺跡の方形区画……175
第123図　土師器杯の形態比較……176

表　目　次

第１表　遺構名の対応関係……2
第２表　遺物観察表（石器・石製品①）……20
第３表　遺物観察表（縄文土器・弥生土器①）・24
第４表　遺物観察表（縄文土器・弥生土器②）・25
第５表　掘立柱建物跡一覧表……55
第６表　土坑一覧表……70
第７表　土坑墓一覧表……81
第８表　遺物観察表（土器・陶磁器類①）……99
第９表　遺物観察表（土器・陶磁器類②）……100
第10表　遺物観察表（金属製品類①）……101
第11表　遺物観察表（金属製品類②）……104
第12表　遺物観察表（石器・石製品）……111
第13表　基本層序……115
第14表　集石遺構構成礫観察表①……120
第15表　集石遺構構成礫観察表②……121
第16表　集石遺構構成礫観察表③……122
第17表　集石遺構構成礫観察表④……124
第18表　集石遺構構成礫観察表⑤……126
第19表　縄文時代早期集石遺構構成礫分析表・128
第20表　縄文時代早期出土礫観察表①……130
第21表　縄文時代早期出土礫観察表②……131
第22表　縄文時代早期出土礫観察表③……132
第23表　縄文時代早期出土礫観察表④……133
第24表　縄文時代早期出土接合礫観察表①…135
第25表　縄文時代早期出土接合礫観察表②…136
第26表　縄文時代早期石器器種・石材別
　　数量表……137
第27表　縄文時代早期石器計測表……139
第28表　縄文時代早期土器観察表……139
第29表　ＳＥ10出土弥生土器観察表①……151
第30表　ＳＥ10出土弥生土器観察表②……152
第31表　ＳＥ10出土弥生土器観察表③……153
第32表　ＳＥ10出土弥生土器観察表④……154
第33表　ＳＥ１・２・３・７・９出土
　　陶磁器等観察表……162
第34表　ＳＥ３・９出土石器計測表……162
第35表　その他の遺物（石器）計測表……167
第36表　その他の遺物（土器・陶磁器等）
　　観察表……168

巻頭図版目次

巻頭図版１　銀座第１遺跡近景（南から）
巻頭図版２　一次・二次・三次調査区
　　四次調査区
巻頭図版３　Ａ区全景（一次調査）
　　Ｃ区全景（二次調査）
巻頭図版４　Ｂ区全景（三次調査）
　　Ｄ・Ｅ区（四次調査）
巻頭図版５　道路状遺構とピット群（二次調査）
　　中世土坑墓（四次調査）

図　版　目　次

図版１　Ａ区全景
　　ＳＥ１土層断面（北西より）

ＳＥ３土層断面（西より）
ＳＥ４土層断面（南より）
ＳＥ６土層断面（北より）
図版２　ＳＢ１（北西より）
ＳＢ５（北西より）
ＳＢ６（北西より）
ＳＢ７（北より）
ＳＢ11・12（北東より）
ＳＢ14（南西より）
図版３　ＳＢ14－Ｐ１遺物出土状況（石臼）
ＳＢ14－Ｐ４遺物出土状況（銭貨）
ＳＢ15（東より）
ＳＢ17・18（東より）
ＳＢ19（南東より）
ＳＢ21（東より）
図版４　ＳＢ14－Ｐ３・Ｐ４土層断面（柱痕跡）
ＳＢ14土層剥ぎ取り（薬品塗布）
ＳＢ14土層剥ぎ取り（布がけ）
作業風景①
作業風景②
図版５　ＳＣ26完掘状況
ＳＣ49完掘状況
ＳＣ65（手前）・66（右奥）（南東より）
ＳＤ１～５・ＳＣ１完掘状況（北より）
ＳＤ８～10完掘状況（南東より）
ＳＤ11～15完掘状況（北より）
図版６　ＳＧ１・２と１号石積遺構（北より）
ＳＧ１土層断面（北より）
ＳＧ２（波板状凹凸面）土層断面（南より）
ＳＧ３とＳＥ33・34（南西より）
図版７　ＳＥ31（区画溝Ⅲ）（北西より）
ＳＥ44（区画溝Ⅳ）とＳＣ68（西より）
図版８　先行トレンチ土層断面①
先行トレンチ土層断面②
縄文時代早期：出土状況①
縄文時代早期：出土状況②
縄文時代早期：ＳＩ１
縄文時代早期：ＳＩ２
図版９　縄文時代早期：ＳＩ３
縄文時代早期：ＳＩ４
縄文時代早期：ＳＩ５
縄文時代早期：ＳＩ６
縄文時代早期：ＳＩ７
縄文時代早期：ＳＩ８
図版10　弥生時代：ＳＥ10（Ａ区）
弥生時代：ＳＥ10（Ｂ区）
弥生時代：ＳＥ10遺物出土状況①
弥生時代：ＳＥ10遺物出土状況②
弥生時代：ＳＥ10遺物出土状況③
弥生時代：ＳＥ10遺物出土状況④
図版11　弥生時代：ＳＥ10遺物出土状況⑤
弥生時代：ＳＥ10ベルト土層断面①
弥生時代：ＳＥ10ベルト土層断面②
弥生時代：ＳＥ10ベルト土層断面③
中世以降：溝状遺構検出状況
中世以降：ＳＥ１・６
図版12　中世以降：ＳＥ１①
中世以降：ＳＥ１②
中世以降：ＳＥ２①
中世以降：ＳＥ２②
中世以降：ＳＥ２・３
中世以降：ＳＥ４
図版13　中世以降：ＳＥ５
中世以降：ＳＥ７
中世以降：ＳＥ９
中世以降：ＳＥ１ベルト土層断面
中世以降：ＳＥ２ベルト土層断面
中世以降：ＳＥ４ベルト土層断面
図版14　中世以降：ＳＥ９ベルト土層断面
その他：ＳＥ11
縄文時代早期：出土遺物
弥生時代：ＳＥ10出土遺物①
弥生時代：ＳＥ10出土遺物②
弥生時代：ＳＥ10出土遺物③
図版15　弥生時代：ＳＥ10出土遺物④
弥生時代：ＳＥ10出土遺物⑤
弥生時代：ＳＥ10出土遺物⑥
弥生時代：ＳＥ10出土遺物⑦
弥生時代：ＳＥ10出土遺物⑧
弥生時代：ＳＥ10出土遺物⑨
図版16　弥生時代：ＳＥ10出土遺物⑩
弥生時代：ＳＥ10出土遺物⑪
弥生時代：ＳＥ10出土遺物⑫
弥生時代：ＳＥ10出土遺物⑬
中世以降：溝状遺構出土遺物
（須恵器・陶磁器）〈外面〉
中世以降：溝状遺構出土遺物
（須恵器・陶磁器）〈内面〉
図版17　中世以降：溝状遺構出土遺物（石器）
その他の遺物：石器類
その他の遺物：土器・須恵器・陶磁器
（中世）〈外面〉
その他の遺物：土器・須恵器・陶磁器
（中世）〈内面〉
その他の遺物：土器・須恵器・陶磁器
（近世）〈外面〉
その他の遺物：土器・須恵器・陶磁器
（近世）〈内面〉

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査の経緯と概要

東九州自動車道（門川～西都間59km）は、平成８年12月国土開発幹線自動車道建設審議会において整備計画区間に決定した。そのうち都農～西都間約25kmについて、同年12月に建設大臣（現国土交通大臣）より日本道路公団へ施行命令が発令された。一方、県教育委員会では、整備区間決定後の平成10年度に都農～西都間の路線上を対象とした詳細な分布調査を行い、79遺跡896,000㎡の埋蔵文化財包蔵地の所在を確認した。そして平成11年度から日本道路公団九州支社と宮崎県教育委員会との間で委託契約を締結し、宮崎県埋蔵文化財センターが用地買収の進捗に合わせ確認調査・本調査および整理作業を実施している。

銀座第１遺跡は、国営農業用水の関係から川南町で最も早く工事着手が予定されており、工事予定箇所について公団・施工業者と調査・工事に支障がないよう調整を常に図りながら調査を行った。確認調査は平成14年５月から平成15年10月までに４回に分けて実施した。なお、一次調査の状況から銀座第２遺跡との間の対象地外にも遺跡拡大の可能性があることから平成14年10月に確認調査を実施し、溝状遺構や土師器・弥生土器等が確認され、調査対象区が南に4,900㎡拡大した。

本調査は、用地の取得・家の移転・調査対象区の拡大などの要因から一次～四次調査まで実施した。後述するように確認調査から四次調査終了まで約３年の歳月を要し、度重なる台風襲来による土砂の流入や県道尾鈴川南停車場線の道路下の調査、工事期間との調整など困難を極めた。調査の間、平成15年２月１日には銀座第２遺跡と合同で現地説明会を実施した。また、平成15年10月17日には宮崎県建設技術協会主催の研修会が行われ約70名の参加があった。

第２節　調査の組織

銀座第１遺跡の調査組織は次のとおりである。

【調査主体】　宮崎県教育委員会
宮崎県埋蔵文化財センター

平成14年度

所　長	来良　弘康
副所長兼総務課長	大薗　和博
副所長兼調査第二課長	岩永　哲夫
調査第一課長	児玉　章則
総務課総務係長	野邊　文博
調査第一課調査第一係長	谷口　武範
調査第二係長	長津　宗重

平成15年度

所　長	来良　弘康
副所長兼総務課長	大薗　和博
副所長兼調査第二課長	岩永　哲夫
調査第一課長	児玉　章則
総務課主幹兼総務係長	石川　恵史
調査第一課調査第一係長	谷口　武範
調査第二係長	長津　宗重

平成16年度

所　長	宮園　淳一
副所長兼総務課長	大薗　和博
副所長兼調査第二課長	嶌永　哲夫
調査第一課長	山　富雄
総務課主幹兼総務係長	石川　恵史
調査第一課調査第一係長	谷口　武範
主幹兼調査第二係長	長津　宗重

平成17年度

所　長	宮園　淳一
副所長兼調査第二課長	岩永　哲夫
総務課長	髙越　尊

調査第一課長　山　富雄
総務課主幹兼総務係長　石川　恵史
調査第一課
主幹兼調査第一係長　長津　宗重
主幹兼調査第二係長　菅付　和樹

[調査担当]

調査第一課第一係 主　査　永山　博一
（平成14～15年度：一・二・四次）
第一係 主　査　鵜戸　周成
（平成14年度：三次）
第一係 主　査　阿部　直人
（平成15年度：四次）
第一係 主任主事　小山　博
（平成15年度：四次）
調査員　高木　祐志
松尾　有年
金丸　史絵
成相　景子
小宇都　あずさ
黒木　修

[報告書作成担当]

調査第一課第一係 主　査　永山　博一
（平成16年度：一・二・四次）
第一係 主　査　鵜戸　周成
（平成15～16年度：三次）
第二係 主　事　堀田　孝博
（平成17年度）
第一係 整理専門員　金丸　琴路
（平成15～17年度）

[東九州自動車道発掘調査指導委員]

泉　拓良（京都大学）
小畑　弘己（熊本大学）
田崎　博之（愛媛大学）
広瀬　和雄（国立歴史民俗博物館）
本田　道輝（鹿児島大学）
柳沢　一男（宮崎大学）

[調査協力]

加藤　真二（文化庁）

本書の名称	平成14年度概報	平成15年度概報
SB1	SB4	
SB2	SB5	
SB4	SB6	
SB5	SB1	
SB6	SB3	
SB7	SB2	
SB14		SB1
SB15		SB2
SB16		SB3
SD16		SD1
SE31		SE4
SE33		SE6
SE37		SE7
SG3		SE11・12
該当無し		SE10

第１表　遺構名の対応関係

第３節　報告書の記載について

1．挿図の縮尺については統一していないが、各キャプションに縮尺を提示する。

2．本書に記載する層序についての名称は、当センターが刊行している『東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書』の記載に準ずる。

3．遺構の略称は次のとおりである。
ＳＢ…掘立柱建物跡　ＳＣ…土坑
ＳＤ…土坑墓　ＳＥ…溝状遺構
ＳＧ…道路状遺構　ＳＩ…集石遺構
ＳＨ…性格を特定できないピット

4．遺構の名称について各年度の概要報告と本書の記載が相違している部分がある。対応関係は以下のとおりであり、本書の記載が全てにおいて優先する。

5．整理作業を進める中で一部遺構の評価について変更が生じたため、以下のように遺物の注記を変更している。
①ＳＥ38・39、ＳＧ４　→　ＳＧ３
②ＳＧ３　→　ＳＧ２
③ＳＺ１　→　ＳＣ65
④ＳＺ２　→　ＳＣ66
⑤ＳＺ３　→　ＳＣ67

6．本書は各調査員の分担執筆によるため、表の構成などに不統一の部分があるが、最低限の体裁を合わせるにとどめている。なおそれぞれの文責は例言に記載したとおりである。

7．先述したように調査は一次～四次に分けてあるが、実際には一・二・四次調査を連続して行いつつ、三次調査はその一時期に並行して実施するという形をとった。
そのため一・二・四次調査の成果を第Ⅳ章で記し、三次調査の成果を第Ⅴ章として単独で扱っている。
よって掲載遺物番号については通し番号を付けたが、遺構番号については図面等の各種記録と整合を図るため、章ごとにそれぞれ１号から付けている。

8．第Ⅳ章第３節及び第Ⅴ章に提示されている各遺構の計測値は全て「検出面における値」である。

9．一部の遺物分布図作成には、ビジネス＆科学グラフ作成ソフト『The Graph Ver.5.01』を使用している。

10．土層及び土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準拠した。

11．掘立柱建物の復元にあたっては、現地での所見を重視し、埋土の状況や柱痕跡の存在などから「ほぼ確実な建物」のみを掲載した。よって図上復元による建物の認定は行っていないが、多数のピットが残されているため、より多くの建物が存在する可能性は否定し得ない。

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

川南町は九州山地の東側、日向灘に面した宮崎県中部に位置し、上面木山(標高1,040m)から派生する山地及び丘陵面と、その東麓から海岸線にかけて広がる段丘面からなる。段丘面は一連の平坦面ではなく崖によって区分され、青鹿面、茶臼原面、国光原面、唐瀬原面、川南原面などの計14面から構成される。

銀座第１遺跡は児湯郡川南町大字川南字前田・沓袋畑に所在する。川南町の中心市街地から北西へ約３km、唐瀬原面との境目付近にあり、標高は約116mである。

調査区は北東から続く扇状地の緩斜面と南西の丘陵からの緩斜面とが形成するなだらかな谷地形部にあり、その南には緩やかに傾斜する平野が広がる。現地形は水田および畑地として削平・造成されており起伏はほとんどないが、調査区の一部（D区）では北半部に３箇所の段切りが見られた。

第２節　歴史的環境

本遺跡の周辺における発掘調査例は少ないが、旧石器時代から歴史時代にかけていくつかの遺跡が確認されている。本節では本遺跡を取り巻く遺跡を時代別に概観する（第１図）。

旧石器時代の遺跡としては、後牟田遺跡や霧島遺跡・藏座村遺跡・銀座第２遺跡・銀座第３Ａ遺跡と発掘調査例は限られるが、大野寅夫氏の踏査や川南町教育委員会が実施した分布調査によって白鍔遺跡・旭ヶ丘遺跡・番野地Ｃ遺跡・椎原遺跡・大久保遺跡・谷ノ口遺跡・住吉Ｂ遺跡・卒手遺跡など多くの遺跡が確認されている（茂山・大野1977）。当該期の遺跡は主として山地及び丘陵地に集中している傾向が看取される。

縄文時代の遺跡は発掘調査例として後牟田遺跡・霧島遺跡・藏座村遺跡・銀座第２遺跡・銀座第３Ａ遺跡・上ノ原遺跡が挙げられる。また川南町教育委員会の分布調査によって約60箇所の遺跡が確認されている。特に押型文土器を伴う早期の遺跡が顕著であり、旭ヶ丘遺跡・大久保遺跡・住吉Ｂ遺跡・丸山西原遺跡・松ヶ迫遺跡・大久保遺跡などがある。縄文時代の遺跡も旧石器時代の遺跡と同様、主として山地及び丘陵地に集中する傾向にある。

川南の台地上や丘陵縁辺部においては、弥生時代、特に中期から後～終末期にかけての遺跡が多く認められる。遺跡立地の特色として中期の遺跡が丘陵縁辺部、後～終末期の遺跡が台地上や丘陵縁辺部に集中している傾向にある。

中期の遺跡は発掘調査例は少ないが、後～終末期の遺跡としては、円形及び方形の周溝墓が確認された東平下遺跡、竪穴住居跡２軒が確認された把言田遺跡、竪穴住居跡１軒が確認された中ノ迫Ａ遺跡、竪穴住居跡６軒が確認された上ノ原遺跡、竪穴住居跡２軒と周溝状遺構が確認された野稲尾遺跡などの調査例がある。その他、未調査の遺跡を含めて数多くの弥生時代の遺跡が認められる。こうした数多くの集落跡群や墳墓群といった遺跡の存在から、後の古墳時代に台地上で展開する川南古墳群などの造営に関わる大規模な社会集団の存在を想定できる。

歴史時代については、奈良時代後半から平安時代前期ごろに比定される藏骨器を伴う上垂門火葬墓や、戦国期の宗麟原供養塔等が知られている。最近では東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査が行われており、当該期の遺構、遺物が数多く確認されている。調査例としては、前ノ田村上第１遺跡、湯牟田遺跡などがある。

1 銀座第１遺跡	2 銀座第２遺跡	3 銀座第３Ａ遺跡	4 前ノ田村上第１遺跡	5 湯牟田遺跡	6 成座村遺跡
7 後牟田遺跡	8 霧島遺跡	9 白服遺跡	10 旭ヶ丘遺跡	11 番野地Ｃ遺跡	12 椎原遺跡
13 大久保遺跡	14 谷ノ口遺跡	15 住吉Ｂ遺跡	16 辛手遺跡	17 上ノ原遺跡	18 丸山西原遺
跡	19 松ヶ迫遺跡	20 東平下遺跡	21 把言田遺跡	22 中ノ迫Ａ遺	

※ １～５は、東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査遺跡。

第１図 銀座第１遺跡と周辺遺跡位置図（1/50,000）

第Ⅲ章　調査の方法と経過

第１節　確認調査の概要

【一次確認調査】

一次確認調査は平成14年５月２日～29日に実施した。調査範囲は本調査Ａ区に相当する（第２・３図）。

北側区画については重機を使用し、幅４m、長さ約10～40mで表土を剥いだ後、16箇所の基本トレンチ（２×２m）を設定し、深さ１～1.5mほど掘り下げた。各トレンチ（以下、「Ｔ１」などと記す。）の底の部分からは、土石流に由来すると考えられる砂礫層が検出された。

またトレンチの壁際で遺構が検出された場合には、周辺部を拡張してその広がりを確認した。北西部のＴ２・３・８・９周辺ではアカホヤ火山灰層・黒褐色土層が一部残存しており、その他の部分では暗褐色土層が残っていた。浅い所では約0.5m掘り下げると褐色土層やより下位の土石流による砂礫層が調査区全体に広がっている状況であった。Ｔ９では重機で２mまで深掘りを行ったが、砂礫層が続いていた。以上のことから、褐色土層より下では遺物や遺構を包含する可能性は低いと判断した。

遺物は耕作土から中・近世にかけての陶磁器片、土器片などが出土したが、アカホヤ火山灰層以下の層からは出土しなかった。遺構としてはＴ１・２で暗褐色土層から数箇所のピットと焼土が検出され、Ｔ６周辺では東西方向にのびる溝状遺構、さらにＴ８～９にかけては４基の土坑、南東部区域からは表土を剥いだ面で約80基のピットが検出された。なお、北東部区域の約200㎡は攪乱されていた。

この結果、本調査対象面積を2,800㎡と設定した。

【二次確認調査】

二次確認調査はＡ区本調査に並行して平成14年10月21日～11月６日に実施した。調査範囲は本調査Ｂ区及びＣ区を含む約6,900㎡になる（第２・３図）。

調査区を３区に分け、県道尾鈴川南停車場線の西側を調査区①及び③、東側を調査区②として調査を行った。２×２mを基本とするトレンチを39箇所設定した。

調査区①では中央を走る農道を境に北側と南側に分け北側に９箇所の、南側に22箇所のトレンチを設定し掘削したところ、アカホヤ火山灰層を確認し、その層を切る溝状遺構を検出した。そこでアカホヤ火山灰層の広がりや溝状遺構の形状・規模を確認するために重機を使用してトレンチを拡張・連結しつつ調査を進めた。

その結果、土層についてはアカホヤ火山灰層が表土下から検出され、部分的ではあるがアカホヤ火山灰層上位の黒褐色土層、および下位の黒褐色土層の広がりも確認できた。

遺構としては溝状遺構が12箇所で確認された。遺物は溝状遺構の埋土から土器片、自然流路と想定される褐色土上部から石器（石鏃、剥片）が出土したが、石器については流れ込みによるものと判断した。なお表土から土器片、陶磁器片等が多数出土した一方で、アカホヤ火山灰層の上・下層の黒褐色土等からは遺物等は出土していない。

調査区②では１×15mのトレンチを３箇所、１×11mのトレンチを１箇所設定し調査を進め、アカホヤ火山灰層まで掘り下げた。

その結果、遺物としてはアカホヤ火山灰層上の黒褐色土層から土器片、陶磁器片、石器が出土した。また遺構としては１箇所で溝状遺構を確認したほか、ピットを15基検出した。

調査区③では２×２mのトレンチを４箇所設定して調査を進めたが、表土（耕作土）から湧水し下の層までの掘り下げは困難を極めた。そこで１箇所のトレンチのみ重機で深く掘り下げたところ、基盤層と考えられる礫層を確認したため調査を終了した。

以上のことから調査区①・②においては本調査対象面積を7,040㎡とし、調査区③については本

調査の必要はないと判断した。

【三次確認調査】

三次確認調査は平成15年５月に実施した。調査範囲は本調査D区に相当する（第２・３図）。

C区から続くピット群、あるいは弥生時代の住居跡等の存在を想定して調査を進めた。

D区は北側から３箇所ほどの段切りが認められたが、地元の方の話では段々畑（水田）が造られていたということであった。重機で表土を30cm程剥いだ後に精査を行ったところ、ピット群の存在を確認できた。さらに土層確認のため、緩斜面に沿ってトレンチ（２×２m）を数箇所設定し、掘削を行った。

調査区の南半は0.9～1.4mの深さまで客土が入っており、その下から溝状遺構が２条確認された。調査区の北半では一部アカホヤ火山灰層も残存していたが、トレンチャーによって攪乱されていた。

この結果から遺構面を１面確認でき、D区は全面的な調査が必要であると判断したため、本調査の対象面積を3,000㎡と設定した。

【四次確認調査】

E区に相当する範囲の確認調査については、区内にあった住居の立ち退き後に、四次本調査と並行して平成15年10月に実施した。

その結果、C区から続くピットを多数確認したため、調査中の四次本調査区に1,200㎡を加えて本調査を実施することとした。

第２節　調査区の設定と調査経過

１　調査区の設定（第３図）

本調査はA区を一次調査、C区を二次調査、B区を三次調査、D区・E区を四次調査として実施した。グリッド杭は座標第Ⅱ系を基準として10m間隔で設定した。

0　60m (1/1,500)

第２図　確認調査トレンチ配置図（1/1,500）

２　調査経過

○一次調査【A区】

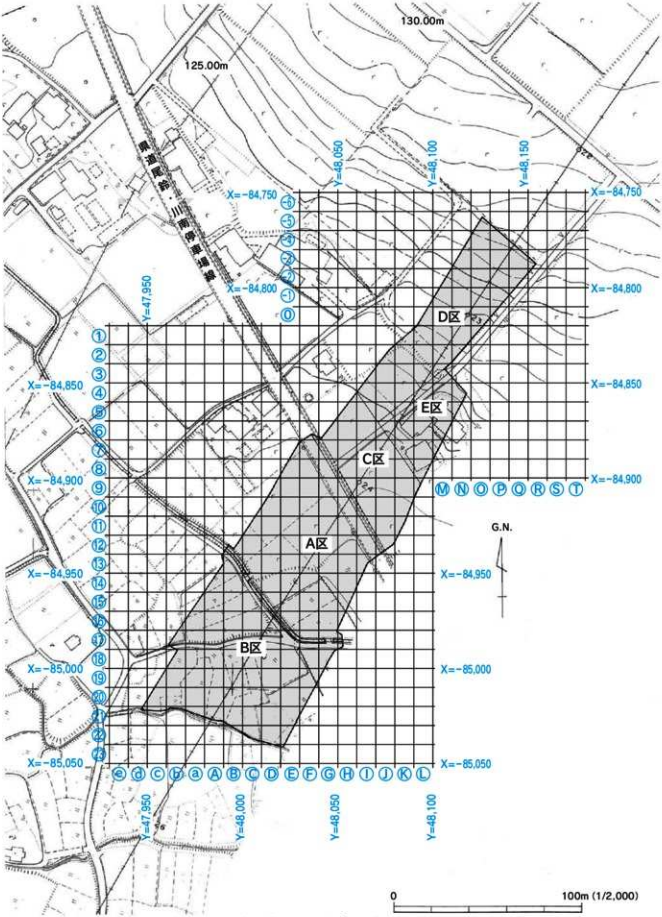
（期間）平成14年７月８日～平成14年10月31日
（調査日誌抄）

14.07.08 作業員へのオリエンテーション後、作業開始。確認調査時のブルーシート除去、杭打ち土止めのコンパネ設置等を行う。
07.09 調査事務所・休憩棟等を設置。
07.10 重機による表土剥ぎ開始（～07.12）。
07.16 調査区の測量及びグリッド杭の設置。
07.18 遺構精査を開始。ピット群の平板実測、柱痕の有無、埋土状況の確認を開始。
07.24 台風11号に備えて、耐風養生を行う。
08.06 溝状遺構５条を検出する。
08.07 土坑墓の実測を開始。
08.08 調査区北側からもピットを検出する。
08.09 ローリングタワー上から遺構検出状況を撮影する。
08.21 調査区北東部分の表土剥ぎを開始。
08.22 柱穴の半截を開始。埋土及び柱痕の再確認作業を行う。溝状遺構のベルト設定後、埋土の除去作業を開始。
09.03 掘立柱建物跡の並びを確認しながら実測を開始する。
09.10 柱穴の平面実測図の作成を開始。
09.26 土坑墓から「寛永通寶」が出土する。六道銭と思われる。実測終了後は土坑墓埋土除去を継続する。
10.02 柱穴の完掘作業を開始。溝状遺構の断面実測を開始。
10.18 柱穴の平面図実測を終了。
10.17 第１回の空中写真撮影を実施する。溝状遺構平面図作成を開始。
10.31 A区の調査を終了。

○二次調査【C区】
（期間）平成14年11月１日～平成15年５月29日
（調査日誌抄）

14.11.01 二次調査を開始する。
11.12 重機による表土除去を開始する。
11.14 一次調査区から続く溝状遺構、ピット群等を検出する。
11.18 表土直下面の遺構精査後、写真撮影を行う。
11.22 遺構分布図を作成。遺構の実測を開始する。
12.10 柱穴の柱痕跡、埋土状況の確認をする。一部は完掘作業に入る。
12.12 C区の表土除去作業を開始する。調査区内の配水管の存在を確認する。
12.18 表土直下面の遺構・遺物の検出作業を開始する。
15.01.09 第２回のグリッド杭打ちを実施。A区側の実測を継続する。
01.15 近世土坑墓の写真撮影を行う。
01.21 C区黒色土の除去作業を行うが、遺物はほとんど出土しない。
01.24 第２回の空中写真撮影（一・二次のA区撮影）を実施する。
02.01 銀座第２遺跡と合同で現地説明会を実施する。
02.05 C区で石積遺構と道路状遺構を検出する。
02.06 A区の一部の埋め戻しを終了する。
02.10 道路状遺構と側溝を検出する。
02.12 柱穴の実測を開始する。道路状遺構にトレンチを設定し、硬化面を確認する。
02.13 径約６mの楕円状の土坑を４分割する。
02.25 柱穴の１cm掘り下げを実施。土坑、石積遺構の実測を行う。
03.05 第３回の空中写真撮影（C区）を実施する。
03.07 柱穴の並びを確認し、柱穴の半截を開始。
03.14 掘立柱建物の実測を終了。柱痕跡及び埋土の状況を確認する。
03.17 調査指導（田崎委員来訪）。
03.24 調査指導（本田委員来訪）。
03.25 調査指導（加藤調査官・柳沢委員来訪）。
03.27 柱穴完掘箇所の実測を行う。
04.10 道路状遺構の調査を進める。
04.23 第４回の空中写真撮影（C区）を実施する。
05.29 C区の埋め戻しを終了。

○三次調査【B区】
（期間）平成14年12月10日～平成15年３月５日
（調査日誌抄）



第3図　調査区位置図及びグリッド配置図（1/2,000）

12.10 作業を開始。調査区内の安全対策を行う。
12.11 表土の除去作業と並行して、表土直下面（アカホヤ火山灰上面）の調査を開始する。
12.13 溝状遺構を検出する。
12.24 基本土層を確認するための先行トレンチを設定し、土層の確認作業を開始する。
12.25 検出された溝状遺構の写真撮影を行う。
12.26 基本土層先行トレンチから縄文時代早期の集石遺構を１基検出する。
12.27 ＳＥ１、２から順次、溝状遺構の調査に着手する。遺構内より遺物（土器、陶磁器、石器等）が出土する。
15.01.07 基本土層確認用の先行トレンチを掘り下げ後、土層分層、写真撮影を行う。
01.09 ＳＥ１の遺構から調査の進捗、調査終了に合わせて、実測（平面及びベルト土層）及び写真撮影に着手する。
01.16 弥生時代の溝状遺構を検出する。以後、ベルト設定と埋土土層状況の調査、遺物の検出、実測、写真撮影を順次実施する。また、調査区の測量、グリッド杭の設定を行う（～01.17）。
01.31 空中写真撮影を行う。
02.01 現地説明会を実施する。
02.03 Ｂ２区南部にアカホヤ火山灰層下の状況を把握するために３箇所のトレンチを設定し、確認調査を行う。縄文時代早期面の範囲を確定する（約500㎡）。
02.04 Ｂ１区東側農道下の調査を開始する。トレンチを設定し、溝状遺構を検出する。合わせて陶磁器片が出土する。ＳＥ９として調査を進める。
02.05 Ｂ２区南部の約500㎡のアカホヤ火山灰層を除去し縄文時代早期面の調査を開始する。以後、集石遺構８基を検出し、散礫を認め、遺物（石器、土器）が出土する。
02.19 弥生時代の溝状遺構の調査を終了する。多数の弥生時代後期後半と考えられる土器（片）が出土する。
02.20 集石遺構の検出を終了し、写真撮影を行う。以後、集石遺構の実測に入る。
02.25 縄文時代早期面の散礫、遺物の平面実測写真撮影を行う。
02.26 縄文時代早期面のコンタを測定する。以後、調査終了（～03.05）に向け、器材の撤去、搬出等の作業を行う。
03.05 Ｂ区の調査を終了。

○四次調査【Ｄ・Ｅ区】

（期間）平成15年８月19日～平成16年２月20日

（調査日誌抄）

15.08.20 調査事務所等設置。
08.22 重機による表土除去開始。
09.01 作業員による精査を開始。
09.02 測量グリッド杭を設置。
09.02 調査区に段差があるためベルコンを設置。
09.17 柱穴の半截作業開始。柱痕、埋土の確認。
09.19 柱穴から銭貨、キセル出土。
10.07 溝状遺構ベルト設定後、埋土除去を開始。
10.09 中世墓から完形土師器が出土し、写真撮影を行う。
10.15 Ｅ区の住宅の移転に伴い、確認調査を実施。ピットを多数検出する。
11.04 掘立柱建物跡の柱穴から石臼が出土。
11.12 重機でＥ区の表土を除去。
11.20 Ｅ区の遺構分布図の作成を開始。
12.03 Ｅ区の柱穴完掘作業を開始。
12.08 Ｅ区の柱穴の実測を開始。
12.17 道路状遺構の実測を行う。
16.01.08 ５回目の空中写真撮影。
01.15 柱穴土層断面剥ぎ取り作業。
01.19 Ｄ区半分の埋土、柱痕確認、実測開始。
01.20 Ｄ区一部調査が終了し、埋め戻し完了。
01.22 柱穴埋土土層の剥ぎ取り作業を行う。
02.20 四次調査を終了する。

３　現地説明会

発掘調査が三次調査まで進んだ平成15年２月１日に、銀座第２遺跡と合同で現地説明会を実施

した。

現地説明会は、広く町内外の方々に遺跡発掘調査の状況を紹介することにより、郷土の歴史の一端に触れていただき、地域から出土した埋蔵文化財および埋蔵文化財行政に対する認識と理解を一層深めてもらうという目的をもつものである。

一次・二次調査区（A・C区）においては、溝状遺構・土坑墓・掘立柱建物跡等の遺構の状況、出土した土器・陶磁器・銭貨等の解説を行い、遺跡の概要を説明した。

三次調査区（B区）においては、溝状遺構の状況、特に弥生時代の溝状遺構と弥生土器を中心とする出土遺物の状況を直接見学してもらい、解説を加えていった。

当日は、町内外から67名の参加者を得ることができ、当初の目的を達したと考える。

第3節　整理作業及び報告書作成

1　整理作業

整理作業は、一次・二次・四次調査と三次調査に分けて、埋蔵文化財センターにおいて以下の工程で行った。

【一次・二次・四次調査】

○平成16年3月～4月
- ・遺物（石器、土器、陶磁器）の水洗、注記

○平成16年5月～6月
- ・遺物（石器、土器、陶磁器）の接合
- ・鉄器の処理

○平成16年8月～10月
- ・報告書掲載遺物（石器、土器、陶磁器、鉄器）の実測

○平成16年11月～平成17年2月
- ・報告書掲載遺物（石器、土器、陶磁器、鉄器）及び遺構図等のトレース

【三次調査】

○平成15年6月
- ・遺物（石器、土器、陶磁器）の水洗、注記

○平成15年6月～8月
- ・遺物（石器、土器、陶磁器）の接合

○平成16年9月～10月
- ・報告書掲載遺物（石器、土器、陶磁器、鉄器）の実測

○平成16年11月～平成17年2月
- ・報告書掲載遺物（石器、土器、陶磁器、鉄器）及び遺構図等のトレース

2　報告書作成

報告書作成は整理作業と並行して行い、平成17年11月に作成を完了した。

第Ⅳ章　一次・二次・四次調査の記録

第１節　調査の概要

銀座第１遺跡（一・二・四次調査）の本調査は、４回の確認調査をもとに9,140㎡を調査対象とし、約２年半にわたって実施した。調査の進捗状況により、調査区をＡ・Ｃ・Ｄ・Ｅ区（B区は三次調査）に分けて調査を進めた。

調査区の表土下の状況は、一部トレンチャーで攪乱されている箇所があったが、比較的残存良好でアカホヤ火山灰層と暗褐色土層上において弥生時代から中・近世にわたる遺構・遺物を検出した。調査区によっては戦後の土地改良に伴う客土が約２m堆積している部分もあり、そのため重機で表土を約0.1～２m程度剥いだ後、精査を繰り返しながらアカホヤ火山灰層、暗褐色土層面で遺構検出を行った。

検出面での遺構残存状況は比較的良好であったが、結果として弥生時代から中・近世までの遺構が同一面で検出された形となり、遺物を伴わないあるいは出土遺物の帰属時期が広範囲にわたるため時期決定が困難な遺構も数多くあった。

遺跡全体では溝状遺構51条、掘立柱建物跡22棟、土坑68基、土坑墓16基、道路状遺構３条、石積遺構１基、柱痕跡や出土遺物の認められたピットを127基、その他2000基を超えるピットを検出した。

次に各調査区の状況について具体的に述べる。

Ａ区は表土の厚さが0.1～0.5mあり、重機による除去と精査を繰り返した。

遺構としては遺跡内で最大の規模を誇り防御的性格も想定できる区画溝を含めて中・近世の溝状遺構16条、掘立柱建物跡７棟、近世の土坑墓群が３箇所に15基、土坑６基、その他700基以上のピットを検出した。またＡ区・Ｃ区間の県道下の調査を実施したところでは、溝状遺構が７条、掘立柱建物跡１棟、ピット約60基が検出された。

遺物は中・近世の陶磁器類を中心に弥生土器・石器・銭貨等が出土した。

Ｃ区は戦後の土地改良時に客土を入れ畑地にされており、耕作土及び攪乱土が約0.7～1.5mあった。これらを重機で剥いで精査を行った結果、道路状遺構２条、掘立柱建物跡６棟、溝状遺構５条、直径６mを測る大規模な土坑３基を含め14基の土坑、石積遺構１基を検出した。

出土遺物は中・近世の陶磁器類を中心に弥生土器のほか、道路状遺構が現代まで使用されていたため、近・現代の遺物まで出土した。

Ｄ区はＣ区同様に戦後の土地改良に伴う客土が深いところでは約2mも入れてあり、それ以前は段切りによる階段状の緩斜面であった。アカホヤ火山灰層、暗褐色土層面で精査を行ったところ、調査区西半は比較的残存良好だが、東半の上段はトレンチャーで攪乱を受けている箇所が多かった。

区画溝的性格を持つ溝状遺構を含めて中・近世の溝状遺構20条、中・近世の掘立柱建物跡５棟、中世の土坑墓１基、陥し穴と思われる土坑を含め41基の土坑、道路状遺構１条、その他多数のピットを検出した。

遺物は中・近世の土器・陶磁器類や石器のほか、堀立柱建物跡の柱穴内から銭貨・キセル等も出土している。

Ｅ区はＤ区の調査途中までは人家があったため、その移転後に確認調査を実施し、引き続き本調査を進めた。攪乱された部分が全調査区の５分の１にも及んでいたが精査の結果、掘立柱建物跡３棟、溝状遺構２条、土坑12基、その他多数のピットを検出した。

遺物は弥生土器、中・近世から近・現代の遺物まで出土した。

第2節　基本層序

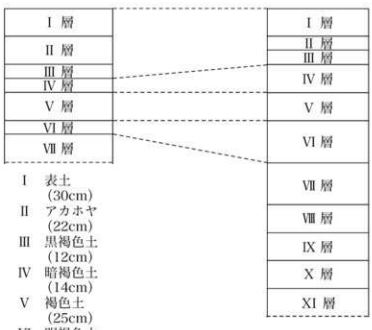
A区基本層序

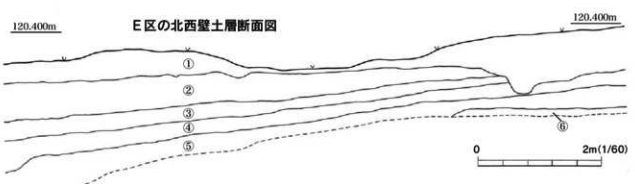
土層堆積状況は以下のとおりである。

表土を剥いだ状態では、調査区北側にはアカホヤ火山灰層と黒褐色土層が一部残っていたが、南側はアカホヤ火山灰層・黒褐色土層も削平を受け、暗褐色土層が検出面になっている部分が多かった。また褐色土層から礫が混じり深さ1.5m以下は砂礫層が調査区全体に広がっていた。D区に見られるようなローム層は見られなかった。

D区基本層序

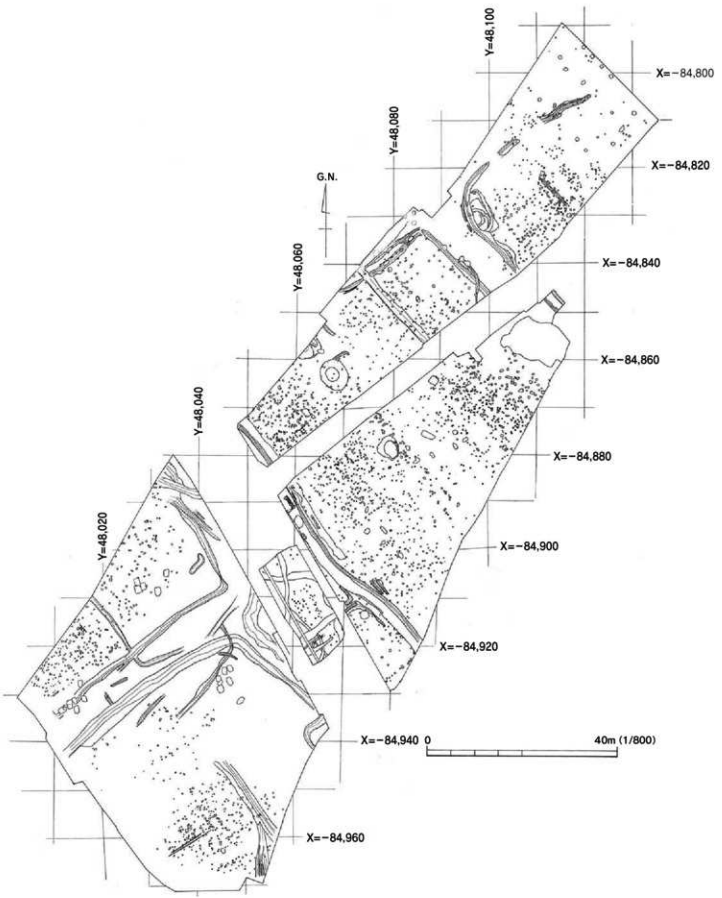
アカホヤ火山灰層がC区との境に一部しか見られず、ほとんど暗褐色土と黄褐色土からの遺構検出であった。A区に見られるような砂礫層は見られなかったが、粘質のローム層が堆積していた。





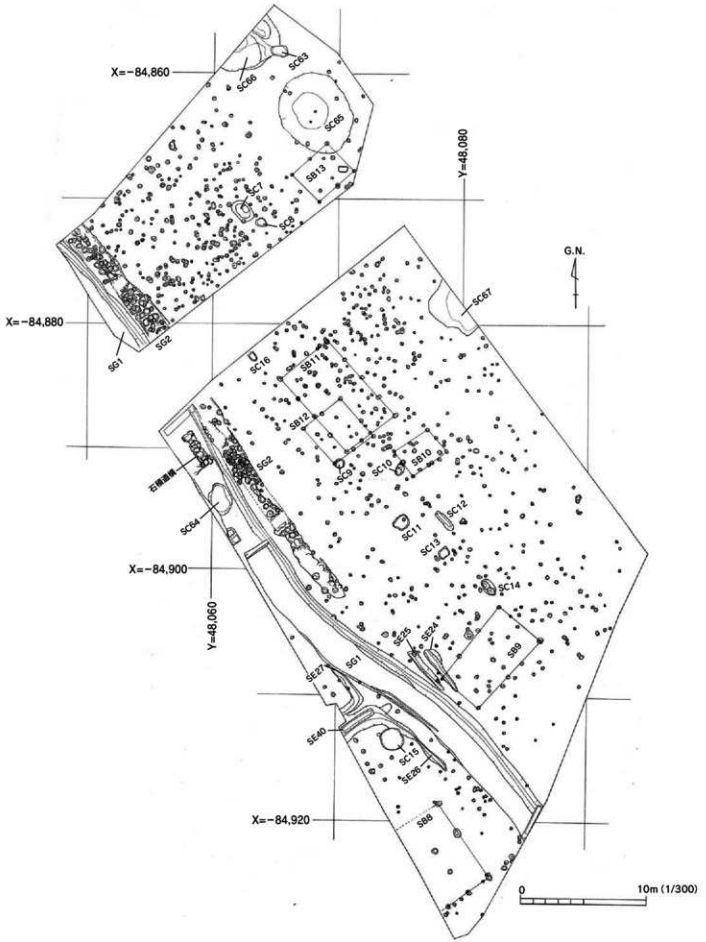
【土層注記】
①黒褐色粘質土（2.5Y-3.5/1）明褐色のロームブロックが混じる。硬質。粘性が低い。
②黒褐色粘質土（7.5YR-2/2）粘性があり、潰すと軟らかいが、密に堆積しており、硬くしまっている。
③黄橙色土　（7.5YR-7/8）アカホヤ層で直径1mm以下の白色・透明・半透明ガラス質粒子を含み、軟らかく粘性はほとんど無い。
④黒色粘質土（7.5YR-2/2）透明粒子をわずかに含み、やや硬くしまっている。
⑤暗褐色粘質土（10YR-3/4）暗褐色土の中に半透明粒子を含む。④層よりもやや硬くしまっており、粘性がある。
⑥褐色粘質土（7.5YR-5/6）0.5mm以下の白色・半透明粒子を含む。やや硬くしまっており、やや粘性がある。

第4図　A・D区基本層序とE区北西壁土層断面図（1/60）



第5図　遺構分布図（1/800）

第6図　A区遺構分布図 (1/400)



第7図　C区遺構分布図 (1/300)

第8図　D区遺構分布図 (1/300)

第９図　Ｅ区遺構分布図 (1/300)

第３節　遺構と遺物

１　旧石器時代～古墳時代の遺物

（１）旧石器時代の石器（第10図１～５）

ナイフ形石器および旧石器と推定される剥片類が中・近世の遺構埋土等より５点出土した。剥片類については周辺遺跡における旧石器石材・剥片剥離に近い点から、旧石器と判断した。石器群の時期は、ナイフ形石器の特徴や周辺遺跡の成果と総合すると、Kr-Kb～ML2相当であろう。

（２）縄文時代～弥生時代の石器・石製品

（第10図６～19）

チャート製打製石鏃・同未製品、二次加工ある剥片、ホルンフェルスならびにサヌカイト製打製石鏃・打欠石錘・磨製石斧・チャート製装飾品が、包含層から遊離した状態で少量出土した。

打製石鏃は各種形態があり、そのうち平面五角形のものは縄文後・晩期、長二等辺三角形で基部に浅い抉りが入るものは弥生時代のものであろう。

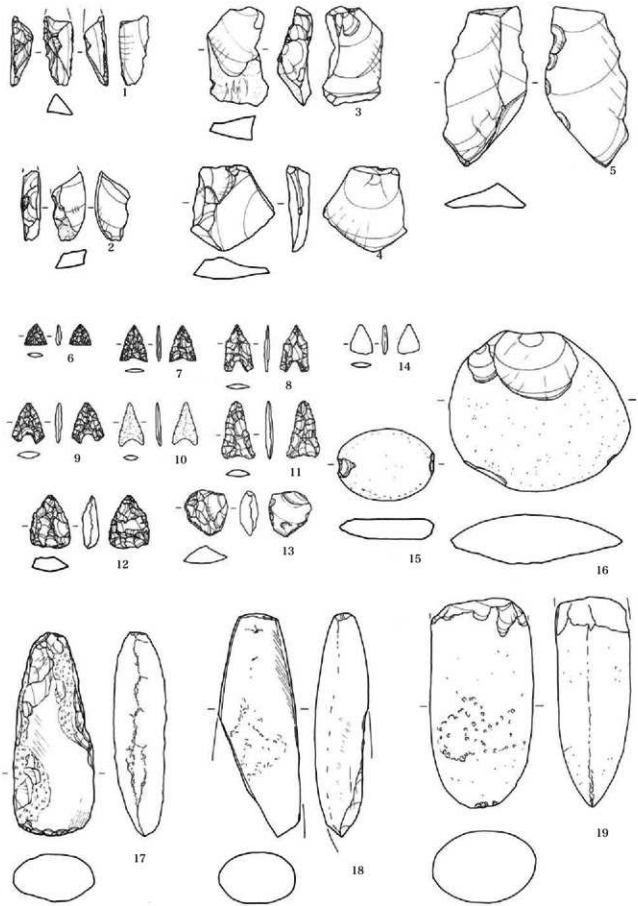
打欠石錘は１点のみで、小型品である。磨製石斧は大型品１点・小型品２点が出土し、いずれも欠損あるいは刃部等の再研磨が実施されていない廃棄品である。小型品は断面楕円形で基部に平坦面がある点で共通しており、縄文後・晩期の所産であろう。

このほか、チャートをトロトロになるまで磨いた14は装飾品とみた。平面三角形であり、石鏃・サメ歯等を意識したものの可能性も想起され、類例探索が必要である。

なお、風化の程度から縄文～弥生期のものと言えそうな尾鈴山酸性岩類製磨石もあり、これについては中・近世の石器・石製品の項で詳述する。

No	器　種		Gr		石　材	長さ	幅	厚さ	重量	備　考
1	ナイフ形石器	DIX	SG3	-10	ホルンフェルス	3.7	1.6	1.2	4.9	他ホルンフェルスと異なり風化著しい、先端を欠損する。左側縁の調整はやや粗歯状と粗い。右側縁は相対的に粗かな調整である。
2	二次加工ある剥片	AIX	SE1	-e	流紋岩	3.8	1.8	1.0	7.2	旧石器。欠損のため明確でないが、ナイフ形石器等の未製品の可能性がある。
3	剥片	AIX	SE1	-h	流紋岩	5.3	3.3	1.9	24.9	旧石器。縦長剥片。剥片端部に礫面残る。
4	剥片	CIX	K9		流紋岩	4.6	4.5	1.3	21.6	旧石器。不定形剥片。
5	剥片	DIX	SE44	-21	ホルンフェルス	8.5	4.3	1.3	47.7	縦長剥片。
6	打製石鏃	AIX	SE1		チャート	1.2	1.2	0.3	0.2	小形三角形。
7	打製石鏃	AIX	SE1	-h	チャート	1.9	1.4	0.2	0.4	二等辺三角形で基部に浅い抉り。
8	打製石鏃	CIX	II-18		サヌカイト	2.5	1.6	0.4	0.7	平面五角形で基部は U 字の抉り。
9	打製石鏃	CIX	SG2	-d	チャート	2.2	1.7	0.4	1.0	特徴的な両脚。
10	打製石鏃	CIX	II-10		ホルンフェルス	2.3	1.4	0.3	0.6	風化著しく、調離脚部困難。
11	打製石鏃	AIX	SE4		ホルンフェルス	3.0	1.8	0.4	1.6	風化著しく石質自体も変化しており、軽量化している。整形は粗い。
12	打製石鏃未製品	AIX	SE1	-91	チャート	2.8	2.1	0.9	4.8	左側縁のコブを除けなかったものか。
13	二次加工ある剥片	AIX	DI0		チャート	2.4	2.3	1.0	4.6	二次加工のみでなく、微細な剥離も縁辺を中心に見られる。打製石鏃等の未製品の可能性がある。
14	装飾品	AIX	SE1	-j	チャート	1.6	1.2	0.3	0.5	チャートをトロトロになるまで磨いたもの。平面三角形であり、石鏃・サメ歯等を意識したものか。
15	打欠石錘	DIX	SE44	-46	砂岩	3.9	5.1	1.1	33.2	小形。
16	剥片	CIX	K8		砂岩	8.7	9.7	2.7		ハマグリのような形状の剥片。風化著しく、使用痕等観察困難。剥片石器に好まれる砂岩とは異なり、粗製石材。
17	磨製石斧	AIX	SE1	-31	ホルンフェルス	10.8	4.3	2.8	180.2	研磨の及んでいない範囲には整形に伴う敲打痕がよく残る。装着に伴うと想定される、胴部中央のゆるい凹部から推して、使い切られた斧身である。刃部には顕著な潰れ・剥落があり、再研磨は実施されていない。
18	磨製石斧	AIX	IT-II-11		ホルンフェルス	11.9	4.4	2.7	187.4	基部には２面からなる平坦面あり。両側面は弱い面があり、断面はやや角のある楕円形となる。刃部側は大きく欠損する。
19	磨製石斧	CIX	SG2	-e-P6	砂岩	11.1	5.4	4.0	358.8	基部を欠く。刃部は潰れる。

第２表　遺物観察表（石器・石製品①）



第10図　旧石器時代～弥生時代の石器・石製品実測図（1/2）

(3) 縄文時代・弥生時代～古墳時代の土器

縄文時代・弥生時代に時期比定できる明確な遺構は確認されていないが、表土・包含層や後世の溝状遺構などの遺構埋土中より出土している。

縄文土器（第11図20～23）

縄文土器は弥生土器に比較し、出土量が非常に少なく４点のみ掲載した。20～22は縄文後期と考えられ３点ともＣ区包含層から出土している。20は口縁部が肥厚し内湾気味に立ち上がる。口縁部上端部に工具による平行線状の押圧が施される。21・22は磨消縄文系の土器である。21は口縁部は内湾し波状となる。外面には直線・曲線文がみられ、擬似縄文が一部確認できる。内面はナデ調整。22は皿で波頂部付近で内外面に直線・曲線文が施され、外面には擬似縄文が認められる。23はＡ区出土で外面が条痕文、内面はナデ調整。胎土や色調など20～22と異なり縄文時代早期の遺物の可能性がある。Ｂ区において縄文時代早期の遺構・遺物が確認されておりそちらとの関連性が考えられる。

弥生土器（第11図24～58、第12図59～83）

弥生土器の出土した遺構としてはＳＥ１・６・17・21・44、ＳＧ１・２があるがその多くは小片である。その中でＳＥ17・21では弥生土器がまとまって出土している。県道下の調査であったため遺構の残存状況は良好ではなかったもののＢ区で溝状遺構内から多量の土器が出土している状況と類似し、出土土器自体があまり摩耗してないことからも流れ込みというよりは遺構内（流路の可能性もある）に土器を廃棄した状況が想定される。包含層ではＡ・Ｃ区を中心に出土している。時期的には後期前半から古墳時代初頭のものがあり、後期後半が最も多く見られる。報告書中では出土遺構毎に図示しているが、一括性に乏しいためここでは時期比定可能で特徴的な遺物について記述していく。

後期前半

壺・甕・高坏があるが少量である。壺は64・65は口が大きく開く壺の口縁部で鋤先状を呈し、口唇部に粗い凹線が巡る。

甕は46・68・71が外傾する口縁をもち胴部は張らず口径が最大径となる。口唇部が凹むものもある。60は中溝式系の甕でやや薄手である。底部はやや厚手で上げ底気味となる（77）。

高坏は83が小型高坏の脚部で裾部端部が明瞭な凹線ではないが凹みを有することから瀬戸内系と推定される。

後期後半～古墳時代初頭

ここでは出土土器すべてが破片で一括性に乏しく時期比定が困難なものが多いためこの時期幅で記述を行う。器種としては壺・甕・高坏・鉢があり、色調は「橙」色を基調にしたものが大半を占め、胎土に白色若しくは灰色の粒子を含むものが多い。

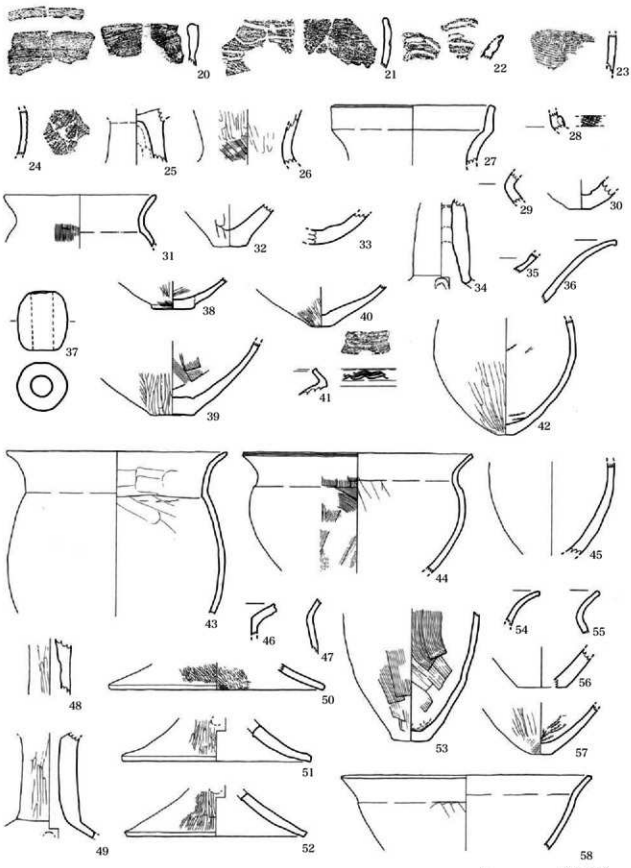
壺は全体形態を確認できる資料はないが、小型壺（38）、複合口縁壺、頸部に幅広の突帯を有するもの（28・61）、卵形になるやや大型のもの（39・40・42・57）がある。複合口縁壺は内傾する（41・66）、やや外傾する（27）の二種ある。また、長頸壺と考えられるもの（26）もみられる。底部はしっかりした平底（30・32・38・39・56）、小さな平底（40・42・57）がある。

甕はくの字に外反する形態で、胴部があまり張らず口径が最大径となるもの（31・44・55・62）や口縁部が長くのび端部が丸く、口径≒胴部最大径となるもの（43）がある。ほかに外面に横方向のタタキが施されるもの（24）も出土している。これらは胎土・調整においても違いが認められる。

高坏は坏部・脚部で数種類に分類可能である。坏部には口縁部が大きく外反し深くなるもの（36）、短く外反し浅いもの（63）がある。脚部はエンタシス状を呈するもの（34）、柱状で屈曲して裾部として開くもの（48・49）、屈曲せず裾部が開くもので端部が開くもの（81・82）と大きく開くもの（50～52）に分かれる。78は装飾高坏の裾部で外面に竹管文が施される。

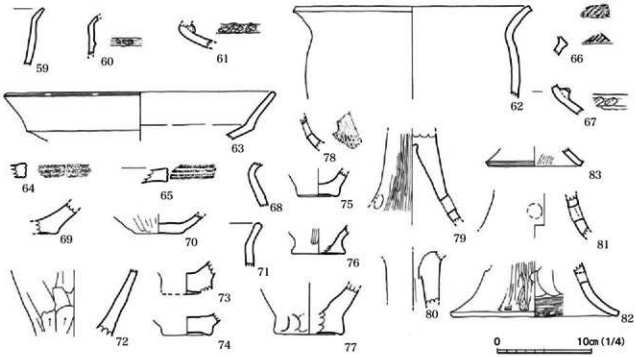
鉢は口縁部が若干外反し深目になる形態で甕の可能性もある。内外面ともナデ調整を施す。

なお、これらの中で古墳時代初頭まで下るものは、壺（27）・甕（43・24）・高坏（78・34）である。



20～22：包含層　23～30：ＳＥ１　31～37：ＳＥ６
38～52：ＳＥ17　53～58：ＳＥ21

第11図　縄文時代・弥生時代～古墳時代の土器実測図①（1/4）



59～60：ＳＥ44　61：ＳＥ45　62～63：ＳＧ１
64～65・73～74・77：ＳＧ２　66～72・75～76・78～83：包含層

第12図　縄文時代・弥生時代～古墳時代の土器実測図②（1/4）

No	調査区	遺出遺構	層種	部位	胎土	色調 外面	色調 内面	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	色調 外面	色調 内面	特徴
20	1C	k-8	深跡	口縁部	3mm以下の赤茶・灰白色の粒を含む	橙	橙				やや粗い横ナデ	ナデ	口縁部は肥厚し内湾
21	1C	k-8	深跡	口縁部	2～5mm程度の青灰・赤茶・灰白色の粒を含む	橙	橙				比較文による区画	横ナデ	口縁部は波状で内湾　磨消縄文
22	1C	II-13	包	口縁部	3mm以下の乳白色の粒を多く含む	にぶい橙	にぶい橙				比較文による区画	ナデ	口縁部波状　磨消縄文
23	1A	SE1	深跡	胴部	1mm大の黒褐色や透明な粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				条痕文？	ナデ？　風化著しい	縄文早期？
24	1A	SE1	壁	胴部	4mm以下のｵﾚﾝｼﾞ灰、にぶい赤褐色の粒を多く含む　3mm以下の暗灰色粒少量	橙	橙				横方向のタタキ	ナデ	古墳時代
25	1A	SE1	高杯	脚部	6mm以下の乳白色粒や2mm以下の黒色粒を多く含む	にぶい橙	にぶい橙				風化著しい　ﾍﾗﾋﾞｷ？	指オサエ	坏と脚部の接合は差込による
26	1A	SE1	壺	頸部	1mm以下の乳白色・茶褐色粒を含む	にぶい橙	にぶい橙				口縁部新の方向のハケメの後ヘラミガキ　頸部ハケメ	ヘラミガキ	口縁部は長く外方向にのびる
27	1A	SE1	壺	口縁部	1mm以下の乳白色粒を含む	にぶい橙	にぶい橙	16.6			横ナデ	ナデ	複合口縁で拡張部は外傾する
28	1A	SE1	壺	頸部突帯	1mm以下の白色粒を含む	にぶい橙	橙				ナデ	ナデ	外面幅広突帯に格子目状の刻み
29	1A	SE1	壺	頸部	3mm以下の赤褐色粒を含む	明黄褐色	黄橙				ナデ	ナデ	頸部に幅広突帯の可能性あり
30	1A	SE1	壺	底部	3mm以下の白色粒を含む	にぶい	浅黄			2.3	ナデ　指オサエ	指オサエ	平底の底部　外面に黒斑
31	1A	SE6	壺	口縁～頸部	1mm以下の白色粒を微量含む	橙	橙	16.2			横ナデ　頸部指オサエ　肩部ハケメ	横ナデ　頸部指オサエ	口縁端部丸い
32	1A	SE6	壺	底部	3mm以下の乳白色粒や5mm以下の灰褐色粒を含む	にぶい黄橙	黄灰			3.5	粗いケズリ状のナデ	ナデ	やや上げ底気味　内面に炭化物付着
33	1A	SE6	壺	底部	2mm以下の乳白色粒や6mm以下の明黄褐色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				ていねいなナデ	ナデ	丸底
34	1A	SE6	高杯	脚部	1mm以下の乳白色・茶褐色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				ミガキと思われるが風化著しい	横ナデ	屈曲部に円形の透かし　厚手
35	1A	SE6	高杯	坏部	微細な透明光沢粒や0.5mm以下の灰白色を含む	橙	にぶい黄橙				ミガキ	ミガキ	屈曲部内面に明瞭な稜を有す
36	1A	SE6	高杯	坏部	微細な透明光沢粒や0.5mm以下の灰白色を含む	にぶい黄橙	暗灰黄				斜め方向のヘラミガキ	ミガキ	口縁部が長く大きく外反する 屈曲部に明瞭な稜を有す
37	1A	SE6	土製品		微細な透明光沢・茶褐色粒を含む	にぶい黄橙	褐灰	幅 5.45	長さ 6.35	孔径 2.3	ナデ		底面部が平らで網代痕が放射状に施される

第３表　遺物観察表（縄文土器・弥生土器①）

No	調査区	出土遺構	層種	部位	胎土	色調 外面	色調 内面	比率(cm) 口径	比率(cm) 器高	比率(cm) 底径	色調 外面	色調 内面	特徴
38	1A	SE17	壺	底部	3mm以下の橙色粒・1mm以下の乳白色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい橙			4.5	ヘラミガキ 底部付近ハケメ 底部へラミガキ	ナデ	平底 短脚壺の底部
39	1A	SE17	壺	底部	3mm以下の白色粒を多く含み 2mm以下の乳白色粒を少量含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙			4.5	胴部へラミガキ 底部指オサエ	ナデ 指頭痕あり	上げ底気味 底部外面にワラ状・稲状の圧痕
40	1A	SE17	壺	底部	1mm大の黄褐色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙			2.5	ミガキ	指による強いナデ	失底気味の小さな平底
41	1A	SE17	鉢or鍋	拡張部	2mm大の赤褐色粒を多く含む	黄橙	にぶい黄橙				ナデ	ナデ	内傾する拡張部外面に櫛描波状文
42	1A	SE17	壺	胴部～底部	4mm以下の乳白色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙			1.7	ミガキ 黒斑あり	ていねいなナデ	小さな平底
43	1A	SE17	壺	口縁～胴部	7mm以下の灰褐色粒を含む	明褐色	明褐色	23.8			口縁部整オサエの後横ナデ 胴部ナデ	口縁部整オサエの後横ナデ 胴部粘い工具を使用したナデ	口縁部外反しながら長くのびる 口径と胴部最大径は同じ程度
44	1A	SE17	壺	口縁～胴部	2mm以下の灰白透明粒を多く含む 3mm以下の黒褐色粒を微量含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	24.5			口縁部横ナデ 胴部ヘケメの後ナデ	口縁部横ナデ 胴部ていねいなナデ	口縁部僅く外再しながらのびる 口径と胴部最大径は同じ程度
45	1A	SE17	壺	胴部	3mm以下の黄橙色粒を多く含む	にぶい黄橙	浅黄橙				ケズリ後の粗いナデ スス付着	上半部斜め方向のナデ 下半部下から上方向へのナデ	
46	1A	SE17	壺	口縁部	3mm以下の黄橙色粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				横ナデ	横ナデ	「く」の字口縁 口縁端部凹む
47	1A	SE17	壺	頸部	3mm以下の橙・乳白色・黒褐色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				頸部工具によるナデ 胴部ナデ	頸部横ナデ 胴部粗いナデ	瘤を有さず「く」の字に外反
48	1A	SE17	高杯	脚部	2mm大の赤褐色粒・灰白色粒を含む	橙	橙				ミガキと思われるが風化著しい	指ナデ	柱状を呈す
49	1A	SE17	高杯	脚部	3mm以下のにぶい黄橙色粒・乳白色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				ナデの後ミガキ	ナデ	脚部厚手で屈曲して裾部へ屈曲部に円形の透かし
50	1A	SE17	高杯	裾部	2mm以下の橙・黒白色・黒褐色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙		22.9		横方向のナデの後ヘラミガキ	ヘラミガキ	大きく外方に広がる
51	1A	SE17	高杯	裾部	2mm以下の白色粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙		20.0		ヘラミガキ	横ナデ	円形の透かし
52	1A	SE17	高杯	裾部	2mm以下の灰白色粒を多く含む	にぶい黄橙	明黄褐		19.2		横方向のナデの後ヘラミガキ	横ナデ	円形の透かし
53	1A	SE21	壺	胴部～底部	1mm以下の灰白色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙			4.1	ハケメ スス付着	ハケメ 底部指オサエ	小型の壺で平底
54	1A	SE21	壺	口縁部	3mm以下の乳白色粒を多く含む	にぶい橙	にぶい橙				横ナデ	横ナデ	「く」の字口縁 上端部が外傾
55	1A	SE21	壺	口縁部	3mm以下のにぶい橙色粒、2mm以下の乳白色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				横ナデ	横ナデ	「く」の字口縁
56	1A	SE21	壺	底部	1mm以下の灰白色粒を含む	にぶい褐	黒色			5.2	ていねいなナデ	ナデ	平底 底部内面に炭化物付着
57	1A	SE21	壺	胴部～底部	3mm以下の白色、光沢のある黒色粒を含む	にぶい褐	にぶい褐			3.1	ケズリ状のナデのあとヘラミガキ	工具痕多数あり	小さな平底
58	1A	SE21	鉢	口縁～胴部	4mm以下の乳白色粒、2mm以下のにぶい橙色粒を含む	浅黄橙	にぶい橙	26.1			斜め方向の工具によるナデ	ナデ	口縁部は頸部がやや外傾して外方にのびる
59	1D	SE44	壺	口縁～胴部	3mm以下の透明、茶色粒を微量含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				口縁部横ナデ 胴部ナデ	口縁部横ナデ 胴部ナデ	口縁部は僅かに外反
60	1D	SE44	壺	口縁部	3mm以下の灰白粒を多く含む	にぶい橙	にぶい橙				横ナデ スス付着	口縁部横ナデ 胴部指オサエの後ナデ	頸部より屈み目突帯 薄手 中満系
61	1D	SE45	壺	頸部	3mm以下の乳白色、茶色粒を微量含む	にぶい褐	にぶい褐				ナデ	ナデ	頸部に幅広突帯 刻み目に圧痕
62	1C	SG1	壺	口縁～胴部	2mm以下の灰・乳白色粒を多く含む 4mm以下の石粒	褐	にぶい褐	24.8			ナデ	ナデ	口径が最大径 頸部は緩やかに屈曲胴部はあまり張らない
63	1C	SG1	高杯	坏部	3mm以下の乳白色粒・2mm以下の黒褐色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	28.2			風化著しいが口縁横ナデ 坏部斜め方向の粗いナデの痕ミガキ	ナデの後ミガキ	口縁は屈曲部から大きく開く
64	1C	SG2	壺	口縁部	2mm以下のにぶい褐色粒が多く1mm以下の乳白色粒を微量含む	にぶい橙	にぶい橙				横ナデ 口唇部が凹む	指オサエ	細先状に開く壺の口縁部で端部がやや肥厚
65	1C	SG2	壺	口縁部	2mm以下のにぶい褐色粒を含む	橙	にぶい橙				横ナデ	横ナデ	細先状に開く壺の口縁部で口唇部に3条の沈線
66	1	S_3ナ	壺	拡張部	2mm以下の黄褐色粒・透明な粒を多く含む	にぶい橙	灰褐				ナデ 拡張部に細前状の沈線	ナデ	薄手で拡張部も短い
67	1A		壺	頸部	2mm以下の乳白色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				ナデ	ナデ	大きめな刻み目突帯を有すハケ原体による刻み
68	1A		壺	頸部	1mm以下の灰色粒を含む	灰黄褐	にぶい橙				風化著しい ナデ?	風化著しい ナデ?	「く」の字に屈曲
69	1T	II-9	壺	底部	4mm以下の乳白色粒を多く含む	にぶい褐	灰褐				ナデ 底部指オサエ	ナデ	やや上げ底気味
70	1C		壺	底部	2mm以下の乳白色粒を多量に含む	にぶい褐	にぶい黄橙			4.6	ケズリ状の粗いナデ 底面ていねいなナデ	ナデ	平底
71	1C	I-8	壺	口縁部	1mm以下の乳白色粒、黒褐色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい褐				口縁部横ナデ 胴部縦方向のハケメ	口縁部ハケメの後ハケメ 胴部横方向のハケメ	口縁部がやや外傾する
72	1C		壺	胴部下半	2mm以下の乳白色・黒褐色粒を含む	橙	橙				ていねいなナデ 下半工具による粗いナデ	横方向のていねいなナデ	焼成良好で外面に黒斑あり
73	1C	SG2	壺	底部	2mm以下の乳白色粒を含む	にぶい橙	にぶい橙				ナデ	指オサエ	上げ底 一部欠損
74	1C	SG2	壺	底部	2mm以下の乳白色・にぶい橙色粒を含む	橙	褐灰				ナデ	指オサエ	上げ底 一部欠損
75	1C	I-8	壺	底部	5mm以下の灰白色の粒を多く含む	にぶい橙	橙			3.8			
76	1A		壺	底部	4mm以下の乳白色粒、黒褐色粒を含む	にぶい橙	にぶい橙			5.5	横方向のナデ 底部指オサエ	ナデ	底部端部はやや外方に広がる
77	1C	SG2	壺	底部	9mm以下の灰色の石 5mm以下の灰赤色で透明な粒を含む	明黄褐	灰黄褐			7.0	ナデ 底部指頭痕	工具によるナデ	底部端部はやや外方に広がるやや上げ底
78	1A		高杯	脚部	2mm以下の乳白色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙				ていねいなナデ 下半部に3列以上の竹管文	上半ハケメ 下半ナデ	竹管文上部に円形の透かし 装飾高杯 庄内系
79	1E		高杯	脚部	5mm以下の乳白色粒、2mm以下の黒色・茶色粒を微量含む	にぶい橙	橙				ナデの後ヘラミガキ	ナデ	3個所に円形透かし 坏部との接合は差し込み
80	1A	H-11	高杯	脚部	2mm以下の光沢のある乳白色粒を多く含む	にぶい橙	明褐灰				ナデ	ナデ	坏部との接合は粘土充填
81	1C	H-13	高杯	脚部	2mm以下の光沢のある乳白色粒を多く含む	橙	橙				ナデ 風化著しい	ナデ	円形の透かし
82	1C	I-8	高杯	脚部	2mm以下の赤褐色・黒褐色粒を含む	にぶい黄橙	にぶい橙			17.5	ナデの後ヘラミガキ	横方向のハケメ	裾部がラッパ状に開く 円形の透かし
83	1C	I-8	高杯	脚部	4mm以下の乳白色粒、2mm以下の光沢ある粒を含む	にぶい褐	明赤褐			7.7	ていねいなナデ	ハケメ	裾部端部が凹む 瀬戸内系?

第4表 遺物観察表（縄文土器・弥生土器②）

2　中世～近世の遺構と遺物

この時期の遺構及び遺物は、調査区全体に見られる。

遺構として溝状遺構51条、掘立柱建物跡22棟、道路状遺構３条、土坑墓16基、土坑68基、石積遺構１基、その他2000基以上のピットを検出した。遺物は中国からの輸入陶磁器（龍泉窯系青磁、白磁、景徳鎮窯系青花など）のほか、土師器・国産陶磁器（備前系・東播系・肥前系など）・銭貨・キセル・石器類（石臼・砥石・火打石など）が出土している。出土遺物全般においても中・近世のものが大部分を占めている。

Ａ区は溝状遺構23条、掘立柱建物跡８棟、近世土坑墓15基、土坑６基、800基以上のピットを検出した。遺物は弥生土器及び土師器・陶磁器類が出土している。

特筆すべきは溝状遺構２条（ＳＥ１・３）がその形態から区画的、防御的な役割を果たしていたと推定できる点である。その区画の中に掘立柱建物が主軸をほぼ同じくして存在し、その他多くのピットも溝に取り囲まれるように検出されている。溝状遺構から出土している龍泉窯系青磁や中国産白磁、備前系擂鉢などの遺物からは、概ね15～16世紀の年代が推定できるほか、中世以前の石鏃や弥生土器も多く出土していることから、周辺部に中世以前の遺構が存在する可能性も高い。

また周辺地域における聞き取り調査によると、昭和初期から戦後間もない頃には無緑化した墓だけが存在していたということであった。土坑墓は調査区南東部・北部・西部の３箇所に集中しているが、西部の土坑墓が区画溝（ＳＥ３）を切っていることや、周辺では近世遺物の出土を見ないことなどから、近世以後は墓地だけが存在し、集落はこの場所から移動していたのではないかと推察される。

Ｃ区は溝状遺構５条、掘立柱建物跡６棟、土坑17基、道路状遺構２条、石積遺構１基、700基以上のピットを検出している。遺物は弥生土器や中・近世及び近・現代の陶磁器類が出土している。この区の特徴は、側溝を伴う丁寧に版築された堅固な造りの道路状遺構（ＳＧ１）が、調査区西側において南東から北西方向に延びていることであるが、この道路状遺構は現代まで使用されていたようである。

また調査区の中央部付近では、この道路状遺構の上に構築された石積遺構が検出されたが、その性格は不明である。さらにＳＧ１と平行するように波板状凹凸面を有する道路状遺構（ＳＧ２）が検出された。掘立柱建物跡や多くのピットもこの道路状遺構の東側に沿うように検出された。さらに直径が６ｍに及ぶ土坑が３基検出されたが、これらの性格も明らかではない。

Ｄ区は溝状遺構21条、掘立柱建物跡７棟、土坑30基、中世土坑墓１基、調査区西半北側に波板状凹凸面を有する道路状遺構１条、500基以上のピットを検出した。区画溝と考えられる溝状遺構（ＳＥ31）の内側に軸を同じくして掘立柱建物跡３棟を検出し、特にＳＢ14の柱穴からは地鎮の意味と思われる銭貨「寛永通寶」が32枚出土したほか、キセルや毛抜きも出土している。

これらの掘立柱建物跡と同じ区画から主軸がほぼ南北を向く土坑墓１基が検出され、その北西隅から完形の土師器杯１点、小皿２点が出土した。出土遺物から中世墓と推定される。

さらにＤ区東半には区画溝と考えられる溝状遺構（ＳＥ44）があり、掘立柱建物跡も２棟検出した。このＳＥ44には北西隅で南から東へ屈曲する部分に付随する長軸約９ｍ、短軸５ｍの土坑（ＳＣ68）が検出されたが、土坑の性格は不明である。

Ｅ区は溝状遺構２条、掘立柱建物跡２棟、土坑12基、ピット400基以上を検出した。ＳＥ49・50はＤ区で検出された区画溝の続きと推定できる。同じくＤ区の区画溝であるＳＥ31から続く溝を調査区北壁から検出したが、延長部分は削平されて残存しなかった。

遺物については調査直前まで人家があったため、弥生時代から中・近世、近・現代のものまで幅広い時代のものが出土した。

（1）遺構

①溝状遺構

全体図（第5図）調査区別図（第6～9図）

ＳＥ1（第6・13図）

ＳＥ1はA区の中央部を南西から北東に走り、東端で南東に屈曲する。A区西端は調査外へ延びていく可能性が高い。A区南側の掘立柱建物跡やピット群を囲むような形で位置し、確認された溝状遺構の中では最大規模の全長約65mに及ぶ。幅0.6～2.5m、底幅0.6m～1.4m、深さは最大0.9mを測る。溝の断面は逆台形を呈し、立ち上がりはピット群側に面する内側が緩やかで、外側は急である。その形状から防御的、区画的役割があったと考えられる。そこでこの溝については、「区画溝Ⅰ」ととらえることにする。埋土は黒色・黒褐色土である。

埋土中には炭化物が一部見られたほか、旧石器時代～縄文時代の石器類（第10図2・3・6・7・12・14・17）、縄文土器（第11図23）、弥生時代から古墳時代の土器（第11図24～30）、中世の中国産青磁（第70図87～92）・白磁（第70図93～96）・青白磁（第70図97）、国産陶器（第70図98～101）、土器（第70図102）、茶臼（第81図256）など幅広い時代の遺物が出土している。また近世の磁器碗（第70図103）、銭貨（寛永通寶）も出土しているが、遺物全体の出土状況から中世に掘られた溝状遺構と推定される。

ＳＥ2（第6・14図）

ＳＥ2はA区のＳＥ1が北東から南東に屈曲する付近に位置し、断面形は小さなU字形を呈する。検出面における幅0.3～0.5m、深さ0.2m、全長4.2mの小さな溝で遺物は出土していない。ＳＥ8を切っている。時期は不明である。

ＳＥ3（第6・15・16図）

ＳＥ3はＳＥ1と比較すると規模は小さいもののＳＥ1と平行して南西から北東に走り、東端で北西に屈曲する。西側は攪乱は受けているものの、西端で北西に屈曲している。全長は約66mに及ぶ。幅0.9～1.8m、底幅0.1～0.8m、深さは最大0.6mを測り、断面はU字形を呈する。ＳＥ3はA区北側の掘立柱建物、ピット群を囲むように位置し、溝の壁面の形態はＳＥ1と同様に建物に面する側が緩やかで、外側が急に立ち上がっている。形状からやはり防御的・区画的役割があったと考えられるため、「区画溝Ⅱ」ととらえることとする。ＳＥ4を切っており、また東側にも浅い溝の形跡が見受けられた。

ＳＥ3の埋土中からは中世国産陶器（第71図104）、砥石(第79図243)のほか、土器・陶磁器類などが出土している。この溝状遺構は中世のものと推定される。

ＳＥ4（第6・15・18図）

ＳＥ4はA区北西から南東に走り、ＳＥ1の手前で東向きに屈曲する。全長は約27mに及ぶ。幅0.8～1.2m、底幅0.4～0.8m、深さは最大0.5mを測り、断面はU字形を呈する。ＳＥ3に切られる。

埋土中からは縄文時代の石鏃（第10図11）、中世の土器（第71図105～109）などが出土している。遺物の内容・出土状況から中世の遺構と推定される。

ＳＥ5（第6・15・17図）

ＳＥ5はA区の北部隅に位置し、北西側の調査区境から北東側の調査区境へと延びている。検出部分の全長は約9.5mで、幅1.4～2.0m、底幅0.4～0.8m、深さは最大0.7m、底面は土石流に由来する礫層が露出する。断面は北東壁断面で見ると逆台形を呈する。

出土遺物として中世の国産陶器(第71図112)、土器(第71図110・111)、火打石(第82図260・274)がある。この遺構は中世のものと推定される。

ＳＥ6（第6・19図）

ＳＥ6はA区東端に位置し、北東の調査区境からカーブを描き、南東の調査区境へと走っている。ただし検出されたのは区画溝の角部にあたるとも思われ、そのまま調査区外に延びている可能性がある。幅1.8～3.3m、底幅0.7～1.3m、深さは最大0.6mを測り、全長は約15mである。断面は逆台形を呈し、

溝の壁はＳＥ１に面した側の方がやや立ち上がりが緩やかで、反対側がやや急になっている。

出土遺物は弥生時代から古墳時代の土器（第11図31～37）、中世の中国産青磁（第71図113）・白磁（第71図114）、国産陶器(第71図116)、土器（第71図115・117～119）、砥石（第80図250）などがある。遺物の内容・出土状況から中世の遺構と推定される。

ＳＥ７（第６・15・18図）

ＳＥ７はＡ区東側のＳＥ１・３・６の間に位置し、幅1.1～1.4m、深さ0.1mで、東西約10mの長さを測るが、両端は削平され残存していない。断面形は箱形を呈する。

遺物は出土せず、時期は不明である。

ＳＥ８（第６・14図）

ＳＥ８は北端をＳＥ７に切られ、ＳＥ１が南に屈曲する部分を切っている。その南側でやや西側に屈曲し、ＳＥ２に切られて西側に延びている。幅0.4～1.6m、底幅0.1～0.5m、深さは最大0.3mを測る。断面はＵ字形をしており、やや北西壁がなだらかで南東壁が急になっている。途中でＳＤ５を切っていることから、ＳＤ５の時期よりも新しいものと判断でき、近世の溝と推定される。検出全長は約20mであるが、両端とも削平されて残存していない。遺物も出土していない。

ＳＥ９（第６・15・18図）

ＳＥ９はＳＥ３が南東から南西へと屈曲するところよりやや北側に位置する。全長は約５m、幅１mで、深さは最大0.2mを測る。くの字状の平面形をなす小さな溝である。断面はＵ字形を呈する。両端とも削平されて残存していない。

遺物は出土せず、時期は不明である。

ＳＥ10（第６・15・18図）

ＳＥ10はＡ区西側でＳＥ１とＳＥ３に挟まれたところに位置する小さな溝である。最大幅0.6m、深さ0.2m、全長3.7mであるが、両端とも削平されて残存していない。断面はＵ字形を呈する。

遺物は出土せず、時期は不明である。

ＳＥ11（第６・14図）

ＳＥ11はＡ区西側で検出された小さな溝である。最大幅1.5m、深さ1.4m、検出全長は約３mであるが、南東端をＳＥ１に切られ、もう一端も削平されて残存していない。断面はＵ字形を呈している。遺物は出土せず、時期は不明である。

ＳＥ12（第６・15図）

ＳＥ12はＡ区の西側で、ＳＥ３から分岐するように短く延びているが、ＳＥ３との切り合い関係は不明である。最大幅0.6m、深さ0.2m、全長は約３mであり、南西側に延びる先は削平されて残存していない。断面は弓形をなしている。

遺物は出土せず、時期は不明である。

ＳＥ13（第６・14図）

ＳＥ13はＡ区の西側に位置し、ＳＥ１と並行するように延びる小さな溝である。長さ8.7m、最大幅0.8m、深さ0.2mを測る。断面はＵ字形を呈する。両端とも削平されており残存していない。

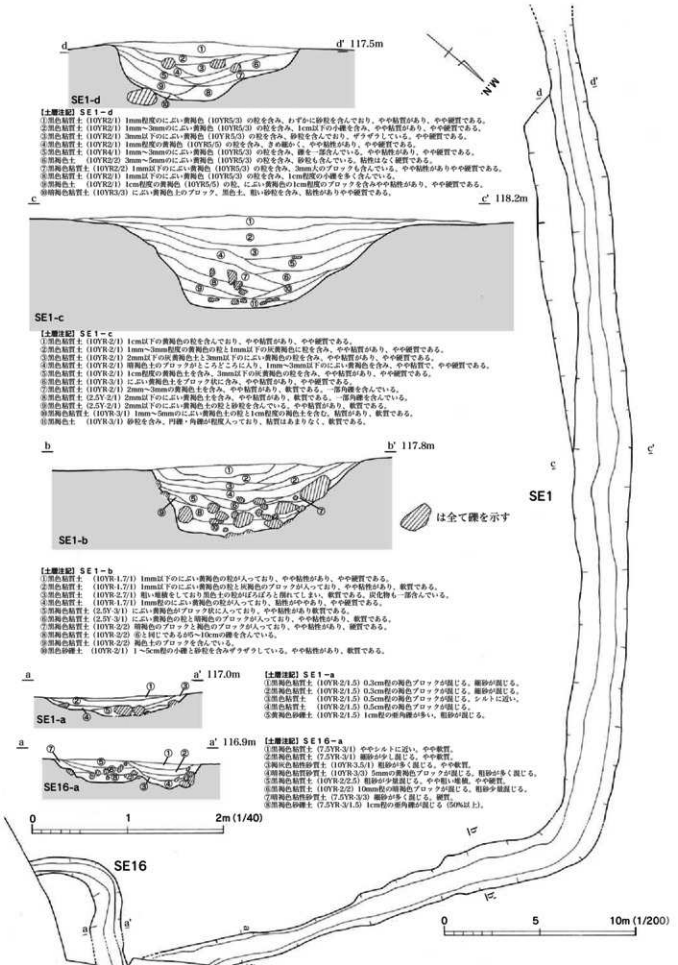
遺物は出土せず、時期は不明である。

ＳＥ14（第６・20図）

Ａ区の南側に位置する。現代の土管も重なり元々の溝が削平された部分が多い。削平を受けていない部分での状況は、幅2.2～2.5m、最も深い部分で0.2mを測る。断面はＵ字形を呈する。西側には掘立柱建物跡やピット群が集中しているが、この溝をまたぐように掘立柱建物跡１棟とその他のピット群が検出されていることから考えると、掘立柱建物跡やピット群より古い時代のものと考えられるが、時期はそれ以上特定できない。

ＳＥ15（第６・20図）

ＳＥ15はＳＥ14南端から分岐する溝である。溝埋土は黒褐色の粘質土で細砂が混じっているところも見られる。南端部分では溝が４重にも重なりあって



第13図　SE1・16実測図（平面1/200、断面1/40）

いる。断面はそれぞれ浅い皿形を呈する。幅は1.2～1.8mで、最深部で0.2mを測る。

遺物は出土せず、時期は不明である。

ＳＥ16（第６・13図）

ＳＥ16はＡ区の東隅で検出された遺構である。調査区北東壁から南東壁に屈曲して延びており、上層部分が大きく削平されているため検出部分は少ないが、区画溝の角部の可能性がある。また２条に重なりあっている部分が断面で観察できる。断面はＵ字形を呈する。最大幅1.7m、最深部は0.1m、底面は土石流に由来する礫層が露出する。

時期は不明である。

ＳＥ17（第６・21図）

ＳＥ17～ＳＥ23を検出した区画は、調査の都合上１日間で調査を行ったため、詳細な記録がとれなかった部分である。また調査以前に水道管が埋設してあったため溝が水道管に切られているところがある。調査区としてはＡ区に含めている。

ＳＥ17は北西の壁から南西の壁に向かって検出された。幅0.9m～1.5m、深さ約0.6m で、長さ約18mを測る。埋土は黒色土で粘性が弱い。北側部分でＳＥ21を切っている。

出土遺物は底面直上より弥生時代から古墳時代の土器が多数出土しているが（第11図38～52）、中・近世の遺構である可能性もある。

ＳＥ18（第６・21図）

ＳＥ18は幅0.4m、深さ0.3m、長さは4.6mで、東西に走っており、ＳＥ23に切られている。

時期は不明である。

ＳＥ19（第６・21図）

ＳＥ19は調査区の南西壁から東に延びているが東端は残存していない。また西壁側は調査区Ａに隣接するが、溝が続いている形跡は見あたらない。幅0.5～1.5m、深さ0.3mで、長さは7.7mである。

時期は不明である。

ＳＥ20（第６・21図）

ＳＥ20は調査区南西壁から北東壁に向けて走っている。東側延長上には、この溝の続きと思われるＣ区のＳＥ26 ・27・40が検出されている。

またＳＥ21とＳＥ23を切っておりこの調査区の中では新しい溝であると考えられる。幅1.4～2.5m深さ0.2mで、長さは約11mである。

時期は不明である。

ＳＥ21（第６・21図）

ＳＥ21は調査区の北西角から東に向かい一度調査区内から見えなくなるが、再び蛇行して南向きに走っている。埋土は黒褐色で細砂や砂粒を多く含んでいる。幅0.7m～1.7m、深さ0.2m、長さ約23mであった。また北西角で調査はできていないが、延長線上にあるＡ区のＳＥ５に繋がる可能性も否定できない。

南東端付近からは弥生時代から古墳時代にかけての土器（第11図53～58）が出土しているが、中・近世の遺構である可能性もある。

ＳＥ22（第６・21図）

ＳＥ22は調査区の北西から南東に延びているが、北西端はＳＥ18に切られている。またＳＥ19・23にも切られている。幅0.4m、深さ0.4m、長さが約4mを測る。

出土遺物として弥生土器が認められたが、中・近世の溝状遺構である可能性もある。

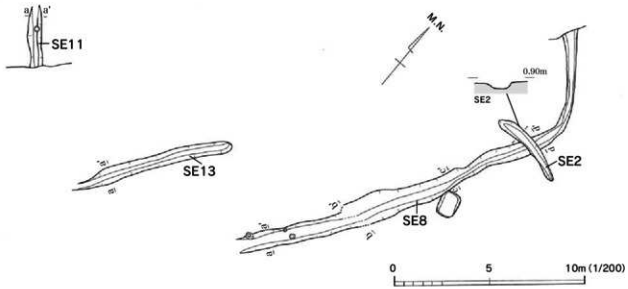
ＳＥ23（第６・21図）

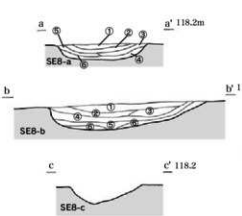
ＳＥ23は調査区南端の壁から北側へ延びており、ＳＥ19・20に切られＳＥ18・22を切り、さらに北端部ではＳＥ17に切られている。幅0.4～1m、深さ0.4m、長さは約15mを測る。

時期は不明である。

ＳＥ24（第７・22図）

ＳＥ24はＣ区南側でＳＧ１の東に隣接している。北西から南東にかけて走るが、両端とも削平を受けて残存していない。断面はＵ字形を呈する。長さ





【土層注記】SE8－a
①黒褐色土　(10YR-2/2) 1mm程度の暗褐色土が入っており、粘質はなく、しまっている。
②黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 1mm程度のにぶい黄褐色粒を含み、やや粘性があり、しまっている。
③黒色粘質土　(10YR-2/1) 1mm以下のにぶい黄褐色粒を含み、やや粘性があり、しまっている。
④黒色粘質土　(10YR-2/1) 暗褐色土をブロック状に含み、やや粘性があり、しまっている。
⑤黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 暗褐色土をブロック状に含み、やや粘性があり、しまっている。
⑥黒色粘質土　(10YR-2/1) 1mm以下のにぶい黄褐色粒を含み、やや粘性があり、しまっている。

【土層注記】SE8－b
①黒褐色土 (10YR-2/2) 1mm以下の暗褐色粒が入っており、粘質はなく、しまっているものの傾るとボロボロと崩れやすい。
②黒褐色土 (10YR-2/2) 1mm程度の暗褐色粒が入っており、やや粘性がありしまっている。
③黒褐色土 (10YR-2/2) 1cm程度の褐色土がブロック状に入っている。粘質はなく、堅くしまっている。
④黒褐色土 (10YR-2/2) 2mm～5mmの粒状の暗褐色土と1mm以下の黄褐色土が入っており、やや粘質があり、しまっている。
⑤黒褐色土 (10YR-2/2) 2cm～5mmの暗褐色粒が入っており、やや粘質はあるが、粘質である。
⑥黒色土　(10YR-2/1) 1cm～3cmの暗褐色土がブロック状に入っている。粘質があり、しまっている。

【土層注記】SE11－a
①黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 5mm～10mmの黄褐色ブロックが混じる。粘性が低くサラサラしている。
②黒色粘質土　(2.5Y-2.5/1) 3mm程の黄褐色ブロックが混じる。やや粘質。粘性が低くさらさらしている。
③黒色粘質土　(10YR-2/1.5) 軟質。1mm程の黄褐色粒が混じる。シルトに近い。やや密に堆積している。

【土層注記】SE13－a
①黒褐色粘質土 (10YR-2.5/2) 3mm程の黄褐色ブロックが混じる。やや粘質。シルトに近い。
②黒褐色粘質土 (10YR-2.5/2) ①層に類似。①層に比べ軟質で　ブロックがやや少ない。
③黒褐色粘質土 (10YR-3/1.5) 軟質。1mm以下の黄褐色が混じる。
④黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 10mm前後の水平方向に扁平なブロックが混じる。非常に硬質。

第14図　SE2・8・11・13実測図（平面1/200、断面1/40）

8.5m、最大幅0.7～2m、深さ0.1mを測る。
出土遺物はない。時期は不明である。

ＳＥ25（第７・22図）

ＳＥ25はＳＧ１とＳＥ24とに挟まれるように位置する。北西から南東にかけて走るが、両端とも削平を受けて残存していない。断面はU字形を呈する。長さ8.2m、最大幅1.1m、深さ0.1mを測る。
出土遺物はない。時期は不明である。

ＳＥ26（第７・22図）

ＳＥ26はＣ区の南西壁にかかるように検出された。一旦北東に向けて走るが、途中で南向きに屈曲している。先端部は削平を受けて残存しない。ＳＥ40に切られているが、Ａ区のＳＥ20に続く可能性がある。長さは約22mで、最大幅は3.1m、深さ0.1mを測る。
出土遺物中に近世後半の陶磁器小片があり、その頃の遺構と推定できる。

ＳＥ27（第７・22図）

ＳＥ27はＳＥ26と同様に南西壁にかかって検出された。一旦は北東に向けて走るが、途中で北西側に屈曲している。先端は削平を受けて残存しない。断面は皿形を呈する。この溝もＡ区にあるＳＥ20に続く可能性がある。長さは約22m、最大幅1.8m、深さ0.1mを測る。
出土遺物はない。時期は不明である。

ＳＥ28（第８・25図）

ＳＥ28はＤ区～Ｃ区にかけて北東～南西方向に走って、北端部でわずかに屈曲する。溝の両端は削平されて残存しない。断面はU字形を呈する。長さ4.1m、最大幅0.6m、深さ0.2mを測る。
出土遺物はない。時期も不明である。

ＳＥ29（第８・25図）

ＳＥ29はＤ区の北西壁にかかるように検出された。南東に向かって走るが、先端部は削平されて残存しない。長さは約３m、最大幅0.8m、深さ0.2mを測る。
陶磁器片が３点出土したが、時期は不明である。

ＳＥ30（第８・23図）

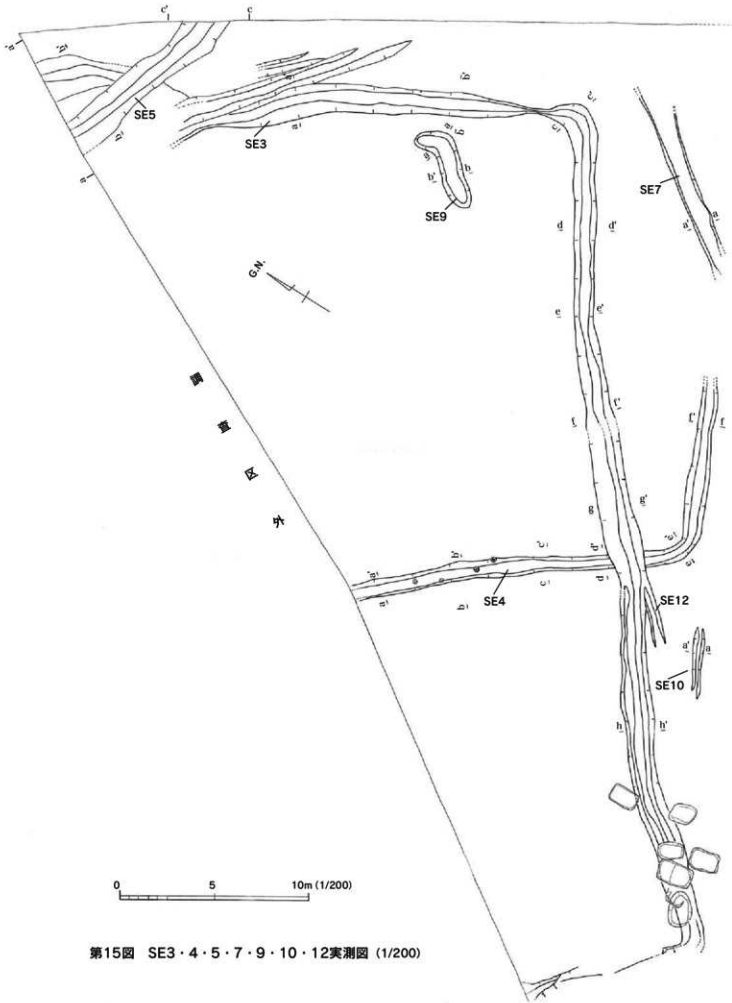
ＳＥ30はＤ区北西壁から南東壁にかけて直線的に横断する溝である。北西寄りの部分でＳＥ33・34・37を切っている。
Ｄ区南東側に隣接するＥ区に延びると推測されたため、Ｅ区北西壁の断面で確認したが、削平されており残存していなかった。北東側の立ち上がりは緩やかであるが、南西側はやや急になっている。長さ16.9m、幅1.0～1.7m、深さ0.4m前後を測る。
近代の陶磁器が出土しているため、比較的新しい溝状遺構だといえる。

ＳＥ31（第８・23・24・26図）

ＳＥ31もＤ区の北西から南東にかけて直線的に走っている。溝の北西側端はＳＥ34に切られている上に、削平されて残存していない（第24図）。南東側はＤ区に隣接するＥ区北西壁にＳＥ31の断面が確認できたが、その先は削平されて残存していない。断面形はU字形を呈する。
この溝は南側にある掘立柱建物跡、ピット群を囲むような形で位置しているため、「区画溝Ⅲ」とする。長さ30.9m、幅1.3～2.9m、深さ0.1～0.5mを測る。また南東壁側付近で硬化面を有するＳＥ32・35に切られている。
埋土中からは中国産青磁（第72図120）、国産陶器（第72図121・123）、土器（第72図122）などの中世遺物のほか、近世の陶器片や砥石(第80図246)が出土している。これら出土遺物の内容や掘立柱建物跡と同一の主軸方位をとることから、近世の遺構と推定できる。

ＳＥ32・35（第８・26図）

ＳＥ32は南西側からＳＥ31を切って北東方向に緩やかに湾曲し、ＳＣ19・20（竪穴）に切られ、再度ＳＥ31を切る方向に走るが削平されて残存しない。ＳＥ35もＳＥ32に沿うように走り、その先は削平され残存しない。いずれもＳＢ14に切られている。



第15図　SE3・4・5・7・9・10・12実測図 (1/200)

a　a' 118.7m

【土層注記】SE3-a
①黒褐色粘質土（10YR-3/1）0.2cm程の黄褐色・褐色のブロックが混じる。やや軟質
②黒褐色粘質土（10YR-3/1～2/1）0.2～0.5cmの褐色のブロックが混じる。やや軟質。
③黒褐色粘質土（10YR-3/2）0.1cm～0.5ｃｍの黄褐色・褐色のブロックが混じる。軟質
④黒褐色粘質土（10YR-3/1）0.2～0.5cmの褐色のブロックが混じる。やや軟質。密に堆積。
⑤黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.3～0.5cmの黄褐色・褐色のブロックが混じる。やや軟質。やや粗い堆積。
⑥黒褐色粘質土（2.5Y-3/1～4/1）0.1cm前後の褐色粒が混じる。0.5cm程の黄褐色ブロックが混じる。軟質。粗い堆積。
⑦黄灰色粘質土（2.5Y-4/1）0.2cm前後の褐色ブロックが混じる。やや軟質。
⑧暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/2）0.1～0.5cm黒色ブロックが混じる。やや軟質。粗い堆積。
⑨灰色粘質土　（5Y-4/1～3/1）0.5～1cmの褐色のブロックが混じる。やや硬質。やや粗い堆積。

b　b' 118.5m

【土層注記】SE3-b
①黒褐色粘質土（10YR-3/1）1mm程の暗褐色粒・3mm程の褐色ブロックが混じる。やや軟質
②黒褐色粘質土（10YR-3/1～2/1）2mm程の褐色ブロック・4mm程の黄褐色ブロックが混じる。やや硬質。
③黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）2mm程の褐色・黄褐色（5%）ブロックが混じる。やや硬質。やや密に堆積。
④黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）2mm～4mm程の褐色ブロックが混じる。軟質。
⑤暗黄褐色粘質土（2.5Y-4/2）2mm～4mm程の褐色ブロックが混じる。軟質。やや粗い堆積。
⑥暗黄褐色粘質土（2.5Y-4/2～4/3）2mm～5mm程の褐色ブロックが混じる。やや軟質。

c　c' 118.5m

【土層注記】SE3-c
①黒褐色粘質土（10YR-3/1）2mm程の褐色粒が混じる。やや軟質。
②黒褐色粘質土（10YR-3/1～2/1）2mm～3mm程の褐色ブロックが混じる。やや軟質。
③黒褐色粘質土（10YR-3/2）1mm程の褐色ブロックが混じる。やや硬質。
④黒褐色粘質土（10YR-3/2）1mm程の褐色ブロックが混じる。やや硬質。5mm程の暗褐色ブロックが混じる。
⑤黒褐色粘質土（2.5Y-3/1～4/1）3mm程の褐色ブロックが混じる。粗い堆積。やや硬質。
⑥暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/1）1mm程の褐色粒・暗褐色粒が混じる。2mm程の黒色ブロックが混じる。やや軟質。

d　d' 118.5m

【土層注記】SE3-d
①黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）2mm程の暗褐色・黄褐色ブロックが混じる。やや硬質。
②黒色粘質土　（2.5Y-2/1）2mm程の暗褐色・黄褐色ブロックが混じる。5mm程の黒色ブロックが混じる。やや硬質。
③黒褐色粘質土（2.5Y-3/1～2/1）2mm程の褐色ブロックが混じる。密に堆積。やや軟質。
④黒褐色粘質土（2.5Y-3/2～3/1）2mm程の暗褐色ブロックが混じる。密に堆積。軟質
⑤黒褐色粘質土（2.5Y-3/1～2/1）2mm程の褐色ブロックが混じる。密に堆積。やや軟質
⑥黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）2mm～5mm程の褐色ブロックが混じる。軟質。やや粗い堆積
⑦暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/2）3mm程の褐色ブロック・3mm程の黒色ブロックが混じる。土器片を含む。やや硬質。やや粗い堆積。
⑧暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/1～5/2）1mm以下の褐色粒・3mm程の黒色ブロックが混じる。やや粗い堆積。やや硬質。

e　e' 118.5m

【土層注記】SE3-e
①黒褐色粘質土（10YR-3/1～2/1）1mm程の黄褐色粒が混じる。やや軟質。
②黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）1mm～5mmの黄褐色粒が混じる。2mm程の褐色ブロックが混じる。やや硬質
③黒色粘質土　（2.5Y-2/1）1mm程の黄褐色粒が混じる。軟質。
④黒色粘質土　（2.5Y-2/1）5mm～10mm程の暗褐色ブロックが混じる。やや軟質。
⑤黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）5mm程の暗褐色ブロックが混じる。やや硬質。
⑥暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/2～3/2）3mm程の暗褐色粒が混じる。褐色ブロックが混じる。やや粗い堆積。軟質。
⑦黒褐色粘質土（2.5Y-3/1～4/1）5mm程の褐色ブロックが混じる。やや硬質。やや密に堆積し、光沢を持つ。

f　f' 118.5m

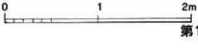
【土層注記】SE3-f
①黒色粘質土　（2.5Y-2/1）1mm～5mm程の明黄褐色粒が混じる。やや軟質。
②黒褐色粘質土（10YR-3/1）2mm前後の明黄褐色粒が、やや軟質。1～5cm程明黄褐色ブロックが混じる。やや軟質。
③黒褐色粘質土（10YR-3/1）3mm～10mm程のブロックが混じる。3mmの黄褐色粒が混じる。やや軟質。
④黒褐色粘質土（10YR-3/1）1mm程の褐色粒が混じる。やや軟質。
⑤褐色粘質土　（10YR-4/4）黒褐色粘土が混じる。軟質。
⑥黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）1mm～5mmの褐色・黄褐色粒が混じる。軟質。
⑦黒褐色粘質土（2.5Y-3/2～3/1）1mm～5mmの褐色・黄褐色粒が混じる。軟質。
⑧黒褐色粘質土（2.5Y-3/2～3/1）3mm程の褐色ブロックが混じる。軟質。
⑨暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/2）1mm～5mm程の褐色ブロック・3mm程の黒色粘質土が混じる。軟質。
⑩オリーブ褐色粘質土（2.5Y-4/3）2mm程の褐色・黒色ブロックが混じる。軟質。やや粗い堆積。

g　g' 118.5m

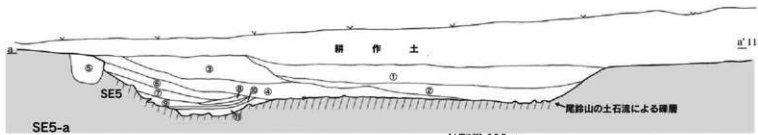
【土層注記】SE3-g
①黒色粘質土　（10YR-2/2）1mm以上の明黄褐色粒が混じる。やや硬質。
②黒色粘質土　（10YR-2/2～1.7/1）1mm～10mmの明黄褐色粒が混じる。やや軟質。
③黒色粘質土　（2.5Y-2/1）1mm 小明黄褐色粒が混じる。やや軟質。
④暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/2）1mm以下の明黄褐色粒が混じる。軟質。
⑤黒色粘質土　（10YR-1.7/2）1mm以下の明黄褐色粒が混じる。やや軟質。
⑥暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/2）1mm～5mmの明黄褐色粒・5mm程の黒色ブロック・炭化物が混じる。やや軟質。
⑦黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）1mm～5mmの明黄褐色・黒色粒が混じる。やや軟質。
⑧黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）2mm～3mmの明黄褐色粒が混じる。やや軟質
⑨黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）1mm～5mmの明黄褐色粒が混じる。軟質。
⑩黒色粘質土（2.5Y-2/1）1mm～5mmの明黄褐色粒が混じる。
⑪暗オリーブ褐色粘質土（2.5Y-3/3）5mm程度の褐色・明黄褐色ブロックが混じる。やや軟質。
⑫黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）2mm～5mmの褐色ブロックが混じる。軟質
⑬黒褐色粘質土（2.5Y-3/1～4/1）3mm～10mmの褐色ブロックが混じる。密に堆積。やや軟質。
⑭黒褐色粘質土（2.5Y-3/1～4/1）3mm～10mmの褐色ブロック・5mm程の黒色ブロックが混じる。やや硬質。

h　h' 118.1m

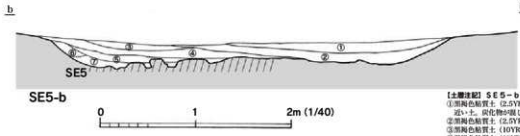
【土層注記】SE3-h
①黒褐色土（10YR2/3）しまり・粘性ともに非常に弱い、1～3Ｆ程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
②黒褐色土（10YR2/3）しまり弱く、粘性非常に弱い、サラサラしている。①の様土が中レまった感じ。1～2Ｆ程度の明黄褐色粒が多く含まれる。
③黒褐色土（10YR2/2）しまり非常に弱く、粘性弱い、1～3Ｆ程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
④黒褐色土（10YR2/3）しまり非常に弱く、粘性弱い、1～2Ｆ程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
⑤黒褐色土（10YR2/2）しまりやや強く、粘性弱い、1～3Ｆ程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
⑥黒褐色土（10YR2/2）しまり弱く、粘性非常に弱い、サラサラしている。1～3Ｆ程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
⑦黒褐色土（10YR2/2）しまり・粘性ともに弱い、1～3Ｆ程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。



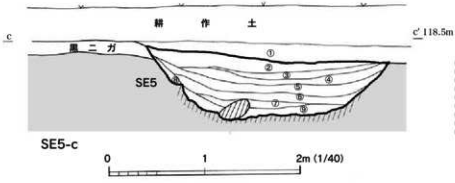
第16図　SE3土層断面実測図（S=1/40）



【土層注記】ＳＥ５－ａ
①黒褐色粘質土（2.5YR-2/1）3mm程の黄褐色、明赤褐色などのブロックが混じる。粘性が低い。やや硬質。耕作土に近いと、炭化物が混じる。
②黒褐色粘質土（2.5YR-2/1）①層に類似。やや黒色を帯びる。
③黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）3mm程の明褐色ブロックが混じる。シルトに近い。やや硬質。炭化物が混じる。
④黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）③に類似。やや黒色を帯びる。
⑤粘穴
⑥黒色粘質土　（2.5Y-2/1）1mm以下の黄褐色粒が混じる。粘性がやや高い。シルトに近い。わずかに硬質。
⑦黒色粘質土　（2.5Y-2/1）⑥層に類似。やや褐色を帯びる。
⑧黒色粘質土　（10YR-2/1）1mm～2mmの黄褐色粒が混じる。砂質土に近い。微砂が多量に混じる。やや硬質。
⑨黒色シルト　（10YR-1.7/1）1mm以下の白色粒が少量混じる。やや軟質。密に堆積。1mm程の黄褐色粒が混じる。
⑩黒色シルト　（10YR-1.7/1）⑨層に類似。黄褐色粒がほとんど混ざらない。
⑪黒色砂質土　（10YR-2/1）明黄褐色（10YR-6/6）の細粒、粗粒が混じる。やや硬質。

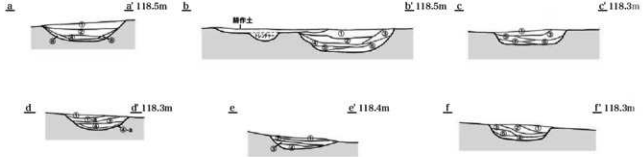


【土層注記】ＳＥ５－ｂ
①黒褐色粘質土（2.5YR-2/1）3mm程の黄褐色、明赤褐色などのブロックが混じる。粘性が低い。やや硬質。耕作土に近いと、炭化物が混じる。
②黒褐色粘質土（2.5YR-2/1）①層に類似。やや黒色を帯びる。
③黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）3mm程の明褐色ブロックが混じる。シルトに近い。やや硬質。炭化物が混じる。
④黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）③に類似。やや黒色を帯びる。
⑤黒色シルト（10YR-2/1）3cm程の亜角礫がわずかに混じる。やや軟質。密に堆積。
⑥黒色シルト（10YR-1.7/1）やや軟質。わずかに微砂が混じる。粘性が高い。
⑦黒褐色砂礫（2.5-Y3/1）3cm程の亜角礫がわずかに混じる。やや硬質。明黄褐色の細砂、粗砂が混じる。ＳＥ５－ａの引層に相当。



【土層注記】ＳＥ５－ｃ
①黒褐色粘質土（2.5-Y3/1）やや硬質。粘性低い。部分的に褐色が強いところがある。耕作土か。
②黒色粘質土（1.2Y-2/1）硬質。シルトに近い。
③黒色粘質土（1.2Y-2/1）②層に類似。やや黒色を帯びる。
④黒色粘質土（10YR-2/1）硬質。シルトに近い。0.2mm程の白色粒がやや多い。
⑤黒色シルト（10YR-1.7/1）やや硬質。0.2mm程の白色粒がやや多い。
⑥黒色シルト（10YR-1.7/1）⑤層に類似。ややきめが細かく、粘土に近い。
⑦黒色粘質土（10YR-2/1）4cm～5cmの亜角礫が少量混じる。やや硬質。
⑧黒褐色粘性砂質土（10YR-2/1.5）1mm程の土石流の層の砂と思われるものが混じる。
⑨黒褐色砂礫（10YR-2/1.5）3mm・4～5cmの礫で構成されている。層のほとんどが礫でその隙間に黒褐色土が混じる。

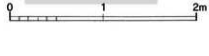
第17図　SE5土層断面実測図及びD区北東隅壁土層断面実測図（S=1/40）



【土層注記】SE4－a・b・c・d
① 黒色粘質土（10YR-2/1）きめ細かいが若干の砂粒を含む。粘性は弱く、しまりも弱く、軟質である。
① a 黒色粘質土（10YR-2/1）きめ細かいが若干の砂粒を含む。①層と似てんるが粘性は強い。
② 黒色粘質土（10YR-2/1）①層と似ているが、ややきめが粗く、ボロボロしている。Ah層（1mm～2mm）をごくわずかに含む。
③ 黒色粘質土（10YR-2/1）きめが細かくサラサラしている。粘性は弱く、しまりも弱い。
④ 黒色粘質土（10YR-1.7/2.1）きめが細かく、粘性も強い。また、よくしまっている。
④-a 黒色粘質土（10YR-1.7/2.1）④層と似ているが、さらに粘性が強い、土色は、やや茶色がかった。黒色（10YR-2/1）を呈す。
⑤ 黒褐色粘質土（10YR-2/1）Ah粒（1mm～3mm）を少量（7%）含む。きめ細かく、粘性は弱いが、よくしまっている。
⑥ 黒褐色粘質土（10YR-2/1）Ah粒をわずかに（3%）含む。ややきめが粗く、粘性は弱い。
⑦ 黒褐色粘質土（10YR-2/2）ややきめが粗く、粘性を持つ、しまりはなく、軟質である。④層と類似
⑧ 黒褐色粘質土（10YR-3/1）Ah粒（1mm～3mm）を少量（7%）含む。ややきめが粗く、粘性は弱い、しまりが弱く柔らかい。
⑨ 黒褐色粘質土（10YR-3/1）Ah粒（1mm）をわずかに（3%）含む、きめは粗く、粘性は弱い

【土層注記】SE4－f
①黒色粘質土（7.5YR-2/1）やや硬質、シルトに近い、粘性やや弱い。
②黒色粘質土（10YR-2/1）1mm以下の黄褐色粒が混じる、やや軟質、シルトに近い、粘性やや弱い。
③黒色粘質土（10YR-1.7/1）1mm以下の白色粒が混じる、軟質、シルトに近い、粘性やや弱い。
④黒色粘質土（10YR-1.7/1）③に類似、やや褐色を帯びる。

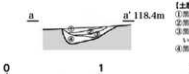
【土層注記】SE4－g
①黒褐色粘質土（10YR-2/2）2mm以下の暗褐色の粒が入っており、一部砂化物が混ざっている、軟質である。
②黒色粘質土（10YR-2/1）2mm以下の暗褐色土と黄褐色の粒が入っており、粘性がなく、きめが細かく軟質である。
③黒色粘質土（10YR-2/1）2mm程度の暗褐色土と黄褐色の粒が入っており、粘性がなく、ややしまりがある。
④黒色粘質土（10YR-2/1）1mm～5mm程度の黄褐色の粒が入っており、粘性がなく、しまりがある。
⑤黒色粘質土（10YR-2/1）暗褐色土の大粒・黄褐色の粒が入っており、粘性がある、しまりがある。



【土層注記】SE7
①黒色土（10YR-2/1）きめが細かく粘性はなく黒くしまっている。掘るとボロボロと崩れてしまう。
②黒色土（10YR-2/1）1mmにぶい黄褐色土の粒が混ざっている。粘性はなく砂粒が入っており、掘るとしゃりしゃり感がある。
③黒色土（10YR-2/1）にぶい黄褐色土のブロックと砂粒が多く混ざっている。掘るとじゃりじゃりという感触がある。
④黒色土（10YR-2/1）1mm程度のにぶい黄褐色土が細かく入っている。

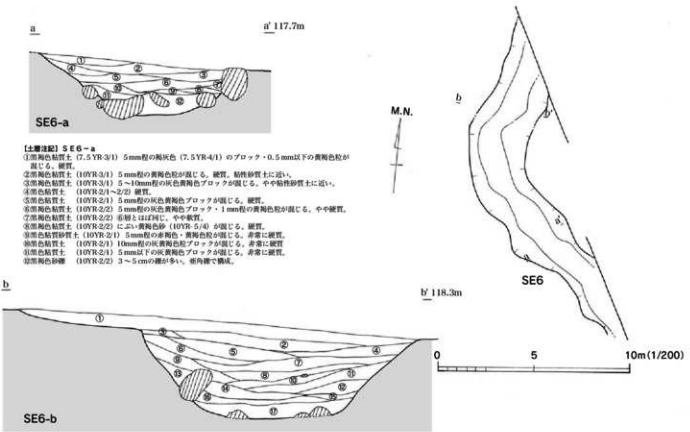
【土層注記】SE9－a
①黒色粘質土　（10YR-2/1）2cm程度の黄褐色土のブロックと暗褐色粒を含み、やや粘性があり、しまっている。
②黒褐色粘質土（10YR-2/2）2mm～5mmの暗褐色粒を含み、やや粘性があり、しまっている。
③黒色粘質土　（10YR-2/1）2mm程度の暗褐色粒を含み、粘性があり、軟質である。
④黒褐色粘質土（2.5Y-2/1）暗褐色のブロックが含まれ、やや粘性はあるが、軟質である。
⑤黒色粘質土土（10YR-2/1）2mm程の暗褐色粒を含み、やや粘性があり、よくしまっている。
⑥黒色粘質土　（10YR-2/1）にぶい黄褐色粒を含み、やや粘性があり、しまっている。

【土層注記】SE9－b
①黒色粘質土（10YR-2/1）2mm程度の暗褐色粒を含み、やや粘性があり、しまっている。
②黒色粘質土（10YR-2/1）2mm以下の暗褐色粒とにぶい黄褐色粒を含み、やや粘性があり、よくしまっている。
③黒色粘質土（10YR-2/1）2mm程度の暗褐色粒を含み、粘性があり、きめ細かで非常によくしまっている。
④黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）暗褐色のブロックが含まれ、やや粘性があり、しまっている。
⑤黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）暗褐色のブロックが含まれ、やや粘性があるが、軟質である。
⑥黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）暗褐色のブロックが含まれ、やや粘性があり、よくしまっている。



【土層注記】SE10
①黒色粘質土（2.5Y-2/1）5mmの黄褐色ブロックが混じる。粘性が低くサラサラしている。やや硬質。
②黒色粘質土（2.5Y-2/1）①層に類似、ややブロックが少ない
③黒色粘質土（2.5Y-2/1）1mm以下の黄褐色粒が混じる。5mmの黄褐色ブロックが混じる、やや硬質。粘性が低く、サラサラしている。
④黒色粘質土（2.5Y-2/1）③層に類似、黄褐色粒が③層より多く、ブロックもやや多い。

第18図　SE4・7・9・10土層断面実測図（S=1/40）



【土層注記】ＳＥ６－ａ
①黒褐色粘質土（7.5YR-3/1）5mm程の褐灰色（7.5YR-4/1）のブロック・0.5mm以下の黄褐色粒が混じる。硬質。
②黒褐色粘質土（10YR-3/1）5mm程の黄褐色粒が混じる。硬質。粘性砂質土に近い。
③黒褐色粘質土（10YR-3/1）5～10mm程の灰色黄褐色ブロックが混じる。やや粘性砂質土に近い。
④黒色粘質土（10YR-2/1～2/2）硬質。
⑤黒色粘質土（10YR-2/1）5mm程の灰色黄褐色ブロックが混じる。硬質。
⑥黒褐色粘質土（10YR-2/2）5mm程の灰色黄褐色ブロック・1mm程の黄褐色粒が混じる。やや硬質。
⑦黒褐色粘質土（10YR-2/2）⑥層とほぼ同じ。やや軟質。
⑧黒褐色粘質土（10YR-2/2）に近い黄褐色砂（10YR-5/4）が混じる。硬質。
⑨黒色粘質砂質土（10YR-2/1）5mm程の赤褐色・黄褐色粒が混じる。赤雲に硬質。
⑩黒色粘質土　（10YR-2/1）10mm程の灰黄褐色粒ブロックが混じる。赤雲に硬質
⑪黒色粘質土　（10YR-2/1）5mm以下の灰黄褐色ブロックが混じる。赤雲に硬質。
⑫黒褐色砂礫　（10YR-2/2）3～5cmの礫が多い。根角礫で構成。

【土層注記】ＳＥ６－ｂ
①黒色粘質土　（7.5YR-1.7/1）5mm程の褐灰色（7.5YR-4/1）のブロックが混じる。やや軟質。粗い堆積でボソボソしている。耕作土か
②黒色粘質土　（10YR-1.7/1）5mm程の褐灰色（7.5YR-4/1）のブロックが混じる。軟質で粘い堆積。
③黒色粘質土　（10YR-1.7/1）5mm程の褐灰色（7.5YR-4/1）のブロックが混じる。軟質で、やや粗い堆積。
④黒色粘質土　（10YR-2/1）5mm程の黒褐色・灰黄褐色が混じる。やや軟質。
⑤黒褐色粘質土（10YR-2/2）やや硬質。
⑥黒褐色粘質土（10YR-2/2）⑤層よりもやや黒色を帯びる。やや硬質。
⑦黒色粘質土　（7.5YR-1.7/1）5mm程の赤褐色ブロック・5mm程の黄色の砂粒が混じる。やや硬質。
⑧黒色粘質土　（7.5YR-1.7/1）5mm程の黒色粘質土（7.5YR-1.7/1）・暗褐色ブロックが混じる。やや硬質。
⑨黒色粘質土　（10YR-2/1）5mm以下の白色粒が混じる。硬質。
⑩黒色粘質土　（10YR-1.7/1）5mm程の黄褐色粒が混じる。硬質
⑪黒色粘質土　（10YR-2/1）5mm～10mmの暗褐色・灰黄褐色ブロックが混じる。やや硬質。5mm程の砂粒が混じる。
⑫黒褐色粘質土（10YR-3/1）10mm程の灰黄褐色ブロックが混じる。
⑬黒褐色粘質土（10YR-3/1）5mm程の灰黄褐色ブロックが混じる。
⑭黒色粘質土　（10YR-1.7/1）5mm程の黄色などの砂粒が混じる。硬質で密な堆積。
⑮にぶい黄褐色砂礫（10YR-4/3）黒色粘質土が混じる。
⑯黒色粘質砂質土（10YR-1.7/1）5mm程の黄色、赤褐色などの砂粒が混じる。
⑰にぶい黄褐色砂礫（10YR-5/3）こぶし大の礫が混じる（50%以上）。黒色粘質土が混じる

第19図　SE6実測図（平面1/200、断面1/40）

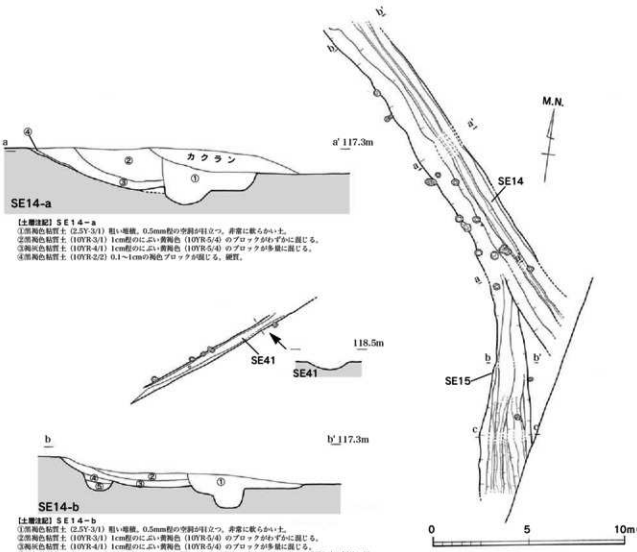
ＳＥ32には硬化面が認められ、非常に硬質で細砂が混じり多少ざらざらした感がある。道路状遺構の可能性もあると考えられる。第26図ｄ－ｄ’の図にあるように断面形はＵ字形を呈する。同図における①・②層はＳＥ32の埋土とも考えられるが、平面上で方向性が多少異なり硬化面を途中で分断した感があるため、ＳＥ32とＳＥ35は別々の遺構と判断した。長さは約22mで、幅0.1m～0.3m、深さは最大で0.3mを測る。時期は不明である。

ＳＥ33（第８・23・25図）

ＳＥ33はＤ区西半を北東から南西にかけて走っており、北東端で南東方向に屈曲するが、その先は削平されて残存していない。長さは17.2m、最大幅1.1m、深さ0.4m、断面形はＵ字形を呈する。ＳＣ25、ＳＨ36に切られ、ＳＣ26・27・28を切っている。

さらに第25図に示したように硬化面を検出した。硬化面は長さ5.8m、最大幅0.4m、厚さは約３cmであった。道路状遺構の可能性がある。

時期を特定できる遺物は出土していない



【土壌注記】SE14－a
①黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）粗い堆積、0.5mm程の空隙が目立つ、非常に軟らかい土。
②黒褐色粘質土（10YR-3/1）1cm程のにぶい黄褐色（10YR-5/4）のブロックがわずかに混じる。
③褐灰色粘質土（10YR-4/1）1cm程のにぶい黄褐色（10YR-5/4）のブロックが多量に混じる。
④黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.1～1cmの褐色ブロックが混じる、硬質。

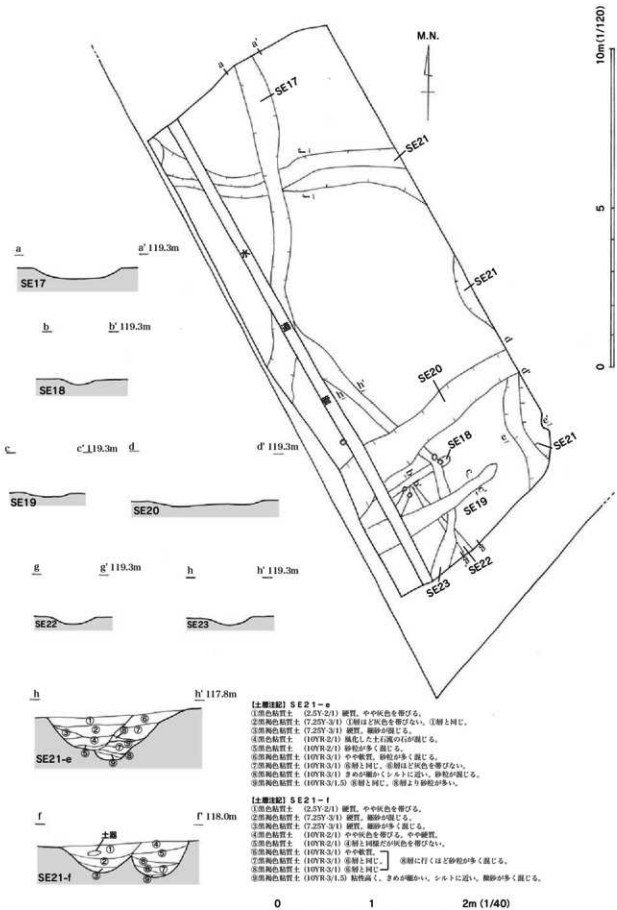
【土壌注記】SE14－b
①黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）粗い堆積、0.5mm程の空隙が目立つ、非常に軟らかい土。
②黒褐色粘質土（10YR-3/1）1cm程のにぶい黄褐色（10YR-5/4）のブロックがわずかに混じる。
③褐灰色粘質土（10YR-4/1）1cm程のにぶい黄褐色（10YR-5/4）のブロックが多量に混じる。
④黒色粘質土　（10YR-2/1）褐色（10YR-4/4）の厚さ1cm程の層状のブロックが混じる。硬質な土。層状に堆積（ビットの埋土）
⑤黒褐色粘質土（10YR-2/3）1～3cmほどの褐色（10YR-4/4）のブロックが混じる（ビットの埋土）

【土壌注記】SE15－a
①暗褐色粘質土（10YR-3/3）0.1cmの黄褐色粒が混じる、やや硬質。
②黒褐色粘質土（10YR-3/2）0.2～0.5cm褐色ブロックが混じる。
③黒色粘質土　（10YR2/1）0.2～0.5cmの褐色ブロックが混じる、硬質。
④黒色粘質土　（2.5YR-2/1）やや硬質。
⑤黒色粘質土（2.5YR-2/1）0.1～0.3cmの褐色ブロックが混じる。非常に硬質。
⑥黒色粘質土　（10YR-2/1）0.2cmの褐色ブロックが混じる。
⑦灰黄褐色粘質土（10YR-3/2）0.2cmの褐色ブロックが混じる。
⑧黒褐色粘質土（10YR-3/2）0.2cmの褐色ブロックが混じる、硬質、腐植が混じる。
⑨黒褐色粘質土（10YR-3/2）0.2cm褐色ブロックが混じる、腐植が混じる（20%）、やや硬質。
⑩黒褐色粘質土（10YR-2/3）0.2cmの褐色ブロックが混じる、腐植が混じる（30%）、やや硬質。
⑪黒褐色粘質土（10YR-3/2）0.2～0.5cmの褐色ブロックが混じる、腐植が混じる（30%）、やや硬質。
⑫にぶい黄褐色粘質土（10YR-4/3）0.2cmの褐色ブロックが混じる、腐植が混じる（10%）、やや硬質。

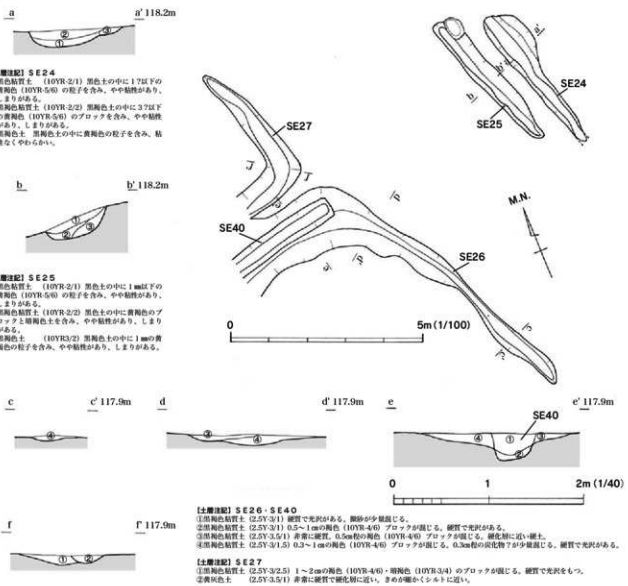
【土壌注記】SE15－b
①黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.1～0.5cmの褐色ブロックが混じる、やや軟質。
②黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）1cm程の褐色ブロックが混じる、やや軟質。
③黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.1～0.5cmの褐色ブロックが混じる、やや軟質。

【土壌注記】SE15－c
①黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.1～0.5cmの褐色ブロックが混じる、硬質。
②黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）0.1cmの褐色粒が混じる。
③黒褐色粘質土（2.5Y-3/1～2/1）0.1～0.5cmの褐色ブロックが混じる。ブロックは卵の下部に集中している、硬質。
④黒色粘質土　（2.5YR-2/1）0.1～1cmの褐色ブロックが混じる、硬質。
⑤黒色粘質土　（2.5YR-2/1）0.1～0.5cmの褐色ブロックが混じる、硬質。
⑥黒色粘質土　（10YR-2/1）1～3cmの褐色ブロックが混じる、硬質。
⑦黒色粘質土　（10YR-2/1）黒褐色粘質土が混じる、0.5cm前後の褐色ブロックが混じる、硬質。
⑧黒色粘質土（2.5Y-3/1）1cmの褐色ブロックが混じる、硬質。
⑨黒色粘質土（2.5Y-2/1～3/1）0.5～1cmの褐色ブロックが混じる、やや軟質、やや腐植が多い。
⑩黒色粘質土　（2.5Y-2/1～3/1）0.5～1.5cmの褐色ブロックが混じる、硬質。
⑪黒色粘質土（2.5Y-2/1）0.2～0.5cmの褐色ブロックや1cmほどの黒褐色・暗褐色ブロックが混じる。ブロックの境界、やや軟質。
⑫黒色粘質土　（2.5Y-2/1）1～2cmの褐色ブロックが混じる、やや水平方向に扁平、やや軟質。
⑬黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.1～0.5cmの褐色ブロックが混じる、やや軟質。
⑭黒褐色粘質土（2.5Y-3/1～2/1）0.1～0.5cmの褐色ブロックが混じる、やや硬質。
⑮黒色粘質土　（2.5Y-2/1）0.2cmの褐色ブロックが混じる、やや軟質。
⑯黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）1～2cmの褐色ブロックが混じる、ブロックは水平方向に扁平、非常に硬質。
⑰黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.1～0.5cmの褐色ブロックが混じる、やや硬質。

第20図　SE14・15・41実測図（平面1/200、断面1/40）



第21図　SE17･18･19･20･21･22･23実測図（平面1/120、断面1/40）



第22図　SE24・25・26・27・40実測図（平面1/100、断面1/40）

ＳＥ34・37（第８・23・24図）

ＳＥ34・37はＳＥ33に並行するように走っており、北東端はＳＥ31を切っているがその先は削平されて残存していない。南西端はＳＥ30に切られているほか、ＳＣ32・33（芋穴）にも切られている。またＳＥ34はＳＥ37に切られている。

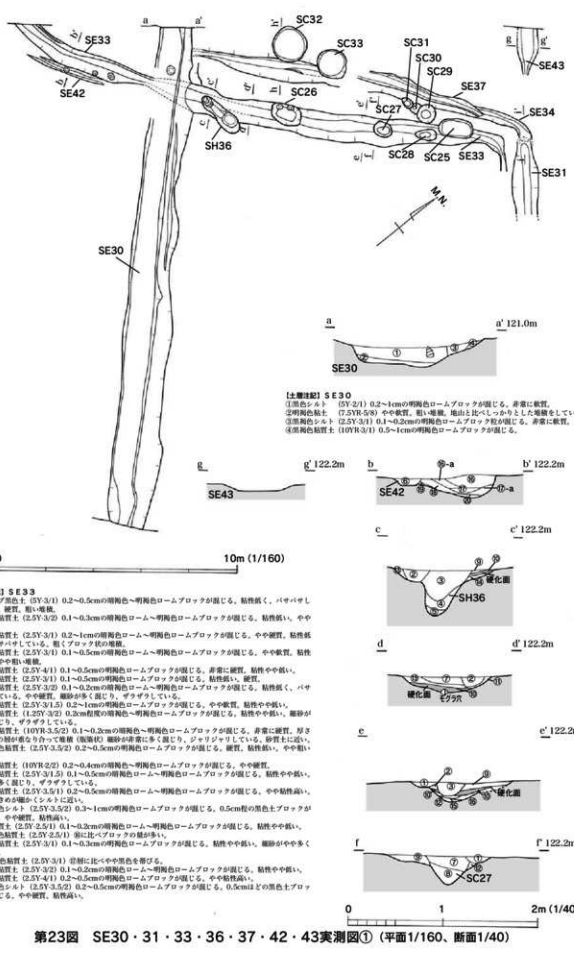
ＳＥ37の断面形は箱形を呈している。ＳＥ34は長さ約10m、最大幅0.9m、深さは0.1mを測り、一方のＳＥ37は長さ6.3m、最大幅0.4m、深さは0.1mである。

ＳＥ37から近世後半の陶磁器類が出土した。近世の遺構と推定される。

ＳＥ40（第７・22図）

ＳＥ40はＳＥ26と同様にＣ区南西壁にかかるように検出されたが、ＳＥ26を切っている。北東方向に走るが、壁から長さ5.5mで収束している。最大幅1.3m、深さは0.1mを測る。

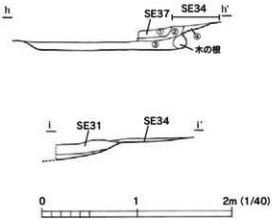
Ａ区のＳＥ20に続く可能性もある。



【土層注記】ＳＥ３０
①黒色シルト　(5Y-2/1) 0.2～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。非常に軟質。
②明褐色粘土　(7.5YR-5/8) やや軟質。粘い粘質。地山と比べしっかりとした堆積をしていない。
③黒褐色シルト (2.5Y-3/1) 0.1～0.2cmの明褐色ロームブロック粒が混じる。非常に軟質。
④黒褐色粘質土 (10YR-3/1) 0.5～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。

【土層注記】ＳＥ３３
①オリーブ黒色土 (5Y-3/1) 0.2～0.5cmの明褐色～明褐色ロームブロックが混じる。粘性低く、パサパサしている。硬質。粘い粘質。
②黒褐色粘質土 (2.5Y-3/2) 0.1～0.3cmの明褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。粘性低い、やや硬質。
③黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 0.2～1cmの明褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。粘性低く、パサパサしている。粗くブロック状の堆積。
④黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 0.1～0.5cmの明褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。粘性低い。やや粘い堆積。
⑤黄灰色粘質土 (2.5Y-4/1) 0.1～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。粘性やや低い。
⑥黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 0.1～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。粘性低い。硬質。
⑦黒褐色粘質土 (2.5Y-3/2) 0.1～0.2cmの明褐色～明褐色ロームブロックが混じる。粘性低く、パサパサしている。やや硬質。細砂が多く混じり、ザラザラしている。
⑧黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1.5) 0.2～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。粘性やや低い。
⑨黒褐色粘質土 (1.25Y-3/2) 0.3cm程度の明褐色～明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや低い。細砂が多く混じり、ザラザラしている。
⑩黒褐色粘質土 (10YR-3.5/2) 0.1～0.2cmの明褐色～明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。厚さ0.2cmの植が重なり合って堆積（版築状）細砂が非常に多く混じり、ジャリジャリしている。砂質土に近い。
⑪暗灰黄色粘質土 (2.5Y-3.5/2) 0.2～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。硬質。粘性低い。やや粘い堆積。
⑫黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 0.2～0.4cmの明褐色～明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。
⑬黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1.5) 0.1～0.5cmの明褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや低い。細砂が多く混じり、ザラザラしている。
⑭黄灰色粘質土 (2.5Y-3/1.5) 0.2～0.5cmの明褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性高い。硬質。きめが細かくシルトに近い。
⑮暗灰黄色シルト (2.5Y-3.5/2) 0.3～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。0.5cm程の黒色土ブロックが混じる。やや硬質。粘性高い。
⑯黒色粘質土 (2.5Y-2.5/1) 0.1～0.3cmの明褐色～明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや低い。
⑰～a 黒色粘質土 (2.5Y-2.5/1) 前に比べブロックの量が多い。
⑰黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 0.1～0.3cmの明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや低い。細砂がやや多く混じる。
⑰-a 黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 色相に比べやや黒色を帯びる。
⑱黒褐色粘質土 (2.5Y-3/2) 0.1～0.2cmの明褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや低い。
⑲黄灰色粘質土 (2.5Y-4/1) 0.2～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性高い。
⑳暗灰黄色シルト (2.5Y-3.5/2) 0.2～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。0.5cmほどの黒色土ブロックが混じる。やや硬質。粘性高い。

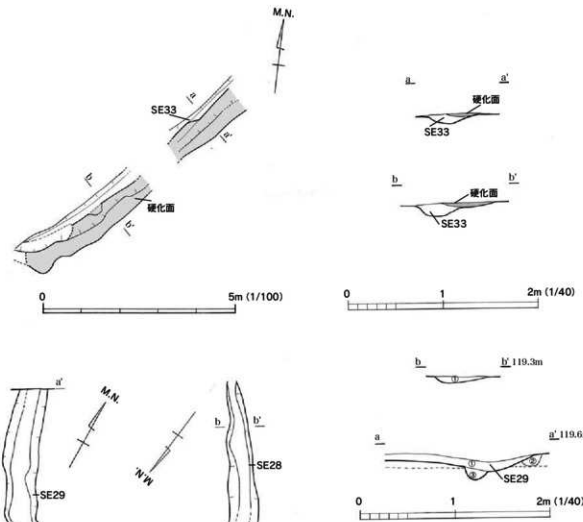
第23図　SE30・31・33・36・37・42・43実測図①（平面1/160、断面1/40）



【土層注記】SE34・37、SC32のせり合い
①黒褐色粘質土（2.5Y-3.5/1）0.2cm程の明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。粘性低い。やや光沢がある灰色を帯びる。
②黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）0.1cmの明褐色ロームが混じる。やや軟質。やや粗く堆積し、ボソボソしている。
③黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.1cm程の明褐色ロームブロックが混じる。きめがやや細かい。やや軟質。
④黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.1～1.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。軟質。

【土層注記】SE31・34のせり合い
①黒褐色粘質土（10YR-3/2.5）0.2～2cmの明褐色ロームブロックが混じる。緻質。
②黒褐色粘質土（10SYR-2/2）0.2～0.3cmの明褐色ローム・アカホヤブロックが混じる。緻質。密な体積。
③暗褐色粘質土（10SYR-3/4）0.2～0.3cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや緻質。やや粘性が高い。

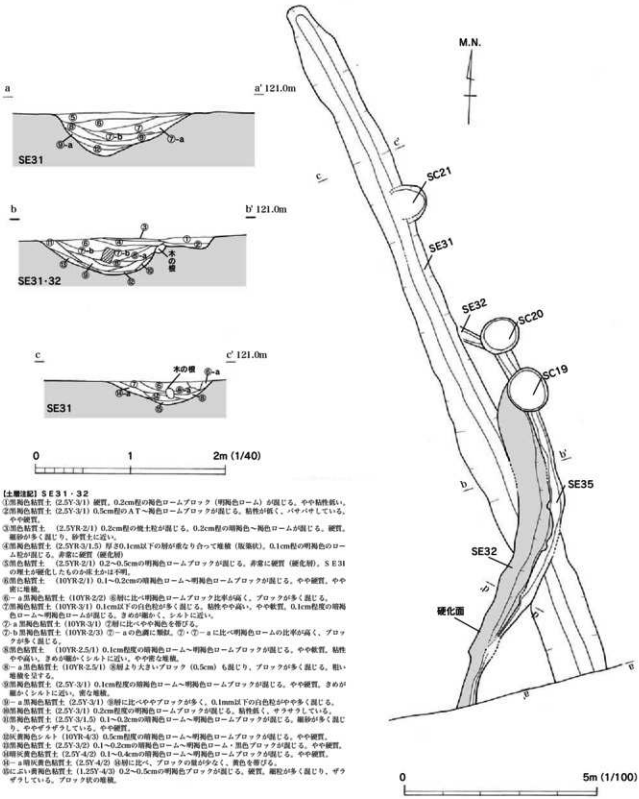
第24図　SE30・31・33・36・37・42・43実測図②（1/40）



【土層注記】SE28
①黒褐色粘質土（2.5Y-2/1）0.2程のアカホヤブロックが混じる。緻質。やや粘性低い。やや灰色を帯びる。

【土層注記】SE29
①黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5）粘性低く、パサパサしている。やや緻質。0.5cm程のアカホヤブロックが混じる。
②黒褐色粘質土（2.5Y-2/1）粘性低く、パサパサしている。やや軟質。0.1～0.5cm程のアカホヤブロックが混じる。
③黒褐色粘質土（10YR-2/1）やや緻質。やや粗い堆積。MB0に似ているが、ややボロボロした感がある。

第25図　SE33硬化面・SE28・29実測図（平面1/100、断面1/40）



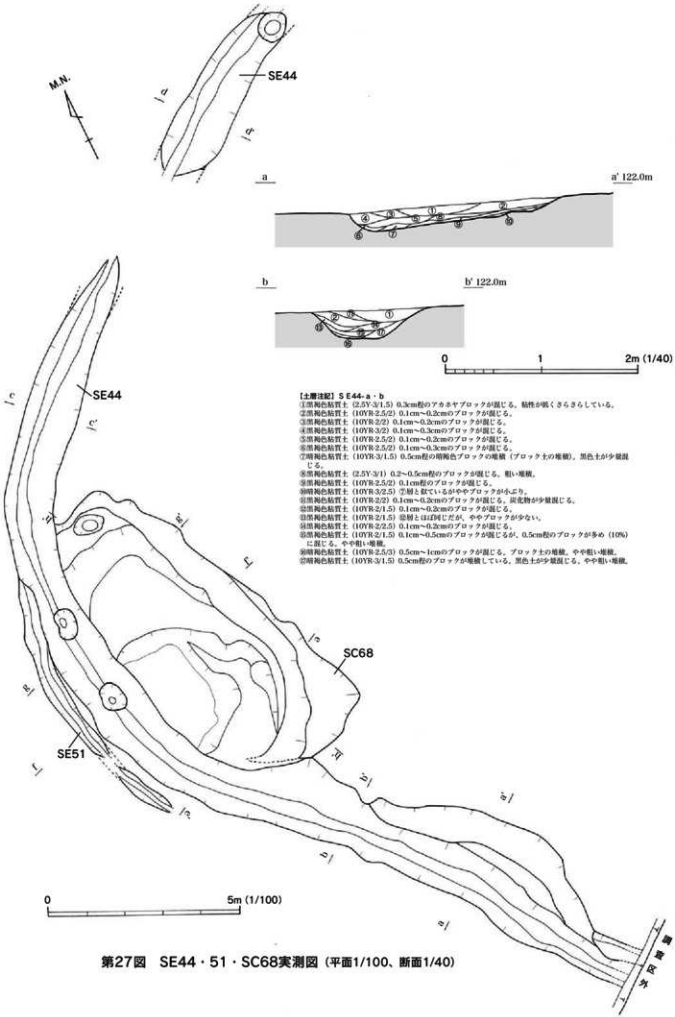
【土層注記】ＳＥ３１・３２

①黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）硬質。0.2cm程の褐色ロームブロック（明褐色ローム）が混じる。やや粘性低い。
②黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.5cm程のＡＴ～褐色ロームブロックが混じる。粘性が低く、パサパサしている。やや硬質。
③黒色粘質土　（2.5YR-2/1）0.2cm程の微土粒が混じる。0.2cm程の暗褐色～褐色ローム が混じる。硬質。細砂が多く混じり、砂質土に近い。
④黒褐色粘質土（2.5YR-3/1.5）厚さ0.1cm以下の層が重なり合って堆積（板築状）。0.1cm程の明褐色のローム粒が混じる。非常に硬質（硬化層）
⑤黒色粘質土　（2.5YR-2/1）0.2～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質（硬化層）。ＳＥ３１の埋土が硬化したものが底土かは不明。
⑥黒色粘質土　（10YR-2/1）0.1～0.2cmの暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。やや密に堆積。
⑥－ａ黒褐色粘質土（10YR-2/2）⑥層に比べ明褐色ロームブロック比率が高く、ブロックが多く混じる。
⑦黒褐色粘質土（10YR-3/1）0.1cm以下の白色粒が多く混じる。粘性やや高い。やや軟質。0.1cm程度の暗褐色ローム～明褐色ロームが混じる。きめが細かく、シルトに近い。
⑦－ａ黒褐色粘質土（10YR-3/1）⑦層に比べやや褐色を帯びる。
⑦－ｂ黒褐色粘質土（10YR-2/3）⑦－ａの色調に類似。⑦・⑦－ａに比べ明褐色ロームの比率が高く、ブロックが多く混じる。
⑧黒色粘質土　（10YR-2.5/1）0.1cm程度の暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。粘性やや高い。きめが細かくシルトに近い。やや密な堆積。
⑧－ａ黒色粘質土（10YR-2.5/1）⑧層より大きいブロック（0.5cm）も混じり、ブロックが多く混じる。粗い堆積を呈する。
⑨黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.1cm程度の暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。きめが細かくシルトに近い。密な堆積。
⑨－ａ黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）⑨層に比べややブロックが多く、0.1mm以下の白色粒がやや多く混じる。
⑩黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.2cm程度の明褐色ロームブロックが混じる。粘性低く、サラサラしている。
⑪黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5）0.1～0.2cmの暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。細砂が多く混じり、ややザラザラしている。やや硬質。
⑫灰黄褐色シルト（10YR-4/3）0.5cm程度の暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。
⑬黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）0.1～0.2cmの暗褐色ローム～明褐色ローム・黒色ブロックが混じる。やや硬質。
⑭暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/2）0.1～0.4cmの暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。
⑭－ａ暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/2）⑭層に比べ、ブロックの量が少なく、黄色を帯びる。
⑮にぶい黄褐色粘質土（1.25Y-4/3）0.2～0.5cmの明褐色ブロックが混じる。硬質。細粒が多く混じり、ザラザラしている。ブロック状の堆積。

【土層注記】ＳＥ３５

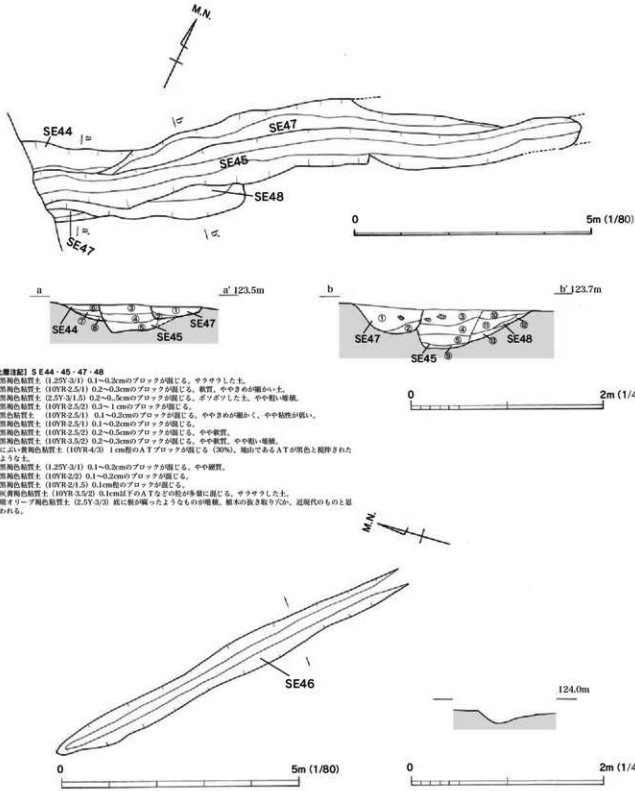
①黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）0.1?程の明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。やや密な堆積。
②黒褐色粘質土（10YR-2/1.5）0.1?程の明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。やや密な堆積。
③黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.5?前後の明褐色ロームブロック粒が混じる。
④黒褐色粘質土（10YR-2/1.5）0.5?前後の暗褐色～明褐色ロームブロックが混じる。
⑤暗褐色粘質土（10YR-3/2.5）0.5?～0.2?の暗褐色～明褐色ロームブロック・黒褐色土が少量混じる。

第26図　SE31・32・35実測図（平面1/100、断面1/40）



【土層注記】SE44-a・b
①黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5）0.3cm程のアカホヤブロックが混じる。粘性が低くさらさらしている。
②黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）0.1cm～0.2cmのブロックが混じる。
③黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.1cm～0.2cmのブロックが混じる。
④黒褐色粘質土（10YR-3/2）0.1cm～0.3cmのブロックが混じる。
⑤黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）0.1cm～0.2cmのブロックが混じる。
⑥黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）0.1cm～0.3cmのブロックが混じる。
⑦暗褐色粘質土（10YR-3/1.5）0.5cm程の暗褐色ブロックの堆積（ブロック土の堆積）。黒色土が少量混じる。
⑧黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.2～0.5cm程のブロックが混じる。粗い堆積。
⑨黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）0.1cm程のブロックが混じる。
⑩暗褐色粘質土（10YR-3/2.5）②層と似ているがややブロックが小ぶり。
⑪黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.1cm～0.2cmのブロックが混じる。炭化物が少量混じる。
⑫黒褐色粘質土（10YR-2/1.5）0.1cm～0.2cmのブロックが混じる。
⑬黒褐色粘質土（10YR-2/1.5）⑫層とほぼ同じだが、ややブロックが少ない。
⑭黒褐色粘質土（10YR-2/2.5）0.1cm～0.2cmのブロックが混じる。
⑮黒褐色粘質土（10YR-2/1.5）0.1cm～0.5cmのブロックが混じるが、0.5cm程のブロックが多め（10%）に混じる。やや粗い堆積。
⑯暗褐色粘質土（10YR-2.5/3）0.5cm～1cmのブロックが混じる。ブロック土の堆積。やや粗い堆積。
⑰暗褐色粘質土（10YR-3/1.5）0.5cm程のブロックが堆積している。黒色土が少量混じる。やや粗い堆積。

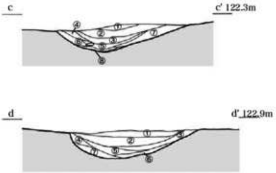
第27図　SE44・51・SC68実測図（平面1/100、断面1/40）



【土層注記】SE44・45・47・48

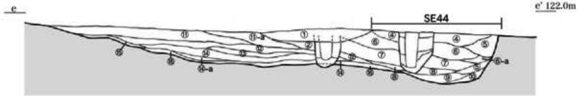
①黒褐色粘質土（1.25Y-3/1）0.1～0.2cmのブロックが混じる。サラサラした土。
②黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）0.2～0.3cmのブロックが混じる。軟質。ややきめが細かい土。
③黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5）0.2～0.5cmのブロックが混じる。ボソボソした土。やや粗い堆積。
④黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）0.2～1 cmのブロックが混じる。
⑤黒色粘質土（10YR-2.5/1）0.1～0.2cmのブロックが混じる。ややきめが細かく、やや粘性が強い。
⑥黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）0.1～0.2cmのブロックが混じる。
⑦黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）0.2～0.5cmのブロックが混じる。やや軟質。
⑧黒褐色粘質土（10YR-3.5/2）0.2～0.3cmのブロックが混じる。やや軟質。やや粗い堆積。
⑨にぶい黄褐色粘質土（10YR-4/3）1 cm程のATブロックが混じる（30%）。地山であるATが黒色土と撹拌されたようなもの。
⑩黒褐色粘質土（1.25Y-3/1）0.1～0.2cmのブロックが混じる。やや硬質。
⑪黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.1～0.2cmのブロックが混じる。
⑫黒褐色粘質土（10YR-2/1.5）0.1cm程のブロックが混じる。
⑬灰黄褐色粘質土（10YR-3.5/2）0.1cm以下のATなどの粒が多量に混じる。サラサラした土。
⑭暗オリーブ褐色粘質土（2.5Y-3/3）底に根が腐ったようなものが堆積。植木の掘き取り穴か。近現代のものと思われる。

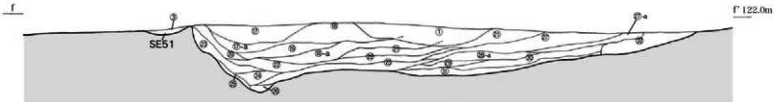
第28図　SE44・45・46・47・48実測図（平面1/80、断面1/40）

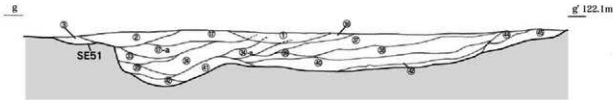


【土層注記】ＳＥ44-c
①黒褐色粘質土（2.5Y-2.5/1）0.2～0.5cmのブロックが混じる。硬質。やや粗い堆積。
②黒色粘質土　（10YR-2.5/1）0.2～0.3cmのブロックが混じる。
③黒色粘質土　（10YR-2/1.5）0.2～0.3cmのブロックが混じる。
④黒色粘質土　（2.5Y-2/1）0.2～0.5cmのブロックが混じる。やや粗い堆積。
⑤黒色粘質土　（10YR-2/1.5）0.2～0.5cmのブロックが混じる。
⑥黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5）0.2～1cmのブロックが混じる。やや粗い堆積。
⑦黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）0.2～1cmのブロックが混じる。やや粗い堆積。
⑧黒褐色粘質土（2.5Y-3/2.5）0.2～0.5cmのブロックが混じる。やや粗く、ブロック土の堆積に近い。

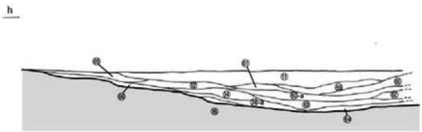
【土層注記】ＳＥ44-d
①黒褐色粘質土　（1.25Y-3/1）0.2～0.5cmのブロックが混じる。粘性が弱く、パサパサしている。
②黒褐色粘質土　（10YR-2/1.5）0.1～0.3cmのブロックが混じる。細砂が多く混じる。
③黒褐色粘質土　（10Y-2.5/2）0.1～0.2cmのブロックが混じる。
④黒褐色粘質土　（10YR-2/2.5）0.1～0.4cmのブロックが混じる。
⑤黒褐色粘質土　（2.5Y-3/2）0.2～0.3cmのブロックが混じる。
⑥灰黄褐色粘質土（10YR-3.5/2）同色の0.5cm程のブロック土の堆積。
⑦灰黄褐色粘質土（10YR-3.5/2）⑥層と堆積状況は同じだが、黒褐色ブロックが少量混じる。

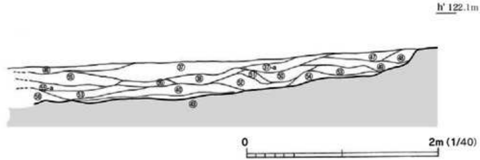






第29図　SE44・SC68土層断面実測図（1/40）





【土層注記】 SC67（一部SE44を含む）

①黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5） 3mm程のブロックが混じる。SE44の埋土が変色したもの。やや硬質。
②黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5） 2mm～3mm程のブロックが混じる。SE44の埋土が変色したものか。
③黒色粘質土 （10YR-2/1.5） 2mm～3mm程のブロックが混じる。きめが細かい。
④黒色シルト （10YR-2/1） 1mm以下のアカホヤ粒が混じる。
⑤黒褐色粘質土（10YR-2.5/1） 2mm～5mm程の暗褐色ロームブロックが混じる。やや粗い堆積。
⑥黒色粘質土 （10YR-2/1） 2mm程のブロックが混じる。
⑥-a黒色粘質土（10YR-2/1） ⑥層よりもやや灰色を帯びる。
⑦黒褐色粘質土（10YR-2/2） 2mm～8mm程のブロックが混じる。やや粗い堆積。
⑧黒色粘質土 （10YR-2.5/1） 2mm程のブロックが混じる。
⑨黒色粘質土 （10YR-2/1.5） 2mm～3mm程のブロックが混じる。
⑩黒褐色粘質土（10YR-2/2） 2mm～8mm程のアカホヤブロックが混じる。やや砂質土に近い。
⑪黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） 2mm程のブロックが混じる。炭化物や2mm程の焼土などが多く混じる。ややサラサラした土。
⑪-b黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） ⑪層よりもブロック量が少ない。
⑫黒褐色粘質土（2.5Y-2/1.5） 1mm～2mm程のアカホヤブロックが混じる。
⑬黒色粘質土 （10YR-2/1） 1mm～2mm程のアカホヤブロックが混じる。
⑭黒色粘質土 （10YR-2/1） 1mm程のアカホヤ粒が混じる
⑮黒褐色粘質土（10YR-3/1） 地山（ブラックバンド）が攪拌されたような土
⑯黒褐色粘質土（10YR-3/1） 5mm～10mm程の暗褐色ロームブロックが混じる。
⑰黒色粘質土 （10YR-2/1.5） 2mm～5mm程のアカホヤブロックが混じる。
⑰-a黒色粘質土（10YR-2/1.5） 2mm程のアカホヤブロックが混じる。
⑱黒色粘質土 （10YR-2/2） 2mm～5mm程のアカホヤブロックが混じる。
⑲黒色粘質土 （10YR-3/2） 1mm～3mm程のアカホヤブロックが混じる。
⑲-a黒色粘質土（10YR-3/2） ⑲層ほど程のアカホヤブロックが多くない。
⑳黒色粘質土 （10YR-2/1.5） 1mm程のアカホヤ粒が混じる。
㉑黒褐色粘質土（10YR-2/1.5） 1mm～5mm程のブロックが混じる。
㉒黒褐色粘質土（10YR-2.5/2） 5mm程のブロックが混じる。
㉓黒褐色粘質土（10YR-2/1.5） 1mm～3mm程のブロックが混じる。
㉔黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） 2mm～5mm程のブロックが混じる。
㉕黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5） 2mm～3mm程のブロックや3cm程の大きなブロックが少量混じる。
㉖暗灰黄色粘質土（2.5Y-3/1.5） 1mm～2mm程のブロックが混じる。やや粗く、ブロック土の堆積。
㉗黒褐色粘質土（10YR-3/1） 1mm～2mm程のブロックが混じる。炭化物や土器片が多く混じる。
㉗-a黒褐色粘質土（10YR-3/1） ㉗層よりもブロックの量が多い。炭化物や土器片が多く混じる。
㉘黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） 1mm～5mm程のブロックが混じる。
㉘-a黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） ㉘よりも黒色を帯びる。
㉙黒褐色粘質土（10YR-3/1） 1mm～5mm程のブロックが混じる。
㉚黒色粘質土 （2.5Y-2/1） 1mm～2mm程のブロックが混じる。やや硬質。
㉛黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5） 1cm～5cmのブロックが混じる。やや硬質。
㉜黒褐色粘質土（10YR-3/1） 1cm～5cmのブロックが混じる。硬質。
㉝黒色粘質土 （1.25Y-2/1） 1mm～3mmのブロックが混じる。
㉞黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5） 1cm～5cmのブロックが混じる。やや粗く堆積。
㉞-a黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5） ㉞層に比べ5mm程のブロックが多い。
㉟黒褐色粘質土（2.5Y-2.5/1） 1cm～2cmのブロックが混じり、3cm～5cmのブロックが少量（1%以下）混じる。
㊱黒褐色粘質土（10YR-3/1） 1mm～5mmのブロックが混じる。
㊲黒褐色粘質土（10YR-2/1.5） 2mm～2cmのブロックが混じる。炭化物や土器片が多く混じる。
㊲-a黒褐色粘質土（10YR-2/1.5） ブロックの量が37に比べて少ない。
㊳黒褐色粘質土（10YR-2/2） 2mm～3mmのブロックが混じる。
㊴黒褐色粘質土（2.5Y-3/2） 2mm～5mmのブロックが混じる。
㊵黒褐色粘質土（2.5Y-3/2.5） 2mm～15mmのブロックが混じる。やや粗くブロック土の堆積に近い。
㊶黒褐色粘質土（2.5Y-3.5/2） 1mm～5mmのブロックが混じる。やや粗く堆積。
㊷灰黄褐色粘質土（2.5Y-4/2） 5mm～10mmのブロックが混じる。やや粗く、ブロック土の堆積。
㊸黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） 5mm～15mmのブロックが混じる。ブロック土の堆積に近い。
㊹黒褐色粘質土（10YR-2/2） 10mm程のブロック（暗褐色ローム）が混じる。粗い堆積。
㊺黒褐色粘質土（10YR-2/2） 15mm程の地山ブロックが固められたような土。黒色土が混じる。
㊻黒褐色粘質土（10YR-2/2） 1mm～2mmのブロックが混じる。
㊼黒褐色粘質土（10YR-2.5/1） 1mm程ののブロックが混じる。
㊽黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5） 1mm～3mmのブロックが混じる。
㊾黒色粘質土 （2.5Y-2/1） 2mm～5mmのブロックが混じる。
㊿黒褐色粘質土（10YR-2/2.5） 5mm～30mmのブロックが混じる。
(51)黒色粘質土 （10YR-2/1） 5mm程のブロックが混じる。
(52)黒褐色粘質土（10YR-2/1.5） 5mm～20mmのブロックが混じる。
(53)黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） 1mm～3mmのブロックが混じる。
(54)黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） 2mm～3mmのブロックが混じる。
(55)黒褐色粘質土（10YR-2/2） 1mm～2mmのブロックが混じる。
(55)-a黒褐色粘質土（10YR-2/2） (55)層よりも黄色を帯びる。
(56)黒褐色粘質土（2.5Y-2.5/1） 2mm～3mmのブロックが混じる。ブロック土の堆積。
(57)黒褐色粘質土（2.5Y-3/2） 1mm～3mmのブロックが混じる。
(58)黒色粘質土 （2.5Y-2/1） 1mm～5mmのブロックが混じる。やや密な堆積。
(59)黒褐色粘質土（10YR-3/1） 1mm～2mmのブロックが混じる。
(60)黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） 1mm～3mmのブロックが混じる。
(60)-a黒褐色粘質土（2.5Y-3/1） ブロックの量がやや多く、10mm程のブロックも少量（1%）混じる。
(61)黒褐色粘質土（10YR-3/2） 2mm程ののブロックが混じる。
(62)黒褐色粘質土（10YR-3/1） 3mm～10mmのブロックが混じる。
(63)黒褐色粘質土（2.5Y-2.5/1） 1mm～3mmのブロックが混じる。
(64)黒褐色粘質土（2.5Y-3/2） 5mm～10mmのブロックが混じる。
(65)黒褐色粘質土（10YR-2/1.5） 1mm～3mmのブロックが混じる。
(66)黒褐色粘質土（10YR-2/1.5） 1mm～5mmのブロックが混じる。

第30図　SC68土層断面実測図（1/40）

ＳＥ41（第６・20図）

ＳＥ41はＡ区の南東隅に広がる掘立柱建物跡、ピット群の中央部に位置している。長さは約11ｍで北東から南西に走っているが、両端とも削平されて残存しない。最大幅は0.6m、深さは0.1mの小さな溝である。ただしＳＢ７の南辺に平行していることから、何らかの関係があるとも考えられる。

時期は不明である。

ＳＥ42（第８・23図）

Ｄ区西縁のＳＥ33が調査区北西壁にかかる付近に並行して走る溝状遺構で、ＳＥ33をわずかに切っている。断面はU字形を呈し、両端は削平されて残存していない。長さが3.5m、最大幅0.3m、深さ0.1mである。

出土遺物はない。時期は不明である。

ＳＥ43（第８・23図）

Ｄ区の北西壁から南東に向かって検出された。断面は浅い皿形を呈し、長さは1.6m、最大幅0.6m、深さ0.3mを測る。位置関係から見てＳＥ31と同一遺構の可能性もあったが、埋土の状況が異なっておりつながらないと思われる。

出土遺物はない。時期は不明である。

ＳＥ44（第８・27・28・29図）

Ｄ区南西壁から北西に向けて走り、壁から約12mのところから緩やかに北東方向に曲がり、途中２箇所の削平を受けて途切れてはいるが北東方向に延びている。Ｄ区北東端付近では大きく削平を受けるとともにＳＥ45に切られて消滅するが、一部削平されている部分も含めると検出全長は約48mにおよぶ。北東部分で削平を受けていなければ、さらに延びて区画溝的な様相を呈していたのではないかと推定できるため、「区画溝Ⅳ」としておく。

南東方向へは、町道を挟んでＥ区のＳＥ50に続く可能性もあり、さらに区画的な意味合いがある溝の可能性が高まる。

また北西から北東方向に曲がる付近にＳＥ44に付随したのではないかと考えられる土坑（ＳＣ68）がある。

ＳＥ44からは、旧石器時代の剥片（第10図５）、縄文時代の石錘（第10図15）、弥生時代から古墳時代の土器（第12図59・60）、中世の中国産青磁（第72図124）、国産陶器（第72図125・126）、土器（第72図127～129）のほか、銭貨「皇宋通寶」（第76図199）、砥石（第79図238・240）、茶臼（第81図255）、火打石（第82図263・268・275・278・280）など多数の遺物が出土している。

出土遺物の内容や出土状況から中世の遺構と推定される。

ＳＥ45（第８・28図）

ＳＥ45はＳＥ44・48を切りＳＥ47に切られる。長さは12.5m、深さは0.4m、幅は切り合いにより不明である。断面はU字形を呈する。

弥生土器(第12図61)、磨石（第78図233）、砥石(第79図245）が出土しているが、時期は不明である。

ＳＥ46（第８・28図）

Ｄ区東半の北東寄りに位置している。北西から南東に向けて走っており、断面は皿形を呈する。両端は削平されて残存しない。長さは8.2m、最大幅0.8m、深さ0.1mである。

近世後半の陶磁器が出土しており、近世の遺構ではないかと推定される。

ＳＥ47(第８・28図)

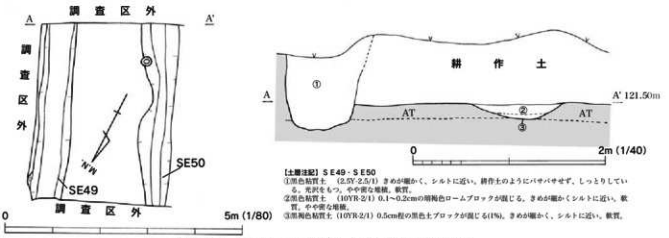
Ｄ区北東部に位置し、長さ9.8m、深さ0.4m、幅は切り合い関係により不明である。断面はU字形を呈する。

中世の土器(第72図130)が出土しているが、時期は不明である。

ＳＥ48(第８・28図)

Ｄ区北東部に位置し、長さは４.２m、深さは0.3m幅および断面形は不明瞭である。

時期は不明である。



第31図　SE49・50実測図（平面1/80、断面1/40）

ＳＥ49（第９・31図）

Ｅ区の北東隅にわずかにかかる。北西から南東に向けて走っており、位置的に見てＤ区のＳＥ44に続く可能性がある。断面はＵ字形を呈する。長さ3.6m、最大幅0.7m、深さ0.3mを測る。

遺物は中世の中国産青磁と近世後半の磁器片が出土しているが、ＳＥ44との関連から中世の溝という可能性もある。

ＳＥ50（第９・31図）

Ｅ区の北東隅に位置し、ＳＥ49と並行するように北西から南東に走る。位置的に見てＤ区のＳＥ44に続く可能性がＳＥ49よりも高い。断面はＵ字形を呈する。長さ3.8m、最大幅0.8m、深さ0.2mを測る。

出土遺物はないが、ＳＥ44との関係を考慮すると中世の溝状遺構の可能性が高い。

ＳＥ51（第８・27図）

ＳＥ51はＳＥ44が北西から北東方向へと緩やかに曲がる所に沿うように検出された。南東側は削平されて残存しない。北東方向はＳＥ44と重なっているが、切り合い関係は明らかではない。長さは7.3m、最大幅は0.5m、深さは0.1mを測る。

出土遺物はない。ＳＥ44との関連性を考慮すると中世の溝状遺構の可能性がある。

なおＳＥ36・38・39は欠番である。

②掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は22棟検出した。平面図については、実際に切り合う遺構や土坑については表現せずに、掘立柱建物跡を構成する柱穴のみ図化している。

各建物は主軸方位が西に23°～50°振れる一群と、東に32°～60°振れる一群とに大別される。つまりほとんどの建物の主軸が、北から東ないし西へ45°近く斜行していることになるが、本文中の記述では便宜的に「北東」を基準として「東西棟」・「南北棟」の区別を行っている。

柱穴からは土師器や陶磁器の小片・銭貨・毛抜きなど、中世から近世にかけての遺物が出土しており、建物の帰属時期は中世以降と考えられる。溝状遺構との関連で見ると、区画溝によって囲まれた中に位置するものが多い。

遺構の計測値などについては別表（第５表）にまとめている。なお本文中の計測値には平均値で示したものがある。

ＳＢ１（第６・32図）

Ａ区北部で検出した建物跡で、区画溝Ⅱ（ＳＥ３）内の北東側に位置している。梁間１間（3.0m）、桁行３間（6.1m）の東西棟で、梁間柱間は3.0m、桁行柱間は1.5～2.4mである。

柱穴掘方は長径平均39cm、短径平均32cmの楕円形を呈している。９基の柱穴で柱痕跡が確認できたが、その直径は10～12cm、柱痕跡による心々距離は2.1～3.0mであった。

主軸はN-23°-Wで、身舎面積は18.8㎡を測る。区画溝Ⅱとほぼ同一の主軸方位をとるため、中世後期の建物ではないかと思われる。

中世土師器皿(第73図144)がＰ１(ピット・以下同じ）から出土した。

ＳＢ２（第６・33図）

Ａ区北西部にＳＢ２・３・４が重複して検出された。その中でもＳＢ２が最大で、区画溝Ⅱに並行して建つ南北棟である。梁間２間(4.0m)、桁行３間(7.0m）である。梁間柱間は1.8～2.2m、桁行柱間は1.9～3.2mである。

柱穴掘方は長径平均46cm、短径平均38cmの楕円形を呈しているものが多い。

主軸はN-50°-Eで、身舎面積は28.4㎡を測り区画溝Ⅱの中では最大のものである。

ピットから中国産青磁片が出土している。中世後期の建物と推定される。

ＳＢ３（第６・34図）

Ａ区北西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅱ内の西側に位置している。梁間２間（3.0m）、桁行２間(4.3m）の東西棟である。梁間柱間は2.0～3.2m、桁行柱間は2.1～2.2mである。柱穴掘方は長径平均27cm、短径平均23cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-34°-Wで、身舎の面積は12.9㎡を測る。ＳＢ２・４と重複している。

時期は不明である。

ＳＢ４（第６・35図）

Ａ区北西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅱ内の西側に位置している。梁間１間（3.3m）、桁行２間(3.5m）を検出したが、さらに北西へ延びる可能性がある。梁行柱間は3.3m、桁行柱間は1.7～1.8mである。柱穴掘方は長径28cm、短径平均24cmでほぼ円形を呈している。

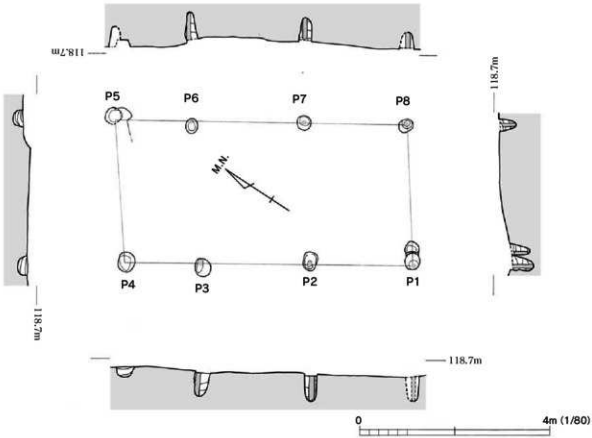
主軸はN-36°-Wで、身舎の面積は検出部分で17.2㎡を測る。ＳＢ２・３と重複する。

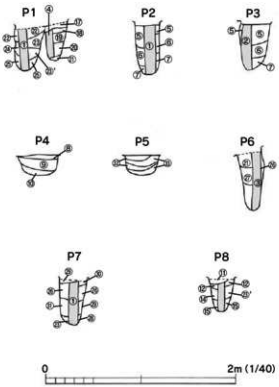
出土した土師器片をみると、ＳＢ４が新しいのではないかと思われる。

ＳＢ５（第６・36図）

Ａ区南部で検出した建物跡で、区画溝Ⅰ（ＳＥ１）内の南西寄りに位置している。梁間１間（1.5m）、桁行３間（6.3m）の南北棟である。梁間柱間は1.4～1.5m、桁行柱間は2.0～2.2mである。柱穴掘方は長径平均33cm、短径平均28cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-57°-Eで、身舎面積は9.1㎡を測る。時期は不明である。

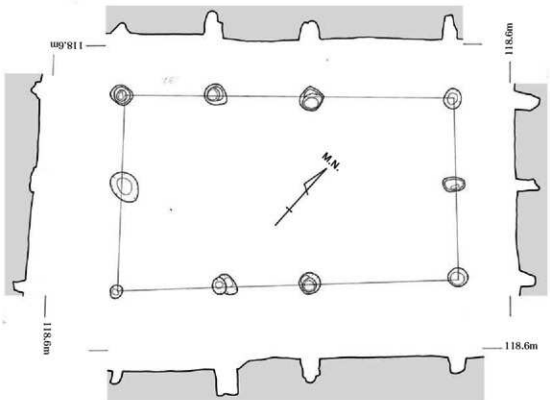




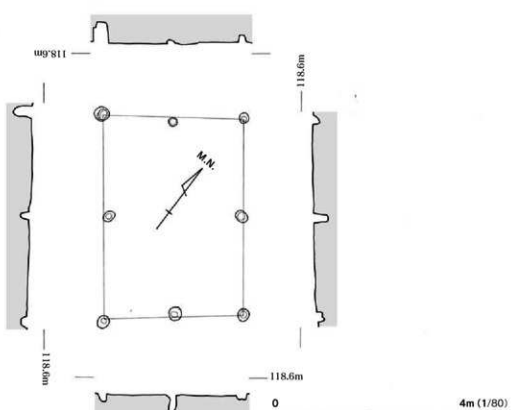
【土層注記】SB1

①黒色粘質土　(10YR-2/1) 0.2cm前後の明褐色ブロックや1cm前後の褐色ブロックが混じる。非常に軟質。ブロックは柱穴によって量の多少あり。
②黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1～2/1) 0.5cm前後の褐色・褐灰色ブロックが混じる。やや軟質。
③黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1～2/1)0.5cm前後の褐色・褐灰色ブロックが混じる。やや軟質。
④黒色粘質土　(10YR-2/1～3/1) 1cm前後の褐色ブロックが混じる。軟質。やや粗い堆積。
⑤黒色粘質土　(10YR-2/1) 1cm～5cmの褐色・明褐色ブロックが混じる（50%以上）。
⑥黒褐色粘質土 (10YR-3/1) 1cm前後の褐色ブロックが混じる。やや硬質。
⑦黒色粘質土　(10YR-2/2) 0.5cm前後の褐色ブロックが混じる。やや硬質。
⑧黒褐色粘質土 (10YR-3/2～3/1) 0.5cm前後の褐色・黄褐色・褐灰色ブロックが混じる。やや硬質。
⑨黒褐色粘質土 (10YR-3/1) 0.5cm～1cmの褐色・黄褐色ブロックが混じる。やや硬質。
⑩黒褐色粘質土 (10YR-3/1) 1cm前後の褐色ブロックが混じる（50%以上）。やや硬質。ブロック状に堆積。
⑪黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 0.2cm前後の褐色・褐灰色ブロックが混じる。硬質。
⑫黒褐色粘質土 (10YR-3/2) 0.2cm～0.5cmの褐色ブロックが混じる。硬質。
⑬黒褐色粘質土 (10YR-3/2) 位置とは1区同じ。ブロックがややあい。
⑭黒褐色粘質土 (10YR-3/2～3/1) 1cm前後の褐色ブロックが混じる（30%）。0.5cm前後の褐色ブロックが混じる（30%）。0.5cm前後の黄褐色ブロックが混じる。やや硬質。
⑮黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1～2/1) 0.5cm以下の褐色ブロックが混じる。やや硬質。
⑯黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 1～2cmの褐色、褐灰色ブロックが混じる（40%）。やや硬質。
⑰黒褐色粘質土 (10YR-3/2～2/2) 1cm前後の褐灰色ブロックが混じる。やや常に堆積。やや軟質。
⑱黒褐色粘質土 (10YR-3/2～2/2) 密に堆積。やや硬質。
⑲黒褐色粘質土 (10YR-3/1) 1cm前後の褐色ブロックが混じる。
⑳黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 0.1cm前後の褐灰色・黄褐色粒が混じる。
㉑黒褐色粘質土 (10YR-2/2～2/1) 0.1cm前後の黄褐色粒が混じる。1cm前後の褐色ブロックが混じる。軟質。やや粗い堆積。
㉒黒褐色粘質土 (10YR-3/1～3/2) 0.5cm前後の褐灰色・黄褐色ブロックが混じる。やや硬質。
㉓ブロックが23よりも少ない（10%）。
㉔黒褐色粘質土 (10YR-3/1～3/2) 2cm～3cmの褐色ブロックが混じる（40%）。やや硬質。
㉕黒色粘質土　(10YR-2/1) 0.5cm～1cmの褐色・黄褐色のブロックが混じる。やや硬質。やや密に堆積。
㉖黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1～2/1) 0.5cm～1cmの褐色・黄褐色のブロックが混じる。やや硬質。
㉗黒褐色粘質土 (10YR-3/1) 0.5cm～2cmの褐色・黄褐色のブロックが混じる。やや軟質。やや粗い堆積。
㉘黒色粘質土　(10YR-2/1～3/1) 0.5cm程の褐色がブロックが混じる。やや硬質。
㉙黒褐色粘質土 (10YR-3/1～2/1) 0.2～0.4cm程の褐色、褐灰色ブロック混じる。やや軟質。やや粗い堆積。
㉚黒褐色粘質土 (10YR-3/1～2/1) 1cm程の褐色、褐灰色ブロックが混じる（30%）。軟質。
㉛黒色粘質土　(10YR-2/1～3/1) 0.5cm程の褐色・褐灰色ブロックが混じる。やや硬質。
㉜黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1～4/1) 1cm程の褐色褐灰色ブロックが混じる（50%以上）。やや硬質。
㉝黒色粘質土　(10YR-2/1) 0.5～1cmの褐色ブロックが混じる。やや硬質。やや密に堆積。

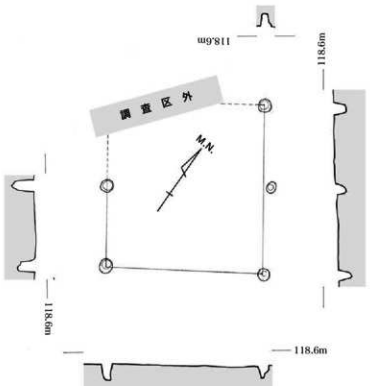
第32図　SB1実測図（1/80）及び柱穴土層断面図（1/40）



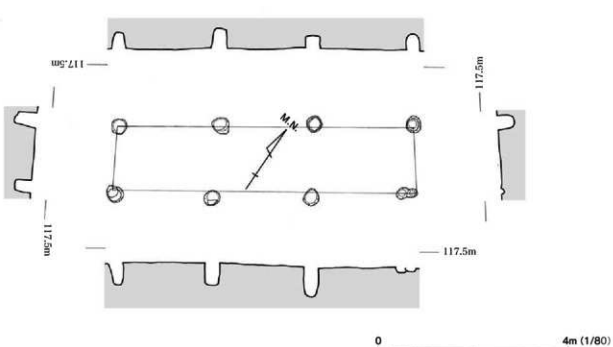
第33図　SB2実測図（平面・断面1/80）



第34図　SB3実測図（平面・断面1/80）



第35図　SB4実測図（平面・断面1/80）



第36図　SB5実測図（平面・断面1/80）

ＳＢ６（第６・37図）

Ａ区南部で検出した建物跡で、区画溝Ｉ内の南西側に位置している。梁間２間（4.0m）、桁行３間（6.0m）の南北棟である。梁間柱間は2.0～4.0m、桁行柱間は1.9～2.1mである。柱穴掘方は長径平均34ｃｍ、短径平均30cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-60°-Ｅ、身舎面積は24.0㎡を測る。

現代の側溝やＳＥ14との切り合い関係の中で検出できなかった柱穴があるものと思われる。

時期は不明である。

ＳＢ７（第６・38図）

Ａ区南部で検出した建物跡で、区画溝Ｉ内の南西側に位置している。梁間３間（5.0m）、桁行４間（6.0m）の東西棟である。梁間柱間は0.9～2.0m、桁行柱間は2.0mである。柱穴掘方は長径平均36cm、短径平均30cmのほぼ円形を呈している。柱痕跡が見られ、その直径は15～20cm、柱痕跡による心々距離は1.5～2.1mであった。

主軸はN-28°-Wで、身舎面積は30.0㎡を測る。区画溝Ｉ内の掘立柱建物跡では最大である。

出土遺物から近世の建物と思われる。

ＳＢ８（第７・39図）

Ｃ区南部で検出した建物跡で、調査区の南端に位置している。梁間２間（4.2m）、桁行１間＋α（2.0m＋α）の建物跡であるが、調査区外の道路下に延びていると思われる。梁間柱間2.0～2.2mで、柱穴掘方は長径平均42cm、短径平均39cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-86°-Ｅで、身舎面積は8.4㎡を測る。時期は不明である。

ＳＢ９（第７・40図）

Ｃ区南西部で検出した建物跡である。梁間１間（4.0m）、桁行３間（7.3m）の南北棟である。梁間柱間は3.8～4.2m、桁行柱間は2.0～2.6mである。柱穴掘方は長径平均33cm、短径平均29cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-41°-Ｅで、身舎面積は29.0㎡を測る。近世の道路状遺構（ＳＧ１）の東側に接するように位置している。

土師器の口縁部片がＰ５とＰ７からそれぞれ１点出土している。

ＳＢ10（第７・41図）

Ｃ区中央部で検出した建物跡で、梁間１間（2.5m）、桁行２間（3.2m）の南北棟である。梁行柱間は2.5m、桁行柱間は1.5～1.7mである。柱穴掘方は長径平均31cm、短径平均26cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-52°-Ｅで、身舎面積は7.9㎡と小規模である。

ＳＢ11（第７・42図）

Ｃ区中央部で検出した建物跡で、ＳＧＩ・２の東側に位置している。梁間１間（5.3m）、桁行４間（8.2m）の東西棟である。梁間柱間は5.3m、桁行柱間は2.0～2.1mである。柱穴掘方は長径平均37cm、短径平均32cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-41°Wで、身舎面積は43.2㎡を測り、Ｃ区最大の建物跡である。ＳＢ12と重複しているが新旧関係・時期ともに不明である。

ＳＢ12（第７・43図）

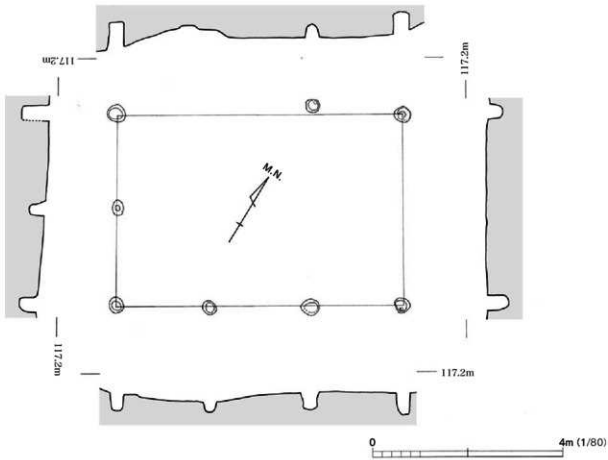
Ｃ区中央部で検出した建物跡で、ＳＢ11と重なりあい、ＳＧ１・２の東側に位置している。梁間１間（3.8m）、桁行２間（3.8m）の南北棟である。梁間柱間は1.9m、桁行柱間は3.8～3.9mである。柱穴掘方は長径平均32cm、短径平均30cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-40°-Wで、身舎面積は14.6㎡を測る。時期は不明である。

ＳＢ13（第７・44図）

Ｃ区北部で検出した建物跡で、土坑（ＳＣ65）を一部切る場所に位置する。検出当初は調査区外に延びる可能性も想定していたが、四次調査の結果延びないことが判明した。

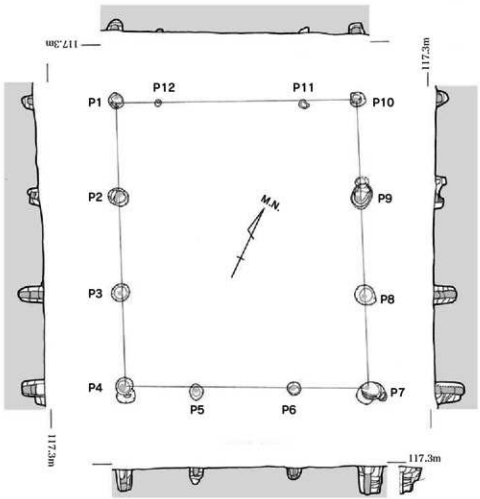
梁間１間（3.1m）、桁行２間（3.8m）の南北棟で、

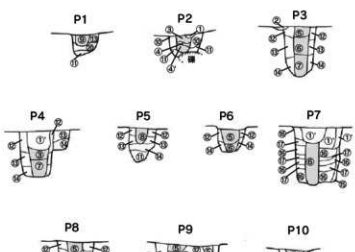


第37図　SB6実測図（平面・断面1/80）

遺構名	区	主軸方位	建物の種別	規　模	桁行実長(m)	桁行柱間(m)	梁間実長(m)	梁間柱間(m)	柱穴径(cm)	柱穴深(cm)	床面積(㎡)
SB1	A区	N23°W	側柱建物	3間×1間	6～6.2	1.5～2.4	3.0～3.1	3.0	28～55	10～48	18.8
SB2	A区	N50°E	側柱建物	3間×2間	7.0～7.2	1.9～3.2	3.9～4.1	1.8～2.2	24～70	22～52	28.4
SB3	A区	N34°W	側柱建物	2間×2間	4.2～4.4	2.1～2.2	3.0	2.0～3.2	20～32	12～40	12.9
SB4	A区	N36°W	側柱建物	2間＋α×1間	1.7～3.5	1.7～1.8	3.3	3.3	24～30	20～45	17.2+α
SB5	A区	N57°E	側柱建物	3間×1間	6.2～6.4	2.0～2.2	1.4～1.5	1.4～1.5	18～38	8～64	9.1
SB6	A区	N60°E	側柱建物	3間×2間	6.0	1.9～2.1	4.0	2.0～4.0	22～40	22～58	24.0
SB7	A区	N28°W	側柱建物	4間×3間	6.0	2.0	4.9～5.1	0.9～2.0	12～54	10～60	30.0
SB8	C区	N86°E	側柱建物	1間＋α×2間	2.0＋α	2.0	4.2	2.0～2.2	34～50	20～33	8.4+α
SB9	C区	N41°E	側柱建物	3間×1間	7.2～7.3	2.0～2.6	3.8～4.2	3.8～4.2	24～40	20～80	29.0
SB10	C区	N52°E	側柱建物	2間×1間	3.1～3.2	1.5～1.7	2.5	2.5	20～34	20～50	7.9
SB11	C区	N41°W	側柱建物	4間×1間	8.1～8.2	2.0～2.1	5.3	5.3	30～48	36～52	43.2
SB12	C区	N40°W	側柱建物	2間×1間	3.8	3.8～3.9	3.8	1.9	24～36	27～48	14.6
SB13	C区	N50°E	側柱建物	2間×1間	3.7～3.8	1.8～1.9	3.1	3.1	23～50	4～51	11.6
SB14	D区	N45°W	側柱建物	4間×2間	7.3	1.1～2.1	5～5.2	2.5～2.6	24～60	42～92	37.2
SB15	D区	N43°E	側柱建物	2間×1間	6.5～6.7	3.5～3.6	3.6	3.6	34～36	50～82	23.8
SB16	D区	N45°W	側柱建物	1間＋α×1間	2.1＋α	1.9～2.1	5.2	5.2	40～60	40～64	10.9+α
SB17	D区	N55°E	側柱建物	3間×1間	6.1	1.9～2.1	4.9	4.9	30～50	33～48	23.8
SB18	D区	N53°E	側柱建物	2間×1間	4.1～4.2	2.0～2.1	2.6～2.7	2.6～2.7	28～40	18～72	11.0
SB19	E区	N45°W	側柱建物	3間×2間	7.2	2.3～2.5	4.0	1.7～2.3	30～50	47～99	28.8
SB20	E区	N32°E	側柱建物	2間×1間	4.0～4.1	1.6～2.4	2.2	2.2	20～34	30～99	9.1
SB21	E区	N50°W	側柱建物	2間×2間	5.9～6.0	2.0～3.9	5.0～5.1	2.0～3.1	32～60	60～99	30.0
SB22	A区	N30°W	側柱建物	3間×1間	3.0	0.9～1.2	1.7～1.9	1.7～1.9	10～14	11～32	5.4

第5表　掘立柱建物跡一覧表

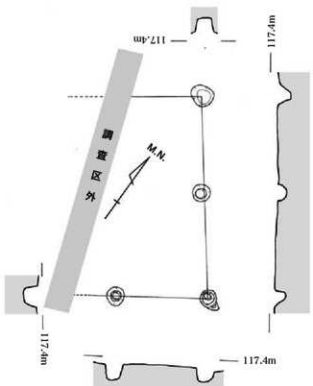




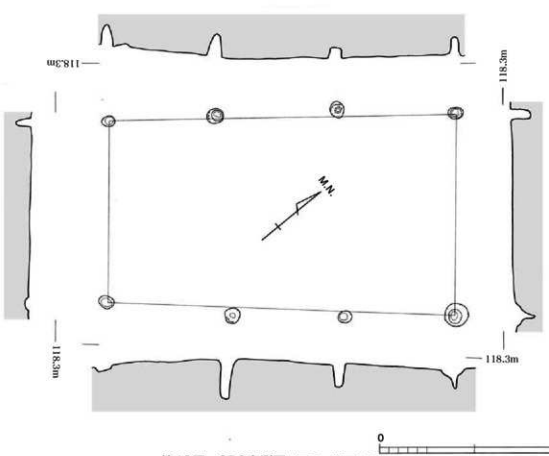
【土層注記】SB7

①黒褐色粘質土（10YR-2/2）やや灰色がかかる。Ah粒（5mm以下）・にぶい黄褐色土の粒を少量含む。しまっているが粘性は低くネジリでかくとシャリシャリしている。
①′黒褐色粘質土（10YR-2/2）①とほぼ同じだが、Ahや地山の粒は含まないがごくわずかである。
②褐色粘質土（10YR-3/2）を呈し、灰色がかる。きめが細かく、やや粘性をもつ。
③黒色粘質土（10YR-2/1）～黒褐色粘質土（10YR-2/2）を呈す。Ah・にぶい黄褐色土粒（2mm～3mm）をわずかに含む。きめ細かくしまっている。粘性は低くサラサラしている。
④黒色粘質土（10YR-2/1）～黒褐色粘質土（10YR-2/2）③層と同様・Ah粒などを3よりも多く含む。やや粘性をもつがしまりはなく柔らかい。若干砂粒を含みややきめが粗い。
④′黒色粘質土（10YR-2/1）～黒褐色粘質土（10YR-2/2）④層よりもさらに柔らかく、また、Ah粒などの含みは少ない。
⑤黒褐色粘質土（10YR-2/2）黒褐色土を呈し、褐色ブロック（1mm～2mm）を少量含む。きめが細かく、やや粘性をもつ。比較的しまっている。
⑥黒色粘質土（10YR-2/1）黒色土に褐色ブロック（3mm～4mm）を含む。ややきめが粗く、粘性がありしまっている。
⑦黒色粘質土（10YR-2/1）～黒褐色粘質土（10YR-2/2）を呈す。やや粘性をもつがしまりがなく、ボロボロしている。ややきめが粗い。
⑧黒褐色粘質土（10YR-2/3）黒褐色にAhや褐色ブロック（1cm～3cm）を多く含む。ややきめが粗く、粘性が低いが比較的硬くしまっている。
⑨黒色粘質土（10YR-2/1）黒色を呈す。ブロックの含みは全くなし。きめが細かく、粘性が高い。上部は比較的しまっているが下部は柔らかい。
⑩黒褐色粘質土（10YR-2/3）黒褐色にAh粒（2cm以下）や褐色粒、黒色土粒（2mm）などを多く含む。ややきめが粗く、粘性は低い。比較的しまっている。
⑪黒褐色粘質土（10YR-2/3）黒褐色に褐褐色粘質土を含み、硬くしまっている。きめ細かく、粘性も高い。突き固められたようになっており、互層なす部分もある。
⑪′黒褐色粘質土（10YR-2/3）黒褐色に褐褐色粘質土を含み、黒味が強く、粘性もさらに強い。
⑫黒褐色粘質土（10YR-2/2）黒褐色土を呈し、褐色の粒（1mm～2mm）を少量含む。きめ細かく、粘性が低くよくしまっている。シャリシャリ感あり
⑬黒色粘質土（10YR-2/1）黒色を呈す。⑫層よりも褐色粒が少なく、また柔らかい。シャリシャリ感なし。
⑭黒色粘質土（10YR-2/1）黒色を呈す。きめが粗く、柔らかい。やや粘性をもつ。
⑮黒褐色粘質土（10YR-2/2～3/2）黒褐色を呈す。黒褐色に地山の土（にぶい黄褐色～褐色）が混ざりはんだような土である。きめはやや粗く、粘性があり柔らかくボロボロしている。
⑯褐色粘質土（10YR-4/4）褐色を呈す。粘質土のブロックを含む。ややきめが粗く、粘性も高い。よくしまっている。
⑰褐色粘質土（10YR-4/4）褐色を呈すが褐色ブロックが少なく、やや柔らかくなる。
⑱黒色粘質土（10YR-2/1）黒色を呈す。きめが細かく、粘性がありよくしまっている。
⑲黒褐色粘質土（10YR-2/3）黒褐色に明黄褐色のブロックを含む。粘性があり、硬い。
⑳黒褐色粘質土（10YR-2/2）黒褐色を呈す。きめが細かく粘性があり、よくしまっており、硬い。Ah粒（5mm以下）や褐色粒を少量含む。
㉑黒褐色粘質土（10YR-2/2）黒褐色にAhブロックを多く含む。きめ細かく、やや粘性をもち、ややしまっている。

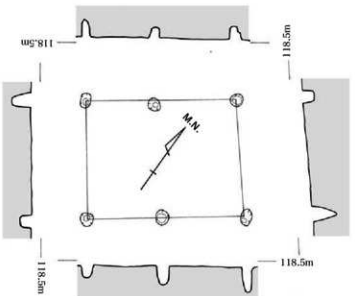
第38図　SB7実測図（1/80）及び 柱穴土層断面図（1/40）



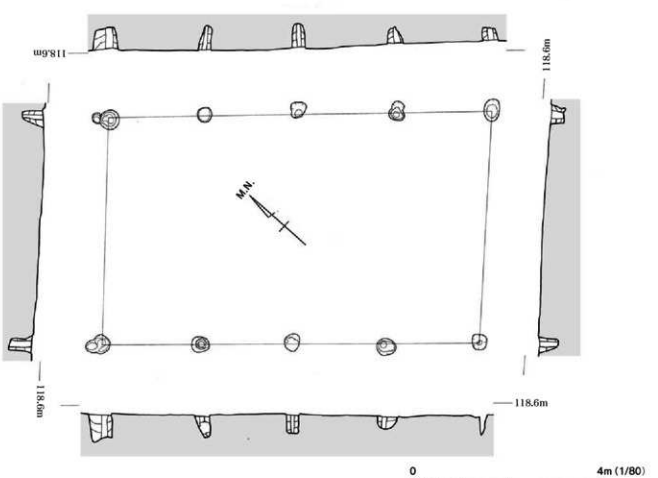
第39図　SB8実測図（平面・断面1/80）



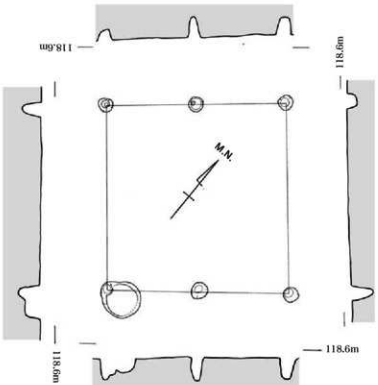
第40図　SB9実測図（平面・断面1/80）



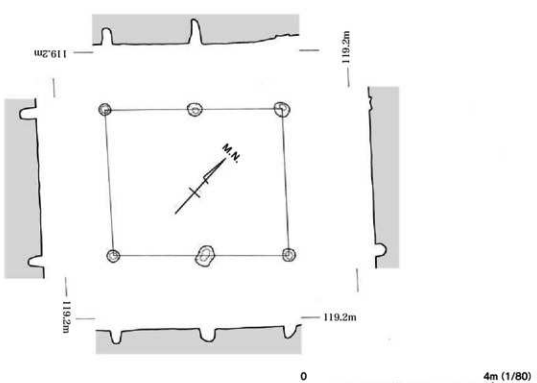
第41図　SB10実測図（平面・断面1/80）



第42図　SB11実測図（平面・断面1/80）



第43図　SB12実測図（平面・断面1/80）



第44図　SB13実測図（平面・断面1/80）

梁間柱間は3.1m、桁行柱間は1.8～1.9mである。柱穴掘方は長径平均32cm、短径平均27cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-50°-Eで、身舎面積は11.6㎡を測る。時期は不明である。

ＳＢ14（第８・45図）

D区南西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅲ（ＳＥ31）内の北東縁に位置し、柱穴の一つがＳＥ32・35を切っている。

梁間２間（5.1m）、桁行４間（7.3m）の東西棟で、梁間柱間は2.5～2.6m、桁行柱間は1.1～2.1mである。柱穴掘方は長径平均43cm、短径平均35cmの楕円形を呈している。柱痕跡がはっきり残っている柱穴が多い。柱痕跡の直径は15～29cmで、その心々距離は2.4～3.5mであった。また柱の根元部分を粘土等で固めた形跡を土層断面から伺うことができる。

主軸はN-45°-Wで、身舎面積は37.2㎡を測り、D区の中では最大である。

Ｐ１からは石臼の破片が２点（第81図258・259）と近世後半の陶器片１点、Ｐ２からは「寛永通寶」１枚（第76図194）とキセルの吸口１点（第76図203）、Ｐ３からは「寛永通寶」２枚(第76図195ほか)・キセルの吸口１点（第76図204）・近世後半の磁器片１点、Ｐ４からは27枚もの「寛永通寶」(第76図196～198、第77図212～218ほか)、Ｐ８から「寛永通寶」１枚と陶器片１点が出土した。この銭貨は地鎮の意味合いが濃いのではないかと思われる。

近世後半の建物跡と判断される。

ＳＢ15（第８・46図）

D区南西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅲ内の北西隅に位置している。梁間１間（3.6m）、桁行２間（6.6m）の南北棟で、梁間柱間は3.6m、桁行柱間は3.5～3.6mである。柱穴掘方は長径平均50cm、短径平均44cmのほぼ円形を呈している。柱痕跡が見られたが、その直径は12～20cm、心々距離は2.1～3.0mであった。ＳＢ14同様柱が腐りやすい部分に粘土を巻いて立てたのではないかと思われる。

主軸はN-43°-Eで、身舎面積は23.8㎡を測る。Ｐ２から鉄片１点、近世後半の陶器片１点、Ｐ５から鉄片２点が出土している。

ＳＢ16（第８・47図）

D区南西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅲ内の東側に位置している。梁間１間（5.2m）、桁行１間（2.1m）を検出したが、さらに南西方向へ延びる可能性が高い。梁間柱間は5.2m、桁行柱間は1.9～2.1mである。柱穴掘方は長径平均50cm、短径平均44cmのほぼ円形を呈し、柱痕跡が見られた。

主軸はN-45°-Wで、身舎面積は10.9㎡を測る。Ｐ２から近世陶器１点(第73図143)、毛抜き１点(第76図205）などが出土した。近世の建物跡と考えられる。

ＳＢ17（第８・48図）

D区中央部で検出した建物跡で、区画溝Ⅳ(ＳＥ44）内の南西側に位置している。梁間１間（4.9m）、桁行３間（6.1m）の南北棟である。梁間柱間は4.9m、桁行柱間は1.9～2.1mである。柱穴掘方は長径平均39cm、短径平均36cmのほぼ円形を呈している。柱痕跡が見られたが、その直径は16～18cmで、心々距離は1.9～4.8mであった。

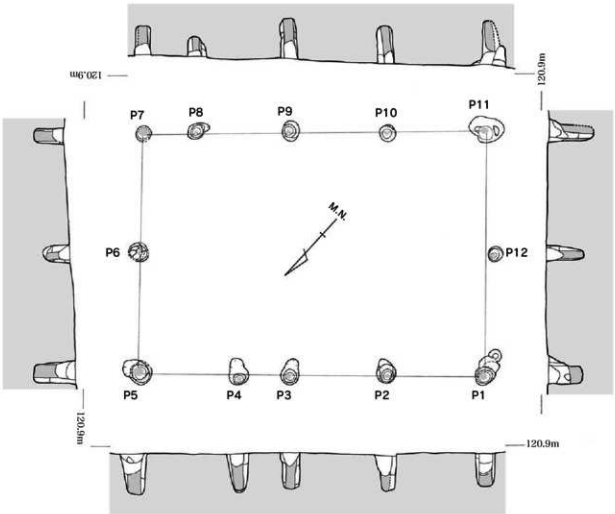
主軸はN-55°-Eで、身舎面積は23.8㎡を測る。ＳＢ18と重複する。

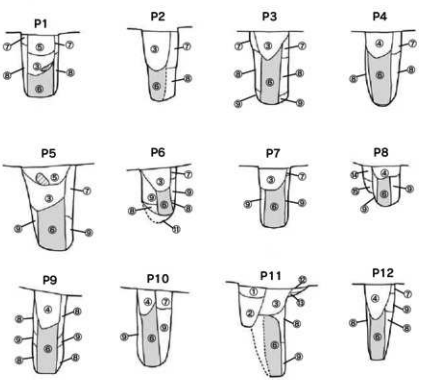
ＳＢ18（第８・49図）

D区中央部で検出した建物跡で、区画溝Ⅳ内の南西側に位置している。梁間１間（2.7m）、桁行２間（4.2m）の南北棟である。梁間柱間は2.6～2.7m、桁行柱間は2.0～2.1mである。柱穴掘方は長径平均36cm、短径平均32cmのほぼ円形を呈している。柱痕跡が見られたが、その直径は11～15cmで、心々距離は2.0～2.8mであった。

主軸はN-53°-Eで、身舎面積は11.0㎡を測る。ＳＢ17と重複する。

Ｐ４からチャート製の火打石(第82図272)、Ｐ３から鉄片１点が出土している。





【土層注記】S B14

①オリーブ黒色粘質土（5Y-2.5/1）0.5～1cmの明褐色ブロックが混じる。粘性が低くボソボソしている。やや硬質。やや粗い堆積。

②黒色粘質土　（5Y-2/1）1cm程の明褐色ロームブロックがわずかに混じる。

③黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.5～2cmの明褐色ロームがわずかに混じる。硬質。粘性がやや低く、ややボソボソしている。やや粗い堆積。

④黒色粘質土　（2.5Y-2/1）0.3～0.5cmの明褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。硬質。粘性がやや低い。

⑤黒灰色粘質土（2.5Y-3.5/1）0.3～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。ブロック状でやや密に堆積。粘性がやや低い。

⑥黒色粘質土　（10YR-2/1）0.2cm程の明褐色ロームがわずかに混じる。非常に硬質。きめが細かく、シルトに近い。

⑦黒褐色粘質土（2.5Y-3/1）0.5～3cmの明褐色ロームから明褐色ロームブロックが多量に混じる（40%）。非常に硬質。やや粗い堆積。

⑧黒褐色粘質土（10YR-3/2）0.2～1cm明褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。

⑨黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）0.2～0.3cmの明褐色ロームブロックが混じる。硬質。

⑩明褐色粘土　（7.5YR-5/6）黒色土がブロック状に少量混じる。硬質。

⑪黒褐色粘質土（10YR-3/ 1）脂肪状に堆積。厚さ0.5cm、幅2～3cmの明褐色ブロックが混じる。

⑫黒色粘質土　（10YR-2/1）0.2～0.5cm程の明褐色～明褐色ロームブロックが混じる。硬質。

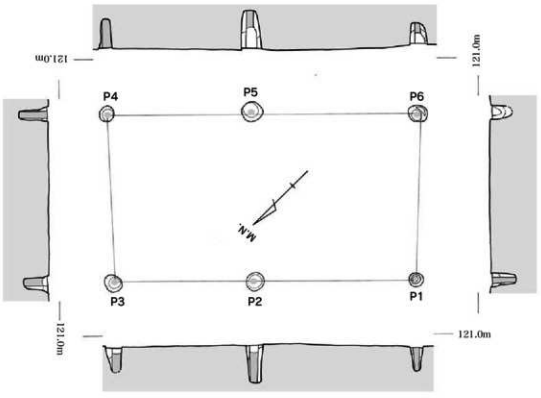
⑬黒色粘質土　（10YR-1.7/1）きめが細かく、シルトに近い。やや硬質。

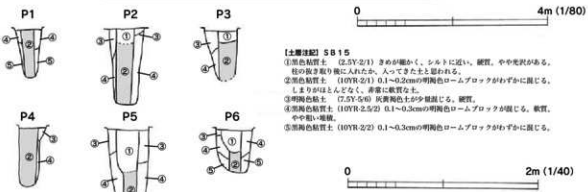
⑭黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.5cm程の明褐色ローム～褐色ロームブロックが混じる。硬質。

⑮黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.5～1cmの明褐色ローム～褐色ロームブロックが混じる。硬質。

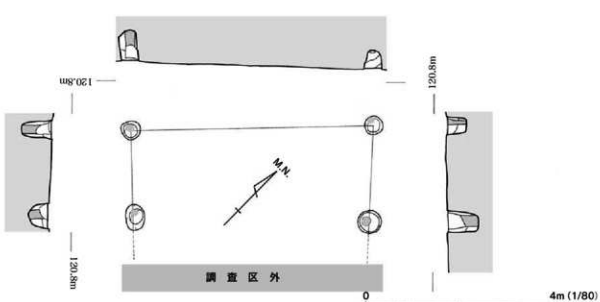
0　2m (1/40)

第45図　SB14実測図（1/80）及び 柱穴土層断面図（1/40）

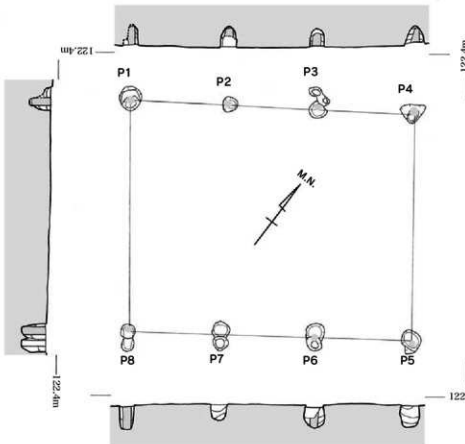


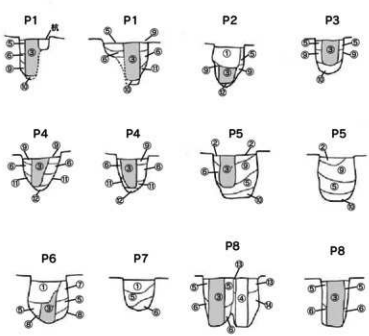


第46図　SB15実測図（1/80）及び 柱穴土層断面図（1/40）



第47図　SB16実測図（1/80）





【土層注記】SB17

①黒色粘質土　(10YR-2.5/1) 0.5～1cmのアカホヤから褐色ロームブロックが混じる。締質。やや粗い堆積。

②黒色粘質土　(10YR-2/1) 0.1cm程の褐色ロームブロックが混じる。やや締質。

③黒色粘質土　(10YR-1.7/1) 0.5～0.3cmのアカホヤブロックが混じる。非常に軟質。柱痕跡。

③′黒色粘質土 (10YR-1.7/1) 0.5～0.3cmのアカホヤから暗褐色ロームブロックが混じる。

④黒色粘質土　(10YR-2.5/1) 0.5～1cmのアカホヤから暗褐色ロームブロックが混じる。非常に軟質。粘性が低くサラサラしている。柱痕跡。

⑤黒色粘質土　(10YR-2/1) 0.2～1.5cmのアカホヤから暗褐色ロームブロックが混じる。軟質。

⑥黒色粘質土　(10YR-2/1) 1cm程の暗褐色ロームブロックが混じる。軟質。

⑦黒色粘質土　(10YR-2/1) 0.3cmのアカホヤブロックが混じる。軟質。

⑧褐色粘質土　(10YR-4/4) 1cm程の黒色土が混じる。やや硬質。ブロック土の堆積。地山よりも色がくすんでいる。

⑨暗褐色粘質土 (10YR-4/4) 1cm程の褐色ロームブロックが混じる。締質。ブロック土の堆積。やや粗い堆積。

⑩黒色粘質土　(10YR-2/1) アカホヤ～暗褐色ロームブロックが厚さ0.5～1cm、幅3cmなどの縞平な状態になっている（版築状）。非常に締質。

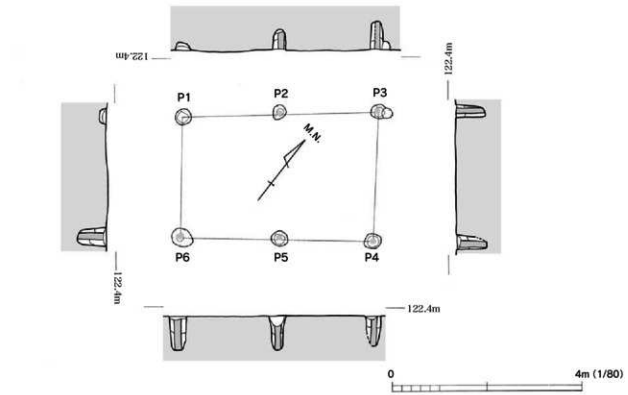
⑪褐色粘質土　(10YR-4/4) 茶層に近いが黒色土が混ざらない。

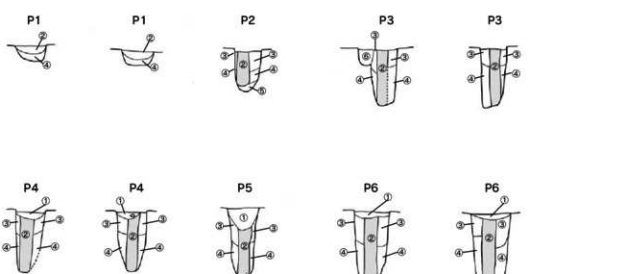
⑫灰黄褐色粘質土 (10YR-4/2) 0.2～1cmの褐色ロームブロックが混じる。非常に締質だが⑨層に比べて柔らかい。

⑬黒褐色粘質土 (10YR-2.5/1) 0.5～1cmのアカホヤから暗褐色ロームブロックが混じる。やや締質。粘性が低くサラサラしている。

⑭黒褐色粘質土 (10YR-2.5/1) 0.5～3cmのアカホヤから暗褐色ロームブロックが混じる。軟質。粘性が低くサラサラしている。

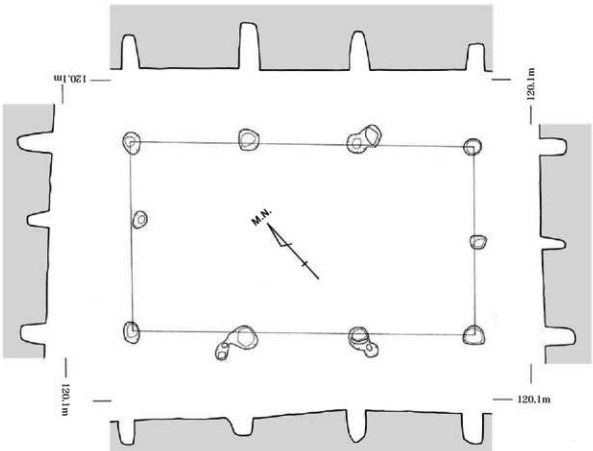
第48図　SB17実測図（1/80）及び 柱穴土層断面図（1/40）



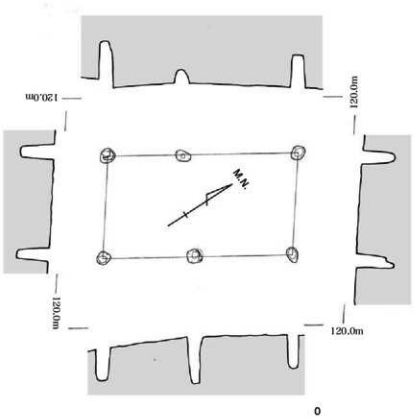


【土層注記】SB18
①黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.2～1cmのアカネヤから褐色ロームブロックが混じる。硬質。
②黒色粘質土　（10YR-1.7/1）0.2cm～0.3cmの暗褐色ローム～褐色ロームブロックが混じる。軟質。
③黒色粘質土　（10YR-2/1.5）0.5cm程の暗褐色ロームブロックが混じる。軟質。
④黒色粘質土　（10YR-2.5/1）0.5～1.5cmの暗褐色ロームブロックが混じる。
⑤黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）非常に硬質。
⑥黒褐色粘質土（10YR-2/1）0.3～0.5cmの暗褐色ロームブロックが混じる。硬質。

第49図　SB18実測図（1/80）及び 柱穴土層断面図（1/40）



第50図　SB19実測図（1/80）



第51図　SB20実測図（1/80）

ＳＢ19（第９・50図）

Ｅ区北東部で検出した建物跡である。梁間２間（4.0m）、桁行３間（7.2m）の東西棟である。梁間柱間は1.7～2.3m、桁行柱間は2.3～2.5mである。柱穴掘方は長径平均41cm、短径平均36cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-45°-Wで、身舎の面積は28.8㎡を測る。ＳＢ20と一部重複する。

ＳＢ20（第９・51図）

Ｅ区北東部で検出した建物跡である。梁間１間（2.2m）、桁行２間（4.1m）の南北棟である。梁間柱間は2.2m、桁行柱間は1.6～2.4mである。柱穴掘方は長径平均34cm、短径平均26cmの楕円形を呈している。

主軸はN-32°-Eで、身舎の面積は9.1㎡である。ＳＢ19と一部重複する。

ＳＢ21（第９・52図）

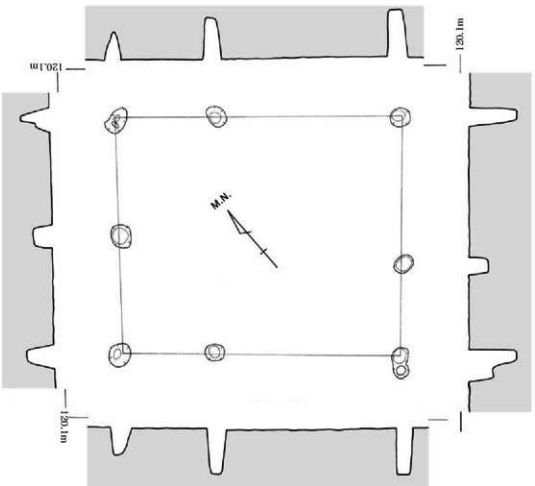
Ｅ区北東部で検出した建物跡で、ＳＢ19の北東側に位置している。梁間２間（5.1m）、桁行２間（6m）の南北棟である。梁間柱間は2.0～3.1m、桁行柱間は2.0～3.9mである。柱穴掘方は長径平均46cm、短径平均37cmの楕円形を呈している。

主軸はN-50°-Wで、身舎面積は30.0㎡を測る。

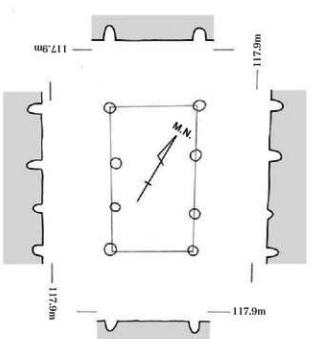
ＳＢ22（第６・53図）

Ａ区の東側に位置し、複数の溝状遺構に囲まれた状態で検出した建物跡である。梁間１間（1.8m）、桁行３間（3.0m）の東西棟である。梁間柱間は1.7～1.9m、桁行柱間は0.9～1.2mである。柱穴掘方は長径平均12cm、短径平均11cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-30°-Wで、身舎面積は5.4㎡を測る。



第52図　SB21実測図（1/80）



第53図　SB22実測図（1/80）

③土坑

土坑は用途の確定できない掘り込みのことを指す。検出した土坑は68基を数え、大きさおよび形状はバラエティーに富んでいる。ここでは遺物が出土しているものや特色のあるものについて説明するが、その他土坑の詳細については一覧表を参照されたい（第６表）。

ＳＣ２（第６・54図）

ＳＣ２はＡ区Ｆ-９グリッドにあり、Ａ区北側の近世土坑墓群に近い位置から検出されたため土坑墓の可能性もあるが、棺の形跡や人骨等の遺存がなかったため、土坑墓とは認定しなかった。

ＳＣ３（第６・54図）

ＳＣ３はＡ区Ｅ-11グリッドにあり、Ａ区北西部の近世土坑墓群に近い位置にある。土坑の中央はピットに切られている。これも土坑墓の可能性があるが、深さが10cmと浅い。埋土の状況は土坑墓に近いが、断定はできなかった。棺の形跡や人骨等も遺存せず、土坑墓とは認定しなかった。

ＳＣ４（第６・54図）

ＳＣ４はＡ区Ｄ-11グリッドにあり、北西部の土坑墓群に最も近い。土坑内には６点程の礫が検出されたが、埋土状況や棺の形跡や人骨等も遺存しなかったことから土坑墓とは認定しなかった。

ＳＣ６（第６・54図）

ＳＣ６はＡ区Ｇ-15グリッドにあり、周辺部の多くの柱穴やピットに囲まれた所に位置する。これも土坑墓の可能性もあるが、棺の形跡や人骨等も遺存しなかったため土坑墓とは認定しなかった。

ＳＣ８（第７・54図）

ＳＣ８はＣ区Ｉ-６グリッドにあり、周辺部には多くの柱穴やピットがある。出土遺物はない。

ＳＣ10（第７・54図）

ＳＣ10はＣ区Ｊ-８グリッドにあり、周辺部には多くの柱穴やピットがある。出土遺物はない。近くにある掘立柱建物跡との関連も否定できない。

ＳＣ13（第７・55図）

ＳＣ13はＣ区Ｊ-８グリッドにあり、周辺部には多くの柱穴やピットがある。出土遺物はないが、近くにある掘立柱建物跡との関連も否定できない。

ＳＣ14（第７・55図）

ＳＣ14はＣ区Ｋ-９グリッドにあり、周辺部には多くの柱穴やピットがある。きめが細かくシルトに近いやや硬化した埋土で、ピットに切られている。

ＳＣ26（第８・55図）

ＳＣ26はＤ区Ｊ-２グリッドにあり、長軸2.5m、短軸1.7m、深さが1.3mの方形土坑である。遺物はなく、性格も確定的ではないが陥し穴ではないかと考えられる。底面施設の痕跡はなかった。中世の溝状遺構と思われるＳＥ33に切られている。

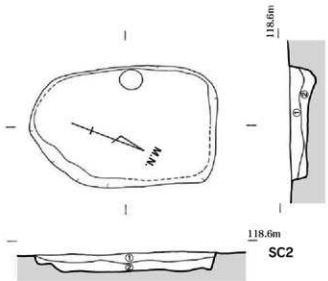
ＳＣ49（第８・55図）

ＳＣ49はＤ区Ｐ-一（マイナス）１グリッドにあり、長軸は0.9m、短軸は0.8mのほぼ正方形を呈する。深さは1.0mである。調査区の北東端で検出したが、やはり陥し穴ではないかと考えられる。遺物はない。

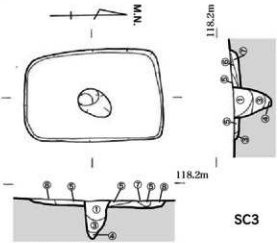
ＳＣ65（第７・56図）

Ｃ区の北側に位置し、検出面における長軸6.8m、短軸5.4m、最深部で0.5mを測り、楕円形を呈する。断面は皿形を呈している。北東部にはＳＥ28が直結することから一時的な水溜のような印象を受けるが、底面は水が溜まる土層ではない。使用目的は不明である。

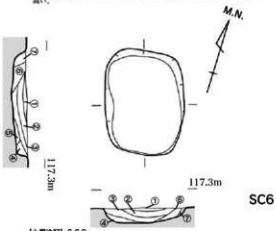
遺物として土師器片88点が出土したが、いずれも小片で摩耗しており接合できない。その他、中世の中国産青磁や国産陶器なども出土している。出土遺物の内容からすると、中世の遺構ではないかと推定される。



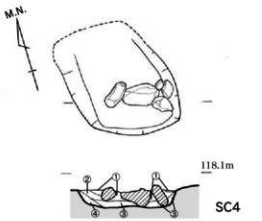
【土層注記】SC2
①黒褐色粘質土（10YR-2/3）Abブロックを少量含む。きめ細かく、比較的しまっている。粘性は低く、パサパサしている。
②黒褐色粘質土（10YR-2/2）きめ細かく、①層よりもしまりもよい。粘性は高い。



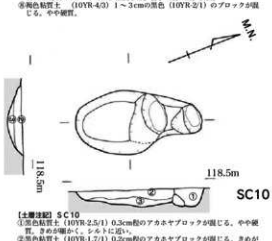
【土層注記】SC3
①黒褐色粘質土（10YR-3/2.5）0.3～0.5cmの褐色ブロックが混じる。光沢があり、やや灰色を帯びる。やや軟質。
②黒褐色粘質土（10YR-2/2）0.3～1cmの褐色ブロックが混じる。光沢があり、やや灰色を帯びる。やや軟質。
③黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）0.5～1cmの褐色ブロックが混じる。やや軟質。
④褐灰色粘質土（10YR-3.5/1）0.5cmの褐色ブロックが混じる。やや軟質。
⑤黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）0.3～0.5cmの褐色ブロックが混じる。硬質。
⑥黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）0.3～0.5cmの褐色ブロック・1cm程の黄褐色ブロックが混じる。硬質。
⑦黒褐色粘質土（10YR-2/2）褐色粘質土が混じる（50%以上）。ややブロック状に堆積。硬質。
⑧黒褐色粘質土（10YR-3/2）0.5～3cmの褐色ブロックが混じる。大きいブロックが特に多い。硬質。



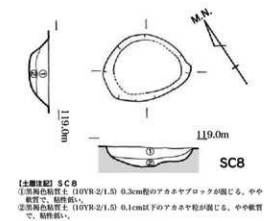
【土層注記】SC6
①黒褐色粘質土（10YR-2/3）1cm前後の黄褐色（10YR-5/6）・灰黄褐色（10YR-4/2）のブロックが混じる。
②黒褐色粘質土（10YR-2/3）1～3cm程の黄褐色（10YR-5/6）・灰黄褐色（10YR-4/2）のブロックが混じる。やや硬質。
③暗褐色粘質土（10YR-2.5/2）1cm前後の黒褐色（10YR-2/3）・黄褐色（10YR-5/6）・灰黄褐色（10YR-4/2）のブロックが混じる。
④黒褐色粘質土（2.5Y-3/2）0.5～3cmの黒褐色（10YR-2/3）・黄褐色（10YR-5/6）・灰黄褐色（10YR-4/2）のブロックが混じる。
⑤暗灰黄色粘質土（2.5Y-4/2）1～3cmの黒褐色（10YR-2/3）・黄褐色（10YR-5/6）のブロックが混じる。
⑥黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）0.3～0.5cmの褐色ブロック・1cm程の黄褐色ブロックが混じる。硬質。
⑦黒褐色粘質土（10YR-2/1）0.5cm程の黒色（10YR-2/1）・黄褐色（10YR-5/6）のブロックが少量混じる。粒子の粗い土。軟質。
⑧褐色粘質土（10YR-4/3）1～3cmの黒色（10YR-2/1）のブロックが混じる。やや硬質。



【土層注記】SC4
①黒褐色粘質土（10YR-3.5/1）0.5cm程の褐色ブロックが混じる。非常に軟質。粗い堆積でスカスカしている。
②黒褐色粘質土（2.5Y-2.5/1）0.5～1cmの褐色ブロックが混じる。やや軟質。やや粗い堆積。
③黒褐色粘質土（2.5Y-2.5/1）0.3～0.5cmの褐色ブロックが混じる。やや軟質。
④黒褐色粘質土（2.5Y-2.5/1）0.5cmの褐色ブロックが混じる。やや軟質。わずかに炭化物が混じる。



【土層注記】SC10
①黒色粘質土（10YR-2.5/1）0.3cm程のアカホヤブロックが混じる。やや硬質。きめが細かく、シルトに近い。
②黒色粘質土（10YR-1.7/1）0.2cm程のアカホヤブロックが混じる。きめが細かく、シルトに近い。
③黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）0.3cm程のアカホヤ粒・0.4cm程のアカホヤブロックが混じる。軟質で粗い堆積。



【土層注記】SC8
①黒褐色粘質土（10YR-2/1.5）0.3cm程のアカホヤブロックが混じる。やや軟質で、粘性低い。
②黒褐色粘質土（10YR-2/1.5）0.1cm以下のアカホヤ粒が混じる。やや軟質で、粘性低い。

0　2m (1/40)

第54図　SC2・3・4・6・8・10実測図（1/40）

No.	出土位置	主　軸	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	備　考
1	A-G-11	N54°E	190	135	8	楕円形	
2	A-F-9	N22°W	190	120	20	不整長方形	
3	A-E-11	N　2°W	140	95	10	隅丸長方形	
4	A-D-11	N　8°W	130	114	20	不整長方形	
5	A-D-12	N64°W	190	121	10	楕円形	
6	A-G-15	N25°W	110	80	15	長方形	
7	C-I-6	N39°W	186	112	10	楕円形	
8	C-I-6	N61°W	91	60	18	円形	
9	C-J-8	N51°W	76	70	49	円形	
10	C-J-8	N24°E	132	58	55	不整長方形	
11	C-J-8	N53°W	112	105	12	不整円形	
12	C-J-8	N42°W	192	55	22	長楕円形	
13	C-J-8	N60°E	86	72	24	不整方形	
14	C-K-9	N24°W	148	82	34	楕円形	
15	C-J-10	N16°W	168	164	19	円形	
16	C-I-7	N40°W	84	50	36	半楕円形	
17	C-K-9	N　3°W	73	53	31	楕円形	
18	C-I-8	N72°E	104	57	16	楕円形	
19	D-L-3	N33°W	116	106	20	円形	
20	D-L-2	N55°E	100	90	22	円形	
21	D-L-2	N46°E	11	100	16	円形	
22	D-K-1	N　8°W	90	80	14	円形	
23	D-K-2	N45°W	86	74	13	半楕円形	
24	D-K-2	N　1°E	90	90	8	円形	
25	D-K-2	N48°E	140	94	15	隅丸長方形	
26	D-J-2	N61°E	250	170	132	楕円形	簡し穴?
27	D-K-2	N50°E	84	80	27	円形	
28	D-K-2	N43°E	88	50	23	不整楕円形	
29	D-K-2	N22°E	86	70	9	円形	
30	D-K-2	N22°W	40	30	3	円形	
31	D-K-2	N72°E	48	32	3	円形	
32	D-J-2	N44°E	146	146	8	円形	
33	D-J-2	N50°E	124	120	13	円形	
34	D-O-0	N48°W	92	64	18	長方形	
35	D-O-0	N42°W	61	60	15	円形	
36	D-O-0	N44°E	80	68	22	長方形	
37	D-N.−1	N45°E	78	76	25	正方形	
38	不詳						
39	D-O-0	N36°E	114	78	27	不整長方形	
40	D-N.−2	N46°E	68	64	16	正方形	
41	D-O.−2	N47°W	74	74	34	正方形	
42	D-O.−2	N45°E	64	62	6	正方形	
43	D-O.−1	N46°E	72	72	20	正方形	
44	D-N.−1	N32°W	79	67	30	不整長方形	
45	D-O.−1	N47°W	56	44	16	長方形	
46	D-N.−1	N57°E	90	60	14	長方形	
47	D-N.−2	N46°E	80	70	51	正方形	
48	D-N.−2	N30°E	70	62	24	不整正方形	
49	D-P.−1	N　6°W	86	84	100	正方形	簡し穴?
50	D-N.−1	N90°E	107	95	26	円形	
51	E-L-6	N25°W	120	60	10	長方形	
52	E-L-6	N58°W	114	102	12	円形	
53	E-K-6	N35°W	275	125	42	不整長方形	
54	E-K-6	N42°W	120	24	48	不整長方形	
55	E-K-6	N52°E	156	64	74	不整長方形	
56	E-M-6	N40°W	80	16	30	楕円形	
57	E-L-5	N60°E	84	81	41	円形	
58	E-M-6	N25°W	84	82	15	正方形	
59	E-K-5	N50°W	183	160	6	正方形	
60	E-L-6	N43°W	104	60	55	不整形	
61	E-L-6	N52°W	140	60	77	不整楕円形	
62	E-K-6	N　3°W	104	80	30	長方形	
63	C-J-4	N77°W	140	85	5	楕円形	
64	C-I-8	N70°E	265	160	15	楕円形	
65	C-I-5	N34°W	680	540	50	楕円形	
66	C-J-5	全面検出していないため測定不能					
67	C-K-6	N40°W	510	440	25	不整楕円形	
68	D-M-2	N25°W	900	530	70	不整楕円形	

第6表　土坑一覧表

SC66（第7・57図）

C区北側の壁際にある。調査区外へと広がっており、全体は調査できなかった。検出面の調査区壁側での長径は5.6m、最深部は0.6mである。底面はやや起伏があるが、皿形を呈している。SC65同様一時的な水溜のような印象を受けるが水が溜まる土層ではない。使用目的は不明である。

ただしSC65とやや異なるのは、実測図の中にもあるように、土層注記④層の中心部でやや硬化している面が確認されたことである。

遺物としては中世の中国産青磁・白磁（第73図145）や国産陶器（第73図146）、土師器片47点、近世後半の陶磁器、火打石（第82図261・271）が出土している。

SC67（第7・58図）

C区とE区にまたがって検出した。SC65・66と同様、使用目的が不明の土坑である。長軸5.1m、短軸4.4m、最深部0.3mで、断面は皿形を呈する。

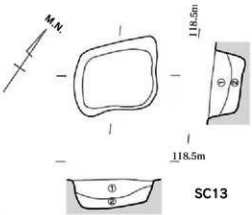
中世の中国産白磁(第73図147)、土師器皿（第73図148）などが出土している。

SC68（第8・27・29・30図）

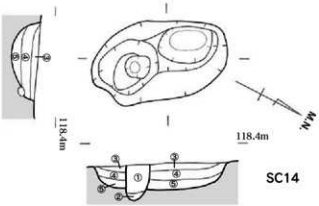
SC68はD区M-2周辺で検出された。長軸9.0m、短軸5.3m、深さ0.5m～0.7mで、底面は起伏があるが概ね皿形を呈する。また土坑の北東側には階段状の硬化面が見られた。

このSC68はSE44に付随した遺構ではないかと考えられるが、詳細は明らかではない。

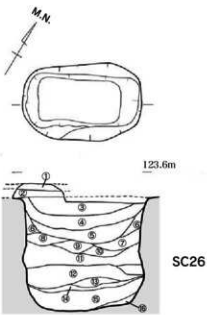
出土遺物のほとんどはSE44と一緒に取り上げた(第72図参照)。その他弥生から中世までの土器小片や鉄滓・炭化物なども出土している。



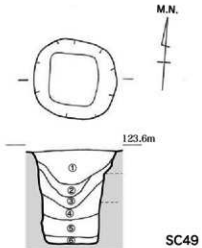
【土層注記】SC13
①黒色粘質土（10YR-1.7/1）0.5mm程のアカホヤブロックが混じる。粘性低く、ややきめが細かい。軟質。
②黒色粘質土（10YR-1.7/1）①層に類似。①層よりも灰色を帯びる。



【土層注記】SC14
①黒色粘質土（10YR-2/1）やや硬質。0.5cm程の暗褐色（10YR-3/3）ブロック・アカホヤが混じる。ややきめが細かい。
②黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）やや軟質。きめが細かく、シルトに近い。
③黒色粘質土（10YR-1.7/1）やや硬質。ややきめが細かい。
④黒色粘質土（10YR-1.7/1）硬質。きめが細かく、シルトに近い。密に堆積。2cm程の暗褐色（10YR-3/3）ブロック・アカホヤが混じる。
⑤黒色粘質土（10YR-1.7/1）2～4cm程の暗褐色（10YR-3/3）ブロック・アカホヤが混じる。硬質。きめが細かく、シルトに近い。密に堆積。

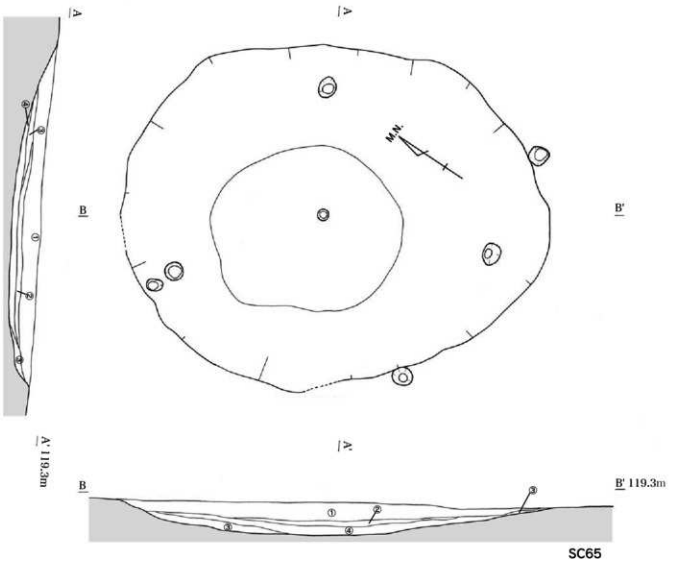


【土層注記】SC26
①灰黄褐色粘質土（10YR-4/2）1mm厚で層状に堆積（板塩状）。非常に硬質。1mm程の明褐色ロームブロックが混じる。
②黒褐色粘質土（10YR-3/2）粘性が低い。細砂が多く混じり。砂質土近い。2mm程の明褐色ロームブロックが混じる。
③灰黄褐色粘質土（10YR-4/1.5）硬質。2cm程のATブロックが混じる。
④灰黄褐色粘質土（10YR-4/1.5）3cm大のブロック土の堆積。3cm程のATブロックが混じる。硬質。
⑤黒褐色粘質土（10YR-3/1）3cm大のブロック土の堆積（ブラックバンド）。2cm程の褐色ロームATブロックが混じる。
⑥明褐色粘質土（7.5YR-5/6）明褐色ロームよりも粗く堆積し、軟質。黒褐色土が混じる。
⑦褐色粘質土（7.5YR-4/3）やや粗い堆積。2cm程のブラックバンドブロックが混じる。やや軟質。
⑧灰褐色粘質土（7.5YR-4/2）2cm程の明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。
⑨黒褐色粘質土（10YR-3/2）明褐色土が混じる。やや軟質。
⑩黒褐色粘質土（10YR-3/2）3cm大のブラックバンドブロックの堆積。1cm程のATブロックが混じる。やや粗い堆積。やや軟質。
⑪明褐色粘土（7.5YR-5.5/6）粗い堆積でスカスカしている。非常に軟質。
⑫明褐色粘土（7.5YR-5.5/6）ブロック状に堆積しているように思われる。硬質。
⑬褐色粘土（7.5YR-4/3）粗い堆積でスカスカしている。軟質。0.1cm以下の明褐色ロームブロックが混じる。
⑭黒褐色粘土（7.5YR-3/1）粗い堆積でスカスカしている。やや硬質。硬いブロックのような部分もある。
⑮にぶい橙色粘土（7.5YR-6/5）ブロック状に堆積しているように思われる。硬質。
⑯黒褐色粘土（7.5YR-3/1）やや軟質。



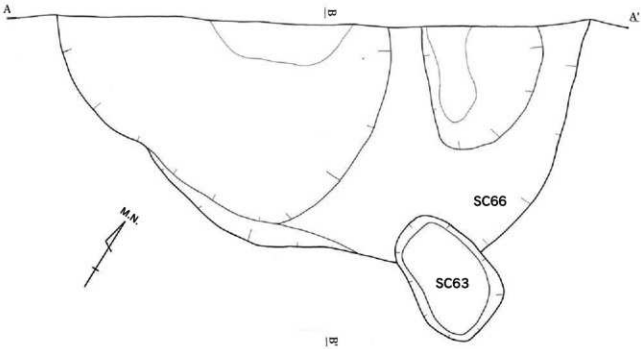
【土層注記】SC49
①黒色粘質土（2.5Y-2.5/1）0.05cmの白色粒やAT粒などが混じる。
②黒褐色粘質土（2.5Y-3/1.5）0.05～0.2cmの白色粒やAT粒などが混じる。
③黒褐色シルト（10YR-2/2）0.05～0.2cmの白色粒やAT粒などが混じり、2～4cmのATブロックが土層の中央部に混じる。
④黒色シルト（10YR-2/1.5）0.05～0.2cmのATブロックや2～3cmのATブロックが土層の中央部に混じる。やや軟質。
⑤黒色シルト（10YR-1.7/1）0.1～0.2cmにATブロックが混じる。軟質。
⑥褐色粘土（11.5YR-4/4）1cm程のブロック土の堆積。黒色土も混じる。軟質。やや粗い堆積。

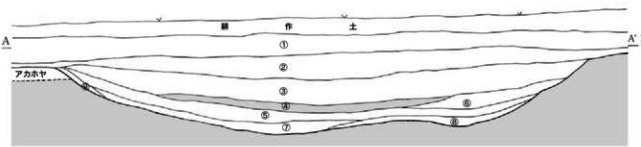
第55図　SC13・14・26・49実測図（1/40）

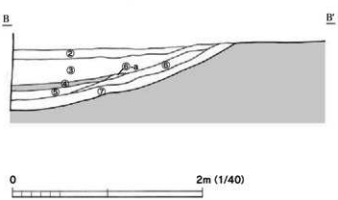


【土層注記】SC65
①黒色粘質土（8.75YR-2/1）3mm～5mmのアカホヤブロックが混じる（2%）。非常に硬質、やや粘性が高い。光沢をもちわずかに灰色を帯びる。底下面に厚さ5mm程の硬化肺が部分的にある。
②黒色粘質土（10YR-2/1）3mm～1cmのアカホヤブロックが混じる（10%）。5mm程の赤褐色がわずかに混じる。粘性が弱い、やや硬質。
③黒色粘質土（10YR-2/1.5）1mm程のアカホヤブロックが混じる（10%）。きめが細かくシルトに近い、やや硬質、やや粘性が弱い。
④黒褐色粘質土（10YR-2/2）5mm程のアカホヤブロックが混じる（1%）。粘性が弱い、きめが細かくシルトに近い、やや軟質。
⑤黒褐色粘質土（10YR-2/2）3mm～1cmのアカホヤブロックが混じる（5%）。粘性が弱い、きめが細かく、シルトに近い、やや軟質、やや黄色を帯びる。

第56図　SC65実測図（1/60）







【土層注記】SC66

①黒褐色粘質土（10YR-2/2）白色粒が混じる。粘性が弱い、礫砂が多く混じる。硬質。やや茶色を帯びる。3mm程の炭化物が混じる。

②黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）白色粒が混じる。粘性がやや弱い。きめが細かくシルトに近い。非常に軟質。やや茶色を帯びる。礫砂をわずかに含む。5mm程の炭化物が少量混じる。

③黒褐色粘質土（10YR-2.5/1）1mm程の赤褐色粒が混じる（1%）。5mm程の炭化物が少量混じる。きめが細かくシルトに近い。粘性が高い。やや軟質。やや灰色を帯びる。

④黒褐色粘質土（10YR-2/3）硬化層が5mm程の黄褐色ブロックが混じる（2%）。光沢をもつ。中心部分は非常に硬くしっかりとした硬化層を形成しているが、外側になるほど硬度がやや落ち、不明瞭になっていく。

⑤黒褐色粘質土（10YR-2/2）やや軟質。粘性が高い。礫砂が混じる。きめが細かくシルトに近い。

⑥黒色粘質土　（10YR-2/1）やや硬質。7mm前後の黄褐色、暗褐色ブロックが混じる（10%）。粘性が高く、きめもやや細い。

⑥-a黒色粘質土（10YR-2/1）⑥層がやや硬化したもの。

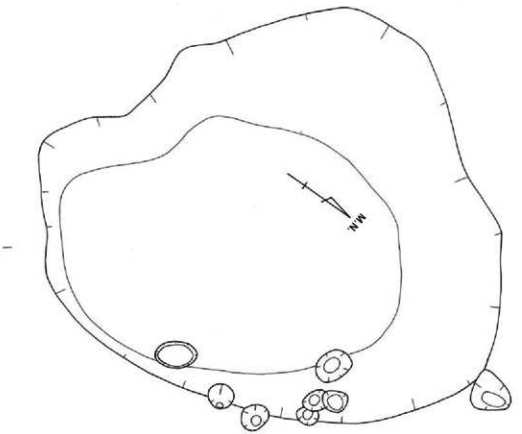
⑦黒色粘質土　（10YR-2/1.5）3mm程の黄褐色、暗褐色ブロックが混じる（10%）。きめが細かくシルトに近い。粘性が非常に高い。礫砂がやや多く混じる。やや硬質。

⑧黒色シルト　（10YR-2/1）礫砂が少量混じる。やや硬質。

⑨黒褐色粘質土（10YR-2.5/1.5）やや軟質。粘性が低い。1mm以下のアカホヤ粒が混じる（5%）。

⑩黒褐色粘質土（10YR-2/2.5）やや軟質。きめが細かくシルトに近い。2mm程の赤褐色（2%）黄褐色（1%）ブロックが混じる。層の注意にやや白色粒の多い層が見られる。

第57図　SC66実測図（1/40）



【土層注記】SC67
①黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）やや硬質。きめが細かくシルトに近い。1mm粒の黄褐色粒が混じる。
②黒褐色粘質土（10YR-2/2.5）1cm粒の明黄褐色ブロックが混じる（7%）。きめが細かくシルトに近い。やや粘性が低い。やや硬質。
③黒褐色粘質土（10YR-2/2.5）②層に類似。ブロックがほとんどなく、②層に比べやや褐色を帯びる。
④黒褐色粘質土（10YR-2.5/2）②層に類似。
⑤黒色粘質土　（10YR-1.7/1）きめが細かくシルトに近い。粘性が高い。硬質。1mm粒の黄褐色粒が混じる（3%）。やや光沢をもつ。細砂が混じる。

第58図　SC67実測図（1/40）

④土坑墓

土坑墓はA区の中央部東寄り（6基：ＳＤ1～6）・北部（4基：ＳＤ7～10）・中央部西寄り（5基：ＳＤ11～15）に分布している。出土した「寛永通寶」や棺の形跡等からほとんどが近世のものと考えられる。また遺跡周辺の住民の話では、戦後も無縁仏が存在していたとのことである。

D区西半からは1基（ＳＤ16）だけ検出されたが、これは中世のものと考えられる。以下でそれぞれの土坑墓について説明するが、一覧表も参照されたい（第7表）。

ＳＤ1（第6・59図）

平面形は長方形を呈し、上面175×115cm、底面103×73cm、深さ45cmで、主軸方位はN-25°-Wである。底面はやや平坦で、壁は北側と南側が緩やかで、東側と西側ではやや緩やかに立ち上がる。

墓内には人骨は遺存していないが、土師器片が出土し、棺の形跡が確認ができた。

ＳＤ2（第6・59図）

平面形は長方形を呈し、上面145×105cm、底面123×95cm、深さ55cmで、主軸方位はN-38°-Wである。底面は平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

墓内に人骨は遺存していない。鉄釘4点（第77図219～222）、「寛永通寶」3枚(第76図187ほか)が出土した。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ3（第6・59図）

平面形は長方形を呈し、上面155×110cm、底面129×97cm、深さ44cmで、主軸方位はN-8°-Wである。底面は平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

墓内に人骨は遺存していない。鉄釘1点(第77図223)、「寛永通寶」8枚(第76図188、第77図206)のほか、埋土下層で小さな銅製の棒が出土した（第76図202）。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ4（第6・59図）

平面形は長方形を呈し、上面155×123cm、底面145×112cm、深さ44cmで、主軸方位N-25°-Wである。底面は平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

ＳＥ8に北西側角をわずかに切られている。墓内に人骨は遺存していない。土器片2点のほか、埋土下層で小さな銅製の棒が出土した（第76図201）。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ5（第6・60図）

平面形は長方形を呈し、上面125×95cm、底面115×70cm、深さ65cmで、主軸方位は真北である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

墓内に人骨は遺存していない。金属片1点、「寛永通寶」7枚が出土したが、うち2枚が鉄銭であった（第76図189～193）。また銅銭1枚（193）には布片が付着していた。棺の形跡が確認できた。鉄銭の存在から近世後半の墓と考えられる。

ＳＤ6（第6・60図）

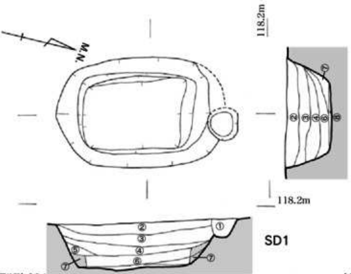
平面形は長楕円形を呈し、上面185×105cm、底面131×82cm、深さ70cm、主軸方位はN-50°-Eである。底面はやや平坦で、周囲の壁は北がややオーバーハングしており、西が緩やかで、東・南はやや緩やかに立ち上がる。

墓内に人骨は遺存していない。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ7（第6・60図）

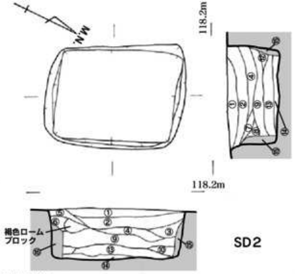
平面形は長楕円形を呈し、上面145×100cm、底面132×82cm、深さ60cm、主軸方向はN-18°-Wである。底面はやや平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

墓内に人骨は遺存していない。棺の形跡が確認できた。



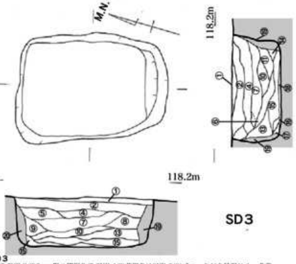
【土層注記】ＳＤ１

①黒褐色粘質土(2.5Y-2/1)0.5mm～3cm程の明褐色土(10YR-6/8)のブロックが混じる。やや軟質な土。粗く堆積。
②黒褐色粘質土(10YR-3/1)2mm～6mm(10YR-5/6)褐灰色(10YR-3/1)のブロックが少量混じる軟質な土。やや粗く堆積。
③黒色粘質土(10YR-2/1)2mm～3mm(10YR-5/6)褐灰色(10YR-5/1)のブロックが少量混じる。軟質な土。やや粗く堆積。
④黒色粘質土(10YR-2/1)③層よりもブロックが多量に混じる。軟質な土。やや粗く堆積。
⑤黒褐色粘質土(10YR-2/1)2cm～3cm程の灰黄褐色(10YR-4/2)のブロックが混じる。やや軟質な土。
⑥黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)1cm程の褐配色(10YR-4/1)のブロックがわずかに混じる。やや密に堆積。
⑦褐灰色粘質土1cm～2cm程の褐灰色(10YR-4/2)のブロックが混じる。
⑧暗灰黄色粘質土1cm～2cm程の黄灰色(2.5Y-4/1)のブロックが多量に混じる。やや密に堆積。



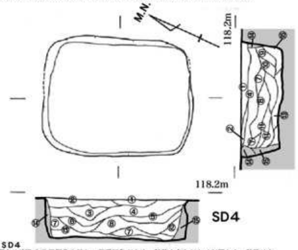
【土層注記】ＳＤ２

①黒褐色粘質土(10YR-3/1)5mm～1cm程の灰黄褐色ブロックが混じる(20%)。5mm～10mm程の黄褐色ブロックが混じる。やや軟質。炭化物を少量混じる(20%)。
②黒褐色粘質土(10YR-3/1)5mm～1cm程の灰褐色、黄褐色ブロックが混じる(10%)。
③黒褐色粘質土(10YR-3/1)1cm程の灰褐色ブロック、黄褐色ブロックが混じる(5%)。軟質な土。
④黒褐色粘質土(10YR-3/1)1cm程の灰褐色、黄褐色ブロックが混じる(10%)。軟質な土。
⑤暗褐色粘質土(10YR-3/5)5mm程の灰褐色ブロックが混じる(30%)。5mm以下の黄褐色、黒色ブロックが混じる(3%)非常に軟質な土。
⑥暗褐色粘質土(10YR-3/3)5mm程の灰褐色、黒色ブロックが混じる。非常に軟質な土。
⑦黒褐色粘質土(10YR-2/2)1mm程の灰褐色ブロックが混じる（15%）。軟質な土。
⑧黒褐色粘質土(10YR-2/2)1cm程のブロックが混じる(20%)。⑦層よりはやや灰色を帯びる。軟質な土。
⑨黒褐色粘質土(10YR-3/3)5mm～1cm程の灰褐色ブロックが混じる(40%)。0.5mm程の黄褐色、黒色ブロックが混じる(2%)。軟質な土。
⑩黒褐色粘質土(10YR-2/3)1cm以下の黒色、黄褐色ブロックが混じる。
⑪暗褐色ロームブロック
⑫暗褐色粘質土(10YR-3/3)1cm程の灰褐色、黄褐色ブロックが混じる(5%)。
⑬黒色粘質土(10YR-2/3)1cm程の灰褐色ブロックが混じる(5%)。やや軟質な土。やや密に堆積。
⑭暗灰黄色粘質土(2.5Y-5/2)やや軟質な土。やや密に堆積。
⑮黒褐色粘質土(10YR-2/2)1cm程の灰褐色ブロックが混じる(50%)。1cm程の黄褐色黒色ブロックが混じる(1%)。やや軟質な土。ブロック状堆積。
⑯黒褐色粘質土(10YR-2/2)⑮層とほぼ同じだが、上部に3cm程の灰褐色ブロックが混じる。



【土層注記】ＳＤ３

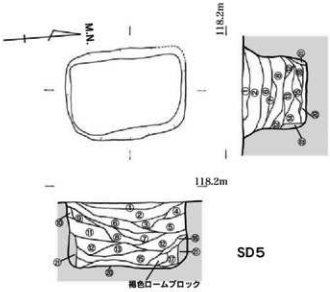
①黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)5mm程の灰褐色(7.5YR-4/2)黄褐色(10YR-5/8)ブロックが少量混じる。非常に軟質な土。粗い堆積。
②黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)5mm、3cm～4cm程の灰黄色(7.5YR-4/2)のブロックが多量に混じる。5cm程の黄褐色(10YR-5/5)のブロックが少量じる。非常に軟質。
③黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)5mm程の灰黄色(7.5YR-4/2)のブロックが混じる(15%)。5mm程の黄褐色(10YR-5/8)ブロックが少量混じる(2%)。やや軟質。
④黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)5mm程の灰褐色(7.5YR-4/2)黄褐色(10YR-5/8)ブロックが混じる。非常に軟質な土。②層に類似。
⑤黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)1cm～2cm程の灰褐色(7.5YR-4/2)のブロックが多量に混じる(40%)軟質な土。
⑥黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)4mm程の灰褐色(7.5YR-4/2)のブロックが混じる。
⑦黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)1cm程の灰褐色(7.5YR-4/2)のブロックが多量に混じる。1cm程の黄褐色土(10YR-5/8)2cm～3cm程の灰褐色(7.5YR-4/2)のブロックが少量混じる。。非常に軟質な土。砂質土に近い。
⑧黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm程の灰褐色(7.5YR-2/2)のブロックが多量に混じる。5mm程の黒褐色(10YR-5/8)のブロックが少量混じる。軟質土。やや密の堆積。
⑨黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)1cm～5cmの灰褐色(7.5YR-2/2)のブロックが多量に混じる。非常に軟質な土。粗い堆積。
⑩黒色粘質土(10YR-2/1)2cm程の灰褐色(7.5YR-2/2)のブロックが少量(5%)混じる。非常に軟質な土。
⑪黒褐色粘質土(10YR-2/2)1cm程の灰褐色(7.5YR-2/2)のブロックが多量(40%)混じる。軟質な土。シルトに近い。
⑫黒褐色粘質土(10YR-2/2)灰褐色粘質土(7.5YR-2/2)のブロックが混じる(40%)。5mm～2cm程の灰褐色(7.5YR-2/2)のブロックが混じる(40%)。
⑬黒褐色粘質土(10YR-2/2)1cm以下の灰褐色(7.5YR-2/2)黄褐色(10YR-5/3)のブロックが混じる(10%)。炭化物が少量混じる。
⑭黒褐色粘質土(10YR-2/2)黒色粘質土(10YR-2/1)混じる(10%)。1cm程の灰褐色(7.5YR-4/2)のブロックが大量に混じる(40%)。⑪層に類似。軟質な土。
⑮黒褐色粘質土(10YR-3/1)1cm程の灰褐色(7.5YR-2/2)のブロックが少量混じる(5%)。密に堆積。やや軟質な土。
⑯黒褐色粘質土(10YR-3/2)1cm～3cm程の灰褐色(7.5YR-2/2)のブロックが多量混じる(5%)。軟質な土。
⑰黒褐色粘質土(10YR-3/2)1cm程の灰褐色(7.5YR-2/2)のブロックが混じる。軟質な土。
⑱暗褐色粘質土(10YR-3/2)1cm程の黒色(10YR-2/1)のブロックが多量に混じる(40%)。ブロック状に堆積。やや軟質な土。
⑲黒褐色粘質土(10YR-3/2)1cm～3cm程の灰褐色(7.5YR-4/2)のブロックが多量に混じる(50%以上)。1cm～3cm程の黒褐色(10YR-2/2)黄褐色(10YR-5/8)のブロックが少量混じる(5%)。ブロック状に粗く堆積。やや軟質。棺を埋めるときの土。
⑳⑯層と同じ。黒褐色粘質土(10YR-2/2)が混じる。

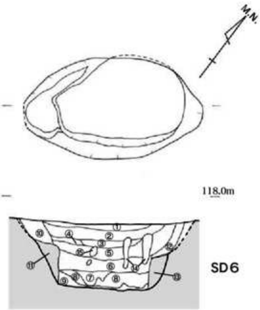


【土層注記】ＳＤ４

①黒褐色粘質土(10YR-2/2)黒褐色を呈し、若干灰色がある。砂粒を含むがキメが細かく、粘性はない。パラパラした感じである。トレンチャー跡である。
②黒褐色粘質土(10YR-2/2)を呈す。Ah3mmにぶい黄褐色の粒を少量含む。きめ細かいがしまりがなく、また粘性も低い。
③黒褐色粘質土(10YR-2/2)1cm程のにぶい黄褐色のブロックを多く含む。ややきめ細かいがしまりがなくやわらかい。粘性をもつ。
④黒褐色粘質土(10YR-2/2)ごくわずかのAh粒やにぶい黄褐色粒を含む。砂粒を含んで、ややキメが粗いが比較的よくしまっている。粘性がある
⑤黒褐色粘質土(10YR-2/2)④層とほぼ同じ。やや黒味が強い。若干きめが細かくまた柔らかい。
⑥黒色粘質土(10YR-2/1)Ah粒屑ブロックは含ない。きめが細かく粘性も低いため、しまりがなく、サラサラした感じである。
⑦黒褐色粘質土(10YR-2/2)暗褐色粒を含み、やや白っぽくみえる。きめが細かく、やや粘性をもち柔らかい。
⑧黒褐色粘質土(10YR-2/2)Ah粗や1cm大の暗褐色ブロックを少量含む。砂粒を含むがきめ細かい。粘性がありしまっている。
⑨黒褐色粘質土(10YR-3/2)暗褐色粒を多く含み白っぽく見える。きめが細かく粘性をもち、比較的よくしまっている。
⑩黒褐色粘質土(10YR-2/1)暗褐色5mm程のにぶい黄褐色ブロックを多く含む。そのほか3mm程のAh粒屑5mm大の黒色粒を多く含む。砂粒を含みややきめは粗い。ブロックが集まる部分は硬いものの、全体的にはしまりがない。
⑪黒褐色粘質土(10YR-2/2) 黒色土、2mm～3mmAh粒を多く含む若干砂粒を含みザラザラしている。粘性をもつが、しまりがなく柔らかい。また、1cm程の黒色粘質ブロックを含む。若柔らかい。
⑫黒色粘質土(10YR-2/1)Ah粒やいずれも小さい暗褐色をごくわずかに含む。きめが細かく、比較的粘性が弱く、よくしまっている。
⑬黒褐色粘質土(10YR-3/2)暗褐色土や砂や砂粒などは含まず、非常にきめが細かくて粘性も高い。地山と入り混じったような土である。
⑭黒褐色粘質土(10YR-2/2)若干の砂粒を含むがきめが細かく粘性も粗く、比較的よくしまっている。
⑮黒褐色粘質土(10YR-2/3)2mm～3mmを比較的多く含む、砂粒を含むがきめが細かく、粘性が高い。よくしまっている。

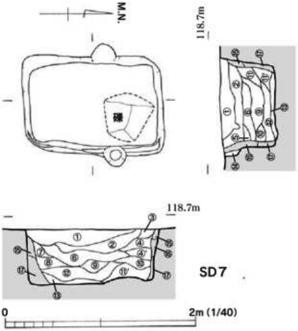
第59図　SD1・2・3・4実測図（1/40）





【土層注記】ＳＤ５
①黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm～5mmの褐色ブロックが混じる(10%)。やや硬質。
②黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm～5mmの褐色ブロックが混じる(7%)。やや硬質。①層より灰色を帯びる。
③黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm～5mmの褐色・黄褐色ブロックが混じる(3%)。軟質。
④黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm～5mmの褐色・黄褐色ブロックが混じる(40%)。やや軟質。やや粗い堆積。
⑤黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm～10mmの褐色(10%)・黄褐色ブロックが混じる(1%)混じる。やや軟質。やや粗い堆積。
⑥黒褐色粘質土(10YR-3/2)2mm～10mmの褐色(7%)黄褐色(2%)ブロックが混じる。やや軟質。
⑦黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm程の褐色混じる(2%)。軟質。
⑧黒褐色粘質土(10YR-2/2)2mm～2cmの褐色ブロックが混じる(10%)。2mmの黄褐色ブロックが混じる(2%)。軟質。やや粗い堆積。
⑨黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm～1cmの褐色ブロックが混じる(5%)。やや軟質。
⑩黒褐色粘質土(10YR-3/1)5mm程の褐色ブロックが混じる(2%)。やや硬質。
⑪黒褐色粘質土(10YR-2/2)2mm～1cmの褐色ブロックが混じる(40%)。軟質。やや粗い堆積。
⑫黒褐色粘質土(10YR-2/2)2mm～1cmの褐色ブロックが混じる(15%)。軟質。
⑬黒色粘質土(10YR-2/1)2mm～1cmの褐色ブロックが混じる(5%)。軟質。
⑭黒褐色粘質土(10YR-2/3)2mm～1cmの褐色ブロックが混じる(20%)。やや軟質。やや粗い堆積。
⑮黒色粘質土(10YR-2/1) 5mm～1cmの褐色ブロックが混じる(10%)。2mm程の黄褐色ブロックが混じる(1%)。やや軟質。
⑯黒褐色粘質土(10YR-2/3) 1mm～5mmの褐色ブロックが混じる(2%)。
⑰黒褐色粘質土(10YR-3/1) 1mm～5mmの褐色ブロックが混じる(2%)。
⑱黒褐色粘質土(10YR-3/2) 5mmの褐色ブロックが混じる(10%)。軟質。やや粗い堆積。
⑲黒褐色粘質土(10YR-2/1) 1mm～5mm(5%)・3cm(1%)の褐色ブロックが混じる。やや軟質。
⑳灰黄褐色粘質土(10YR-4/2)粘性が高く、シルトに近い。やや密に堆積。1cm程の褐色ブロックが混じる(1%)。上面から銭が出土。植上の土まいたものか。
㉑黒色粘質土(10YR-2/1) 5mm前後の褐色(15%)・黄褐色ブロックが混じる(2%)。
㉒黒色粘質土(10YR-2/1) 21層とほぼ同じだが1cm前後の褐色ブロックが混じる(10%)。

【土層注記】ＳＤ６
①黒褐色粘質土(10YR-3/2)若干灰色土が混ざり、粘性はあまりなく、きめが細かく柔らかい。
②黒褐色粘質土(10YR-2/2)①層と比べると黒色土の割合が高く、粘性はあまりなく、きめが細かく柔らかい。
③黒褐色粘質土(10YR-2/2)砂粒を含み、削るとシャリシャリ感が有り、やや硬くなる。
④黒色粘質土(10YR-1/2)柔らかくぼろぼろくずれてしまう。1cm～2cmの暗褐色土がブロック状に混ざっている。
⑤黒色粘質土(10YR-1/2)粘性はあまりなく、細かくて柔らかくサラサラした感じである。
⑥黒色粘質土(10YR-1/2)Ah粒を含み、若干砂粒を含み、細かく柔らかい。
⑦黒色粘質土(10YR-1/2)Ah粒を含み、やや粘性がありしまっている。
⑧黒色粘質土(10YR-1/2)黄褐色の1cm～5cmのAhブロックを含み、全体的には柔らかい。
⑨黒色粘質土(10YR-1/2)暗褐色土を多く含み非常にきめが細かで、粘性も高い。
⑩黒褐色粘質土(10YR-3/2)1cm～3cmの暗褐色土を含み、粘性は少なく、柔らかい。
⑪黒褐色粘質土(10YR-1/2)1mm～5mmのにぶい黄褐色のAhを若干含み、きめが細かく比較的よくしまっている。
⑫黒褐色粘質土(10YR-3/2)3mm～5mmのAh粒をわずかに含んでいる。きめが細かく柔らかい。
⑭黒褐色粘質土(10YR-3/2)にぶい黄褐色粒やブロックを含んでいる。粘性は少なく、よくしまっている。
⑮暗褐色粘質土(10YR-3/2)3mm～5mmのAh粒含み、やや粘性があり、柔らかい。



【土層注記】ＳＤ７
①黒褐色粘質土(10YR-2/2)3mm～5mmのAhブロックや2mm程の粒をわずかに含むやや硬質で若干きめが粗く、粘性は低く、ぱさぱさしている。
②黒褐色粘質土(10YR-2/2)1mm～2mmの粒状のAhを少量含み、にぶい黄褐色の粒を多く含む。きめが細かく粘性がやや高い。やや軟質。
③黒褐色粘質土(10YR-2/2)にぶい黄褐色土を粒状に含み、②層と類似しているが、比較的硬くしまっている。
④暗褐色粘質土(10YR-3/2)褐色土とわずかに黒褐色土を含む。きめが細かいがしまりがなく、軟質である。粘性は低い。
④′暗褐色粘質土(10YR-3/2)④層よりも褐色が強く、また、ブロックが集まってきた感じで、しまりがなくボロボロしている
⑤黒色粘質土(10YR-2/1)1mm～2mm黄褐色土の粒を含むのみで、他はほとんど混じりがない。きめが細かくて粘性は低く、シャリシャリ感がある。しまりがなく軟質である。
⑥黒褐色粘質土(10YR-2/2)1mm～2mm程のにぶい黄褐色土の粒を少量含む。キメは細かく粘性は高い。②層と類似しているが比較的しまっている。
⑦黒褐色粘質土(10YR-2/2)1mm程のにぶい黄褐色や暗褐色の粒を少量含み、また、それと混じりあったような黄色味が強くなっている。キメが細かく粘性が高いがしまりがなく軟質である
⑧黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土粒をごくわずかに含む。若干砂粒を含むものキメが細かく粘性も高い。やや軟質。
⑨黒色粘質土(10YR-2/1)1mm～2mmの黄褐色粒を含む非常にキメが細かくよくしまっているが、粘性は低くシャリシャリ感がある。
⑩黒色粘質土(10YR-2/1)5mm～7mm角のAhや2mm～3mmの黄褐色土を少量含む。キメが細かく、しまっている。粘性は低い。
⑪黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm角のAhをわずかに、1mm～2mmの黄褐色土を粒状に多く含んでいる。キメが細かく粘性も高い。比較的よくしまっている。
⑪′黒褐色粘質土(10YR-2/2)⑪層に類似しているがしまりがなくぼろぼろしている。また、ブロックや粒に混じりも少ない。
⑫黄褐色土粒をごくわずかに含むほか、ほとんど混じりがない。キメが細かく、非常に粘性が高く、比較的よくしまっている。
⑬黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm～10mm黄褐色土のブロックを少量含む。キメ細かいがしまりがなく軟質である。粘性が高い。
⑭黒色粘質土(10YR-2/1)全く混じりがない。キメ細かく粘性は高い。よくしまっている。
⑮黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm～2mmをごくわずかに含む。キメが細かく、粘性は低い、よくしまっている。
⑯暗褐色粘質土(10YR-3/3)にぶい黄褐色土を含み、④層や⑪層に類似、キメ細かく、しまっている粘性は低い。
⑰黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土のブロックまたは粒を多く含む、キメ粘性が粘性が高い。あまりしまりがなく軟質である。

第60図　SD５・６・７実測図（1/40）

ＳＤ８（第６・61図）

平面形は長方形を呈し、上面160×110cm、底面150×113cm、深さ70cmで、主軸方向はN-25°-Wである。底面はやや平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。ＳＤ９・10を切っている。

墓内に人骨は遺存していない。「寛永通寶」１枚、土器片５点が出土している。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ９（第６・61図）

平面形は長方形を呈し、上面153×120cm、底面145×105cm、深さ50cmで、主軸方向はN-19°-Wである。底面は平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。ＳＤ８に切られているが、ＳＤ10との先後関係は明らかではない。

墓内に人骨は遺存していないが、土師器片が出土した。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ10（第６・61図）

平面形は長方形を呈し、上面150＋α×105cm、底面150＋α×100cm、深さ65cmで、主軸方向はN-24°-Wである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは四面ともほぼ垂直に立ち上がる。ＳＤ８に切られている。墓内に人骨は遺存していない。土器片５点、中国産青花片１点が出土した。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ11（第６・62図）

平面形は長方形を呈し、上面153×105cm、底面135×93cm、深さ50cmで、主軸方向はN-13°-Wである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは四面ともやや急である。墓内に人骨は遺存していない。陶磁器片２点、土器片６点、「寛永通寶」１枚が出土している。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ12（第６・62図）

平面形は正方形を呈し、上面105×105cm、底面103×95cm、深さ50cmで、主軸方位はN-10°-Wである。墓内に人骨は遺存していない。磁器片１点、土器片４点、「寛永通寶」２枚が出土している。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ13（第61図）

ＳＤ12に切られるため、平面形は不明。上面70＋α×120cm、底面70＋α×107cm、深さ55cmで、主軸方位はN-10°-Wである。

墓内に人骨は遺存しない。棺の形跡が確認できた。

ＳＤ14（第６・62・63図）

平面形は長方形を呈し、上面140×90cm、底面120×69cm、深さ45cmで、主軸方位はN-24°-Wである。底面はほぼ平坦で、壁は北・西側は比較的緩やかで、南・東側はやや急に立ち上がる。

墓内に人骨は遺存していない。土器片６点、「寛永通寶」11枚が出土したが、うち５枚が鉄銭であった(第77図207～209)。また陶器片１点が出土している。棺の形跡が確認できた。鉄銭から近世後半の土坑墓と考えられる。

ＳＤ15（第６・62・63図）

ＳＣ５・ＳＥ３との切り合いで平面形は明らかにしがたいが、およそ正方形を呈し、上面100×90？cm、底面80×80？cm、深さ30cmで、主軸方位はN-90°-Eである。墓内に人骨は遺存していない。「寛永通寶」６枚（第77図210)、土器小片３点が出土している。棺の形跡が確認できた。

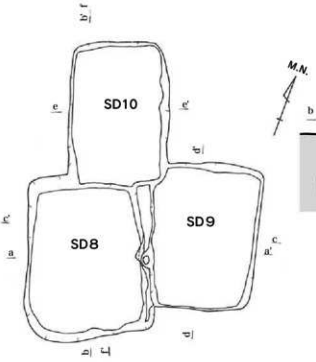
ＳＤ16（第８・64図）

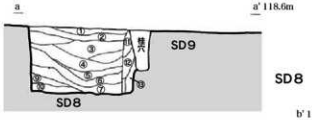
平面形は隅丸方形を呈し、上面135×65cm、底面78×50cm、深さ30cmで、主軸はN-26°-Wをとる。底面は平坦で、壁は四面とも緩やかだが、南側が特に緩やかに立ち上がる。

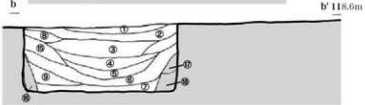
墓内に人骨は遺存していないが、北西隅に床面からやや浮いた状態で土師器が３点出土した。出土状況から埋葬時に棺上へ置いたものと考えられる。

84は杯で体部内外面に顕著な調整痕が認められ、底部は右回転ヘラ切り痕と工具によるハケメ状の調整痕を残している。

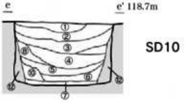
他の２点は小皿で法量がほぼ等しい。底部は85が右回転ヘラ切り痕とハケメ状の調整痕が確認でき、86はヘラ切りではあるが器面の剥落などにより詳細不明。86にはタール状の油煙が付着する。

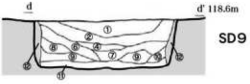


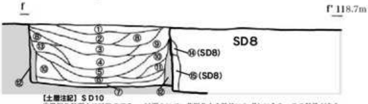




【土層注記】ＳＤ8
①黒褐色粘質土(10YR-2/2)2mm程のにぶい黄褐色の粒をわずかに含み、よくしまっている。
②黒褐色粘質土(10YR-2/2)3mm程のAhを含み、にぶい黄褐色のブロックをまばらに含んでいてキメが細かい。
③黒褐色粘質土(10YR-2/3)1mm～2mmのにぶい黄褐色を粒状に含み、黒色のブロックをわずかに含み粘性が低く柔らかい。
④黒褐色粘質土(10YR-2/3)1mm程のAh粒とにぶい黄褐色を③層よりも多く含んでおり、やや粘性があるが、柔らかい。
⑤黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm程のAhブロックをわずかに含み、にぶい黄褐色を多く含んでおり、やや粘性があるが、柔らかい。
⑥黒色粘質土(10YR-2/1)1cm程の黄褐色土のブロックとにぶい黄褐色とも多く含み、粘性があるが、柔らかい。
⑦黒色粘質土(10YR-2/1)Ahのブロックと粒を多く含み、粘性のあるにぶい黄褐色土が混ざっており粘性があるがしまりはない。
⑧黒褐色粘質土(10YR-2/3)3mm程のAhブロックの粒を多く含み粘性はなく、キメが細かい。
⑨黒色粘質土(10YR-2/1)黒色土のブロックAhブロック、粘性のある黄褐色土が入り混ざった状態であり、柔らかい。
⑩黒褐色粘質土(10YR-2/2)地山の粘性のある褐色土と黒褐色とAhが入り混じった状態であり、粘性がややあり柔らかい。
⑪黒褐色粘質土(10YR-2/2)柔らかい黒褐色土に中に、1cm～5cmにぶい黄褐色土の粒を含んでいる。やや粘性があり、柔らかい。
⑫黒褐色粘質土(10YR-2/2)粘性のあるにぶい黄褐色を多く含み、全体的に粘性がありしまっている。
⑬褐色粘質土(10YR-4/4)粘性のある褐色土の中に、黒褐色がブロック状に入っており、粘性がありしまっている。
⑭褐色粘質土(10YR-4/4)粘性の強い褐色土で、キメが細かくよくしまっている。
⑮黒褐色粘質土(10YR-2/2)1cm～2cmのにぶい黄褐色のブロックと黒色土のブロックを含み、やや粘性があり柔らかい。
⑯黒褐色粘質土(10YR-2/2)3cm程のAhのブロックと5mm程のにぶい黄褐色の粒を含んでおり、粘性があまりない。
⑰黒色粘質土(10YR-2/1)硬くしまっているいる黒色土の中にAhの粒と3cm程のにぶい黄褐色のブロックを含んでおり、やや粘性がありしまっている。



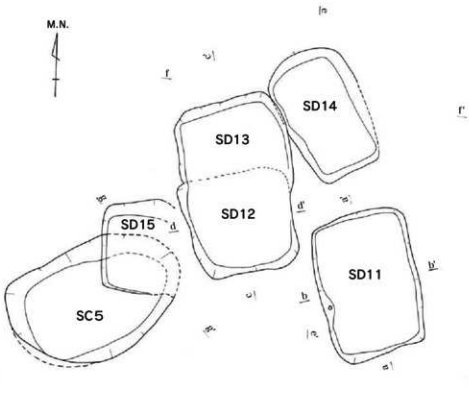


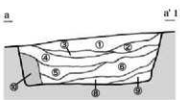


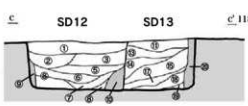
【土層注記】ＳＤ9
①Ahや5mm程のにぶい黄褐色のブロックを少量含む。キメが細かくザラザラしておず、粘性は低く、よくしまっている。
②黒褐色粘質土(10YR-2/2)1mm～5mm角のAhやにぶい黄褐色のブロックを含む(20%)。①層よりキメが細かいがしまりがなくまた粘性も低
③黒色粘質土(10YR-2/1)5mm程のをAhを少量含む(7%)。キメが細かく、やや粘性があり、よくしまっている。
④黒褐色粘質土(10YR-2/2)Ahや2mm～3mmのにぶい黄褐色をわずかに含む(3%)。キメが細かく、やや粘性があり、しまっている。
⑤黒褐色粘質土(10YR-2/3)1mm～2mmのAhブロックを少量含む(7%)。キメが細かく粘性が高く、しまっている。
⑥黒色粘質土(10YR-2/1)Ahやにぶい黄褐色(2mm～3mm・1cm～2cm)を少量含む。ややキメが粗くザラザラしており粘性をもつ、しまりは弱く軟質である。
⑦黒褐色粘質土(10YR-2/2)1mm～2mmのにぶい黄褐色の細かい粒を含む(40%)。ややキメが粗く、また粘性高い、しまりが弱く、軟質である
⑨黒色粘質土(10YR-2/1)Ahや2mm～3mmのにぶい黄褐色を少量含む(5%)。キメが細かく、やや粘性をもつ、しまりが弱く軟質である。
⑩黒色粘質土(10YR-2/1)1mm～2mmの少量含む(15%)。キメはやや粗く、粘性は高い、しまりは弱く、軟質である。
⑪黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm角のAhや1mm～2mmの細かなにぶい黄褐色を少量含む(25%)。キメが細かく粘性が高い、比較的よくしまっている。
⑫黒褐色粘質土(10YR-2/2)Ahや1mm～2mmのにぶい黄褐色粒をわずかに含む(5%)。キメが細かく粘性が高いが、ボロボロした感がある。しまりが弱く、軟質である。

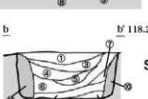
【土層注記】ＳＤ10
①黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm以下のにぶい黄褐色土を粒状にわずかに含み、やや粘性があり、よくしまっている。
②黒褐色粘質土(10YR-2/2)1cm～3cmのAhブロックと5mm以下のにぶい黄褐色を粒状に、①層よりも多く含み、キメが細かいがしまりはない
③黒褐色粘質土(10YR-2/3)Ahと1cm以下のにぶい黄褐色を多く含み、また、1cm～2cmの黒色土をわずかに含み、やや粘性はあるが柔らかい
④黒褐色粘質土(10YR-2/3)1cm以上のAhブロックと1cm～5cmのにぶい黄褐色土のブロックを多く含み、黒色土のブロックが多くなり、粘性が少なく柔らかい。
⑤黒褐色粘質土(10YR-3/2)3cm～5cmの黒色土のブロックの割合が高くなりAhとにぶい黄褐色土も非常に多く含んでいる。粘性はあまりなくボロボロと柔らかい。
⑥黒褐色粘質土(10YR-2/2)⑤層と比べると極端にAhのブロックの量、大きさとも少なくなる。Ahとにぶい黄褐色土の粒をわずかに含み、やや粘性があり、しまりがある。
⑦黒褐色粘質土(10YR-2/2)粘性のあるにぶい黄褐色のブロックを含み、全体的に粘性があり、しまりがある。
⑧黒褐色粘質土(10YR-2/2)1cm～5cmやや大きめのにぶい黄褐色土のブロックを非常に多く含み、やや粘性があり、よくしまっている。
⑨黒褐色粘質土(10YR-2/2)Ahと5mm以下のにぶい黄褐色土を含みやや粘性はあるが、柔らかい。
⑩黒褐色粘質土(10YR-3/2)Ahの粒とにぶい黄褐色土、1cm～5cmの黒色土を多く含んでおり、やや粘性があり、しまっている。
⑪黒褐色粘質土(10YR-3/2)Ahのブロックを多く含み、3cm～5cmの黒色土のブロックを含んでおり、粘性があり、しまっている。
⑫黒褐色粘質土(10YR-2/2)にぶい黄褐色、Ahや黒色土が入り混じっている状態で粘性がありよくしまっている。
⑬黒褐色粘質土(10YR-3/2)粘性のあるにぶい黄褐色土のブロックときめ細かい黒色土を多く含み、粘性があり、よくしまっている。
⑭黒褐色土(10YR-2/2)アカホヤの粒とにぶい黄褐色土がわずかにいっており、粘性はなく硬くしまっている
⑮黒褐色土(10YR-2/2)いぶい黄褐色土と黒色土のブロック、アカホヤが入り混じって、粘性がありよくしまっている。

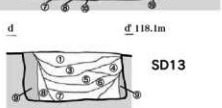
第61図　SD8・9・10実測図（1/40）







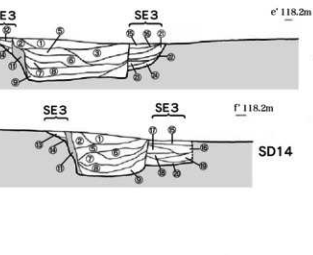




【土層注記】SD11
①黒褐色粘質土(10YR-3.5/1)2mm～10mmの褐色のブロックが混じる。粘性が低い。やや軟質。
②黒褐色粘質土(10YR-3.5/1)土層に類似。やや褐色ブロックが多い。(5%)
③黒褐色粘質土(10YR-3.5/1)土層と類似。やや黒色を帯びる。
④黒色粘質土(10YR-2/1.5)2mm～2cmの褐色(1%黄褐色(2%))のブロックが混じる。大きいブロックが目立つ。密に体積。シルトに近い。
⑤黒色粘質土(10YR-2/1.5)土層に類似。ブロックがやや少ない。やや黒色を帯びる
⑥黒褐色粘質土(10YR-3/1)1mm～2mm(15%)・1cm～2cm(5%)の褐色のブロックが混じる。軟質。やや密に堆積。
⑦黒褐色粘質土(10YR-3/1)⑤同様に類似。ブロックが少ない。(5%)
⑧黒褐色粘質土(10YR-3/1.5)5mm～10mmの褐色ブロックが混じる(7%)。2cm程の黒色ブロックが混じる(1%)。シルトに近い。やや密に堆積
⑨黒褐色粘質土(10YR-3/1)1mm～5mmの褐色のブロックが混じる。(25%)2cm程の黒色ブロックが混じる。軟質。ブロック状に堆積。
⑩黒色粘質土(10YR-2.5/1)1cm～4cmの褐色、黄褐色、黒色ブロックが混じる(50%)。ブロック土の堆積。硬質で密に堆積。

【土層注記】SD12・13
①黒褐色粘質土(10YR-3/1)2mm～2cmの褐色ブロックが混じる(2%)。硬質。粘性低い。
②黒褐色粘質土(10YR-3/1)土層に類似。2cm程の黒色ブロックの量がやや多い(5%)。
③黒褐色粘質土(2.5YR-3/2)5mmの褐色のブロックが混じる(5%)。粘性低い。ルトに近い。やや硬質。
④黒褐色粘質土(2.5YR-3/2)③同様に類似。ややブロックが多い(7%)。
⑤黒褐色粘質土(2.5Y-3/1.5)2mm～10mmの褐色のブロックが混じる(7%)。
⑥赤褐色粘質土(2.5Y-3/1.5)⑤同様に類似。黒色ブロックの量がやや多く(7%)、大きい(2cm～4cm)。
⑦黒色粘質土(10YR-2/1.5)5mm程の褐色ブロックが混じる(3%)。シルトに近い。密に堆積。やや軟質。
⑧黒褐色粘質土(10YR-2.5/1)1cm～3cmの褐色、黒色、暗褐色ブロックが混じる(50%以上)。ブロック土の堆積。やや硬質。非層の崩落したものか。
⑨黒褐色粘質土(10YR-2.5/1)⑧同様に類似。⑧層よりも硬質。
⑩黒褐色粘質土(10YR-3/1.5)2mm～5mmの褐色ブロックが混じる(7%)。硬質。シルトに近い。
⑪黒色粘質土(2.5Y-2.5/1)5mm～10mmの褐色ブロックが混じる(15%)。やや灰色を帯びる。粘性が低い。やや硬質。光沢をもつ。
⑫黒色粘質土(2.5Y-2.5/1)5mm～3cmの褐色ブロックが混じる(40%)。硬質。
⑬黒褐色粘質土(10YR-3/2)5mmの褐色ブロックが混じる(3%)。やや灰色を帯び、光沢をもつ。やや軟質。
⑭黒褐色粘質土(10YR-3/2)⑬同様と類似。やや黒色を帯びる。
⑮黒褐色粘質土(10YR-2.5/1)3cm～2cmの褐色ブロックが混じる(50%以上)。1cm程の黒色ブロックが混じる(5%)。ブロック土の堆積。硬質。
⑯黒褐色粘質土(10YR-2.5/1)⑮同様と類似。やや黄色を帯びる。
⑰黒色粘質土(10YR-2/1)2mm～5mmの褐色ブロックが混じる(3%)。シルトに近い。軟質。密に堆積。
⑱黒褐色粘質土(10YR-2/1)1cm～3cmの褐色ブロックが混じる(30%)。1cm程の黒色ブロックが混じる。ブロック土の堆積。硬質。
⑲黒色粘質土(10YR-1.7/1)褐色ブロックが混じる(5%)。硬質。粘性高い。シルトに近い。有機質の層。
⑳黒褐色粘質土(1.25Y-3/2)1～2cmの褐色、黒色、暗褐色ブロックが混じる(50%以上)。ブロック土の体積。硬質。

第62図　SC5・SD11・12・13・14・15実測図 (1/40)



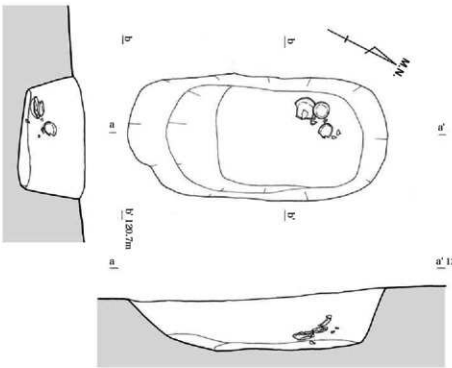
【土層注記】SD14
①黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)2mm～10mmの褐色ブロックが混じる(10%)。軟質。
②黒褐色粘質土(2.5Y-2.5/1)1層に類似。ブロックがやや小。(20%)
③黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)2mm～5mmの褐色ブロックが混じる。(10%)軟質。
④黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)3層に類似。ブロックがやや多い(15%)。軟質。
⑤黒褐色粘質土(10YR-3/1)2mm～5mm程の褐色ブロックが混じる(3%)。やや硬質。やや密に堆積。
⑥黒褐色粘質土(10YR-3/1)3層に類似。ブロックがやや多い。(5%)。やや硬質。やや密に堆積。
⑦黒褐色粘質土(2.5Y-3/1.5)2mm～5mm程の褐色ブロックが混じる(15%)。やや軟質。やや密に堆積。
⑧黒褐色粘質土(2.5Y-2.5/1)7層にやや類似。やや軟質。やや密に堆積。
⑨黒褐色粘質土(2.5Y-2.5/1)3mm～5mmの褐色ブロックが混じる(15%)。やや硬質。3cm程の黒色ブロックが混じる(10%)。
⑩黒褐色粘質土(5.75Y-3/1)1mm～3mmの褐色のブロックが混じる(10%)。やや硬質。
⑪黒褐色粘質土(10YR-2.5/1)5mmの褐色ブロックが混じる(30%)。やや硬質。
SE3部分
⑫黄灰色粘質土(2.5Y-3.5/1)1cm程の褐色ブロックが混じる(20%)。やや硬質。
⑬黄灰色粘質土(2.5Y-3.5/1)5mm程の褐色ブロックが混じる(20%)。やや軟質。やや粘い堆積。
⑭黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)2mm～1cmの褐色ブロックが混じる。(30%)やや硬質。やや粘い堆積。
⑮黒褐色粘質土(1.25Y-2.5/2)3mm程の褐色(2%)、黄褐色(1%)のブロックが混じる。粘性が強い。やや軟質
⑯黒褐色粘質土(1.25Y-2.5/2)⑮粘に類似。やや黒色を帯びる。やや硬質。粘性が強い。
⑰黒褐色粘質土(2.5Y-2.5/1)2mm～5mmの褐色のブロックが混じる(7%)。やや硬質。粘性強い。
⑱黒褐色粘質土(2.5Y-2.5/1)②粘に類似。ややブロックが多い(10%)。やや硬質。粘性低い。
⑲黒褐色粘質土(2.5Y-2.5/1)⑱粘に類似。やや黒色を帯びる。やや硬質。粘性が強い。
⑳黒褐色粘質土(2.5Y-3/1.5)2mm～5mmの褐色のブロックが混じる。やや硬質。粘性低い。
㉑黒色粘質土(10YR-2.5/1)4mm～3mmの褐色(1%)、黄褐色(1%)のブロックが混じる。粘性高く、シルトに近い。やや硬質
㉒黒色粘質土(10YR-2.5/1)21層に類似。やや灰色を帯びる。
㉓黒褐色粘質土(10YR-2.5/1)2mm～3mmの褐色ブロックが混じる(20%)。やや軟質。粘性低く、シルトに近い。
㉔黒褐色粘質土(10YR-2.5/1)23層に類似。ややブロックが多い(25%)。

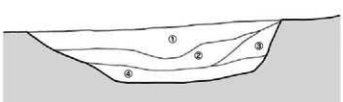
【土層注記】SD15
①黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm～5mm程の褐色ブロックが混じる。(3%)。硬質。密に堆積。
②黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)2mm程の褐色ブロックが混じる。(7%)。硬質
③黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)②粘と類似。5mm程のブロックが混じる。(1%)。
④黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)5mmの褐色ブロックが混じる(10%)。やや軟質。シルトに近い。やや密に堆積。
⑤黒褐色粘質土(2.5Y-3/2.5)5mmの褐色ブロックが混じる(15%)。やや粘い堆積。やや硬質。
⑥黒褐色粘質土(10YR-2.5/2)5mm程の黄褐色ブロックが混じる(10%)。やや粘い堆積。やや硬質。
⑦黒褐色粘質土(2.5Y-3/1.5)2mm～5mmの褐色ブロックが混じる(15%)。やや軟質。
⑧黒褐色粘質土(2.5Y-3/1.5)⑦粘に類似。ややブロックが多い(7%)。
⑨黒褐色粘質土(10YR-2.5/2)0.5mm程の褐色ブロックが混じる(5%)。
⑩褐色ブロック土
⑪黒褐色粘質土(10YR-2.5/2)⑨粘に類似。やや茶粘より黒色を帯びる。
⑫黒褐色粘質土(1.25Y-3/1)3mm程の褐色ブロックが混じる(5%)。非常に硬質
SE3部分
⑬黒色粘質土(1.25Y-2/1)4mm程の褐色ブロックが混じる(3%)。やや軟質。シルトに近い。やや光沢をもつ。
⑭黒色粘質土(1.25Y-2/1)⑬粘に類似。やや黒色を帯びる。
⑮黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)2mm程の褐色ブロックが混じる(20%)。軟質。
⑯黒色粘質土(10YR-2/1)2mm～4mmの褐色ブロックが混じる(7%)。やや軟質。
⑰黒色粘質土(2.5Y-2.5/1)1mmほどの褐色ブロックが混じる(20%)。やや軟質。
⑱黒色粘質土(2.5Y-2.5/1)⑰粘に類似。ややブロックが多い(25%)。
⑲黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)1mm～3mmの褐色ブロックが混じる(10%)。やや硬質。わずかに斑鉄が混じる。シルトに近い。
⑳黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)⑲粘に類似。ややブロックが多い。

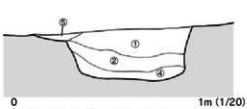
第63図　SD14・15実測図②（1/40）

番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平　面　形	平面形	棺の痕跡	出　土　遺　物
1	175	115	45	長方形	近世	有	土器片２点
2	145	105	55	長方形	近世	有	鉄釘４点、寛永通寶３枚、
3	155	110	44	長方形	近世	有	寛永通寶８枚、鉄釘１点、銅製棒１点
4	155	123	44	長方形	近世	有	土器片２点、銅製棒１点
5	125	95	65	長方形	近世	有	金属片１点、寛永通寶７枚(内鉄銭２枚)
6	185	105	70	長楕円形	近世	有	なし
7	145	100	60	長方形	近世	有	なし
8	160	110	70	長方形	近世	有	寛永通寶１枚、土器片５点
9	153	120	50	長方形	近世	有	土器片
10	150＋α	105	65	長方形	近世	有	中国産青花１点、土器片５点
11	153	105	50	長方形	近世	有	陶磁器片２点、土器片６点、寛永通寶１枚
12	105	105	50	正方形	近世	有	磁器片１点、土器片４点、寛永通寶２枚
13	70＋α	120	55	正方形	近世	有	なし
14	140	90	45	長方形	近世	有	土器片６点、寛永通寶11枚(内５枚鉄銭)、陶器片１点
15	100	90?	30	正方形	近世	有	寛永通寶６枚、土器片３点
16	135	65	30	隅丸方形	中世	無	土師器杯１点・小皿２点

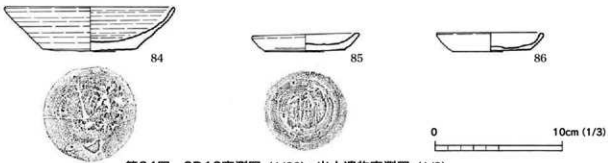
第７表　土坑墓一覧表







【土層注記】SD16
①黒色粘質土(10YR-2/1.5)3mm程の明褐色がブロックが混じる(5%)、やや硬質で密に堆積。
②黒色粘質土(10YR-2/1)1mm程の明褐色ブロックが混じる(1%)、やや硬質で密に堆積。キメが細かく、シルトに近い。土器片が混じる。
③黒褐色粘質土(10YR-2.5/1)5mm程の明褐色ブロックが混じる(1%)、やや硬質で密に堆積。キメが細かく、シルトに近い。
④黒褐色粘質土(10YR-2.5/1)5mm程の明褐色ブロック(ASO-8)が混じる(3%)、やや硬質で密に堆積。キメが細かく、シルトに近い。
⑤黒色粘質土(10YR-2/2)1mm程の明褐色がブロックが混じる。



第64図　SD16実測図（1/20）・出土遺物実測図（1/3）

⑤道路状遺構

ＳＧ１（第７・65・66図）

Ｃ区西側で検出した側溝と明瞭な硬化層を有する道路状遺構である。地山を掘り下げて構築されており、調査区南東から緩やかに蛇行して北西方向の調査区外へ延びていた。路面は北西から南東へわずかに下る。長さは調査区内だけでも約60mを測る。戦後も土地改良が行われる昭和38年までは使用されていたという（地元古老談）。南東方向へ続く道は現在も住民の生活道として使用されている。

東側には側溝があり、西側にも浅い側溝らしき形跡が見られた。道の幅員は2.0～2.4m、掘込みの深さは0.3m前後であった。東側の側溝を含めると、３m前後の幅になる。側溝の幅は約0.8mで、掘込みは路面のレベルよりも0.3～0.4m深い。断面でみると、道路部分は箱形だが側溝はＵ字形を呈している。礫混じりの土を幾重にも突き固めた堅固な造りで、路面は部分的に凹凸があるものの良好な状態を保っており、轍の痕跡がわずかに見られた。

遺物は中世の中国産青磁（第73図131）・白磁（第73図132）、国産陶器（第73図133・134）、近世の陶磁器（第73図135・136）などが出土している。遺物はこの他にも中・近世の陶磁器類が400点以上、近・現代の陶磁器類も300点以上出土していることなどから、中世から現代に至るまで使用されていたと推察される。

さらに、Ｃ区中央部Ｉ-８グリッドに位置している石積遺構がＳＧ１の路面上に造られている。

ＳＧ２（第７・65・66・67図）

Ｃ区の西側を南東から北西にかけて走っている。南東端は削平されて残存していないが、北西方向はＣ区の調査区境までＳＧ１と並行する。路面は北西から南東へわずかに下る。道路状遺構と思われるが、30cm大の礫から数cm大の小礫までが敷き詰められた路面は平坦ではない。一部で攪乱により削られているが約30mにわたり敷かれていた。幅員は1.1～1.5mを測る。これらの礫を取り除くと硬化面が現れ、その下からは直径約30～50cm程度の円形や楕円形をしたピットが切り合った状態で170基以上検出された。いわゆる波板状凹凸面と判断される。埋土は黒褐色で硬くしまっており、小礫や土器の小片が多量に混じっていた。これらを完掘すると深さ0.1m程度の薄い皿状のピットとなった。

出土遺物として磨製石斧（第10図19）、弥生時代から古墳時代の土器（第12図64～65・73～74・77）、中世の中国産白磁（第73図137）、国産陶器（第73図138）や、近世陶磁器(第73図140・141)、磨石（第78図231）・砥石（第79図244・第80図249）火打石（第82図262・264・270）がある。

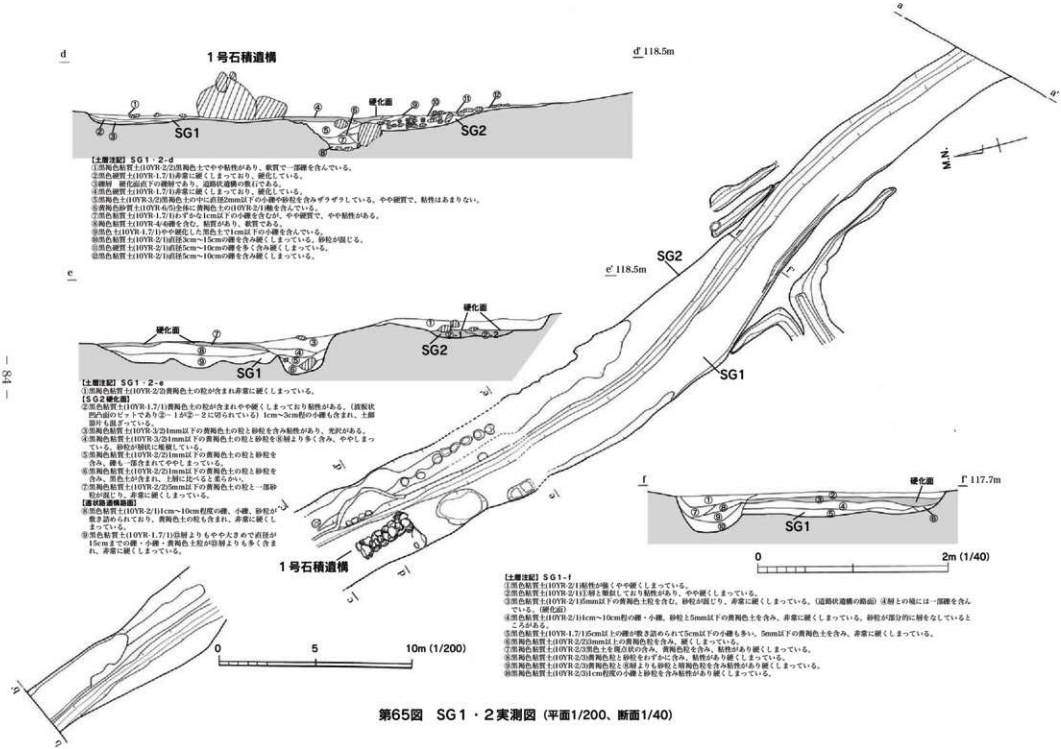
ＳＧ２はピット内の遺物から判断すると、ＳＧ１に先立つ道路状遺構と推察される。またピットの状況からは２～３条の切り合いも想定できるが、個々の判別がつかない。波板状凹凸面の評価については諸説があるが、ここでは道路の舗装部分を安定させるために人為的に穴を掘り、路床部分を入念に填圧したものと考えておきたい。

ＳＧ３（第８・68図）

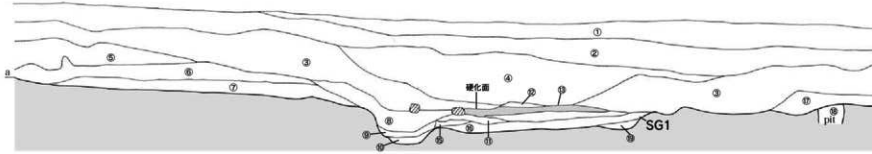
Ｄ区西縁の壁に沿い北東から南西に走っている。波板状凹凸面を有する道路状遺構である。検出部分の長さは16.5mで、北東部分は削平され残存しない。南西方向は調査区外へと延びている可能性がある。ＳＥ30に切られた南西端には硬化層が見られた。ピットは80基以上検出され、形状は円・楕円・瓢箪形など様々である。最大のピットは長径1.4m、短径0.4m、深さ0.3mで瓢箪形を呈する。埋土は明褐色ロームブロックが混じり、硬質で細砂が多く小礫も含む。Ｃ区で検出したＳＧ２ではピットの中に土器小片が混じるものがあったが、ＳＧ３では見られなかった。深さも0.1m以上のものが多い。やはりピットの状況から２～３条の切り合いがあると思われるが、明確には判別できない。

この遺構の波板状凹凸面はＣ区ＳＧ２で見られたものの形成過程とはやや異なり、牛馬や人々の往来によってできた凹凸を補修するため人為的に土砂を充填したものと推察される。

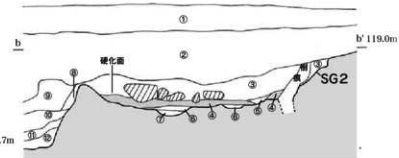
遺物としては中国産青磁（第73図142）・白磁、国産陶器片などが出土していることから、中世の遺構と推定される。

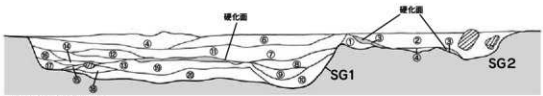


第65図　SG1・2実測図（平面1/200、断面1/40）



【土層注記】SG1-a
①耕作土
②耕作土
③黒色粘質土(10YR-2/1)粘性がやや強くきめが細かい。
④礫土
⑤黒色粘質土(10YR-2/1)粘性はややあるが、柔らかくくずれやすい。
⑥黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土のブロックを50%以上含む。やや粘性があるが柔らかい。
⑦黒色粘質土(10YR-1.7/1)粘性が強く、きめ細かい土で、シルト質である。
⑧黒褐色粘質土(10YR-2/2)粘性が強く、やや硬くしまっており、光沢がある。
⑨黒褐色粘質土(10YR-3/2)5mm以下の黄褐色粒と砂粒を含んでいる。粘性が強く、やや硬くなっており、光沢がある。
⑩黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm以下の明黄褐色粒と砂粒が微に粘状に入っている。黒色土を含み、粘性があり、やや硬くしまっている。
⑪黄褐色砂質土(10YR-6/3)砂粒や小礫が硬くしまった状態で堆積している。
⑫黒褐色粘質土(10YR-2/2)粘性が強くやや硬くしまっており光沢がある。
⑬黒褐色粘質土(10YR-3/2)5mm以下の黄褐色土・砂粒が微じり非常に硬くしまっている。(道路状遺構の路面) 谷層との境には一部礫を含んでいる。
⑭黒色粘質土(10YR-2/1)1cm～10cm程の礫と小礫、5mm以下の砂粒・黄褐色土を含み、非常に硬くしまっている。部分的に砂粒が層をなしている部分も見られる。
⑮黒色粘質土(10YR-2/1)谷層と類似している。1cm～10cmの礫を含み非常に硬くしまっている。
⑯黒色粘質土(10YR-2/1)1cm～10cm程の礫・小礫・砂粒、1mm以下の細かい黄褐色土を含み非常に硬くしまっている。
⑰黒色粘質土(10YR-1.7/1)1mm～1cm程度の明褐色土を含み、やや粘質があり柔らかい。
⑱黒色粘質土(10YR-2/1)粘性がやや強く、きめ細かい土、シルト質である。
⑲黒褐色粘質土(10YR-2/2)3mm以下の黄褐色粒を含み、硬くしまっている。

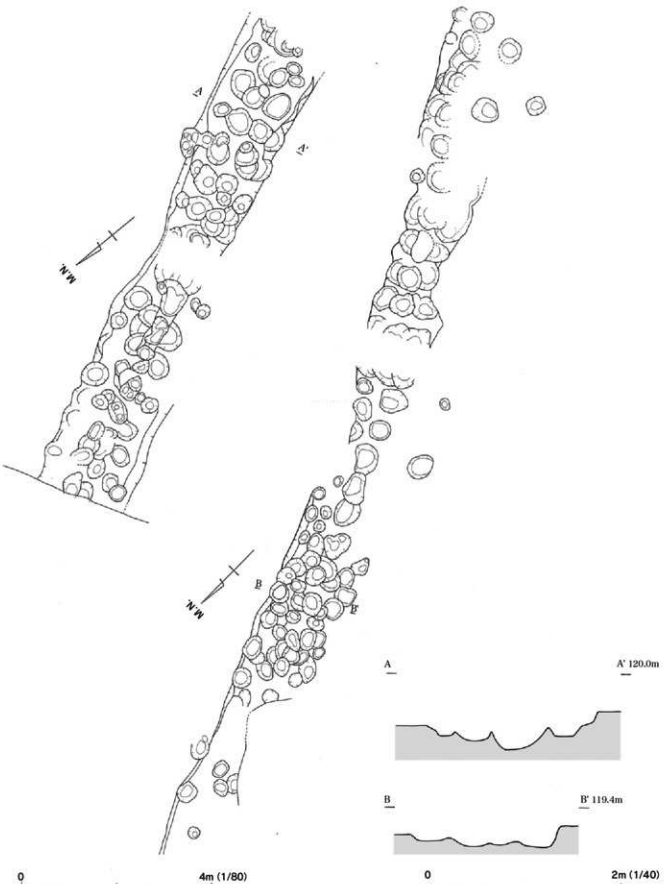




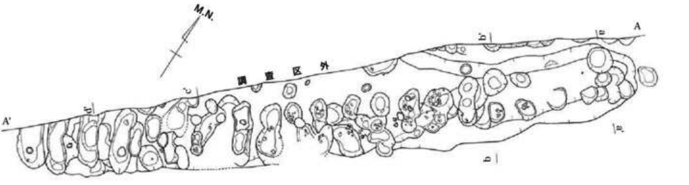
【土層注記】SG1・SG2-c
①黒色粘質土(10YR-1.7/1)粘性がありきめ細やかで、シルト質。②層と同じ
②黒色粘質土(10YR-2/1)粘性がやや強く、キメが細かい。
③黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土の粒が含まれ、非常に硬くしまっている。【SG2の道路状遺構の硬化面】
④黒色粘質土(10YR-1.7/1)黄褐色土の粒が含まれ、やや硬くしまっており粘性がある。直径3cm程の礫が含まれている。遺構(西面ではない)
⑤黒褐色粘質土(10YR-2/2)黒色土がブロック状に含まれるが、谷層より少ない。粘性があり硬くしまっており、光沢がある。
⑥黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土の粒が含まれ、砂粒も含まれ、やや粘性がありしまっている。
⑦黒褐色粘質土(10YR-2/2)黒色土が一部層状に堆積しており、硬くしまって粘性が強い。
⑧黒褐色粘質土(10YR-2/2)粘性があり、きめ細やかでシルト質である。
⑨黒色粘質土(10YR-2/1)黄褐色土の粒と明褐色土を含み、粘性が強く、硬くしまっている。
⑩黒褐色粘質土(10YR-2/3)黄褐色土の粒と1cm以下の小礫、砂粒を含み粘性が強く硬くしまっている。
⑪黒褐色粘質土(10YR-2/3)黄褐色土の粒が含まれ非常に硬くしまっている。【道路状遺構の硬化面】
⑫黒褐色粘質土(10YR-2/2)黒色土と砂粒が層状に堆積している。
⑬黒色粘質土(10YR-2/1)粘性がありきめ細かで、シルト質である。
⑭黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)黄褐色土の粒が含まれ、硬くしまっている。
⑮黒褐色粘質土(7.5YR-2/2)黄色土の粒と5mm以下の小礫を含み、非常に硬くしまっている。
⑯黒褐色粘質土(10YR-2/3)黒色土のブロックを含み、粘性があり、しまっている。
⑰黒褐色粘質土(10YR-2/3)黒色土のブロックを含み、褐色土の粒を含み粘性がありしまっている。
⑱黒色粘質土(10YR-1.7/1)黄褐色土の粒を(1%)含み、非常に硬くしまっている。
⑲黒色粘質土(10YR-2/1)1cm～15cmの礫・小礫・砂粒が密に堆積、黄褐色土の粒も含まれ非常に硬くしまっている。
⑳黒色粘質土(10YR-2/1)10cm～20cmの礫・小礫・砂粒・黄褐色土の粒が多く含まれ非常に硬くしまっている。

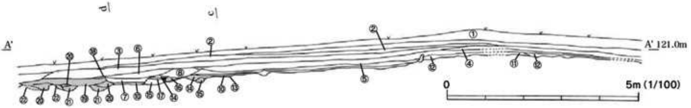
【土層注記】SG1-b
①耕作地
②礫土
③黒色粘質土(10YR-2/2)直径10cm～30cmの礫が混ざっており粘性がややあり、きめが細かい。
④黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土の粒が含まれ、非常に硬くしまっている（SG2の道路状遺構の硬化面）
⑤黒色粘質土(10YR-1.7/1)黄褐色土の粒が含まれ、谷層よりも硬きではしまっている。
⑥黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土の粒が と明褐色粘質土が含まれ硬くしまっている。
⑦黒色粘質土(10YR-1.7/1)黄褐色土の粒が と直径1cm～5cmの礫が含まれ非常に硬くしまっている。
⑧黒色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土が含まれ、粘性があり、きめが細かい。
⑨黒褐色粘質土(10YR-2/2)シルト状の黒色土がブロック状に入っており、粘性がある。
⑩黒色粘質土(10YR-2/1)明褐色土が含まれ粘性があり、しまっている。
⑪黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土の粒と明褐色土が含まれ、粘性が強くしまっている。
⑫黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土の粒と直径1cm以下の小礫と砂粒を含み粘性が強くしまっている。

第66図　SG1・2土層断面実測図 (1/40)

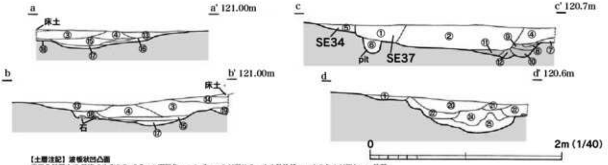


第67図　SG2（波板状凹凸面）実測図（平面1/80、断面1/40）





【土層注記】調査区北壁土層及びSG3波板状凹凸面
①耕作土（牧草栽培時）
②床土（棚田時）
③耕作土
④黒色粘質土(2.5Y-2/1)0.1cm程の明褐色ローム・焼土？ブロック・炭化物が混じる。非常に硬質。粘性やや低い。
⑤黒褐色粘質土(2.5Y-3/1)0.1～1cmの明褐色ローム・褐色ローム・焼土？ブロックが混じる。炭化物が混じる。硬質。粘性やや低い。
⑥黒色粘質土(2.5Y-2.5/1)粘性低い。軟質。0.1cmほどの炭化物が混じる。フカフカした土。
⑦黒色粘質土(10YR-2/1)0.1～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かく、シルトに近い。やや軟質。やや密に堆積。
⑧黒色粘質土(2.5Y-2/1)0.1～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。きめが細かく、シルトに近い。やや粘性低い。
⑨黒色粘質土(10YR-2/1)0.1～0.2cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。きめが細かく、シルトに近い。
⑩黒色粘質土(10YR-2/1)0.1～0.2cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。きめが細かく、シルトに近い。⑨に比べやや黒色を帯びる。
⑪黒色粘質土(10YR-2/1)0.5～3cmの明褐色ローム・暗褐色ブロックが混じる。細砂が多く混じり、ザラザラしている。非常に硬質（硬化層）。厚さ0.5cmの層が重なっているように見える。
⑫黒褐色粘質土(10YR-3/1)0.5～3cmの明褐色ローム・暗褐色ブロックが混じる。細砂が多く混じり、ザラザラしている。非常に硬質（硬化層）。厚さ0.5cmの層が重なっているように見える。
⑬灰黄褐色粘質土(10YR-4/2)0.5cm程の明褐色ローム・暗褐色・黒色ブロックが混じる。非常に硬質（硬化層）。細砂がやや多く混じり、ザラッとしている。
⑭黒褐色粘質土(10YR-2/2)0.2cmほどの明褐色ロームブロックが混じる。
⑮灰褐色粘質土(10YR-4/1)0.2～1cmの暗褐色ローム～明褐色ロームが混じる。酸化？した部分がところどころに見られる。
⑯黒褐色粘質土(10YR-2/2)0.5～1.5cmの褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。
⑰　⑮層に類似しているが、ややブロックの量が少なく、灰色を帯びる。
⑱黒色粘質土(10YR-2/1)きめが細かく、シルトに近い。軟質。やや粘性高い。
⑲褐灰色粘質土(10YR-4/1)0.1～1cmの暗褐色ローム～明褐色ローム・黒色土ブロックが混じる。
⑳黒褐色粘質土(10YR-3/1)0.5～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。
㉑灰黄褐色粘質土(10YR-4/2)0.1～1.5cmの褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。
㉒にぶい黄褐色粘質土(10YR-4/2.5)0.5～1cmの褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。



【土層注記】波板状凹凸面
①黒色粘質土(2.5YR-2/1.5)0.2～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性低い。ややきめが細かい。軟質。
②黒色粘質土(2.5YR-2/1)底から5cm程度までは0.2～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かくシルトに近い。やや粘性高い。軟質。
③黒褐色粘質土(2.5Y-2/1)0.2～1cmの明褐色ローム・褐色(6.25YR-4/4)のブロックが混じる。0.5?ほどの赤褐色(2.5YR-4/8)（焼土）のブロックが混じる。きめがやや細かい。やや硬質。
④黒色粘質土(2.5YR-2/1)きめが細かく、シルトに近い。やや粘性高い。やや光沢をもつ。軟質。
⑤SE34・37-bの②層に相当する。
⑥灰黄褐色粘質土(10YR-4/1.5)0.1～0.2cmの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かく、シルトに近い。やや粘性高い。軟質。粗い堆積。
⑦灰黄褐色シルト(10YR-4/1.5)0.1～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。細砂が少量混じる。粘性高い。やや軟質。
⑧黒色粘質土(10YR-2/1.5)0.3cm程度の暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。細砂が多く混じり、ザラザラする。きめが細かくシルトに　近い。
⑨黒褐色粘質土(10YR-3/1)0.1～0.5cmの暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かくシルトに近い。細砂が混じる。
⑩灰黄褐色粘質土(10YR-4/2)0.5～1cmの黒色土・暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かく、シルトに近い。細砂が混じる。
⑪灰黄褐色粘質土(10YR-4/2)0.1～0.2cmの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かく、シルトに近い。細砂が混じる。
⑫褐灰色粘質土(10YR-3.5/1)0.1～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かく、シルトに近い。細砂が混じる。
⑬黒色粘質土(2.5YR-3/1)0.1～0.3?の暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。ややきめが細かい。硬質。やや粘性低い。
⑭調査区北壁土層④層に相当する。
⑮黒色粘質土(10YR-1.7/1)きめが細かく、シルトに近い。やや硬質。密に堆積。0.2～0.5cmの暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる。
⑯黒褐色粘質土(2.5Y-3/1.5)0.2～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かく、シルトに近い。やや粘性高い。やや硬質。
⑰暗灰黄色粘質土(2.5Y-4/2)0.5～1cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。斑状に酸化？した部分が少し見られる。
⑱調査区北壁土層⑪層に相当する。
⑲調査区北壁土層層に相当する。
⑳褐灰色粘質土(10YR-3.5/1)0.1cmほどの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。白色粒が多く混じり、細砂も多く、ジャリジャリする。
㉑黒褐色粘質土(10YR-3/1)0.1～0.2cmの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。細砂が多く混じり、ジャリジャリする。
㉒調査区北壁土層20層に相当する。
㉓黄灰色粘質土(2.5YR-4/1)0.2～0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。細砂・白色粒が多く混じりジャリジャリする。
㉔灰黄褐色粘質土(2.5Y-4/2)0.5～3cmの暗褐色ローム～明褐色ロームブロックが混じる(50%)。非常に硬質。細砂・白色粒が多く混じりジャリジャリする。
㉕調査区北壁土層㉒層に相当する。

第68図　SG3（波板状凹凸面）実測図（平面1/100、断面1/100・1/40）

⑥石積遺構

1号石積遺構（第7・69図）

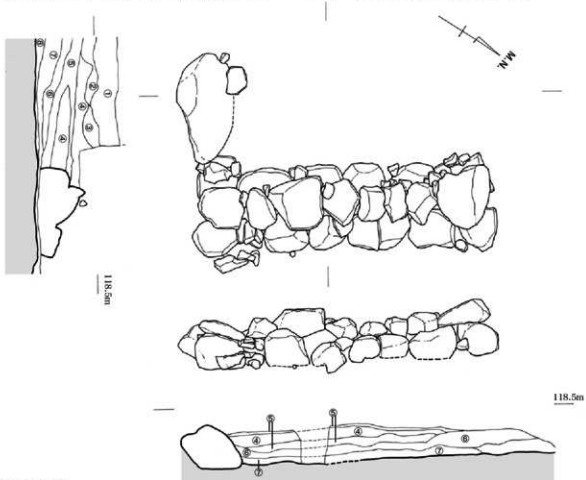
調査区中央部C区1-8グリッドに位置し、遺構の西側は、県道川南尾鈴停車場線に接する。本遺構は掘り込みをもたず、礫を「組む」というより「積む」要素が強いことから石積遺構として取り扱う。

遺構の構築時期を特定する遺物としては、近世後半の陶磁器片9点が出土したが、昭和38年まで里道として利用されていたＳＧＩの硬化面上に直接積まれていることからＳＧＩと同時期以降のものと推察される。

第①層で礫上面を検出し、礫下面はＳＧＩである。主軸はN-31°-Wで、平面プランはＬ字状を呈し、長径3.3m、短径2.2mである。石積の構成礫は砂岩の角礫で接地面から１～２段積み上げて構築している。根石は平らな面を下に向けて積んでいるが、南北軸の根石は30～50cm程の礫をほぼ対峙するように２列据え、四ツ目となった中心に１番石を配石している。

Ｌ字構造をとる石積の内側と外側では埋土の堆積状況が異なっていることから、石積を構築した後に内側へ土を充填した可能性は高い。また礫間には拳大の小礫を裏込め石状に詰めており、その傾向は内側に高いことから本来の平面プランは方形であった可能性が高いが、遺構の西側辺や北側辺に石積を検出することはできなかった。

埋土は硬化層と軟質層が互層をなしている。長軸においてはほぼ平行に堆積している。



第69図　1号石積遺構実測図（1/40）

(2) 遺物

①土器・陶磁器類

ＳＥ１出土遺物（第70図87～103）

87～92は中国産青磁である。

87は碗で体部外面に線描の細蓮弁文、内底面に線描の花文とその中央に「太」のスタンプを施す。釉薬は薄く、緑灰～オリーブ色を呈し、細かな貫入が器表全面に見られる。釉薬は高台内側途中で止まり、外底面は露胎で茶褐色に発色している。上田分類のB-Ⅳ-ａ類にあたる。

88は碗で体部外面に片切彫の蓮弁文、内底面に菊花文のスタンプを施す。釉薬はやや厚めで暗緑色を呈する。全面施釉後に外底面の釉を輪状に掻き取り、露胎部は茶褐色に発色する。上部が残存しないため判然としない部分があるが、蓮弁のカーブから雷文帯を有する可能性が高い。上田分類のC-Ⅱ-ｂ類にあたると思われる。

89は碗で内底面に花文のスタンプを施す。釉調や施釉方法などは88に類似する。

90は碗で体部外面に片切彫の蓮弁文、内底面にヘラ描きの圏線を施す。釉調や施釉方法などは88に類似し、上田B-Ⅱ-ｂ類にあたる。

91は上部が残存しないが、高台の形状から皿の可能性が高いと判断する。内底面に双魚文と卍文のスタンプを施す。釉調や施釉方法などは88に類似する。

92は稜花皿で内底面にヘラ描きの花文？を施すほか、体部内面にも形状が判然としないが草花文？が見られる。釉調や施釉方法などは88に類似する。

93～96は中国産白磁である。

93は八角杯で抉入高台を有し、内底面にはそれに対応する目跡が残る。焼成は甘い。森田分類Ｄ群、新垣・瀬戸分類Ｄ類杯Ⅰにあたる。

94は皿で体部中位で屈曲し、内底面に蛇ノ目釉剥ぎを施す。器壁が薄いので完全に一致するとは言い難いが、新垣・瀬戸分類Ｆ類に似るか。割れ面に漆が付着しており、漆継ぎによる補修と判断される。

95は皿で抉入高台を有する。焼成は甘い。位置付けは93に準ずる。

96は皿で内底面および体部外面下半から外底面にかけて露胎となる。焼成は甘い。新垣・瀬戸分類のＥ類Ⅲ Ⅱにあたる。

97は中国産青白磁の合子蓋である。体部上半と口縁端部が露胎となり、やや褐色がかる。内面は施釉される。造形は全体的に粗い。170とセットをなす可能性が高い。

98～101は国産陶器である。

98・99は備前焼の擂鉢で、98には一単位８条の、99には10条の擂目が施される。口縁部の形状は99が肥厚化の進行しつつある段階で、98は上方への拡張が顕著になっている。98は乗岡編年による中世５ｂ期、99が中世３ｂ期にあたると思われる。99は胎土に小石を含み、焼成も甘い。

100は備前焼の甕で、口縁部が縦に長い玉縁状を呈している。その形態から乗岡編年の中世４ｂ～５ａ期頃にあたると思われる。

101は壺である。胎土などの特徴は備前のものにも似るが、形態が合致せず確定には至らなかった。

102は土師器羽釜である。口縁部直下に低い突帯を巡らせるほか、体部外面に斜位の平行タタキ痕が残る。内面はナデ調整である。

103は肥前系染付碗でいわゆるくらわんか碗である。外面に雪輪草花文を施し、裏銘に崩れて判読不能の「大明年製」が書かれる。18世紀後半頃の製品と判断される。

ＳＥ３出土遺物（第71図104）

104は備前焼の擂鉢である。口縁部の上方への拡張が進行しており、乗岡編年の中世５ａ期にあたる。胎土は夾雑物を含み粗い。

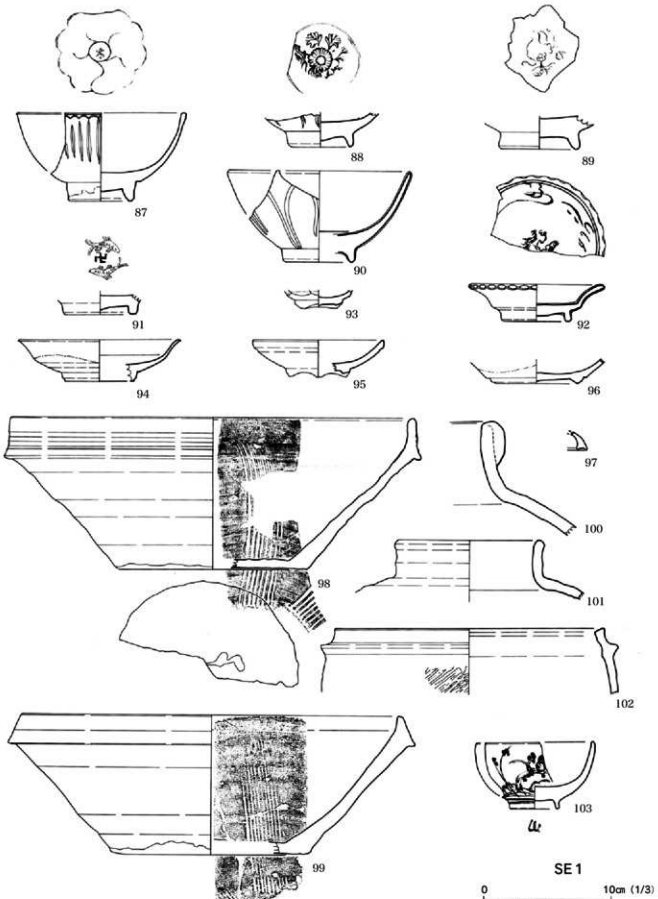
ＳＥ４出土遺物（第71図105～109）

いずれも土師器で105～108が杯、109のみ小皿である。

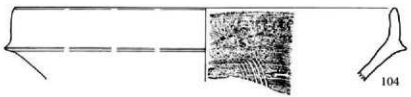
105は摩滅により不明瞭だが、底部にヘラ切り痕を残すようである。

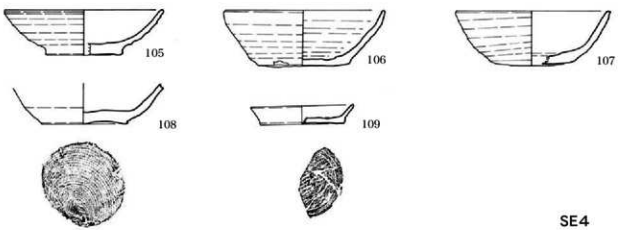
106は底部に右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

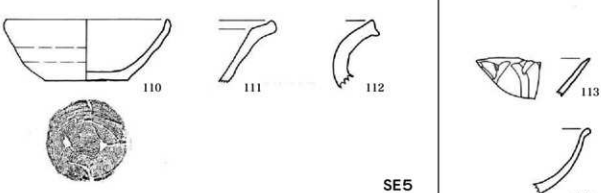
107は底部に回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。

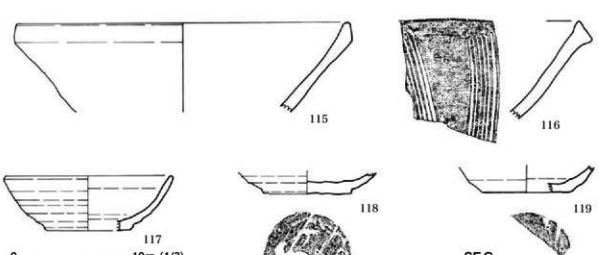


第70図　中・近世 土器・陶磁器類実測図① (1/3)









第71図　中・近世 土器・陶磁器類実測図② (1/3)

108は底部に右回転糸切り痕を残し、その後に調整は加えられていない。胎土はややざらつき、器表に指を滑らせると引っかかる感じがある。

109は底部に右回転？ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

ＳＥ５出土遺物（第71図110～112）

110は土師器杯で、底部に右回転糸切り痕を残し、その後の調整は加えない。胎土はややざらつく。一部にタール状の油煙が付着することから、灯明皿として使用された可能性がある。

111は土師器鍋で外面に煤が付着しており、火にかけられたことが明白である。体部外面はごく一部に縦位のハケメの様な擦痕が観察できるが、指頭圧痕が顕著で凹凸があるため、器面調整を行ったとは考えづらい。内面は横位のハケメ調整が施される。

112は須恵器壺だが、詳細は明らかにしえない。

ＳＥ６出土遺物（第71図113～119）

113は中国産青磁碗で、体部外面に片切彫の鎬蓮弁文（間弁有り）を施す。釉薬は緑灰色を呈する。大宰府分類Ⅰ-５-ｂ類、上田分類Ｂ-Ⅰ類にあたる。

114は中国産白磁碗である。口縁部～体部しか残存しないが、胎土や釉調から第73図137と同種であると判断され、森田分類Ｃ群、田中Ｊ類、新垣・瀬戸分類Ｂ類碗Ⅲにあたる。

115は須恵器鉢である。形態的特徴は東播系須恵器鉢に類似するが、全体的に作りが粗雑で焼成も甘い。東播系は重ね焼きの結果、口縁部外面が黒色を呈するものが多いが、そうした色調の変化も確認できない。内面には横位・斜位のハケメが施される。

116は備前焼擂鉢である。口縁部の肥厚化が進行しつつあり、乗岡編年の中世３ｂ期にあたる。

117～119は土師器杯である。

117は底部の残存状態が悪く、詳細不明。

118は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

119は摩滅が著しいが、回転糸切り痕が確認できる。胎土はややざらつく。

ＳＥ31出土遺物（第72図120～123）

120は中国産青磁碗で内底面にスタンプ（意匠不明）を施す。釉薬はやや薄く、細かな貫入が器表全面に見られる。全面施釉後に外底面の釉を輪状に掻き取り、露胎部は茶褐色に発色する。

121は古瀬戸の卸皿で内底面に格子状の卸目を施すほか、上半部には灰釉がかけられている。底部には右回転糸切り痕が残る。藤沢編年の後Ⅳ期頃に相当すると思われる。

129は東播系須恵器鉢である。口縁端部の上下が尖っており比定しづらいが、森田編年の第Ⅲ期第２段階、荻野編年のⅣ期にあたると思われる。

130は備前焼壺ないし甕の底部である。

ＳＥ44出土遺物（第72図124～129）

124は中国産青磁碗で体部外面は雷文帯の下に片切彫の蓮弁文、内面にも線描きの文様を施す。青緑色の釉薬が厚くかかり、文様が不鮮明になっている。上田分類Ｃ-Ⅱ類にあたる。

125は古瀬戸の壷か水注の可能性があろう。表面に菊花文のスタンプを施す。釉薬は黄褐色を呈するが、文様の凹部に入り込んだ釉薬は本来の淡緑色を呈しており、器表に熱を受けたことによる変色と考えられる。

126は備前焼の甕で、口縁部が玉縁状を呈するが、作りが比較的シャープである。その形態から乗岡編年の中世３期頃にあたると思われる。

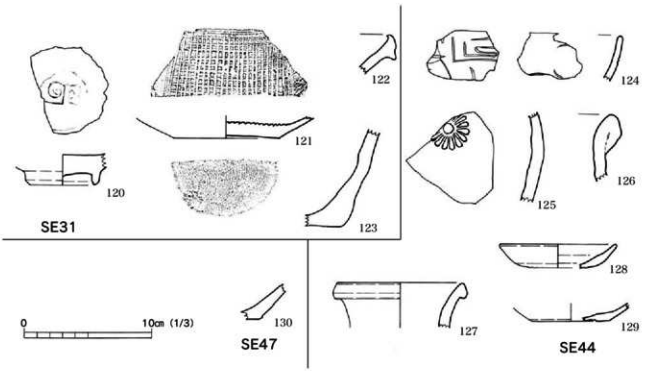
127は須恵器の壷であるが、詳細不明である。

128は土師器小皿で、底部に回転ヘラ切り痕を残す。一部にタール状の油煙が付着することから、灯明皿として使用された可能性がある。

129は土師器杯と思われる。底部は回転ヘラ切り痕の上から工具によるハケメ状の調整が施される。

ＳＥ47出土遺物（第72図130）

130は東播系須恵器鉢の底部である。



第72図　中・近世 土器・陶磁器類実測図③ (1/3)

ＳＧ１出土遺物（第73図131～136）

131は中国産青磁碗で、体部に比して底部が厚い。残存部で観察する限り、体部外面下半および内底面に文様は施されない。釉薬はやや厚く、オリーブ色を呈する。全面施釉後に外底面の釉を輪状に掻き取り、露胎部は茶褐色に発色する。上田分類のＤ類ないしＥ類に相当する可能性がある。

132は中国産白磁で、高台内の削り方にみえる特徴から田中分類Ｇ類にあたり、皿か浅い碗になると思われる。外底面に朱墨のような痕跡があるが、残存状態が悪いため詳細を明らかにしえない。

133は備前焼擂鉢で、口縁部の上下端が拡張・突出しており、乗岡編年の中世３ｂ期にあたる。

134は備前焼の甕で、口縁部が縦に長い玉縁状を呈している。その形態から乗岡編年の中世４ｂ～５ａ期頃にあたると思われる。

135・136は近世後半期の陶磁器類である。

135は堺・明石系擂鉢で、口縁部の形状から白神分類のⅢ型式にあたり、19世紀代の製品と判断される。

136は肥前系の染付鉢である。内底面に蛇ノ目釉剥ぎとコンニャク印判の五弁花を施す。18世紀後半頃のものか。

ＳＧ２出土遺物（第73図137～141）

137は中国産白磁で、高台内の削りが浅く底部の厚い碗である。内底面に圏線と花文のスタンプを施す。釉薬は灰色がかる。森田分類Ｃ群、田中Ｊ類、新垣・瀬戸分類Ｂ類碗Ⅲにあたる。

138は備前焼の擂鉢で、口縁部の肥厚化が始まっていることから、乗岡編年の中世３ａ期にあたる。

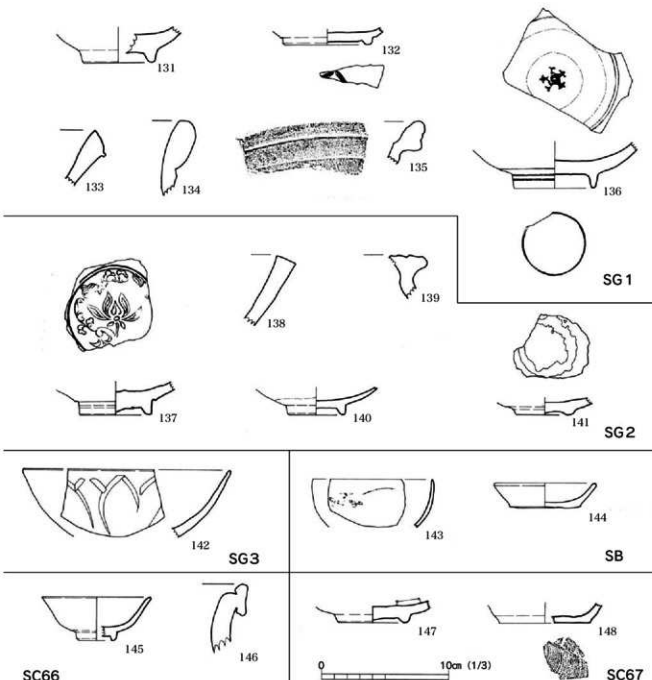
139は壺ないし甕の口縁部と思われるが、詳細は不明である。

140は肥前系陶器皿で内面に銅緑釉、外面に透明をかけ分けている。内底面には蛇ノ目釉剥ぎを施す。

141も肥前系陶器皿だが、削り出し高台を有し、内底面に砂目が残る。17世紀初頭頃の所産である。

ＳＧ３出土遺物（第73図142）

142は中国産青磁碗で体部外面に片切彫の鎬蓮弁文（間弁有り）を施す。釉薬はオリーブ色を呈する。大宰府分類Ⅰ-５-ｂ類、上田分類Ｂ-Ⅰ類。



第73図　中・近世 土器・陶磁器類実測図④ (1/3)

ＳＢ出土遺物（第73図143・144）

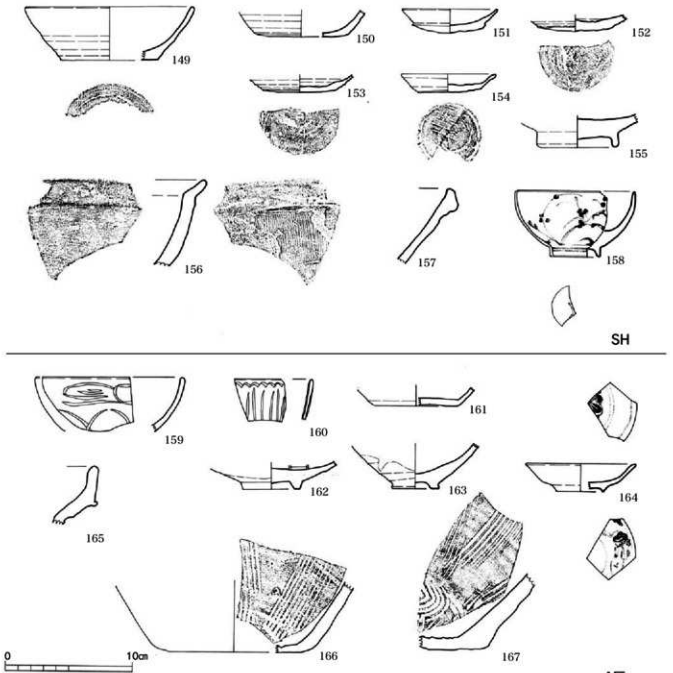
143はＳＢ16のＰ２から出土した陶器碗である。丸碗で外面に呉須と鉄絵で草花文？を描く。京・信楽系の可能性がある。

144はＳＢ１のＰ１から出土した土師器皿である。底部は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

ＳＣ66出土遺物（第73図145・146）

145は中国産白磁杯である。胎土はやや粗いが、釉薬は白色を呈する。新垣・瀬戸分類のＤ類杯Ⅱに相当するか。

146は常滑焼の甕である。口縁部がN字状を呈しているが、縁帯は３cm以下にとどまる。中野編年の６ａ型式に相当する。



第74図　中・近世 土器・陶磁器類実測図⑤（1/3）

ＳＣ67出土遺物（第73図147・148）

147は中国産白磁で、高台内の削り方にみえる特徴から田中分類Ｇ類にあたり、皿か浅い碗になると思われる。

148は土師器杯で、底部に糸切り痕が残る。

ＳＨ出土遺物（第74図149～158）

149はＳＨ119から出土した土師器杯である。底部は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。

150はＳＨ65から出土した土師器杯である。底部は回転ヘラ切り痕があり、一部にタール状の油煙が付着することから、灯明皿として使用された可能性がある。

151はＳＨ19から出土した土師器皿である。底部は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

152はＳＨ115から出土した土師器杯である。底部は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

153はＳＨ116から出土した土師器皿である。底部は右回転？ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

154はＳＨ93から出土した土師器皿である。底部は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

155はＳＨ91から出土した中国産青磁碗である。残存部の観察からは文様を確認できない。釉薬は薄く、オリーブ色を呈している。全面施釉後に外底面の釉薬を輪状に掻き取っている。

156はＳＨ107から出土した土師器鍋である。焼きは甘く、胎土はヘラ切りの土師器に類似するようである。口縁部はヨコナデを、体部は外面が縦位の、内面が横位・斜位のハケメを施している。外面に煤が付着するほか、被熱によると思われる器表の剥離も認められ、火にかけられたことが明白である。

157はＳＨ101から出土した東播系須恵器鉢である。口縁部が肥厚しているが、上方・外方への拡張があまり強くないため、森田編年の第Ⅱ期第２段階、荻野編年のⅢ期にあたると思われる。

158はＳＨ90から出土した肥前系染付碗で、いわゆるくらわんか碗である。外面に雪輪草花文を描くが、雪輪が崩れてその上部が耳状に突出していることから19世紀代の所産と思われる。残存状態が悪いが、裏銘に崩れた「大明年製」が書かれるようである。

Ａ区出土遺物（第74図159～167）

159・160は中国産青磁碗である。

159は体部外面に雷文帯が巡り、その下には幅の広い蓮弁文を施す。オリーブ色がかった釉薬が厚くかけられ、文様が不鮮明になっている。上田分類Ｃ-Ⅱ類にあたる。

160は体部外面に線描の細蓮弁文を施すが、もはや蓮弁の形をなしていない。釉薬はやや厚く、暗緑色を呈する。上田Ｂ-Ⅳ’類にあたる。

161は中国産白磁である。底部しか残存しないが、口縁端部が無釉のいわゆる口禿皿である。大宰府分類Ⅸ類、森田分類のＡ群にあたる。

162は白磁皿であるが、詳細は不明である。近世の所産である可能性も高い。内底面に蛇ノ目釉剥ぎを施し、体部外面下半から外底面を露胎とする。

163は胎土の特徴から、中国産の天目茶碗と思われる。

164は中国産青花皿である。端反の小皿で内面は圏線と花文？を、体部外面は宝相華唐草文を描く。小野分類Ｂ１群にあたる。

165～167は備前焼の擂鉢である。

165は口縁部の特徴から乗岡編年の中世５ａ～５ｂ期に相当すると思われる。緻密で粘性の高そうな胎土であり、田土を用いている可能性がある。

166は胎土や色調から165と同一個体と判断される。一単位９条の擂目を施している。

167は底部～底部片で、体部内面に一単位８条の擂目を施すほか、底部にも擂目が見られる。

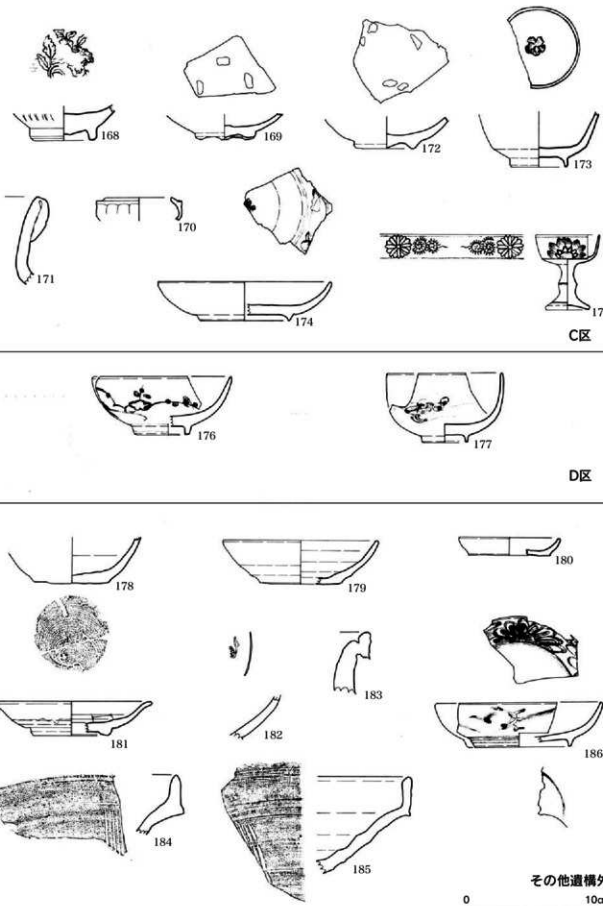
Ｃ区出土遺物（第75図168～175）

168は中国産青磁碗で体部外面に線描の細蓮弁文を、内底面に花文のスタンプを施す。釉薬はやや厚く緑灰色を呈するが、細かな貫入が器表全面に見られる。釉薬は高台内側途中で止まり、外底面は露胎で茶褐色に発色している。上田分類のＢ－Ⅳ類にあたる。

169は中国産白磁皿で抉入高台を有し、内底面にはそれに対応する目跡が残る。焼成は甘い。森田分類Ｄ群、新垣・瀬戸分類Ｄ類杯Ｉにあたる。

170は中国産青白磁合子で、外面には型に押し込んだ際の縮緬状のシワが認められる。受け部と外面下半は露胎で褐色がかっている。内面は下半から釉がかかるようである。全体的に作りは粗い。第70図97とセットをなす可能性がある。

171は備前焼の甕で、口縁部が縦に長い玉縁状を呈している。その形態から乗岡編年の中世４ｂ～５ａ期頃にあたると思われる。



第75図　中・近世 土器・陶磁器類実測図⑥ (1/3)

172は肥前系陶器皿で削り出し高台を有し、内底面には胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭頃の所産である。

173～175は近世後半期の陶磁器である。

173は肥前系青磁染付の朝顔形碗で、内底面に二重圏線とコンニャク印判の五弁花を染め付ける。18世紀後半頃の製品である。

174は肥前系染付皿で口径がやや小さいが、いわゆる五寸皿の範疇で捉えられよう。内面に唐草文？とコンニャク印判五弁花を染め付け、内底面に蛇ノ目釉剥ぎを施す。18世紀後半～19世紀初頭頃の所産か。

175は肥前系磁器で赤絵の仏飯器である。体部外面に菊花や蛸唐草文を描き、脚部は竹節状を呈する。19世紀代の所産か。

D区出土遺物（第75図176・177）

176は肥前系染付碗でいわゆるくらわんか碗である。外面に梅樹文を描く。18世紀後半頃の製品と判断される。

177も肥前系染付碗で腰張りの丸碗である。外面に草花文を描く。やはり18世紀後半頃の製品であろうか。

その他遺構外出土の遺物（第75図178～186）

178は土師器杯で底部に右回転糸切り痕を残し、その後の調整は加えない。胎土はややざらつく。

179も土師器杯で底部は回転ヘラ切り痕を残し、内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

180は土師器小皿で底部は回転ヘラ切り痕を残す。一部にタール状の油煙が付着することから、灯明皿として使用された可能性がある。

181は中国産白磁皿で体部中位に屈曲があり、口縁部は外反する。内底面は蛇ノ目釉剥ぎを施し、体部外面下半から外底面は露胎である。新垣・瀬戸分類のF類に相当するか。

182は中国産白磁である。体部のみの破片であるが、胎土や釉調から第73図137と同種であると判断され、森田分類C群、田中J類、新垣・瀬戸分類B類碗Ⅲにあたる。内面に文様が確認できるが、残存状態が悪く詳細は不明である。

183は常滑焼の甕である。口縁部がN字状を呈しているが、縁帯は3cm以下にとどまると思われる。中野編年の6a型式に相当する。

184・185は備前焼の擂鉢である。

184は口縁部の上方への拡張が顕著であり端部は尖ることから、乗岡編年の中世4b期にあたると思われる。

185は口縁部の拡張が184より進行しており、乗岡編年の中世5b期にあたると思われる。胎土は緻密で田土を用いているようである。

186は肥前系染付皿で口径がやや小さいが、174と同様に五寸皿の範疇で捉えられよう。18世紀代の所産か。

本項では最後に遺物の出土状況にみられる一つの問題点について触れておきたい。

SE（溝状遺構）出土の陶磁器類は大半が中世の所産であるにもかかわらず、その中に近世遺物が無視できない分量で含まれており、遺構の時期比定において大きな障害となっている。実のところこうした現象は本遺跡にとどまらず、宮崎平野部で最近似たような事例が増加中である。

こうした現象の起こる要因および各遺構の位置付けについては第Ⅵ章で詳述することとする。

No.	種別	器種	出土位置		法量(cm)			調整・文様など		焼成	色調	備考
					口径	底径	器高	外面	内面			
84	土師器	杯	ID	SD16	13.1	7.5	3.6	右回転ヘラ切り痕	明瞭な調整痕	良好	橙色	1mm以下の褐色粒子を含む
85	土師器	小皿	ID	SD16	8.2	6.3	1.4	右回転ヘラ切り痕		良好	橙色	1mm以下の褐色粒子を少量含む
86	土師器	小皿	ID	SD16	8.2	6.1	1.4	ヘラ切り痕か		良好	橙色	1mm以下の褐色粒子を含む
87	青磁	碗	1A	SEI	(13.1)	4.8	6.9	細蓮弁文	花文・'太」	良好	黄灰	釉薬は緑灰～オリーブ色, 中国産
88	青磁	碗	1A	SEI		4.7		蓮弁文・雷文帯?	菊花文	良好	灰白	釉薬は暗緑色, 中国産
89	青磁	碗	1A	SEI		5.9			花文	良好	灰白	釉薬は暗緑色, 中国産
90	青磁	碗	1A	SEI	14.3	5.3	7.2	蓮弁文	圏線	良好	灰白	釉薬は暗緑色, 中国産
91	青磁	皿	1A	SEI		5.4			双魚文・'正文	良好	灰白	釉薬は暗緑色, 中国産
92	青磁	皿	1A	SEI	(10.2)	(5.2)	2.9		花文?・草花文?	良好	灰白	釉薬は暗緑色, 中国産
93	白磁	杯	1A	SEI		2.9		挟入高台	目跡	甘い	灰白	釉薬は灰白, 中国産
94	白磁	皿	1A	SEI	(12.6)	(5.4)	3.4		蛇ノ目釉剥ぎ	良好	灰白	釉薬は透明, 中国産, 漆継ぎの痕跡あり
95	白磁	皿	1A	SEI	(10.2)	(4.5)	2.9	挟入高台		甘い	灰白	釉薬は灰白, 中国産
96	白磁	皿	1A	SEI		6.3				甘い	灰白	釉薬は灰白, 中国産
97	青白磁	合子蓋	1A	SEI				陰刻の鏑文		良好	灰白	釉薬は青味がかった白色, 中国産
98	陶器	擂鉢	1A	SEI	(31.6)	(14.7)	12.2		櫛目	良好	橙色	備前焼
99	陶器	擂鉢	1A	SEI	(29.6)	(15.5)	11.1		櫛目	甘い	橙色	備前焼
100	陶器	甕	1A	SEI						良好	暗褐色	備前焼
101	陶器	壺	1A	SEI	(11.2)					良好	灰褐色	
102	土師器	羽釜	1A	SEI	(21.1)			平行タタキ	ナデ	良好	にぶい褐色	肥前系
103	染付	碗	1A	SEI	9.2	5.3	3.7	雪輪草花文・大明年製か		良好	灰白	肥前系
104	陶器	擂鉢	1A	SE3	(29.8)				櫛目	良好	にぶい赤褐色	備前焼
105	土師器	杯	1A	SE4-1	(12.4)	(5.8)	3.6	ヘラ切り痕か		良好	浅黄橙	1mm以下の明赤褐色粒子を僅かに含む
106	土師器	杯	1A	SE4-19・20	(12.5)	7.2	4.6	右回転ヘラ切り痕	指頭によるナデ	良好	浅黄橙	1mm以下の褐色粒子を多量, 3mm以下の白色粒子をごく少量含む
107	土師器	杯	1A	SE4-2	11.8	6.7	4.3	回転ヘラ切り痕		良好	橙色	1mm以下の明赤褐色粒子を僅かに含む
108	土師器	杯	1A	SE4-13・23		6.8		右回転糸切り痕		良好	灰黄褐	2mm以下の暗赤褐色粒子をごく僅かに含む
109	土師器	小皿	1A	SE4-25	(8.1)	(6.6)	1.5	右回転ヘラ切り痕	指頭によるナデ	良好	浅黄橙	2mm以下の暗赤褐色粒子をごく僅かに含む
110	土師器	杯	1A	SE5-1	(12.7)	6.2	5.0	右回転糸切り痕		良好	橙色	微細な透明粒子を多量, 1mm以下の白色粒子をごく僅かに含む
111	土師器	鍋	1A	SE5-3				指頭圧痕・ハケメ?	ハケメ	良好	浅黄橙	1mm以下の乳白色粒子・にぶい橙色粒子を含む
112	須恵器	壺	1A	SE5						良好	灰黄色	
113	青磁	碗	1A	SE6				鎬蓮弁文（間弁有り）		良好	灰白	釉薬は緑灰色, 中国産
114	白磁	碗	1A	SE6						良好	灰色	釉薬は灰色, 中国産
115	須恵器	鉢	1A	SE6	(26.0)				ハケメ	甘い	灰色	東播系に類似
116	陶器	擂鉢	1A	SE6					櫛目	良好	赤褐色	備前焼
117	土師器	杯	1A	SE6	(13.0)	(6.6)	4.3			良好	浅黄橙	微細な黒色粒子・透明粒子をごく僅かに含む
118	土師器	杯	1A	SE6		(7.0)		右回転ヘラ切り痕	指頭によるナデ	良好	浅黄橙	2mm以下の暗赤褐色粒子をごく僅かに含む
119	土師器	杯	1A	SE6		(7.0)		回転糸切り痕		良好	浅黄橙	微細な暗赤褐色粒子を含む
120	青磁	碗		SE31		5.0			スタンプ	良好	灰白	釉薬は緑灰色, 中国産
121	陶器	卸皿		SE31		8.3		右回転糸切り痕	卸目	良好	灰黄色	釉薬は浅黄色, 古瀬戸
122	須恵器	鉢		SE31						良好	黄灰	東播系
123	陶器	壺か甕		SE31						良好	褐灰色	備前焼
124	青磁	碗		SE44				雷文帯・蓮弁文	線描の文様	良好	灰色	釉薬は青緑色, 中国産
125	陶器	壺か水注		SE44				菊花文		良好	灰白	釉薬は淡緑色か, 古瀬戸
126	陶器	甕		SE44						良好	褐灰色	備前焼
127	須恵器	壺		SE44	(9.8)					良好	灰色	
128	土師器	小皿	ID	SE44-78	(9.0)	(6.7)	1.9	回転ヘラ切り痕		良好	浅黄橙	微細な橙色粒子をごく僅かに含む
129	土師器	杯か	ID	SE44-80		(8.2)		回転ヘラ切り痕		良好	灰黄褐	微細な黒色粒子をごく僅かに含む
130	須恵器	鉢		SE47				回転糸切り痕か		良好	灰色	東播系
131	青磁	碗		SG1		5.5				良好	黄灰	釉薬はオリーブ色, 中国産
132	白磁	皿か浅碗		SG1		(6.6)			蛇ノ目釉剥ぎ	良好	灰色	釉薬は透明, 中国産
133	陶器	擂鉢		SG1						良好	灰赤	備前焼
134	陶器	甕		SG1						良好	赤褐色	備前焼
135	陶器	擂鉢		SG1					櫛目	良好	灰赤	堺・明石系
136	染付	鉢		SG1		6.4			蛇ノ目釉剥ぎ・コンニャク印判五弁花	良好	灰白	肥前系
137	白磁	碗		SG2		5.7			花文	良好	灰色	釉薬は灰色, 中国産

第8表　遺物観察表（土器・陶磁器類①）

					口径	底径	器高	外面	内面			
138	陶器	擂鉢	SG2							良好	灰黄褐	備前焼
139	陶器	壺か甕	SG2							良好	灰色	
140	陶器	皿	SG2			4.4			蛇ノ目釉剥ぎ	良好	灰白	内面が銅緑釉・外面が透明釉, 肥前系
141	陶器	皿	SG2			4.5		削り出し高台	砂目	良好	にぶい黄褐色	釉薬は淡黄褐色, 肥前系
142	青磁	碗	SG3		(16.2)			鏑蓮弁文（間弁有り）		良好	灰白	釉薬はオリーブ色, 中国産
143	陶器	碗		SBI6-P2	(9.3)			草花文?		良好	灰白	京・信楽系か
144	土師器	小皿	1A	SBI-P1	(7.7)	(5.5)	2.0	右回転ヘラ切り痕	指頭によるナデ	良好	橙色	微細な乳白色粒子をごく僅かに含む
145	白磁	杯		SC66	(8.5)	(3.5)	2.7			良好	灰白	釉薬は灰白, 中国産
146	陶器	甕		SC66						良好	暗灰黄～赤褐	常滑焼
147	白磁	皿か浅碗		SC67		(5.6)			蛇ノ目釉剥ぎ	良好	灰色	釉薬は灰色, 中国産
148	土師器	杯	1C	SC67-2		(7.2)		糸切り痕		良好	灰黄褐	微細な黒色粒子をごく僅かに含む
149	土師器	杯	1E	SHI19	(13.0)	(7.6)	4.2	右回転ヘラ切り痕		良好	浅黄橙	微細な黒色粒子・透明粒子をごく僅かに含む
150	土師器	杯	1C	SH65		(7.3)		回転ヘラ切り痕		良好	にぶい黄褐色	3mm以下の橙色粒子を多く含む
151	土師器	小皿	1A	SHI9-1	7.4	5.7	1.9	右回転ヘラ切り痕	指頭によるナデ	良好	橙色	1mm以下の赤褐色粒子を僅かに含む
152	土師器	杯	1E	SHI15		5.8		右回転ヘラ切り痕	指頭によるナデ	良好	浅黄橙	微細な赤褐色粒子を少量含む
153	土師器	小皿	1E	SHI16		(5.8)		右回転?ヘラ切り痕	指頭によるナデ	良好	浅黄橙	微細な明赤褐色粒子をごく僅かに含む
154	土師器	小皿	1D	SH93	7.3	5.0	1.5	右回転ヘラ切り痕	指頭によるナデ	良好	橙色	微細な赤褐色粒子を少量含む
155	青磁	碗		SH91		6.3				良好	灰白	釉薬はオリーブ色, 中国産
156	土師器	鍋	1E	SHI07				ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	甘い	浅黄橙	3mm以下の暗赤褐色粒子をごく僅かに含む
157	須恵器	鉢		SHI01						良好	灰色	東播系
158	染付	碗		SH90-1	(9.3)	(3.9)	5.2	雪輪草花文・大明年製か		良好	灰白	肥前系
159	青磁	碗	1A		(11.4)			蓮文帯・蓮弁文		良好	灰白	釉薬はオリーブ色, 中国産
160	青磁	碗	1A					細蓮弁文		良好	灰白	釉薬は暗緑色, 中国産
161	白磁	皿	1A			(6.5)				良好	灰白	釉薬は白色, 中国産
162	白磁	皿	1A			4.5			蛇ノ目釉剥ぎ	良好	灰白	
163	陶器	碗	1A			3.6				良好	黄灰	釉薬は黒褐色, 天目茶碗, 中国産
164	青花	皿	1A	F-7	(8.4)	(3.8)	2.3	宝相華唐草文	花文?・圏線	良好	灰白	中国産
165	陶器	擂鉢	1A	F-8						良好	灰色	備前焼, 167と同一個体か
166	陶器	擂鉢	1A	F-8		(10.4)			櫛目	良好	灰色	備前焼, 166と同一個体か
167	陶器	擂鉢	1A			(16.0)			櫛目	良好	にぶい赤褐色	備前焼
168	青磁	碗	1C			4.7		細蓮弁文	花文	良好	灰色	釉薬は緑灰色, 中国産
169	白磁	皿	1C			4.4		抉入高台	目跡	甘い	灰白	釉薬は灰白, 中国産
170	青白磁	合子身	1C		(5.2)			陰刻の鎬文		良好	灰白	釉薬は青味がかった白色, 中国産
171	陶器	甕	1C	I-8						良好	赤褐色	備前焼
172	陶器	皿	1C	I-8		4.8		削り出し高台	胎土目	良好	にぶい赤褐色	釉薬は灰色, 肥前系
173	染付	碗	1C			4.4		青磁釉	コンニャク印判五弁花	良好	灰白	青磁染付, 肥前系
174	染付	皿	1C		(13.6)	(7.0)	3.1		唐草文?・コンニャク印判五弁花・蛇ノ目釉剥ぎ	良好	灰白	肥前系
175	赤絵	仏飯器	1C			5.0	3.4	5.9	菊花・蜻蛉草文など		良好	白色	肥前系
176	染付	碗	1D			(10.8)	(4.4)	4.7	梅樹文		良好	灰白	肥前系
177	染付	碗	1D			(9.0)	(3.5)	5.5	草花文		良好	灰白	肥前系
178	土師器	杯	1	確認調査		5.8			右回転糸切り痕		良好	橙色	1mm以下の褐色粒子・白色粒子をごく少量含む
179	土師器	杯	1	確認調査		(11.8)	(6.4)	3.5	回転ヘラ切り痕	指頭によるナデ	良好	浅黄橙	2mm以下の赤褐色粒子を僅かに含む
180	土師器	小皿	1	確認調査		(7.8)	(6.4)	1.4	回転ヘラ切り痕		良好	にぶい橙色	3mm以下の赤褐色粒子を多く含む
181	白磁	皿				(12.6)	(6.2)	2.7		蛇ノ目釉剥ぎ	良好	にぶい黄褐色	釉薬は透明, 中国産
182	白磁	碗								文様	良好	灰色	釉薬は灰色, 中国産
183	陶器	甕									良好	褐灰色	常滑焼
184	陶器	擂鉢								櫛目	良好	にぶい赤褐色	備前焼
185	陶器	擂鉢								櫛目	良好	にぶい赤褐色	備前焼
186	染付	皿				(12.9)	(8.2)	3.5	唐草文	花文	良好	灰白	肥前系

第9表　遺物観察表（土器・陶磁器類②）

②金属製品類

銭貨（第76図187～200、第77図206～218）

16基の土坑墓中８基から39枚が出土した。

ＳＤ２からは３枚出土した。いずれも銅銭で、うち１枚が文銭である（第76図187）。

ＳＤ３からは８枚出土したが、７枚は錆着している（第77図206）。

ＳＤ５からは７枚出土した。そのうち２枚は鉄銭であった（第76図189～193）。

ＳＤ８・11からは１枚のみ、ＳＤ12からは２枚が出土した。

ＳＤ14からは最も多い11枚が出土した。そのうち５枚が鉄銭であった（第77図207～209）。

ＳＤ15からは６枚錆着して出土した（第77図210）。

以上は土坑墓から出土したもので、六銅銭の可能性が高い。その枚数も様々であり、多い方から11枚・８枚・７枚・６枚・３枚・２枚・１枚となる。

また掘立柱建物跡の柱穴からも銭貨が出土している。ＳＢ14ではＰ２・Ｐ８からそれぞれ１枚、Ｐ３からは２枚、Ｐ４からは実に29枚の銭貨が出土している（第76図194～198、第77図212～218）。地鎮の意味が込められていると思われ、注目される資料である。

その他にはＳＥ44から出土した皇宋通寶が中世銭として重要である（第76図199）。またＥ区表採として２点の富士５銭アルミ貨が出土した（第76図200）。

釘（第77図219～225）

土坑墓２基から５点出土している。木片が付着しており、棺に使用された釘と推察できる（第77図219～223）。またＳＢ15のＰ５からも２点出土した（第77図224・225）。いずれも角釘である。

その他の金属製品（第76図201～205、第77図226）

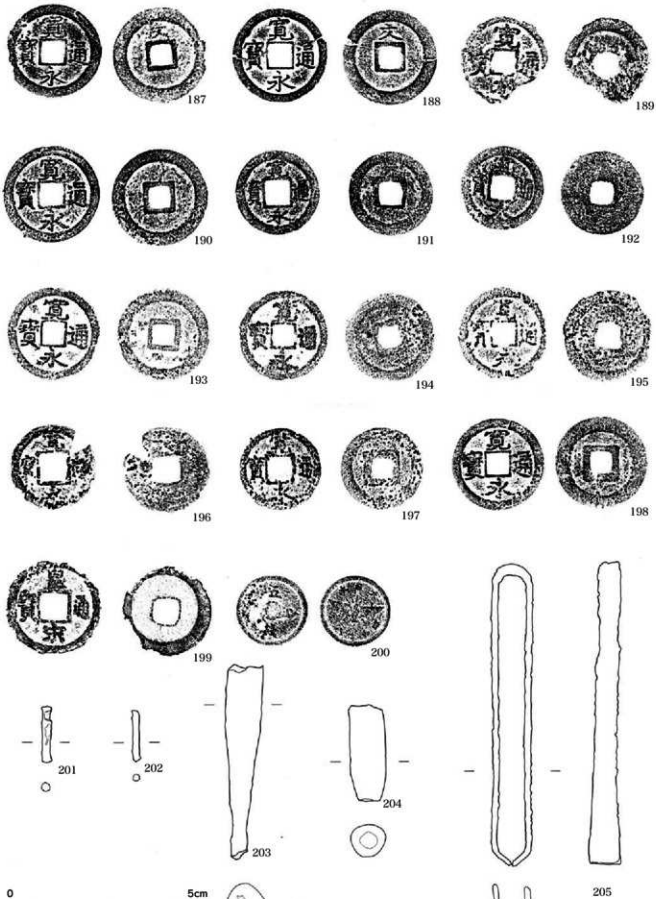
201・202は銅製の小さな棒でＳＤ３・４から出土したが、その性格は明らかにしえない。

203・204はキセルの吸口で、ＳＢ14のＰ２とＰ３から出土した。明瞭な肩がつかず、近世後期のものと考えられる。

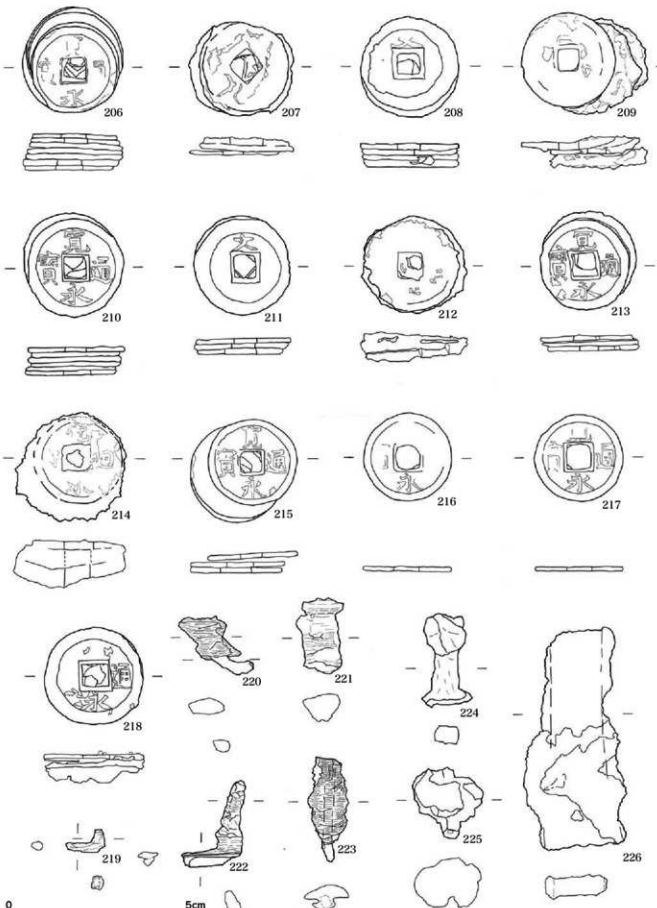
305はＳＢ１６のＰ２から出土した銅製の毛抜きである。遺存状態がよく、形は現代のものとほとんど変わらない。ＳＨ118から出土した226は刀子の一部ではないかと思われる。

No.	出土地点		品　名	最大長 (㎜)	最大幅 (㎜)	最大厚 (㎜)	材質	備　考
	グリッド	遺　構						
219	G-12	SD2	釘	10.0	6.0	3.0	鉄	
220	G-12	SD2	釘	15.5	19.5	4.0	鉄	木質付着。棺釘か。
221	G-12	SD2	釘	20.0	12.0	7.0	鉄	木質付着。棺釘か。
222	G-12	SD2	釘	24.0	15.5	8.0	鉄	木質付着。棺釘か。
202	G-12	SD3	金属棒	13.5	2.0	2.0	銅	
223	G-12	SD3	釘	26.5	11.0	8.0	鉄	木質付着。棺釘か。
201	G-12	SD4	金属棒	1.5	2.5	2.0	銅	
203	K-4	SB14-P2	キセル	52.0	10.0	9.0	銅	吸口。両端欠損。
204	K-4	SB14-P3	キセル	25.0	9.0	9.0	銅	吸口。両端欠損。
224	K-2	SB15-P5	鉄釘	24.5	13.5	5.0	鉄	
225	K-2	SB15-P5	鉄釘	19.0	18.5	13.0	鉄	
205	K-4	SB16-P2	毛抜き	79.0	11.0	8.0	銅	
226	M-6	SH118	金属（小刀）	57.0	28.0	6.0	鉄	

第10表　遺物観察表（金属製品類③）



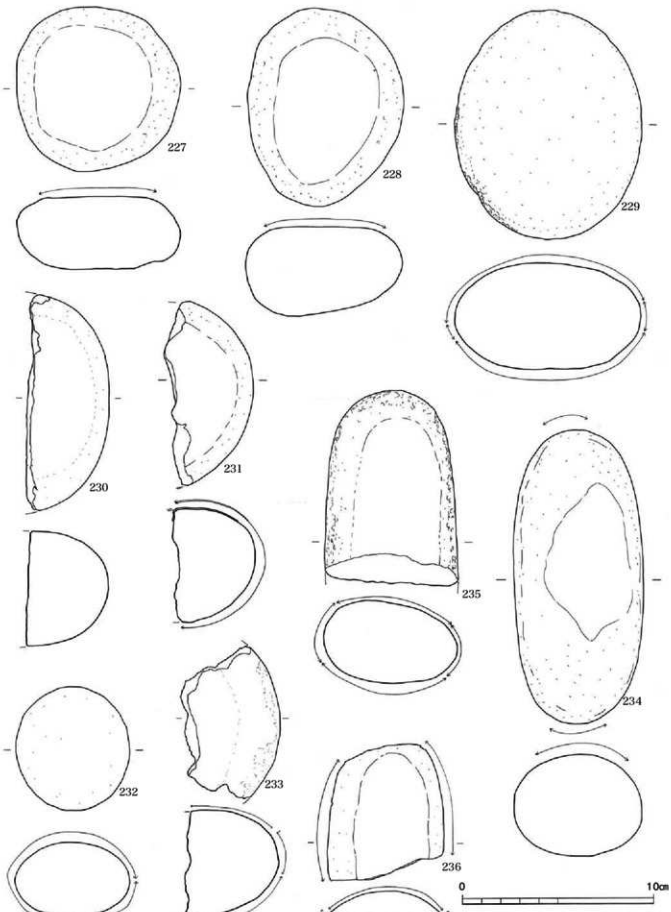
第76図　中・近世 金属製品実測図① (1/1)



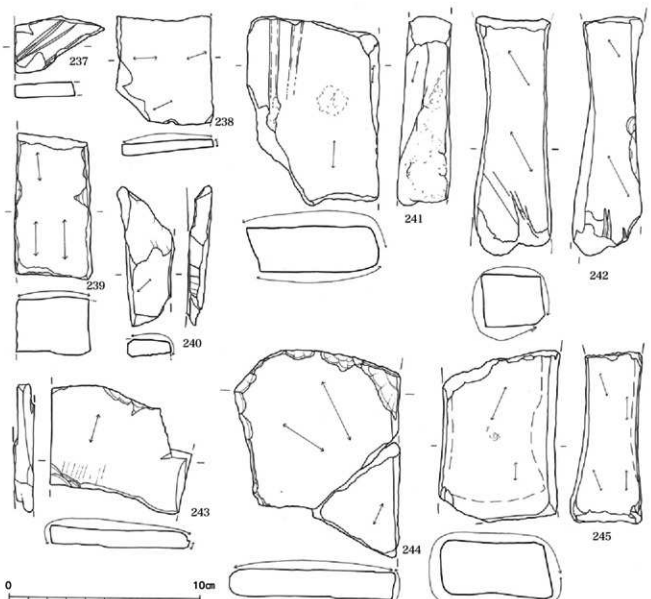
第77図　中・近世 金属製品実測図②（1/1）

No.	出土地点 グリッド	出土地点 遺構	銭名	初鋳年 元号	初鋳年 西暦	銭径 (mm)	孔径 (mm)	厚さ (mm)	材質	備考	
187	G-12	SD2	寛永通寶	寛文8年	1668	22.5	5.5	1.2	銅	1枚	文銭
	G-12	SD2	寛永通寶						銅	1枚	
	G-12	SD2	寛永通寶						銅	1枚	
188	G-12	SD3	寛永通寶	寛文8年	1668	25.5	6.1	1.2	銅	1枚	文銭
206	G-12	SD3	寛永通寶						銅	7枚錆着	
189	G-12	SD5	寛永通寶	寛永13年	1636	23.5	6.1	1.1	銅	1枚	古寛永
190	G-12	SD5	寛永通寶	元禄10年	1697	26.0	6.0	1.2	銅	1枚	
191	G-12	SD5	寛永通寶	元禄10年	1697	22.0	6.5	1.0	銅	1枚	
192	G-12	SD5	寛永通寶	元禄10年	1697	23.0	6.0	1.0	銅	1枚	
	G-12	SD5	寛永通寶(鉄四文銭)	明和5年	1768				鉄	1枚	測定不能,布付着。
	G-12	SD5	寛永通寶(鉄一文銭)	元文4年	1739				鉄	1枚	測定不能
193	G-12	SD5	寛永通寶	寛永13年	1636	24.5	6.2	1.0	銅	1枚	古寛永
	F-9	SD8	寛永通寶	寛文8年	1668	25.1	6.1	1.1	銅	1枚	新寛永
	D-12	SD11	寛永通寶						銅	1枚	測定不能
	D-12	SD12	寛永通寶						銅	1枚	測定不能
	D-12	SD12	寛永通寶						銅	1枚	測定不能
207	D-12	SD14	寛永通寶						銅・鉄	銅2枚・鉄1枚	
208	D-12	SD14	寛永通寶	寛文3年	1668				銅	4枚錆着	うち1枚は文銭
209	D-12	SD14	寛永通寶						鉄	3枚錆着	
	D-12	SD14	寛永通寶(鉄四文銭)						鉄		
210	D-12	SD15	寛永通寶	元禄10年	1697				銅	6枚錆着	うち1枚は新寛永
	E区	表採	富士5銭アルミ貨	昭和18年	1943	20.0		1.5	アルミ	1枚	
200	E区	表採	富士5銭アルミ貨	昭和18年	1943	20.0		1.5	アルミ	1枚	
211	G-12	表採	寛永通寶	寛文3年	1668				銅	3枚錆着	SD5直上
	H-11	SE1	寛永通寶						銅	1枚	
	4次確認	表採	洪武通寶						銅	1枚	
194	K-4	SB14-P2	寛永通寶	元禄10年	1697	24.5	5.5	1.2	銅	1枚	新寛永
195	K-4	SB14-P3	寛永通寶	元禄10年	1697	25.0	6.0	1.2	銅	1枚	新寛永
	K-4	SB14-P3	寛永通寶						銅	1枚	測定不能
196	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	22.5	6.5	1.1	銅	1枚	新寛永
197	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	23.5	7.0	1.2	銅	1枚	新寛永
198	K-4	SB14-P4	寛永通寶	寛永13年	1636	25.0	6.5	1.1	銅	1枚	古寛永
212	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697				銅・鉄	3枚錆着	銅銭2枚・鉄銭1枚
213	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697				銅	3枚錆着	うち1枚は新寛永
214	K-4	SB14-P4	寛永通寶						銅・鉄	3枚錆着	銅銭2枚・鉄銭1枚
215	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697				銅	3枚錆着	うち1枚は新寛永
216	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	23.5	6.0	1.0	銅	1枚	新寛永
217	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	23.5	7.0	1.0	銅	1枚	新寛永
218	K-4	SB14-P4	寛永通寶						銅・鉄	2枚錆着	銅銭1枚・鉄銭1枚
	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	25.5	6.5		銅・鉄	3枚錆着	銅銭2枚・鉄銭1枚
	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	23.0	7.0	1.2	銅	1枚	新寛永
	K-4	SB14-P4	寛永通寶						鉄	鉄4枚	
	K-4	SB14-P4	寛永通寶						銅	銅1枚	測定不能
	K-4	SB14-P4	寛永通寶						銅	銅1枚	測定不能
	K-4	SB14-P8	寛永通寶						鉄	1枚	測定不能
	L-4	SH86	寛永通寶						鉄	1枚	測定不能
199	L-0	SE44	皇宋通寶	寶元元年	1038	25.0		7.0	銅	2枚錆着	

第11表　遺物観察表（金属製品類②）



第78図　中・近世 石器・石製品実測図① (1/2)



第79図　中・近世 石器・石製品実測図②（1/2）

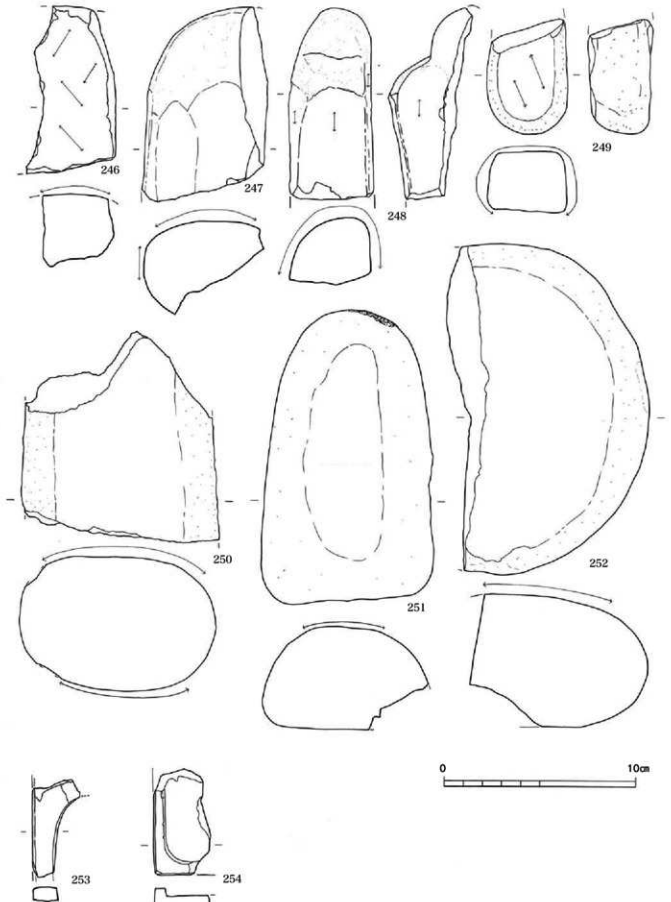
③石器・石製品

敲石・磨石類（第78図227～236）

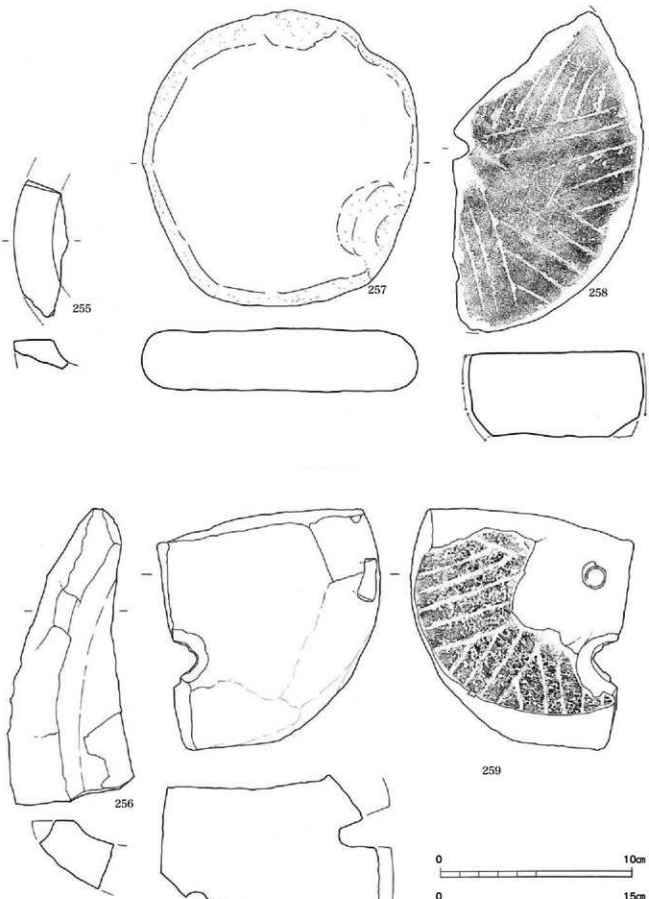
敲石・磨石類は９点出土し、すべて尾鈴山酸性岩類製である。尾鈴山酸性岩類製敲石・磨石類は旧石器～中近世まで広い時期幅での使用があるため、個別資料の時期比定には困難がともなう。

そのような中、素材礫の形状に注目すると、本遺跡の資料には餅状の円礫７点・筒状の棒礫１点が磨石に、やや扁平な楕円礫１点が敲石として利用されている。餅状の円礫素材の磨石には顕著な磨面のあるもの・表面がややすべらかになった程度のものの２者がある。筒状の棒礫素材の磨石は胴部に部分的に磨面が残される。

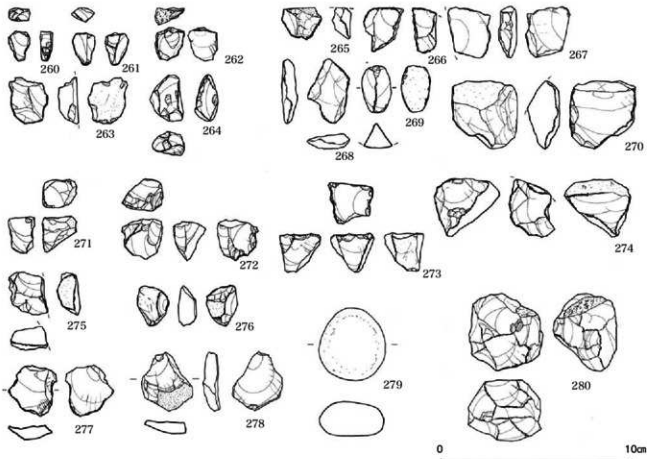
敲石は両側面から端部にかけて面的かつ顕著な敲打痕が残される。



第80図　中・近世 石器・石製品実測図③ (1/2)



第81図　中・近世 石器・石製品実測図④ (255~257:1/2、258・259:1/3)



第82図　中・近世 石器・石製品実測図⑤（1/2）

砥石（第79図237～245・第80図246～252）

砥石は16点あり、その石質（目の細かさ等）と砥面構成・最終形態とに一定の相関がある。

すなわちより目の細かい石質のものは小さくなるまでよく使い込まれており、全面が砥面（角柱状・薄板状）のものもある。一方、目の粗い石質のものは、河原石としての形状をそのまま残すものが多く、砥面も不規則に残される。砥面は、凹面をなすものから元の礫面形状をゆるく残すもの、深浅の直線的な傷を残すもの等、砥石ごとに各種みられる。

なお、砥石石材は砂岩等、遺跡周辺でも容易に獲得可能な堆積岩で占められる。

硯（第80図253・254）

硯は２点とも破損が著しい。外側面が直線的に立ち上がる形態的特徴から近世後半の所産であろう。

石臼（第81図255・256・258・259）

石臼には茶臼と挽き臼とがある。石材利用が明確に異なり、前者は硬砂岩、後者は砂岩となる。

茶臼は臼下の受け皿部分のみの破片２点であり、石質の特徴から２個体分であろう。

挽き臼は上臼・下臼各１点が1/4～2/3程度に割れたもので、ＳＢ14のＰ１中より重なって出土した。上臼・下臼は、臼の目がともに８分画であり、また復元される直径も約15cmと近いことから、１セットの石臼であった可能性がある。

台石（第81図257）

台石は１点あり、尾鈴山酸性岩類の扁平礫の表裏面がゆるく摩滅している。

なお、小片のため未図化であるが、曲面を持つ凝灰岩片がＳＥ22より出土している。五輪塔や石臼の破片の可能性が考えられる。

火打石およびその原料等（第82図）

遺構内外より計18点出土し、いずれも稜がよく潰れている。一部には火打金への打ち付けによる鉄錆の付着するものもみられる。

石材別にみると、玉髄４点・石英（砂岩質のものを含む）６点・チャート８点であり、川南町前ノ田村上第１遺跡の石材構成と類似している。重量は最少で玉髄製1.3gから最大チャート製58.4gまであり、大半は10.0g以下に収まる。石材別に重量の傾向をみると、相対的に玉髄が軽くチャートが重い傾向があり、換言すると玉髄は小さくなるまでよく使い込まれたと解釈できる。

チャート製火打石のいくつかには礫面の残るものがあり、その観察からは、ピンポン玉大の円礫が原材となったと推定される。同様の礫は、遺跡周辺の河原あるいは段丘礫層等から採取されたものと推測され、火打石の原材獲得をうかがう重要な資料となった。

このほか、チャート製火打石原材、分割された剥片あるいは火打石使用により生じた剥片も出土している。チャート製火打石が円礫状態で持ち込まれた可能性等が想起され、火打石の履歴を知る重要な資料となった。

№	器　種		Gr		石　材	長さ	幅	厚さ	重量	備　考
227	磨石	A区	SE1	-e	尾鈴山酸性岩類	8.7	8.6	3.9	467.5	表面のみ磨面あり。磨面は一般的な磨石と異なり、凹凸面がそのままこすれたような状態である。
228	磨石	A区	SE1	-e	尾鈴山酸性岩類	10.4	8.2	4.7	576.7	やや歪な円礫素材。表面に顕著な磨面あり。
229	磨石	A区	SE1	-h	尾鈴山酸性岩類	12.0	9.8	5.5	952.3	餅状の楕円礫素材。風化が進む。表裏面とも磨面あり。
230	磨石	A区	SE1		尾鈴山酸性岩類	11.3	4.3	6.0	427.1	1/2以上欠損する。風化著しい。
231	磨石	C区	SG2	-f	尾鈴山酸性岩類	9.6	4.7	5.9	306.2	1/2以上欠損する。磨面は顕著でない。
232	磨石	A区	SE1	-i	尾鈴山酸性岩類	6.4	6.0	3.8	208.9	餅状の楕円礫素材。磨面はあまり観察されない。
233	磨石	D区	SE45	-g	尾鈴山酸性岩類	7.9	5.2	5.7	269.3	1/2以上欠損する。磨面は顕著でない。
234	磨石	A区	SE1	-f	尾鈴山酸性岩類	15.4	6.8	5.3	869.2	棒状礫で、胴部に顕著な磨面あり。上下両端に弱い敲打痕あり。
235	敲石	C区	Ⅱ-4		尾鈴山酸性岩類	10.3	7.0	4.3	442.5	楕円礫素材で、端部から両側面にかけて顕著な敲打痕あり。表裏面は磨面であり、裏面には黒色タール状の付着物あり。
236	摩耗ある石器	A区	1-9T		砂岩	7.1	6.1	1.5	91.0	石材は茶臼のそれに近い。礫面を取り込んだうすい礫片素材で、両長辺の稜は顕著に摩滅している。
237	砥石	C区	SH78		砂岩	3.0	4.7	0.7	14.3	板状のもので、砥面は平滑。砥面には深い直線的な傷が多数走る。
238	砥石	D区	SE44	-35	砂岩	5.8	5.0	0.7	33.7	板状のもので、砥面はゆるい凹面となる。裏面は節理により剥落。
239	砥石	A区	SE1	-i	砂岩	7.6	4.1	3.0	164.8	分厚い箱状のもの。顕著な砥面あり。全体が熱片を受け、煉瓦色に変色している。
240	砥石	D区	SE44	-84	頁岩	7.3	3.0	1.3	21.6	破損著しい。砥面はゆるい凹面。
241	砥石	A区	1A		砂岩	9.9	7.0	2.8	296.6	表裏全面・側面の一部が砥面。断面竹管状の砥面が表面に2条ある。
242	砥石	D区	SH94		凝灰質砂岩	12.5	4.0	3.6	218.8	四角柱状のもので、全面砥面。砥面は凹面となる。
243	砥石	A区	SE3	-2.3.4.5	砂岩	6.6	7.4	1.1	53.9	板状のもので、砥面は浅い凹面。砥面には線状の傷が多くある。
244	砥石	C区	SG2	-j	砂岩	10.7	8.8	1.5	226.1	板状のもの。砥面は１面で平滑。
245	砥石	D区	SE45	-5	砂岩	9.0	6.2	3.7	314.5	直方体のもので、全面砥面。砥面は凹面となる。
246	砥石	D区	SE31	-1	砂岩	8.7	4.6	3.8	214.4	破損著しく、全面が赤変する。
247	砥石	A区	SE1	-f	砂岩	10.2	6.6	5.4	423.0	2～3cm幅の帯状の砥面が正面から側面にかけて連続する。
248	砥石	A区	SE1		砂岩	10.5	4.4	4.4	190.9	砥面は3面。裏側は大きく欠損。
249	砥石	C区	SG2	-f	砂岩	6.0	4.2	3.2	130.3	棒状礫素材で、１面のみ砥面。
250	砥石	A区	SE6	-21	砂岩	11.0	10.4	7.0	1189.8	分厚い楕円礫素材。表裏面ともに礫カーブに沿った弱い砥面がある。
251	砥石	A区	F8		砂岩	15.6	9.1	5.4	1142.0	表面凹部を中心に顕著な砥面あり。
252	砥石	A区	SE6	-15	砂岩	17.0	10.7	6.9	1723.4	半割れしている。表裏面ともに礫カーブに沿った弱い磨面がある。
253	硯	A区	SE1	-h	黒色頁岩	-	-	-	8.9	欠損著しい。
254	硯	C区	SG1	-9	砂岩	5.6	3.0	1.5	35.0	欠損著しい。
255	茶臼受け	D区	SE44	-3	硬砂岩	-	-	-	31.6	破損著しい。
256	茶臼受け	A区	SE1	-49	硬砂岩	-	-	-	334.3	割れている。臼外は整形に伴う工具痕が残る。臼外面・割れ口の一部に加熱による黒変がある。
257	台石	A区	SE1	-h	尾鈴山酸性岩類	16.5	14.4	3.3	1273.3	表面に顕著な磨面あり。
258	挽き臼下	D区	SB14	-3-P1	砂岩	-	-	-	3837.5	軸受けを中心に約2/3のみ残る。臼の目は８分画。復元される直径約15cm。器面・割れ面が赤化あるいは煤けており、破砕後何らかの熱変を受けている可能性がある。
259	挽き臼上	D区	SB14	-3-P1	砂岩	-	-	-	5215.3	全体に破損著しいものの、挽木の口や軸受・もの入れが残る格好で全体の約1/4が残る。臼の目は８分画。復元される直径15cm。割れ面の１つが突出部を中心に滑らかになっており、臼破砕後、砥石等に転用されたかあるいは別要因で結果的に滑らかになったかが考えられる。
260	火打石	A区	SE5		玉髄	1.5	1.1	5.5	1.3	手で持ちにくいほど小さくなるまで使用される。稜が潰れる。
261	火打石	C区	SC66	-3	玉髄	1.7	1.3	0.9	1.4	稜が潰れる。
262	火打石	C区	SG2	-i	玉髄	1.8	1.6	1.0	2.0	使用に伴い割られた火打石か。
263	火打石	D区	SE44	- c	玉髄	2.5	2.1	1.2	5.0	稜が潰れる。
264	火打石	C区	SG2	-i	玉髄	2.5	1.8	1.2	5.5	石核様。稜が潰れる。
265	火打石	A区	1A		石英	1.7	2.1	0.9	3.1	水晶に近い。稜が潰れる。
266	火打石	A区	SE1		石英	2.8	2.1	1.3	6.2	円礫素材。稜が潰れる。
267	火打石	C区	1C		石英	2.3	2.2	1.0	7.3	円礫素材。稜が潰れる。
268	火打石	D区	SE44	- c	硬砂岩	3.5	2.4	0.9	5.7	石英に近い石質。稜が潰れる。
269	火打石	A区	1A		石英	2.5	1.5	1.6	4.7	ピンポン玉大の円礫素材。稜が潰れる。
270	火打石	C区	SG2	-e	石英	3.6	3.4	2.2	23.8	円礫素材。稜が潰れる。
271	火打石	C区	SC66	-4	チャート	2.0	1.9	1.5	5.6	灰黒色のチャート。石核様。稜が潰れる。
272	火打石	D区	SB18	-P4	チャート	2.2	2.2	1.7	6.3	良質かつ灰色のチャート。石核様。稜が潰れる。
273	火打石	A区	1A		チャート	2.5	2.2	2.2	9.1	良質かつ灰黒色のチャート。石核様。稜が潰れる。
274	火打石	A区	SE5		チャート	3.0	3.5	2.2	22.5	良質かつ灰緑色のチャート。円礫素材。稜が潰れる。
275	火打石	D区	SE44	- c	チャート	2.2	1.9	1.4	6.3	淡緑色のチャート。稜が潰れる。
276	火打石	C区	SG1	-h	チャート	2.1	1.7	9.5	3.2	良質かつ灰色のチャート。円礫素材。稜が潰れる。
277	火打石	A区	SE1	-h	チャート	2.5	1.8	2.1	4.7	淡緑色のチャート。剥片様。稜が潰れる。
278	剥片	D区	SE44	- c	チャート	3.1	2.7	0.9	5.7	不定形剥片。稜は非常に鋭く、印象として旧石器～弥生時代の剥片石器でない。石質等の類似から、可能性として火打石の素材剥片とも言える。
279	火打石原石	A区	SE1		チャート	3.8	3.5	1.8	35.2	火打石の石材・礫面の特徴と比較して、火打石の原石である可能性が高い。非常によく転磨された円礫。
280	火打石	D区	SE44	-f	チャート	4.2	4.0	3.3	58.4	灰白色のチャート。石核様。稜が潰れ、一部には鉄錆の付着も見られる。

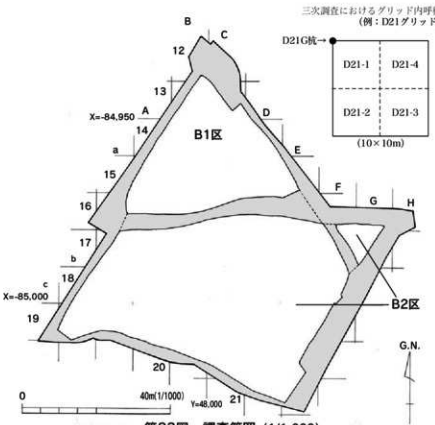
第12表　遺物観察表（石器・石製品）

第Ⅴ章　三次調査の記録

第１節　調査の概要

三次調査の対象面積は約4,900㎡である。そのうち、調査区に接する田畑の境界線より調査区側一部及び地域住民の生活道路ともなっている農道部分を除き調査を進めた。調査区は調査の都合上、調査区を南北に分ける農道を挟んで便宜的に北部をＢ１区、南部をＢ２区（第83図）とした。

調査は表土を除去した後、鍵層であるアカホヤ火山灰（K-Ah）降灰前（縄文時代早期）と降灰後に分けて調査を行った。

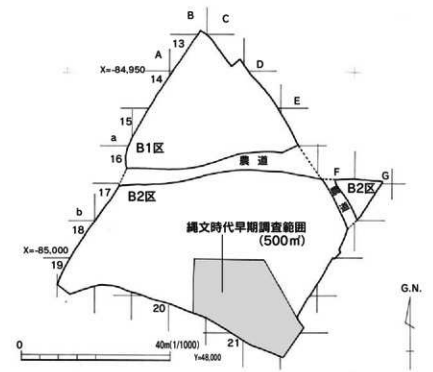


第83図　調査範囲（1/1,000）

1　縄文時代早期の調査

縄文時代早期の調査は平成15年２月５日から３月５日まで実施した。確認調査の結果、縄文時代早期層を良好に残すＢ２区南部の約500㎡に絞って調査を進めた（第84図）。土層確認用の先行トレンチ内から検出された集石遺構の周辺区である。

調査の結果、遺構として集石遺構が８基確認された。遺物としては石器（石鏃４点、剥片13点）、縄文土器片等が出土した。詳細は第３節に記述する。



第84図　縄文時代早期調査範囲（1/1,000）

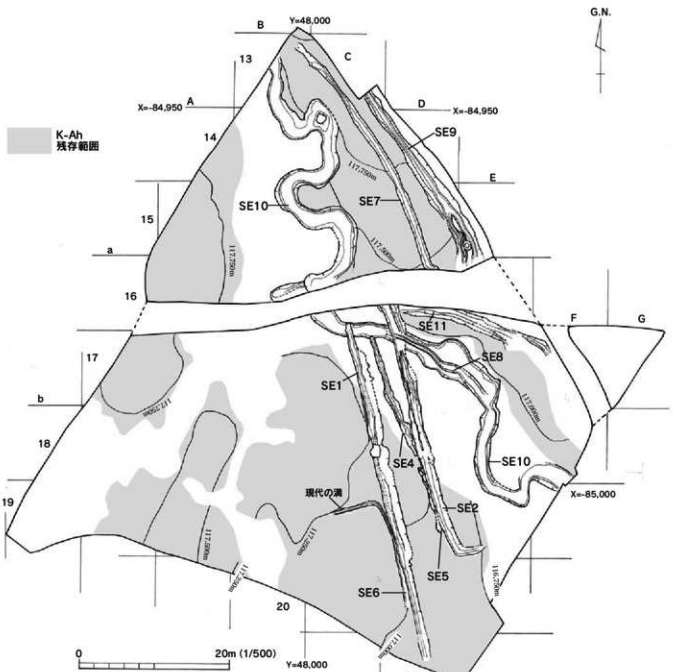
2　アカホヤ火山灰（K-Ah）降灰後の調査

アカホヤ火山灰（K-Ah層）降灰後の調査は平成14年12月10日から平成15年２月12日まで実施した。

まず表土をK-Ah上面にそろえて重機で剥いだ。その結果K-Ahを切る11条の溝状遺構を検出した（第85図）。

11条の溝状遺構のうち、９条（SE1～SE9）は傾向として直線的な溝である。埋土からは石器、土器、陶磁器等の遺物が出土した。遺構埋土の状況及び遺物出土の状況、遺構同士の切り合い関係等から中世以降の溝状遺構と判断した。詳細は第５節に記述する。

またS字状ないし緩やかに屈曲する溝状遺構（SE10・SE11）を検出した。SE10からは、弥生時代後期の土器または土器片が多数出土した。ＳＥ11からは遺物は認められなかった。詳細は第４節及び第６節に記述する。



第85図　溝状遺構分布図（1/500）

第２節　基本層序

１　基本層序（第13表）

三次調査においては、先行トレンチを調査区南西部に２箇所（第86図）設定し、［a-a′］・［b-b′］の土層を図化した（第87図）。

２箇所の先行トレンチの土層断面と遺構・遺物の出土状況等を検討し基本土層を第13表の層序とした。

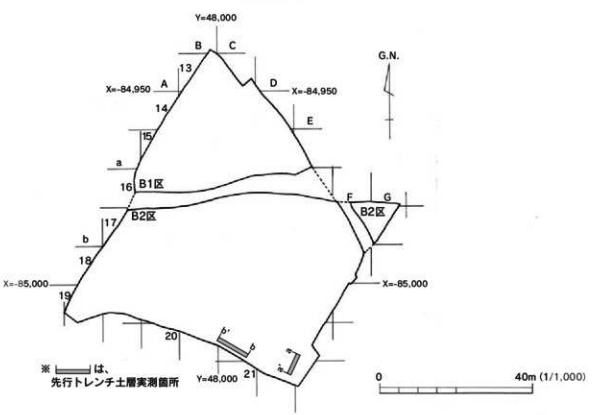
Ⅵ層以下は水分を多量に含む明褐色土層であり、巨礫を含む層である。

鍵層として、鬼界アカホヤ火山灰［K-Ah］(約6,400年前)を含む層が認められたが、小林軽石［Kr-kb］を含む層は認められなかった。Ⅲ層（黒色土）・Ⅳ層（黒褐色土）は縄文時代早期の文化層である。

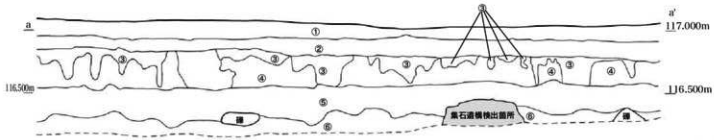
- Ⅰａ層…表土①［耕作土］
- Ⅰｂ層…表土②［褐鉄鉱を含む耕作土］
- Ⅱａ層…黄褐色土［鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah層)層ａ］
- Ⅱｂ層…明黄褐色土［鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah)層ｂ］
- Ⅱｃ層…黒褐色土［鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah)層ｃ］
- Ⅲ層　…黒色土
- Ⅳ層　…黒褐色土
- Ⅴａ層…暗褐色土※粘性を有する。
- Ⅴｂ層…暗褐色土※褐鉄鉱を含む。
- Ⅵ層　…明褐色土

※Ⅲ層・Ⅳ層を縄文時代早期層とした。

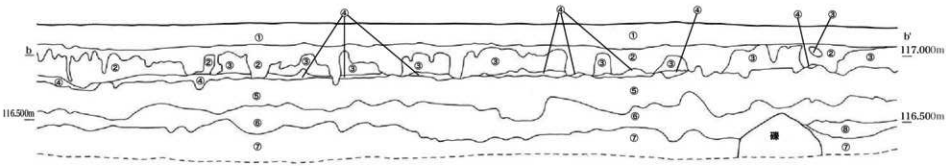
第13表　基本層序



第86図　先行トレンチ土層実測箇所（1/1,000）



【土層注記】（a－a'）
①表土Ⅰ（耕作土）
②表土Ⅱ（耕作土：褐鉄鉱を多量に含む。）
③暗褐色土（7.5YR3/4）
しまり、粘性ともに非常に弱い。K-Ah（アカホヤ火山灰）が植物や水の影響を受けて変色したと考えられる。ざらざらしている。1～2mm程度の黄橙色粒を非常に多く含む。
④明褐色土（7.5YR5/6）
K-Ah（アカホヤ火山灰）本体。しまり、粘性ともに非常に弱い。ざらざらしている。下層には1～2mm程度の黄橙色粒・白色粒による層を形成する。全体的に1mm以下の白色粒が少し混じる。
⑤黒褐色土（7.5YR3/2-1）
しまりは弱く、粘性は非常に強い。僅ると毛羽立つ。5mm程度の小石を少し含む。にぶい黄褐色土が所々斑状に認められる。
⑥にぶい黄褐色土（10YR4/3）
しまりは弱く、粘性は非常に強い（V層よりも更に強い）。水分を多く含んでおり、やわらかい。1mm以下の白色粒を多く含む。300mm以上の巨礫を認める。



【土層注記】（b－b'）
①表土Ⅰ（耕作土）
②黄褐色土（10YR
K-Ah（アカホヤ火山灰）土壌。しまりは強く、粘性はやや弱い。ざらざらしている。やや黒色を帯びるのは、植物根等の腐土や水の影響が考えられる。
③明黄褐色土（10YR4/6）
K-Ah（アカホヤ火山灰）中層。しまりは強く、粘性はやや弱い。ざらざらしている。下層に1mm程度の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
④黒褐色土（7.5YR3/2/2）
K-Ah（アカホヤ火山灰）下層。しまりは強く、粘性はやや弱い。ざらざらしている。1mm以下の黄橙色粒・白色粒をやや少し含む。
⑤黒色土（7.5YR4.1.7/1）
しまりはやや強く、粘性は強い。僅ると毛羽立つ。全体的に褐鉄鉱が含まれている。1mm程度の黄橙色粒・白色粒を少し含む。
⑥黒褐色土（7.5YR2/2）
しまりはやや強く、粘性はV層より強い。僅ると毛羽立ち、ぺたぺたした感じである。全体的に褐鉄鉱がやや多く含まれている。1mm程度の黄橙色土・白色粒を少し含む。
⑦暗褐色土（7.5YR3/4）
しまり、粘性ともに非常に強い。僅ると毛羽立ち、ぺたぺたした感じである。全体的に褐鉄鉱が少し含まれている。1mm以下の白色粒を少量含む。
⑧明褐色土（7.5YR5/6）
しまりは非常に強い（V層よりも更に強い）。粘性は強い。粘土質である。白色の筋状の帯が全体に入る。僅るとシャリシャリして剥がれる。本トレンチの場合、この層は北西部分にしか認められない為、部分的に堆積した層と考えられる。

第87図　先行トレンチ土層実測図（1/30）

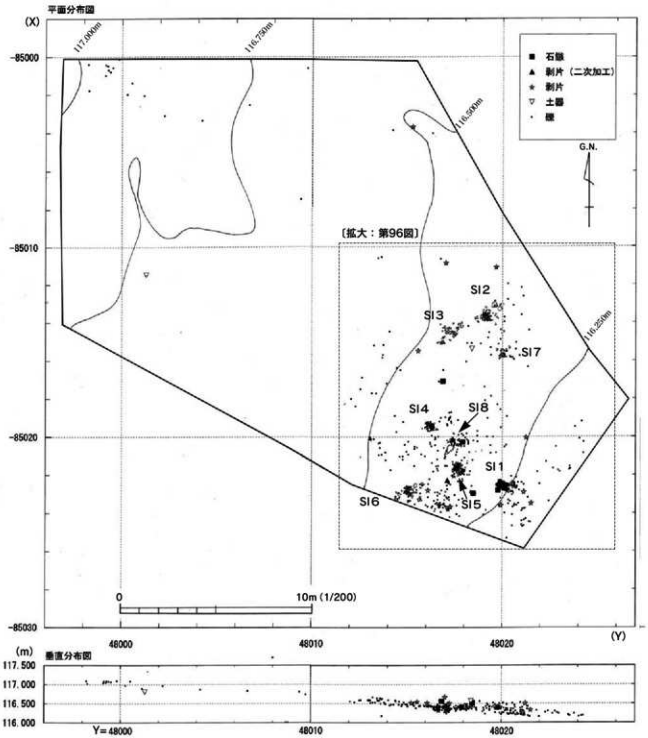
0　1m (1/30)

第３節　縄文時代早期の遺構と遺物

１　縄文時代早期の概要

縄文時代早期の層はⅢ層及びⅣ層に相当する。

遺跡南西部の先行トレンチ内から集石遺構が１基検出された。また３箇所トレンチを設定し、層の残存状況及び遺構・遺物の有無を確認したところ、第84図に示す範囲に縄文時代早期の層が良好に残存していることが確認できた。その結果、約500㎡を縄文時代早期の調査対象範囲として調査を開始した。



第88図　縄文時代早期遺構・遺物・礫分布図（1/200）

調査の結果、本層では遺物として17点の石器（石鏃４点、剥片13点）、縄文土器片２点、磁器片１点が出土し、遺構として集石遺構を８基検出した。磁器片はクラックもしくは植物根痕等の影響による落ち込みの遺物である。

以下、遺構と遺物について詳細を記す。

２　遺構と遺物

(1) 遺構（集石遺構）

縄文時代早期の遺構として、集石遺構８基が検出された。すべての集石遺構において、掘込みや配石は認められず、石材としては尾鈴山酸性岩類の礫のみで構成されていた。

ＳＩ１（第89図）

Ⅲ層上層、標高約116.35m～116.50mの地点、D21～E21で検出された。長径約115㎝×短径75㎝を測る。175点の礫で構成され、密な状態である。掘込みや配石はない。ただし、礫が積み上げられた幾重にも重なった状態で検出され、熱効率が平積みの遺構に比して高いことが想定される。

構成礫の平均重量は約160.0ｇを測り、長径10cm大以上の礫を４個含む。礫の90%以上に赤化が認められ、被熱によるものと考えられる。またほとんどの礫が破砕していた。

礫の接合関係を調べた結果、遺構内において18個体の礫が接合したが、周辺の散礫との接合は１個体にとどまった。

平面図における右下部分の礫は、何らかの影響でＳＩ１本体から移動したものと考えられる。

ＳＩ２（第89図）

Ⅲ層上層、標高約116.50m～116.60mの地点、D20で検出された。約165㎝×160㎝を測る。遺構中心部に礫が密集し、周辺の礫は何らかの影響で本体から移動したか、もしくは、構成礫自体が消失した可能性が考えられる。102点の礫で構成される。掘込みや配石はない。

礫の平均重量は190.0ｇを量る。礫の約95%が赤化している。最大径約５㎜程度の炭化物が検出された。赤化は被熱によるものと考えられる。礫のほとんどが破砕している。第89図の平面図には自然堆積の礫３点も掲載している。

遺構内において礫の接合関係を調べた結果、４個体の礫が接合した。

ＳＩ３（第90図）

Ⅲ層上層、標高約116.50m～116.60mの地点、D20で検出された。約170㎝×105㎝を測る。37点の礫で構成され、礫の密度は疎である。

礫の平均重量は600.0ｇを量る。径15㎝～20㎝大の大型礫を含み、小型でも10㎝内外の長径を測る礫で構成される。礫の約85%が赤化しており、礫が部分的に破砕しているものがほとんどである。

遺構内の礫の接合関係を調べた結果、１個体の礫が接合した。また周辺の散礫との接合も認められた。

ＳＩ４（第90図）

Ⅲ層、標高約116.45m～116.57mの地点、D20で検出された。約100㎝×75㎝を測る。73点の礫で構成される。掘込みは認められない。

礫の平均重量は190.0ｇを量る。礫の約80%が被熱による赤化が認められ、礫はほとんどが破砕している。

遺構内の礫の接合関係を調べた結果、３個体の接合を確認できた。また周辺の散礫との接合も認められた。さらにはＳＩ８との接合を確認した。

ＳＩ５（第91図）

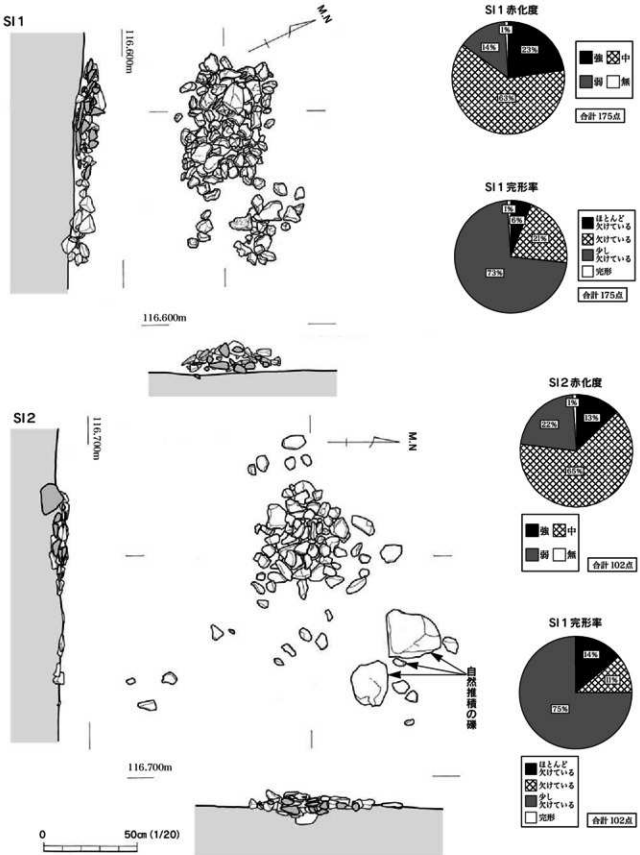
Ⅲ層、標高約116.35m～116.53mの地点、D21で検出された。約85㎝×85㎝を測る。97点の礫で構成されている。掘込みは認められない。

礫の平均重量は320.0ｇを測り、他の集石遺構に比べると礫が大きいのが特徴である。礫の約75%で赤化が認められる。

礫の接合関係を調べた結果、８個体の接合を確認できた。

ＳＩ６（第91図）

標高約116.40m～116.57mの地点、D21で確認



第89図　縄文時代早期集石遺構実測図①（1/20）

できた。約180cm×105cmを測る。83点の礫で構成される。遺構中心部は密に礫があるものの周辺部に礫が散在している。何らかの影響で礫が移動したか、構成礫自体が消失したものと考えられる。20cm程度の出土レヴェルの差があるが、掘込みや配石はない。遺構中心部の埋土から径１㎜程度の炭化物をまばらに検出した。

礫の平均重量は290.0ｇを量る。礫の約60%に赤化が認められ、ほとんどの礫が破砕していた。

遺構内の礫の接合関係を調べた結果、８個体の礫の接合が確認できた。

ＳＩ７（第92図）

Ⅲ層下層、標高約116.58m～116.59mの地点、D20・E20で検出された。約130cm×80cmを測る。28点の礫で構成される。径約10cm大以上の礫がほとんどである。周辺部は礫構成が疎であるため、何らかの影響を受け礫が移動したか、構成していた礫自体が何らかの理由で消失したものと考えられる。掘込みや配石は認められない。

礫の平均重量は240.0ｇを量る。約65%が赤化しており、またほとんどの礫が一部分で破砕している。

遺構内の礫の接合関係を調べた結果、１個体の礫が接合した。

ＳＩ８（第92図）

標高約116.75m～116.85mの地点、D20・D21で検出された。約95cm×80cmを測る。38点の礫で構成される。やや疎な礫構成のため、一部の礫が消失したか、礫自体が移動した可能性がある。掘込みや配石は認められない。

礫の平均重量は220.0ｇを量る。礫のほとんど約92%に被熱によると考えられる赤化が認められる。また、ほとんどの礫が破砕していた。

遺構内礫の接合関係を調べた結果、５個体の礫が接合した。

【表の見方】 ※完形率 ： A＝ほとんど欠けている（０%～ ） B＝欠けている（４０%～ ） C＝少し欠けている（８０%～） K＝完形礫（１００%）
※赤化度 ： 無＝赤化していない 弱＝部分的に赤化している 中＝全体的に赤化している 強＝非常に赤化している
※黒色物付着の有無 ： １＝有 ２＝無 （黒色物付着の有無は、炭化物・ススの付着や礫変色等の影響を受けたと思われる礫表面の黒色変等を目視によって確認した。）
（注）番号は整理の都合上、便宜的に付けた任意の番号である。接合状況欄の「散（番号）」は縄文時代早期面の礫（第88図）を指す。

ＳＩ１の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
1	885	B	強	1		
2	345	C	中	2		
3	890	C	中	1		
4	100	C	中	1		
5	320	C	中	1		
6	410	B	中	1		
7	47	C	中	1	102	集石内接合
8	220	C	中	1		
9	185	B	中	2		
10	105	C	弱	1		
11	345	C	中	1		
12	106	C	強	2	19 36 46 59 64 124 17	集石内接合
13	70	C	強	2		
14	120	C	中	2		
15	120	C	中	2		
16	234	C	強	1		
17	90	C	強	2		
18	40	C	中	2		
19	83	C	強	2	12 36 46 59 64 124 17	集石内接合
20	71	C	強	2	49	集石内接合
21	241	A	中	2		
22	115	C	強	2		
23	260	B	中	2		
24	220	C	弱	2		
25	985	B	中	1		
26	350	C	強	2		
27	134	B	中	2		
28	150	B	中	2	112	集石内接合
29	336	C	強	2		
30	171	C	強	2	69	集石内接合
31	130	A	中	2		
32	295	C	中	2		
33	103	K	中	2		
34	121	C	弱	2		
35	90	C	中	2		
36	32	C	強	2	12 19 46 59 64 124 17	集石内接合
37	67	C	弱	1	60 73 91	集石内接合
38	70	C	中	2	118	集石内接合
39	82	B	中	2	61 76	集石内接合
40	935	C	強	2		
41	120	C	無	2		

ＳＩ１の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
42	90	C	弱	1		
43	75	C	強	2	92 159	集石内接合
44	60	C	強	2	54 72 77 168 169	集石内接合
45	95	C	中	2	126	集石内接合
46	100	C	中	2	12 19 36 59 64 124 17	集石内接合
47	75	A	中	2		
48	205	C	中	1		
49	120	C	中	2	20	集石内接合
50	60	B	弱	2		
51	30	C	中	2	71	集石内接合
52	19	C	中	2		
53	30	C	強	2	79 87	集石内接合
54	19	C	中	2	44 72 77 168 169	集石内接合
55	28	C	中	2	171	集石内接合
56	20	C	強	2		
57	22	C	中	2		
58	25	C	中	2		
59	25	C	中	2	12 19 36 46 64 124 17	集石内接合
60	20	C	中	1	37 73 91	集石内接合
61	15	C	中	2	39 76	集石内接合
62	20	C	中	2		
63	20	C	中	2	78 114 149	集石内接合
64	21	C	強	2	12 19 36 46 59 124 17	集石内接合
65	21	B	中	2		
66	17	B	中	2		
67	11	C	中	2		
68	25	C	中	2		
69	11	C	中	1	30	集石内接合
70	9	C	弱	2		
71	9	C	中	2	51	集石内接合
72	13	C	中	2	44 54 77 168 169	集石内接合
73	13	C	弱	2	37 80 91	集石内接合
74	6	C	中	2		
75	5	C	中	2		
76	4	C	中	2	39 61	集石内接合
77	10	C	中	2	44 54 72 168 169	集石内接合
78	3	C	弱	2	63 114 149	集石内接合
79	9	C	中	2	53 87	集石内接合
80	44	C	弱	2		
81	68	B	強	2		
82	79	C	中	2		

第14表　集石遺構構成礫観察表①

【表の見方】　※完形率　：　A＝ほとんど欠けている（０％～　）　B＝欠けている（４０％～　）　C＝少し欠けている（８０％～）　K＝完形礫（１００％）
※赤化度　：　無＝赤化していない　弱＝部分的に赤化している　中＝全体的に赤化している　強＝非常に赤化している
※黒色物付着の有無　：　１＝有　２＝無　（黒色物付着の有無は、炭化物・ススの付着や礫変色等の影響を受けたと思われる礫表面の黒色変等を目視によって確認した。）
（注）番号は整理の都合上、便宜的に付けた任意の番号である。接合状況欄の「散（番号）」は縄文時代早期面の礫（第８８図）を指す。

Ｓ１１の構成礫

番号	重量 (g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
83	123	C	強	1		
84	175	C	中	1	147	集石内接合
85	230	C	中	2		
86	885	C	中	2		
87	765	C	強	2	53 79	集石内接合
88	207	B	中	1	99 166	集石内接合
89	1055	A	中	1		
90	150	C	中	2		
91	120	C	弱	2	37 60 73	集石内接合
92	255	C	強	2	43 159	集石内接合
93	110	C	弱	2		
94	165	C	中	2		
95	125	B	中	2		
96	98	B	中	2		
97	110	B	中	2		
98	115	B	中	2		
99	75	C	中	2	88 166	集石内接合
100	158	B	中	1		
101	195	C	弱	1		
102	145	C	中	1	7	集石内接合
103	195	A	中	2		
104	73	C	中	2		
105	105	C	強	2		
106	270	C	弱	2		
107	55	C	弱	2		
108	203	B	中	2		
109	134	B	中	2		
110	145	A	中	2		
111	105	A	中	1		
112	60	B	中	2	28	集石内接合
113	110	C	中	2		
114	31	C	中	2	63 78 149	集石内接合
115	70	B	中	2		
116	110	C	中	1		
117	130	B	中	2		
118	134	B	中	2	38	集石内接合
119	89	B	中	2		
120	81	C	中	2		
121	380	C	強	2		
122	90	C	弱	2		
123	320	A	中	1		
124	210	C	強	2	12 19 36 46 59 64 170	集石内接合
125	126	B	強	1		
126	90	C	強	2	45	集石内接合
127	51	C	中	2	162	集石内接合
128	91	C	中	2		
129	39	C	中	2		
130	199	C	強	1		
131	130	C	中	2		
132	199	C	中	2		
133	200	C	中	1		
134	545	C	強	2	散285	集石と散礫の接合
135	112	B	強	2		
136	385	C	中	1		
137	298	B	強	2		
138	25	C	弱	2		
139	145	A	中	2		
140	51	C	中	1		
141	257	C	中	2		
142	136	C	中	2		
143	285	C	中	2		
144	52	C	弱	2		
145	215	B	中	1		
146	30	C	中	2		
147	70	C	中	2	84	集石内接合
148	113	C	中	2		
149	81	C	中	2	63 78 114	集石内接合
150	210	C	中	2		
151	146	B	強	2		
152	251	C	弱	1		
153	186	B	強	2		
154	190	B	強	2		
155	305	B	中	1		
156	235	B	強	1		
157	265	C	強	2		
158	440	A	中	2		
159	45	C	中	1	43 92	集石内接合
160	110	B	中	1		
161	121	C	中	2		
162	150	C	弱	2	34	集石内接合
163	148	B	強	2		
164	135	C	中	2		
165	101	C	弱	2		
166	170	C	中	2	88 99	集石内接合
167	100	C	中	2		
168	30	C	強	2	44 55 72 77 169	集石内接合
169	135	C	中	2	44 54 72 77 168	集石内接合
170	47	C	強	2	12 19 36 46 59 64 124	集石内接合
127	51	C	中	2	162	集石内接合
128	91	C	中	2		
129	39	C	中	2		
130	199	C	強	1		
131	130	C	中	2		
132	199	C	中	2		
133	200	C	中	1		
134	545	C	強	2	散285	集石と散礫の接合

Ｓ１１の構成礫

番号	重量 (g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
127	51	C	中	2	162	集石内接合
128	91	C	中	2		
129	39	C	中	2		
130	199	C	強	1		
131	130	C	中	2		
132	199	C	中	2		
133	200	C	中	1		
134	545	C	強	2	散285	集石と散礫の接合
135	112	B	強	2		
136	385	C	中	1		
137	298	B	強	2		
138	25	C	弱	2		
139	145	A	中	2		
140	51	C	中	1		
141	257	C	中	2		
142	136	C	中	2		
143	285	C	中	2		
144	52	C	弱	2		
145	215	B	中	1		
146	30	C	中	2		
147	70	C	中	2	84	集石内接合
148	113	C	中	2		
149	81	C	中	2	63 78 114	集石内接合
150	210	C	中	2		
151	146	B	強	2		
152	251	C	弱	1		
153	186	B	強	2		
154	190	B	強	2		
155	305	B	中	1		
156	235	B	強	1		
157	265	C	強	2		
158	440	A	中	2		
159	45	C	中	1	43 92	集石内接合
160	110	B	中	1		
161	121	C	中	2		
162	150	C	弱	2	34	集石内接合
163	148	B	強	2		
164	135	C	中	2		
165	101	C	弱	2		
166	170	C	中	2	88 99	集石内接合
167	100	C	中	2		
168	30	C	強	2	44 55 72 77 169	集石内接合
169	135	C	中	2	44 54 72 77 168	集石内接合
170	47	C	強	2	12 19 36 46 59 64 124	集石内接合
127	51	C	中	2	162	集石内接合
128	91	C	中	2		
129	39	C	中	2		
130	199	C	強	1		
131	130	C	中	2		
132	199	C	中	2		
133	200	C	中	1		
134	545	C	強	2	散285	集石と散礫の接合
135	112	B	強	2		
136	385	C	中	1		
137	298	B	強	2		
138	25	C	弱	2		
139	145	A	中	2		
140	51	C	中	1		
141	257	C	中	2		
142	136	C	中	2		
143	285	C	中	2		
144	52	C	弱	2		
145	215	B	中	1		
146	30	C	中	2		
147	70	C	中	2	84	集石内接合
148	113	C	中	2		
149	81	C	中	2	63 78 114	集石内接合
150	210	C	中	2		
151	146	B	強	2		
152	251	C	弱	1		
153	186	B	強	2		
154	190	B	強	2		
155	305	B	中	1		
156	235	B	強	1		
157	265	C	強	2		
158	440	A	中	2		
159	45	C	中	1	43 92	集石内接合
160	110	B	中	1		
161	121	C	中	2		
162	150	C	弱	2	34	集石内接合
163	148	B	強	2		
164	135	C	中	2		
165	101	C	弱	2		
166	170	C	中	2	88 99	集石内接合
167	100	C	中	2		
168	30	C	強	2	44 55 72 77 169	集石内接合
169	135	C	中	2	44 54 72 77 168	集石内接合
170	47	C	強	2	12 19 36 46 59 64 124	集石内接合
163	148	B	強	2		
164	135	C	中	2		
165	101	C	弱	2		
166	170	C	中	2	88 99	集石内接合
167	100	C	中	2		
168	30	C	強	2	44 55 72 77 169	集石内接合
169	135	C	中	2	44 54 72 77 168	集石内接合
170	47	C	強	2	12 19 36 46 59 64 124	集石内接合

第15表　集石遺構構成礫観察表②

【表の見方】　※完形率 ： A＝ほとんど欠けている(0％～) B＝欠けている(40％～) C＝少し欠けている(80％～) K＝完形礫(100％)
※赤化度 ： 無＝赤化していない　弱＝部分的に赤化している　中＝全体的に赤化している　強＝非常に赤化している
※黒色物付着の有無 ： 1＝有　2＝無　(黒色物付着の有無は、炭化物・ススの付着や礫変色等の影響を受けたと思われる礫表面の黒色変等を目視によって確認した。)
(注) 番号は整理の都合上、便宜的に付けた任意の番号である。接合状況欄の「散（番号）」は縄文時代早期面の礫（第88図）を指す。

S I 1の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
171	55	C	中	1	55	集石内接合
172	330	C	中	1		
173	190	C	強	2		
174	140	C	中	2		
175	32	C	弱	2		
168	30	C	強	2	44 54 72 77 169	集石内接合
169	135	C	中	2	44 54 72 77 168	集石内接合
170	47	C	強	2	12 19 36 46 59 64 124	集石内接合
171	55	C	中	1	55	集石内接合
172	330	C	中	1		
173	190	C	強	2		
174	140	C	中	2		
175	32	C	弱	2		

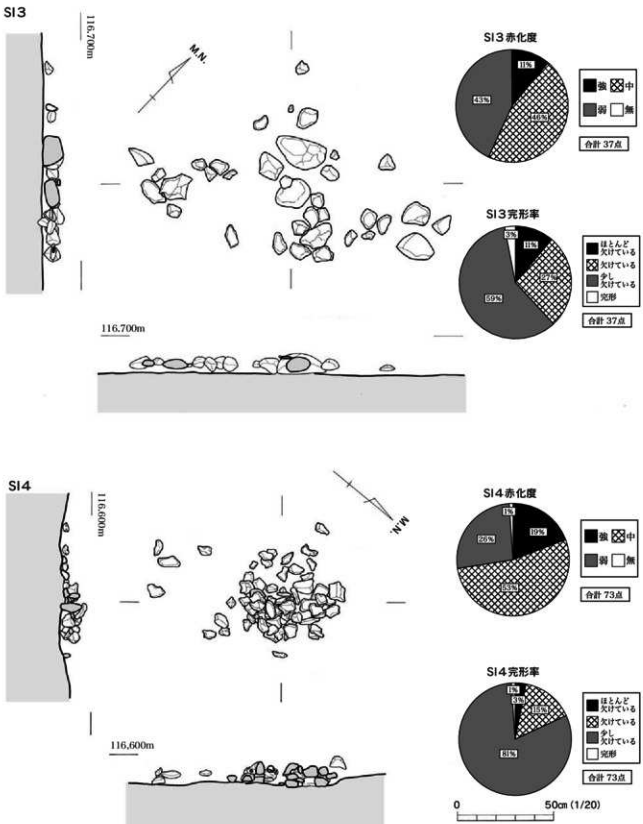
S I 2の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
1	245	C	中	1		
2	236	C	中	2		
3	280	C	強	2		
4	190	B	強	2		
5	180	B	中	2	54	集石内接合
6	310	A	中	2		
7	250	A	中	1		
8	340	C	中	2		
9	317	C	中	1		
10	90	C	中	2		
11	140	B	中	2		
12	220	C	中	1		
13	170	B	弱	2		
14	305	C	中	1		
15	220	B	中	1		
16	255	A	中	2		
17	400	C	中	1		
18	393	C	無	2		
19	398	B	弱	2		
20	865	C	中	1		
21	170	B	中	1		
22	110	C	中	1		
23	125	C	中	2		
24	100	C	中	2		
25	415	C	中	2		
26	300	C	中	2		
27	165	A	中	1		
28	125	B	強	1		
29	115	C	強	2		
30	270	C	中	2		
31	175	C	中	1		
32	50	C	中	2	85	集石内接合
33	230	A	中	1		
10	90	C	中	2		
11	140	B	中	2		
12	220	C	中	1		
13	170	B	弱	2		
14	305	C	中	1		
15	220	B	中	1		
16	255	A	中	2		
17	400	C	中	1		
18	393	C	無	2		
19	398	B	弱	2		
20	865	C	中	1		
21	170	B	中	1		
22	110	C	中	1		
23	125	C	中	2		
24	100	C	中	2		
25	415	C	中	2		
26	300	C	中	2		
27	165	A	中	1		
28	125	B	強	1		
29	115	C	強	2		
30	270	C	中	2		
31	175	C	中	1		
32	50	C	中	2	85	集石内接合
33	230	A	中	1		

S I 2の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
34	100	C	中	1		
35	225	C	弱	2		
36	300	C	弱	2		
37	135	C	中	1		
38	300	C	強	1		
39	150	C	強	2		
40	235	B	中	1		
41	335	C	中	1		
42	75	C	中	2		
43	120	C	中	2		
44	220	C	中	1		
45	295	C	弱	2		
46	185	C	中	2		
47	35	C	中	2		
48	80	C	中	2		
49	225	A	強	2		
50	10	C	中	2		
51	130	B	中	2	73	集石内接合
52	73	C	中	2		
53	130	C	中	2		
54	196	C	中	2	5	集石内接合
55	240	C	中	2		
56	130	C	弱	2		
57	125	C	中	1		
58	125	C	中	1		
59	458	C	強	2		
60	135	A	強	2		
61	155	A	中	1		
62	65	C	中	1		
63	75	C	中	2		
64	125	C	中	2		
65	65	C	強	2		
66	115	C	中	1		
67	55	C	中	2		
68	20	B	中	2		
69	15	C	弱	2	70 82	集石内接合
70	10	C	弱	2	69 82	集石内接合
71	7	C	弱	2		
72	10	C	弱	2		
73	30	C	中	2	51	集石内接合
74	28	C	弱	2		
75	113	A	中	1		
76	505	C	弱	2		
77	175	C	弱	2		
78	100	C	中	2		
79	70	C	中	1		
80	55	C	弱	2		
81	60	C	強	2		
82	50	C	中	2	69 70	集石内接合
83	90	C	中	2		
84	73	A	中	2		
85	70	C	中	2	32	集石内接合
86	90	A	強	2		
87	90	A	中	1		
88	150	A	中	1		
89	110	C	弱	2		
90	83	C	弱	2		
91	95	A	中	2		
92	157	C	弱	2		
93	138	C	弱	2		
94	100	C	中	1		
95	112	C	弱	2		
96	125	C	中	2		
97	95	C	強	2		
98	55	C	中	1		
99	55	C	弱	2		
100	120	C	中	2		
101	120	C	弱	2		
102	3670	C	弱	2		

第16表　集石遺構構成礫観察表③



第90図　縄文時代早期集石遺構実測図②（1/20）

【表の見方】　※完形率　：　A＝ほとんど欠けている（０％～　）　B＝欠けている（４０％～　）　C＝少し欠けている（８０％～）　K＝完形礫（１００％）
※赤化度　：　無＝赤化していない　　弱＝部分的に赤化している　　中＝全体的に赤化している　　強＝非常に赤化している
※黒色物付着の有無　：　１＝有　　２＝無　　（黒色物付着の有無は、炭化物・ススの付着や礫変色等の影響を受けたと思われる礫表面の黒色変等を目視によって確認した。）
（注）番号は整理の都合上、便宜的に付けた任意の番号である。接合状況欄の「散（番号）」は縄文時代早期面の礫（第８８図）を指す。

Ｓ１３の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
1	745	B	中	2		
2	1000	B	中	1		
3	265	C	中	1		
4	300	C	中	2		
5	430	K	弱	2		
6	830	C	弱	1		
7	120	C	中	2		
8	140	C	弱	2		
9	317	C	中	2		
10	210	A	弱	1		
11	365	B	中	2		
12	1225	C	強	2		
13	220	B	弱	2		
14	255	A	弱	2		
15	85	C	弱	1		
16	170	B	中	1		
17	370	B	弱	2		
18	540	B	中	2		
19	505	B	弱	2		
20	60	B	弱	2		
21	230	C	中	2		
22	436	C	弱	2		
23	380	B	中	1		
24	100	C	中	2		
25	180	C	弱	2		
26	165	C	中	2		
27	360	A	中	2		
28	130	C	中	2		
29	55	C	中	2	30 31 37	集石内接合
30	8	C	弱	2	29 31 37	集石内接合
31	5	C	弱	2	29 30 37	集石内接合
32	295	C	強	1		
33	395	C	強	2		
34	325	C	中	2		
35	1315	C	弱	2		
36	3710	A	弱	2		
37	6000	C	強	2	29 30 31	集石内接合

Ｓ１４の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
1	1275	B	中	2	4 18 22 散3	集石と散礫の接合
2	1500	A	弱	2		
3	370	C	強	2	32 51 59 69 71 72	集石内接合
4	815	B	中	2	1 18 22 散3	集石と散礫の接合
5	240	C	弱	2		
6	70	C	弱	2	7	集石内接合
7	90	C	弱	2	6	集石内接合
8	108	C	中	2		
9	100	C	強	1		
10	160	B	弱	2		
11	112	C	中	2		
12	60	C	中	2		
13	115	C	弱	2		
14	140	C	中	2	70	集石内接合
15	120	C	中	2		
16	115	B	中	2		
17	250	B	中	2		
18	110	C	中	2	1 4 22 散3	集石と散礫の接合
19	90	C	中	2	26	集石内接合
20	70	B	強	2		
21	55	C	弱	2	19 28	集石内接合
22	40	C	中	2	1 4 18 散3	集石と散礫の接合
23	50	C	弱	2	26	集石内接合
24	53	C	中	2		
25	52	C	中	2		
26	170	C	中	2	23	集石内接合
27	170	C	弱	2	65	集石内接合
28	230	C	中	2	19 21	集石内接合
29	75	C	中	2	43	集石内接合
30	95	C	強	2		
31	115	C	強	2	S08-19	集石間接合
32	40	C	強	2	3 51 59 69 71 72	集石内接合
33	60	C	弱	2		
34	115	C	中	2		
35	90	C	強	2	36 55 58	集石内接合
36	175	C	強	2	35 55 58	集石内接合
37	140	B	強	2		
38	98	C	強	2		

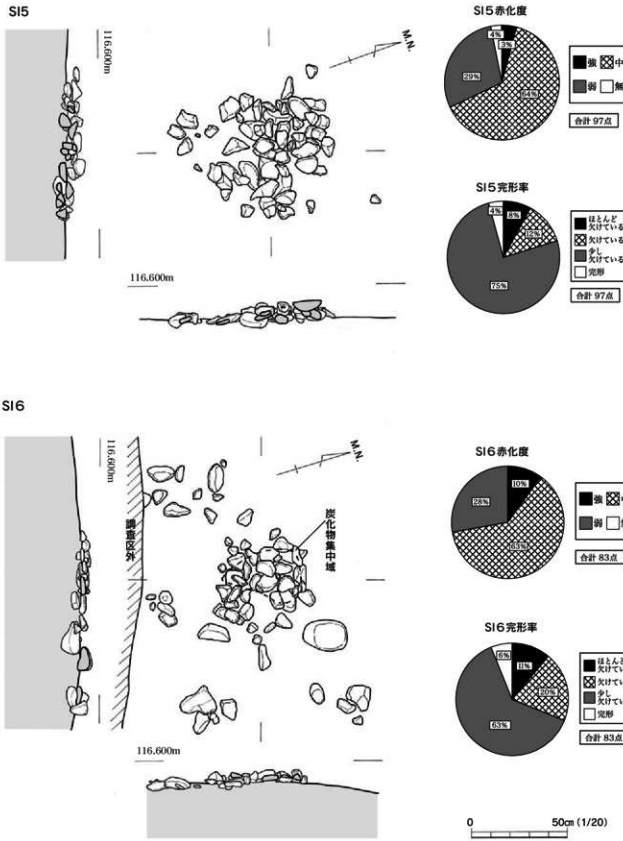
Ｓ１５の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
1	290	C	中	1	18	集石内接合
2	560	C	弱	2		
3	485	C	中	2		
4	585	C	無	2		
5	375	A	無	2		
6	375	B	弱	2		
7	230	C	中	1		
8	230	B	中	2		
9	120	C	中	1		
10	75	C	中	2		
11	1185	B	弱	2		
12	98	C	中	2	28	集石内接合
13	212	C	弱	2	25	集石内接合
14	265	C	中	2		
15	565	B	弱	2		
16	250	C	弱	2		
17	520	B	中	2		
18	445	C	中	2	1	集石内接合
19	260	C	中	2		
20	305	C	中	2		
21	190	C	中	2		
22	170	C	中	2	55 83	集石内接合
23	200	C	中	2		
24	165	C	中	2		
25	370	C	弱	1	13	集石内接合
26	120	C	中	2		
27	375	C	中	2		
28	55	C	中	2	12	集石内接合
29	760	B	中	2		
30	215	C	弱	2		
31	105	C	弱	2	69 86	集石内接合
32	470	A	中	2		
33	300	C	弱	2		
34	170	A	弱	1		
35	480	C	中	2		
36	170	C	中	2		
37	58	C	弱	1		
38	263	B	中	2		
39	75	C	中	2	60 87 95	集石内接合
40	520	A	中	2		
41	645	K	強	1		
42	325	C	弱	2		
43	155	C	中	2		
44	285	C	中	2	53	集石内接合
45	125	C	中	2	56 57	集石内接合
46	520	C	弱	2		
47	185	C	中	2		
48	155	C	中	2		
49	70	C	中	2		
50	108	C	中	1		

Ｓ１５の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
51	265	A	弱	1		
52	210	C	中	2		
53	205	C	中	2	44	集石内接合
54	230	C	中	2		
55	65	C	中	2	22 88	集石内接合
56	30	C	中	2	45 57	集石内接合
57	103	C	中	2	45 56	集石内接合
58	115	C	中	2		
59	200	C	中	2		
60	20	C	中	2	39 87 95	集石内接合
61	28	C	無	2		
62	80	C	強	2		
63	280	C	中	1		
64	448	C	中	2		
65	1225	C	弱	2		
66	460	C	弱	2		
67	285	C	弱	2		
68	110	C	中	2		
69	65	C	中	2	31 86	集石内接合
70	70	C	中	2		
71	675	C	弱	2		
72	1200	A	中	2		
73	710	C	弱	1		
74	865	C	弱	2		
75	1500	K	中	2		
76	440	K	弱	2		
77	740	B	中	1		
78	350	B	弱	2		
79	470	C	中	2		
80	110	A	中	2		
81	240	C	中	2		
82	145	C	中	2		
83	590	C	中	2		
84	255	C	弱	1		
85	240	C	中	2		
86	148	C	弱	2	31 69	集石内接合
87	40	C	中	2	39 60 95	集石内接合
88	70	C	中	2	22 55	集石内接合
89	60	C	強	2		
90	73	B	無	2		
91	140	A	弱	2		
92	78	B	中	2		
93	665	C	中	1		
94	755	C	弱	2		
95	15	C	中	2	39 60 87	集石内接合
96	20	C	弱	2		
97	22	K	中	2		

第17表　集石遺構構成礫観察表④



第91図　縄文時代早期集石遺構実測図③ (1/20)

【表の見方】　※完形率 ： A＝ほとんど欠けている(0%～) B＝欠けている(40%～) C＝少し欠けている(80%～) K＝完形礫(100%)
※赤化度 ： 無＝赤化していない　弱＝部分的に赤化している　中＝全体的に赤化している　強＝非常に赤化している
※黒色物付着の有無 ： 1＝有　2＝無　(黒色物付着の有無は,炭化物・ススの付着や礫変色等の影響を受けたと思われる礫表面の黒色変等を目視によって確認した。)
(注) 番号は整理の都合上，便宜的に付けた任意の番号である。接合状況欄の「敷（番号）」は縄文時代早期面の礫（第88図）を指す。

S16の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
1	5500	C	中	2		
2	2285	C	中	2		
3	1115	C	中	2		
4	945	A	弱	2		
5	950	C	中	1		
6	590	C	中	1		
7	765	C	弱	1		
8	585	B	弱	2		
9	360	C	強	2		
10	210	B	弱	2		
11	300	A	中	1		
12	230	C	中	2		
13	150	B	中	1		
14	220	C	強	2		
15	185	C	中	1		
16	250	C	中	1		
17	312	C	強	1		
18	115	C	弱	1		
19	55	K	中	2		
20	200	B	中	2		
21	37	B	中	2		
22	605	B	弱	2	78	集石内接合
23	313	C	中	2		
24	283	A	中	1		
25	330	C	中	1		
26	230	C	中	1		
27	123	C	弱	1		
28	195	C	中	2	81	集石内接合
29	270	A	弱	1		
30	190	C	弱	1		
31	265	K	中	1		
32	145	B	中	2		
33	65	B	中	1		
34	295	C	中	1		
35	25	B	弱	2		
36	60	C	弱	2		
37	285	B	中	2		
38	285	C	弱	2		
39	220	C	弱	1		
40	123	C	弱	1		
41	305	K	弱	1		
42	128	B	弱	2		

S16の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
43	35	C	中	2	47	集石内接合
44	70	C	中	1		
45	265	B	中	2		
46	40	C	中	2	75	集石内接合
47	230	C	中	1	43	集石内接合
48	110	B	中	2		
49	45	C	中	1		
50	90	B	中	1		
51	95	C	中	2		
52	70	C	中	2		
53	120	C	強	2		
54	130	K	中	1		
55	25	C	中	2		
56	310	C	強	1		
57	105	C	中	2		
58	95	C	中	2		
59	70	C	中	2		
60	120	C	中	2	63	集石内接合
61	30	A	中	1		
62	70	C	中	1		
63	40	C	中	1	60	集石内接合
64	32	C	中	2		
65	230	K	強	2		
66	235	A	中	2		
67	323	B	中	2		
68	110	B	弱	2		
69	145	C	中	2		
70	100	A	強	2		
71	90	C	弱	2		
72	23	C	中	2		
73	160	C	中	2		
74	60	A	中	2		
75	40	C	中	2	46	集石内接合
76	65	C	強	2		
77	100	B	弱	2		
78	90	C	中	2	22	集石内接合
79	23	C	弱	2		
80	35	C	弱	2		
81	25	C	中	2	28	集石内接合
82	20	A	弱	2		
83	15	C	弱	2		

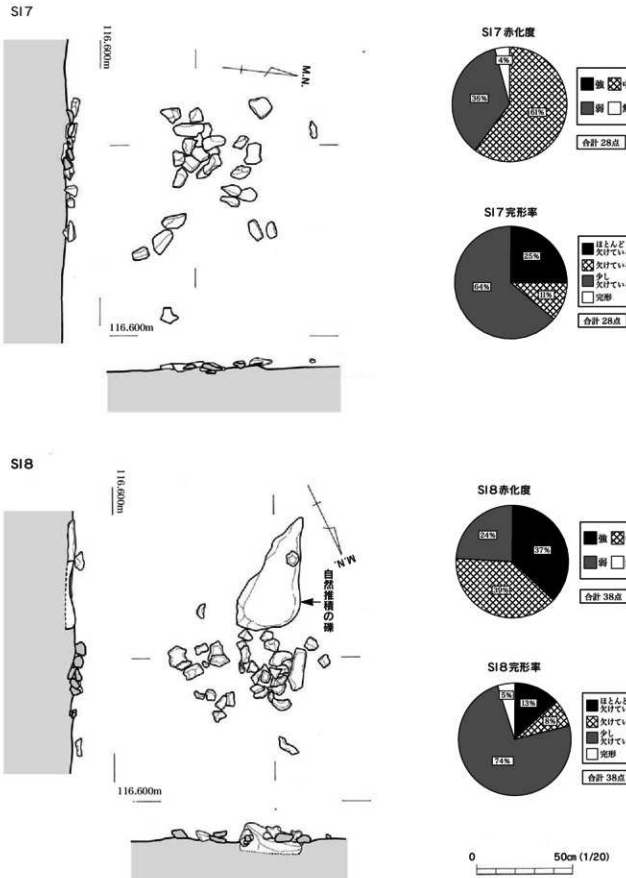
S17の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
1	560	A	中	2		
2	173	A	中	1		
3	215	B	弱	1		
4	233	A	中	1		
5	160	B	中	1		
6	175	A	中	1		
7	10	C	中	2	18	集石内接合
8	180	C	中	2		
9	290	A	中	2		
10	270	C	中	1		
11	295	C	弱	1		
12	175	C	中	1		
13	520	B	弱	2		
14	285	C	弱	1		
15	283	A	弱	1		
16	140	C	弱	2		
17	180	C	弱	2		
18	295	C	中	1	7	集石内接合
19	380	C	中	2		
20	420	C	弱	2		
21	85	C	無	2		
22	165	C	中	2		
23	285	C	中	2		
24	150	C	中	1		
25	160	C	中	2		
26	305	A	中	2		
27	150	C	弱	2		
28	125	C	弱	2		

S18の構成礫

番号	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
1	175	C	弱	2		
2	60	C	強	2		
3	100	B	強	2		
4	185	C	中	2		
5	160	C	強	2		
6	135	C	強	2		
7	1720	A	強	2		
8	370	A	強	2		
9	405	C	中	2		
10	120	C	中	2		
11	115	C	中	1		
12	175	C	強	2		
13	55	C	弱	2		
14	83	C	弱	2	S4-54	集石間接合
15	125	A	中	2		
16	270	B	中	2		
17	375	C	弱	2		
18	190	K	中	2		
19	50	C	強	2	S4-31	集石間接合
20	95	C	中	2		礫岩
21	585	C	強	2		
22	275	C	中	2		
23	280	A	中	2		
24	130	C	中	1		
25	190	C	中	2		
26	160	C	強	1		
27	25	C	弱	2	30	集石内接合
28	345	C	強	2		
29	350	A	中	2		
30	12	C	弱	2	27	集石内接合
31	110	C	強	2		
32	315	C	中	2		
33	85	B	強	1		
34	70	C	中	2	敷257	集石と敷礫の接合
35	180	C	強	2		
36	150	C	強	2		
37	90	B	中	2		
38	165	C	強	2		

第18表　集石遺構構成礫観察表⑤

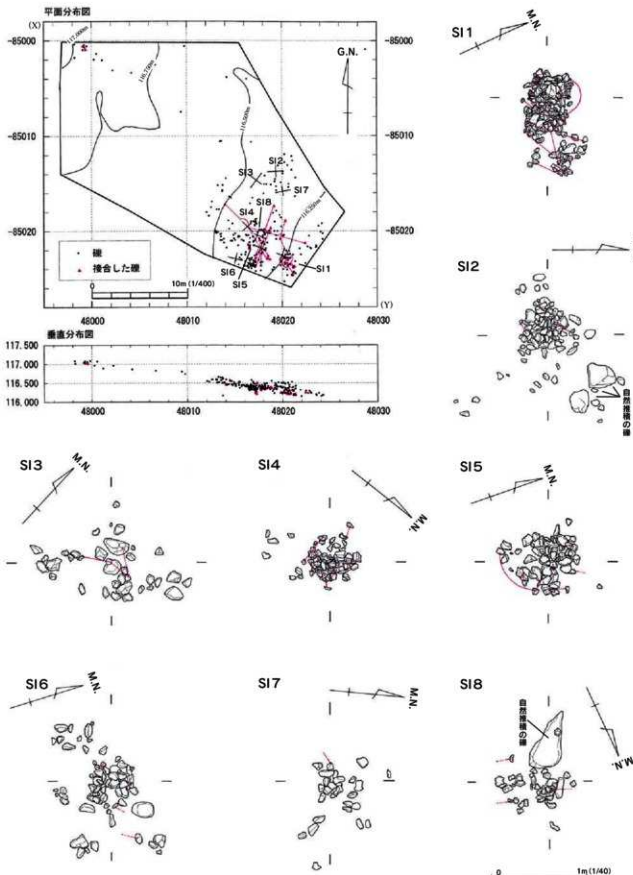


第92図　縄文時代早期集石遺構実測図④ (1/20)

【表の見方】　　※完形率 ： A＝ほとんど欠けている（０％～ ） B＝欠けている（４０％～ ） C＝少し欠けている（８０％～）　K＝完形礫（１００％）
※赤化度 ： 無＝赤化していない　弱＝部分的に赤化している　中＝全体的に赤化している　強＝非常に赤化している

遺構名	Gr.	長径(m)	短径(m)	礫総数(個)	石材の種類と割合	総重量(kg)	1個当たりの平均重量(kg)	掘込みの有無	炭化物等の有無	石材の種類と割合	礫の完形率と赤化度の割合							接合の状況			
SI1	D21-4～E21-1	1.15	0.75	175	尾鈴山酸性岩類	27.90	0.16	無	無	尾鈴山酸性岩類	完形/赤化	無	弱	中	強	計(個)	形状の割合	遺構内	遺構+遺構	遺構+散礫	・集石内接合 ・散礫との接合
											A			10		10	6	接合箇所数	接合箇所数	接合箇所数	
											B		1	25	10	36	21	36	／	1	
										27.895 (kg)	C	1	23	74	30	128	73				
											K			1		1	1	接合個体数	接合個体数	接合個体数	
					100%					100%	計(個)	1	24	110	40	175	100%	18	／	1	
											赤化度の割合	1	14	63	23	100%	－				
SI2	D20-4	1.65	1.60	104	尾鈴山酸性岩類	20.18	0.19	無	有	尾鈴山酸性岩類	完形/赤化	無	弱	中	強	計(個)	形状の割合	遺構内	遺構+遺構	遺構+散礫	・集石内接合
											A			11	3	14	14	接合箇所数	接合箇所数	接合箇所数	
											B		2	7	2	11	11	5	／	／	
										20.176 (kg)	C	1	20	48	8	77	75				
											K					0	0	接合個体数	接合個体数	接合個体数	
					100%					100%	計(個)	1	22	66	13	102	100%	4	／	／	
											赤化度の割合	1	22	65	13	100%	－				
SI3	D20-4	1.70	1.05	37	尾鈴山酸性岩類	22.23	0.60	無	有	尾鈴山酸性岩類	完形/赤化	無	弱	中	強	計(個)	形状の割合	遺構内	遺構+遺構	遺構+散礫	・集石内接合 ・散礫との接合
											A		3	1		4	11	接合箇所数	接合箇所数	接合箇所数	
											B		4	6		10	27	3	／	3	
										22.23 (kg)	C		8	10	4	22	59				
											K		1			1	3	接合個体数	接合個体数	接合個体数	
					100%					100%	計(個)	0	16	17	4	37	100%	1	／	1	
											赤化度の割合	0	43	46	11	100%	－				
SI4	D20-3	1.00	0.75	73	尾鈴山酸性岩類	13.98	0.19	無	無	尾鈴山酸性岩類	完形/赤化	無	弱	中	強	計(個)	形状の割合	遺構内	遺構+遺構	遺構+散礫	・集石内接合 ・散礫との接合 ・SI8との接合
											A		1	1		2	3	接合箇所数	接合箇所数	接合箇所数	
											B		3	5	3	11	15	20	1	7	
										13.979 (kg)	C		15	33	11	59	81				
											K	1				1	1	接合個体数	接合個体数	接合個体数	
					100%					100%	計(個)	1	19	39	14	73	100%	3	1	2	
											赤化度の割合	1	26	53	19	100%	－				
SI5	D21-4	0.85	0.85	97	尾鈴山酸性岩類	30.64	0.32	無	無	尾鈴山酸性岩類	完形/赤化	無	弱	中	強	計(個)	形状の割合	遺構内	遺構+遺構	遺構+散礫	・集石内接合
											A	1	3	4		8	8	接合箇所数	接合箇所数	接合箇所数	
											B	1	4	7		12	12	14	／	／	
										30.644 (kg)	C	2	20	49	2	73	75				
											K		1	2	1	4	4	接合個体数	接合個体数	接合個体数	
					100%					100%	計(個)	4	28	62	3	97	100%	8	／	／	
											赤化度の割合	4	29	64	3	100%	－				
SI6	D21-1～D21-4	1.80	1.05	83	尾鈴山酸性岩類	24.19	0.29	無	無	尾鈴山酸性岩類	完形/赤化	無	弱	中	強	計(個)	形状の割合	遺構内	遺構+遺構	遺構+散礫	・集石内接合
											A		3	5	1	9	11	接合箇所数	接合箇所数	接合箇所数	
											B		7	10		17	20	5	／	／	
										24.185 (kg)	C		12	34	6	52	63				
											K		1	3	1	5	6	接合個体数	接合個体数	接合個体数	
					100%					100%	計(個)	0	23	52	8	83	100%	5	／	／	
											赤化度の割合	0	28	63	10	100%	－				
SI7	D20-4～E20-2	1.30	0.80	28	尾鈴山酸性岩類	6.66	0.24	無	無	尾鈴山酸性岩類	完形/赤化	無	弱	中	強	計(個)	形状の割合	遺構内	遺構+遺構	遺構+散礫	・集石内接合
											A		1	6		7	25	接合箇所数	接合箇所数	接合箇所数	
											B		2	1		3	11	1	／	／	
										6.664 (kg)	C	1	7	10		18	64				
											K					0	0	接合個体数	接合個体数	接合個体数	
					100%					100%	計(個)	1	10	17	0	28	100%	1	／	／	
											赤化度の割合	4	36	61	0	100%	－				
SI8	D21-4～D20-3	0.95	0.80	38	尾鈴山酸性岩類	8.48	0.22	無	無	尾鈴山酸性岩類	完形/赤化	無	弱	中	強	計(個)	形状の割合	遺構内	遺構+遺構	遺構+散礫	・集石内接合 ・散礫との接合 ・SI4との接合
											A		3	2		5	13	接合箇所数	接合箇所数	接合箇所数	
											B			1	2	3	8	1	1	1	
										8.48 (kg)	C		6	10	12	28	74				
											K			2		2	5	接合個体数	接合個体数	接合個体数	
					100%					100%	計(個)	0	9	15	14	38	100%	1	1	1	
											赤化度の割合	0	24	39	37	100%	－				

第19表　縄文時代早期集石遺構構成礫分析表



第93図　縄文時代早期：礫の接合状況（分布図は1/400、集石遺構は1/40）

【表の見方】

※完形率 ： A＝ほとんど欠けている（０％～ ） B＝欠けている（４０％～ ） C＝少し欠けている（８０％～） K＝完形礫（１００％）
※赤化度 ： 無＝赤化していない 弱＝部分的に赤化している 中＝全体的に赤化している 強＝非常に赤化している
※黒色物付着の有無 ： １＝有 ２＝無 （黒色物付着の有無は，炭化物・ススの付着や礫変色等の影響を受けたと思われる礫表面の黒色変等を目視によって確認した。）

【注１】礫番号53は欠番である。
【注２】礫番号79、91、102、245、265、271、279以外の石材はすべて尾鈴山酸性岩類である。

礫番号	国土座標 X 座 標	国土座標 Y 座 標	標高(m)	区	グリッド	層	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着 の 有 無	接 合 状 況	備 考
1	-85019.480	48023.820	116.236	B2	E20-2G	Ⅲ	170.0	C	弱	2		
2	-85020.520	48022.820	116.297	B2	E21-1G	Ⅲ	340.0	C	中	2		
3	-85021.310	48022.310	116.272	B2	E21-1G	Ⅲ	170.0	C	中	2	SI4-1 4 18 22	集石と散礫の接合
4	-85021.650	48022.680	116.235	B2	E21-1G	Ⅲ	700.0	C	弱	2		
5	-85021.750	48022.930	116.262	B2	E21-1G	Ⅲ	1050.0	C	弱	2		
6	-85021.830	48023.020	116.236	B2	E21-1G	Ⅲ	90.0	C	中	2		
7	-85023.180	48021.350	116.353	B2	E21-1G	Ⅲ	800.0	B	中	2		
8	-85021.840	48021.850	116.322	B2	E21-1G	Ⅲ	150.0	C	中	2		
9	-85024.410	48021.020	116.315	B2	E21-1G	Ⅲ	390.0	C	強	2	286	散礫間接合3
10	-85023.620	48020.630	116.360	B2	E21-1G	Ⅲ	175.0	C	中	2		
11	-85023.520	48020.320	116.366	B2	E21-1G	Ⅲ	210.0	C	中	2		
12	-85024.080	48020.520	116.365	B2	E21-1G	Ⅲ	60.0	C	中	2		
13	-85023.630	48019.840	116.400	B2	D21-4G	Ⅲ	105.0	C	中	2		
14	-85024.000	48020.120	116.387	B2	E21-1G	Ⅲ	105.0	B	中	2		
15	-85024.170	48017.760	116.399	B2	D21-4G	Ⅲ	45.0	B	強	2		
16	-85023.320	48017.730	116.414	B2	D21-4G	Ⅲ	440.0	A	中	1		
17	-85023.320	48017.220	116.413	B2	D21-4G	Ⅲ	230.0	B	強	2		
18	-85023.070	48017.510	116.407	B2	D21-4G	Ⅲ	275.0	B	弱	2		
19	-85023.320	48016.970	116.500	B2	D21-4G	Ⅲ	150.0	A	強	2		
20	-85023.950	48016.780	116.390	B2	D21-4G	Ⅲ	885.0	C	中	1		
21	-85023.800	48016.480	116.418	B2	D21-4G	Ⅲ	205.0	C	中	2		
22	-85023.650	48016.350	116.416	B2	D21-4G	Ⅲ	120.0	B	中	2		
23	-85023.910	48016.450	116.395	B2	D21-4G	Ⅲ	840.0	C	中	2		
24	-85023.720	48016.300	116.413	B2	D21-4G	Ⅲ	300.0	C	弱	2		
25	-85023.310	48016.620	116.411	B2	D21-4G	Ⅲ	65.0	C	中	2		
26	-85023.680	48016.090	116.422	B2	D21-4G	Ⅲ	215.0	C	弱	2		
27	-85023.600	48015.990	116.425	B2	D21-4G	Ⅲ	260.0	A	中	1		
28	-85020.200	48018.480	116.423	B2	D21-4G	Ⅲ	45.0	C	強	2		
29	-85023.180	48016.110	116.419	B2	D21-4G	Ⅲ	440.0	C	中	2		
30	-85023.540	48015.420	116.446	B2	D21-4G	Ⅲ	305.0	C	中	2		
31	-85022.820	48016.820	116.415	B2	D21-4G	Ⅲ	360.0	C	弱	2		
32	-85022.450	48017.190	116.520	B2	D21-4G	Ⅲ	160.0	B	強	2	44	散礫間接合4
33	-85022.510	48017.280	116.438	B2	D21-4G	Ⅲ	315.0	C	中	2		
34	-85022.600	48018.390	116.399	B2	D21-4G	Ⅲ	195.0	C	中	2	205	散礫間接合5
35	-85022.000	48018.170	116.442	B2	D21-4G	Ⅲ	475.0	A	強	2		
36	-85020.000	48019.200	116.430	B2	D21-4G	Ⅲ	1110.0	C	中	2		
37	-85020.000	48019.520	116.407	B2	D21-4G	Ⅲ	175.0	C	中	2		
38	-85019.510	48019.930	116.375	B2	D20-3G	Ⅲ	1520.0	K	弱	2		
39	-85018.930	48020.250	116.350	B2	E20-2G	Ⅲ	2950.0	B	強	2	186 248 249	散礫間接合1
40	-85018.580	48019.900	116.401	B2	D20-3G	Ⅲ	150.0	A	弱	2		
41	-85018.310	48019.750	116.408	B2	D20-3G	Ⅲ	65.0	K	中	2		
42	-85017.880	48019.400	116.428	B2	D20-3G	Ⅲ	135.0	C	弱	2		
43	-85018.100	48019.090	116.332	B2	D20-3G	Ⅲ	5010.0	A	弱	2		
44	-85017.390	48019.060	116.385	B2	D20-3G	Ⅲ	340.0	B	強	2	32	散礫間接合4
45	-85016.330	48021.350	116.425	B2	E20-2G	Ⅲ	270.0	A	中	2		
46	-85014.400	48021.400	116.431	B2	E20-1G	Ⅲ	305.0	C	弱	2		
47	-85015.390	48020.700	116.454	B2	E20-2G	Ⅲ	130.0	C	弱	2		
48	-85015.050	48020.720	116.401	B2	E20-2G	Ⅲ	770.0	C	中	2		
49	-85015.710	48019.400	116.346	B2	D20-3G	Ⅲ	830.0	K	無	2		
50	-85015.310	48019.380	116.411	B2	D20-3G	Ⅲ	4790.0	C	弱	2		
51	-85015.120	48018.860	116.555	B2	D20-3G	Ⅲ	110.0	C	中	2		
52	-85015.080	48018.380	116.490	B2	D20-3G	Ⅲ	275.0	C	強	2		
54	-85016.060	48018.100	116.488	B2	D20-3G	Ⅲ	430.0	C	強	1		
55	-85016.500	48016.900	116.535	B2	D20-3G	Ⅲ	265.0	A	弱	2		
56	-85017.100	48016.670	116.470	B2	D20-3G	Ⅲ	1705.0	C	弱	2		
57	-85018.720	48017.320	116.333	B2	D20-3G	Ⅲ	100.0	C	中	2		
58	-85018.750	48017.220	116.344	B2	D20-3G	Ⅲ	135.0	A	弱	2		
59	-85019.060	48017.220	116.343	B2	D20-3G	Ⅲ	80.0	A	弱	2		
60	-85019.010	48017.260	116.354	B2	D20-3G	Ⅲ	60.0	C	弱	2		
61	-85018.960	48017.270	116.358	B2	D20-3G	Ⅲ	80.0	C	中	2		
62	-85019.020	48017.220	116.357	B2	D20-3G	Ⅲ	35.0	C	弱	2		
63	-85018.980	48017.020	116.348	B2	D20-3G	Ⅲ	40.0	B	弱	2		
64	-85019.120	48017.190	116.371	B2	D20-3G	Ⅲ	255.0	C	弱	2		
65	-85019.190	48017.320	116.358	B2	D20-3G	Ⅲ	120.0	C	弱	2		
66	-85019.280	48017.330	116.361	B2	D20-3G	Ⅲ	85.0	C	弱	2		
67	-85019.130	48017.670	116.346	B2	D20-3G	Ⅲ	35.0	B	弱	1		
68	-85019.200	48017.320	116.365	B2	D20-3G	Ⅲ	70.0	C	弱	2		
69	-85019.020	48019.230	116.374	B2	D20-3G	Ⅲ	135.0	B	中	2		
70	-85019.410	48017.130	116.387	B2	D20-3G	Ⅲ	30.0	B	弱	1		
71	-85019.350	48017.110	116.372	B2	D20-3G	Ⅲ	45.0	C	中	2		
72	-85019.010	48016.770	116.442	B2	D20-3G	Ⅲ	20.0	C	中	2		
73	-85019.200	48016.710	116.414	B2	D20-3G	Ⅲ	100.0	C	弱	2		

第20表 縄文時代早期出土礫観察表①

礫番号	国土座標 X 座標	国土座標 Y 座標	標高(m)	区	グリッド	層	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
74	-85020.380	48018.220	116.420	B2	D21-4G	Ⅲ	200.0	B	強	2		
75	-85020.800	48017.620	116.440	B2	D21-4G	Ⅲ	240.0	C	弱	2		
76	-85021.140	48016.980	116.416	B2	D21-4G	Ⅲ	475.0	A	中	2		
77	-85021.050	48017.010	116.427	B2	D21-4G	Ⅲ	85.0	C	弱	2		
78	-85020.450	48016.470	116.406	B2	D21-4G	Ⅲ	145.0	C	中	2		
79	-85020.590	48016.940	116.432	B2	D21-4G	Ⅲ	170.0	C	無	2		ホルンフェルス製礫
80	-85020.730	48016.630	116.449	B2	D21-4G	Ⅲ	60.0	C	弱	2		
81	-85021.190	48016.590	116.420	B2	D21-4G	Ⅲ	120.0	C	弱	2		
82	-85021.520	48017.010	116.484	B2	D21-4G	Ⅲ	55.0	C	中	2		
83	-85021.530	48017.100	116.474	B2	D21-4G	Ⅲ	570.0	K	中	1		
84	-85021.530	48016.640	116.442	B2	D21-4G	Ⅲ	260.0	C	中	2		
85	-85021.550	48016.540	116.393	B2	D21-4G	Ⅲ	255.0	B	弱	2		
86	-85021.780	48016.630	116.392	B2	D21-4G	Ⅲ	520.0	B	強	2		
87	-85021.020	48015.940	116.445	B2	D21-4G	Ⅲ	560.0	C	中	2		
88	-85020.920	48015.750	116.445	B2	D21-4G	Ⅲ	75.0	A	強	2		
89	-85021.530	48015.380	116.483	B2	D21-4G	Ⅲ	360.0	C	中	2		
90	-85021.750	48014.140	116.448	B2	D21-1G	Ⅲ	400.0	B	中	2		
92	-85021.040	48014.620	116.466	B2	D21-1G	Ⅲ	125.0	C	強	2		
93	-85021.030	48014.770	116.430	B2	D21-1G	Ⅲ	1290.0	C	中	2		
94	-85020.780	48014.970	116.480	B2	D21-1G	Ⅲ	35.0	C	中	2		
95	-85020.930	48015.060	116.448	B2	D21-4G	Ⅲ	240.0	C	中	2		
96	-85020.420	48014.880	116.526	B2	D21-1G	Ⅲ	355.0	C	中	2		
97	-85020.630	48015.400	116.531	B2	D21-4G	Ⅲ	45.0	C	中	2		
98	-85020.570	48015.530	116.531	B2	D21-4G	Ⅲ	45.0	B	中	2		
99	-85020.520	48015.410	116.438	B2	D21-4G	Ⅲ	2550.0	B	中	2		
100	-85020.500	48016.280	116.446	B2	D21-4G	Ⅲ	45.0	C	中	2		
101	-85020.390	48016.230	116.451	B2	D21-4G	Ⅲ	140.0	B	強	2		
102	-85020.300	48016.220	116.447	B2	D21-4G	Ⅲ	80.0	C	強	2		礫岩
103	-85019.220	48014.800	116.472	B2	D20-2G	Ⅲ	910.0	B	強	2		
104	-85020.260	48015.060	116.480	B2	D21-4G	Ⅲ	590.0	C	中	2		
105	-85019.750	48014.440	116.582	B2	D20-2G	Ⅲ	455.0	C	中	2		
106	-85020.820	48013.860	116.523	B2	D21-1G	Ⅲ	55.0	C	中	2		
107	-85021.230	48013.880	116.498	B2	D21-1G	Ⅲ	15.0	C	中	2		
108	-85020.940	48013.670	116.501	B2	D21-1G	Ⅲ	60.0	C	中	2		
109	-85020.580	48013.580	116.571	B2	D21-1G	Ⅲ	20.0	A	中	2		
110	-85020.960	48013.520	116.575	B2	D21-1G	Ⅲ	35.0	C	弱	2		
111	-85020.350	48013.510	116.577	B2	D21-1G	Ⅲ	10.0	C	中	2		
112	-85020.300	48013.590	116.580	B2	D21-1G	Ⅲ	20.0	C	中	2		
113	-85020.120	48013.260	116.525	B2	D21-1G	Ⅲ	145.0	C	中	2		
114	-85020.010	48013.030	116.594	B2	D21-1G	Ⅲ	165.0	B	中	2		
115	-85020.120	48013.060	16.592	B2	D21-1G	Ⅲ	35.0	C	中	2		
116	-85020.060	48013.080	16.578	B2	D21-1G	Ⅲ	90.0	C	強	2		
117	-85020.110	48013.120	116.574	B2	D21-1G	Ⅲ	90.0	C	弱	2		
118	-85020.180	48013.110	116.590	B2	D21-1G	Ⅲ	95.0	A	中	1		
119	-85020.150	48013.000	116.583	B2	D21-1G	Ⅲ	325.0	C	中	1		
120	-85018.400	48012.300	116.532	B2	D20-2G	Ⅲ	670.0	C	中	2		
121	-85018.010	48012.070	116.551	B2	D20-2G	Ⅲ	40.0	C	中	2		
122	-85017.590	48012.550	116.586	B2	D20-2G	Ⅲ	110.0	C	弱	2		
123	-85017.720	48013.150	116.510	B2	D20-2G	Ⅲ	2510.0	C	中	2		
124	-85017.730	48013.380	116.524	B2	D20-2G	Ⅲ	35.0	C	中	2		
125	-85017.200	48013.920	116.488	B2	D20-2G	Ⅲ	3720.0	C	中	2	201 S14-46 61	集石と散礫の接合
126	-85016.890	48012.630	116.590	B2	D20-2G	Ⅲ	145.0	C	中	2		
127	-85016.500	48014.640	116.548	B2	D20-2G	Ⅲ	75.0	B	弱	2		
128	-85016.380	48014.460	116.555	B2	D20-2G	Ⅲ	200.0	B	弱	2		
129	-85015.840	48013.700	116.610	B2	D20-2G	Ⅲ	520.0	C	弱	2		
130	-85015.700	48013.720	116.170	B2	D20-2G	Ⅲ	890.0	A	弱	1		
131	-85015.200	48013.260	116.661	B2	D20-2G	Ⅲ	385.0	C	弱	2		
132	-85015.170	48013.750	116.621	B2	D20-2G	Ⅲ	590.0	C	弱	2		
133	-85014.470	48014.070	116.590	B2	D20-1G	Ⅲ	645.0	C	中	2		
134	-85013.130	48019.580	116.520	B2	D20-4G	Ⅲ	70.0	C	弱	2		
135	-85012.780	48020.280	116.491	B2	E20-1G	Ⅲ	235.0	C	弱	1		
136	-85011.950	48020.280	116.476	B2	E20-1G	Ⅲ	145.0	B	中	2		
137	-85012.150	48021.000	116.532	B2	E20-1G	Ⅲ	95.0	C	中	2		
138	-85012.620	48021.100	116.397	B2	E20-1G	Ⅲ	75.0	C	弱	2		
139	-85010.650	48016.750	116.582	B2	D20-4G	Ⅲ	170.0	C	中	2		
140	-85010.600	48013.480	116.638	B2	D20-1G	Ⅲ	1325.0	A	弱	2		
141	-85010.550	48013.650	116.638	B2	D20-1G	Ⅲ	310.0	A	中	2		
142	-85004.020	48016.300	116.440	B2	D19-4G	Ⅲ	1105.0	C	中	2		
143	-85003.860	48014.210	116.463	B2	D19-1G	Ⅲ	450.0	C	中	2		
144	-85007.480	48009.420	116.799	B2	C19-3G	Ⅲ	200.0	C	中	2		
145	-85000.610	48009.750	116.735	B2	C19-4G	Ⅲ	595.0	C	中	2		
146	-85002.560	48006.700	116.831	B2	C19-4G	Ⅲ	65.0	C	中	2		
147	-85003.370	48004.200	116.859	B2	C19-1G	Ⅲ	140.0	B	中	2		

第21表　縄文時代早期出土礫観察表②

礫番号	国土座標 X 座標	国土座標 Y 座標	標高(m)	区	グリッド	層	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
148	-85002.060	48001.150	116.891	B2	C19-IG	皿	530.0	C	中	2		
149	-85003.110	48002.230	116.961	B2	C19-IG	皿	1450.0	K	中	2		
150	-85001.980	48000.270	116.966	B2	C19-IG	皿	2860.0	B	中	2		
151	-85001.380	48000.530	117.077	B2	C19-IG	皿	520.0	A	中	2		
152	-85000.570	47999.520	117.060	B2	B19-4G	皿	630.0	B	中	2		
153	-85000.130	47999.830	117.090	B2	B19-4G	皿	245.0	C	中	2		
154	-85000.480	47999.250	117.046	B2	B19-4G	皿	1530.0	A	中	2		
155	-85000.430	47999.150	117.082	B2	B19-4G	皿	110.0	C	中	2	157	敲磨間接合6
156	-85000.700	47999.280	117.079	B2	B19-4G	皿	570.0	C	中	2		
157	-85000.800	47999.390	117.068	B2	B19-4G	皿	130.0	C	弱	2	155	敲磨間接合6
158	-85000.980	47999.130	117.038	B2	B19-4G	皿	400.0	C	弱	2		
159	-85000.400	47998.230	117.085	B2	B19-4G	皿	295.0	C	中	2		
160	-85001.770	47998.270	117.017	B2	B19-4G	皿	460.0	B	中	2		
161	-85013.100	48020.580	116.503	B2	E20-IG	皿	220.0	C	中	2		
162	-85013.720	48020.110	116.521	B2	E20-IG	皿	120.0	C	中	1		
163	-85013.950	48020.100	116.507	B2	E20-IG	皿	140.0	C	中	2		
164	-85013.590	48021.000	116.381	B2	E20-IG	皿	45.0	C	弱	2		
165	-85014.880	48019.900	116.499	B2	D20-4G	皿	220.0	B	中	2		
166	-85014.800	48019.250	116.493	B2	D20-4G	皿	120.0	C	中	2		
167	-85014.530	48019.300	116.462	B2	D20-4G	皿	570.0	C	中	2		
168	-85014.200	48018.210	116.480	B2	D20-4G	皿	765.0	C	弱	2		
169	-85015.080	48018.150	116.478	B2	D20-3G	皿	400.0	C	弱	2		
170	-85018.900	48014.350	116.471	B2	D20-2G	皿	760.0	C	中	2		
171	-85020.120	48017.400	116.354	B2	D21-4G	皿	50.0	C	中	2		
172	-85019.900	48017.700	116.370	B2	D20-3G	皿	160.0	C	強	2		
173	-85019.920	48017.950	116.415	B2	D20-3G	皿	300.0	C	強	2		
174	-85019.850	48017.870	116.450	B2	D20-3G	皿	75.0	C	無	2		
175	-85020.140	48018.150	116.420	B2	D21-4G	皿	70.0	B	強	2		
176	-85019.820	48018.130	116.364	B2	D20-3G	皿	310.0	C	弱	2		
177	-85020.040	48018.060	116.350	B2	D21-4G	皿	190.0	C	強	2		
178	-85020.300	48018.230	116.382	B2	D21-4G	皿	335.0	C	強	2		
179	-85020.290	48018.220	116.379	B2	D21-4G	皿	195.0	C	強	2		
180	-85019.700	48018.690	116.388	B2	D20-2G	皿	70.0	C	弱	2	195 242	敲磨間接合2
181	-85019.950	48018.680	116.370	B2	D20-3G	皿	170.0	C	中	2		
182	-85020.250	48018.700	116.329	B2	D21-4G	皿	160.0	C	弱	1		
183	-85020.810	48018.270	116.363	B2	D21-4G	皿	495.0	A	弱	2		
184	-85020.460	48019.380	116.332	B2	D21-4G	皿	180.0	A	強	2		
185	-85020.850	48019.390	116.352	B2	D21-4G	皿	65.0	C	弱	2		
186	-85020.820	48019.680	116.266	B2	D21-4G	皿	1110.0	C	強	2	39 248 249	敲磨間接合1
187	-85020.520	48020.120	116.260	B2	E21-IG	皿	480.0	K	弱	2		
188	-85020.430	48020.200	116.311	B2	E21-IG	皿	175.0	C	弱	2		
189	-85024.360	48021.150	116.307	B2	E21-IG	皿	75.0	C	弱	2		
190	-85024.620	48021.010	116.308	B2	E21-IG	皿	110.0	C	弱	1		
191	-85024.700	48021.060	116.325	B2	E21-IG	皿	45.0	C	無	2		
192	-85024.660	48021.130	116.323	B2	E21-IG	皿	20.0	C	中	2		
193	-85024.670	48020.520	116.240	B2	E21-IG	皿	150.0	C	強	2		
194	-85025.320	48020.240	116.375	B2	E21-2G	皿	25.0	C	弱	2		
195	-85023.650	48017.020	116.265	B2	D21-4G	皿	6000.0	C	中	2	180 242	敲磨間接合2
196	-85022.900	48017.030	116.293	B2	D21-4G	皿	4000.0	B	強	2	197	敲磨間接合7
197	-85022.760	48017.120	116.239	B2	D21-4G	皿	8300.0	B	強	2	196	敲磨間接合7
198	-85024.100	48019.010	116.291	B2	D21-4G	皿	195.0	C	中	2		
199	-85023.850	48019.140	116.229	B2	D21-4G	皿	55.0	C	弱	2		
200	-85022.980	48018.590	116.405	B2	D21-4G	皿	295.0	B	中	2	267	敲磨間接合8
201	-85022.930	48018.330	116.417	B2	D21-4G	皿	120.0	C	弱	2	125 334-46 61	集石と敲磨の接合
202	-85023.250	48017.920	116.395	B2	D21-4G	皿	225.0	C	無	2		
203	-85022.090	48018.270	116.356	B2	D21-4G	皿	600.0	C	中	2		
204	-85021.810	48018.310	116.360	B2	D21-4G	皿	185.0	B	中	2		
205	-85021.990	48018.000	116.358	B2	D21-4G	皿	70.0	C	中	2	34	敲磨間接合5
206	-85021.930	48017.870	116.336	B2	D21-4G	皿	150.0	C	中	2		
207	-85022.220	48017.910	116.360	B2	D21-4G	皿	165.0	C	弱	2		
208	-85022.320	48017.920	116.388	B2	D21-4G	皿	170.0	C	弱	2		
209	-85022.340	48017.680	116.376	B2	D21-4G	皿	220.0	C	中	2	275	敲磨間接合9
210	-85022.570	48017.100	116.398	B2	D21-4G	皿	340.0	B	中	2		
211	-85021.220	48018.450	116.359	B2	D21-4G	皿	155.0	C	弱	2		
212	-85021.400	48018.160	116.324	B2	D21-4G	皿	490.0	C	弱	2		
213	-85021.250	48017.870	116.379	B2	D21-4G	皿	100.0	C	弱	2		
214	-85021.100	48018.020	116.377	B2	D21-4G	皿	300.0	C	中	2		
215	-85020.210	48018.250	116.378	B2	D21-4G	皿	105.0	A	強	2		
216	-85020.490	48018.010	116.394	B2	D21-4G	皿	295.0	C	弱	2		
217	-85021.380	48016.320	116.415	B2	D21-4G	皿	45.0	C	強	2	219	敲磨間接合10
218	-85021.680	48016.580	116.413	B2	D21-4G	皿	355.0	C	中	2		
219	-85021.820	48016.380	116.421	B2	D21-4G	皿	155.0	C	強	2	217	敲磨間接合10
220	-85022.500	48015.690	116.435	B2	D21-4G	皿	70.0	C	中	2		
221	-85022.490	48016.120	116.428	B2	D21-4G	皿	90.0	C	中	2		
222	-85023.100	48016.990	116.373	B2	D21-4G	皿	750.0	K	無	2		
223	-85022.220	48016.180	116.410	B2	D21-4G	皿	170.0	C	中	2		
224	-85022.920	48016.470	116.363	B2	D21-4G	皿	490.0	C	中	2		
225	-85022.920	48016.620	116.368	B2	D21-4G	皿	105.0	C	中	2		

第22表　縄文時代早期出土礫観察表③

礫番号	国土座標 X 座標	国土座標 Y 座標	標高(m)	区	グリッド	層	重量(g)	完形率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
226	-85023.240	48017.130	116.338	B2	D21-4G	Ⅲ	350.0	C	中	2		
227	-85023.000	48016.730	116.365	B2	D21-4G	Ⅲ	145.0	C	弱	2		
228	-85023.190	48017.210	116.349	B2	D21-4G	Ⅲ	215.0	K	弱	2		
229	-85023.370	48016.430	116.348	B2	D21-4G	Ⅲ	120.0	C	中	2		
230	-85023.520	48016.500	116.340	B2	D21-4G	Ⅲ	270.0	C	弱	2		
231	-85023.470	48016.750	116.337	B2	D21-4G	Ⅲ	820.0	C	中	2		
232	-85023.100	48016.610	116.324	B2	D21-4G	Ⅲ	405.0	B	強	2		
233	-85023.480	48016.580	116.340	B2	D21-4G	Ⅲ	30.0	C	弱	2		
234	-85023.520	48016.520	116.317	B2	D21-4G	Ⅲ	550.0	C	強	2		
235	-85023.720	48016.700	116.359	B2	D21-4G	Ⅲ	340.0	C	強	2		
236	-85023.720	48016.900	116.326	B2	D21-4G	Ⅲ	305.0	C	強	2		
237	-85023.720	48016.700	116.324	B2	D21-4G	Ⅲ	150.0	C	無	2		
238	-85023.670	48016.700	116.328	B2	D21-4G	Ⅲ	180.0	C	中	2		
239	-85023.580	48016.680	116.327	B2	D21-4G	Ⅲ	575.0	C	中	2		
240	-85023.620	48016.760	116.383	B2	D21-4G	Ⅲ	100.0	C	弱	2		
241	-85023.580	48016.960	116.383	B2	D21-4G	Ⅲ	120.0	C	弱	2		
242	-85023.550	48016.900	116.396	B2	D21-4G	Ⅲ	75.0	C	中	2	180 195	敲磨間接合2
243	-85023.500	48016.950	116.376	B2	D21-4G	Ⅲ	160.0	C	弱	2		
244	-85023.670	48017.080	116.315	B2	D21-4G	Ⅲ	530.0	B	強	2		
245	-85024.470	48021.480	116.162	B2	E21-1G	Ⅲ	370.0	C	中	2		礫岩
246	-85024.460	48021.400	116.178	B2	E21-1G	Ⅲ	65.0	B	強	2		
247	-85024.300	48021.230	116.197	B2	E21-1G	Ⅲ	75.0	B	中	2		
248	-85023.880	48021.020	116.217	B2	E21-2G	Ⅲ	140.0	C	強	2	39 186 249	敲磨間接合1
249	-85023.780	48021.070	116.198	B2	E21-3G	Ⅲ	65.0	C	強	2	39 186 248	敲磨間接合1
250	-85023.750	48021.210	116.231	B2	E21-4G	Ⅲ	70.0	C	強	2	269	敲磨間接合11
251	-85023.770	48021.160	116.183	B2	E21-1G	Ⅲ	690.0	B	強	2		
252	-85023.380	48022.450	116.299	B2	E21-1G	Ⅲ	280.0	B	中	2		
253	-85022.470	48021.970	116.153	B2	E21-1G	Ⅲ	105.0	C	中	2		
254	-85021.720	48023.520	116.202	B2	E21-1G	Ⅲ	220.0	C	中	2		
255	-85021.670	48023.580	116.182	B2	E21-1G	Ⅲ	180.0	C	弱	2		
256	-85021.550	48023.550	116.185	B2	E21-1G	Ⅲ	340.0	C	弱	1		
257	-85020.960	48017.570	116.370	B2	E21-1G	Ⅲ	130.0	C	中	2	SI8-34	黒石と敲磨の接合
258	-85020.850	48024.260	116.182	B2	E21-1G	Ⅲ	620.0	C	弱	2		
259	-85020.260	48024.280	116.185	B2	E21-1G	Ⅲ	45.0	C	弱	2		
260	-85020.100	48024.060	116.162	B2	E21-1G	Ⅲ	105.0	C	弱	2		
261	-85019.200	48024.180	116.173	B2	E21-1G	Ⅲ	100.0	C	弱	2		
262	-85022.070	48020.480	116.300	B2	E21-1G	Ⅲ	200.0	C	弱	2		
263	-85022.120	48020.740	116.307	B2	E21-1G	Ⅲ	115.0	B	弱	2		
264	-85022.400	48020.830	116.246	B2	E21-1G	Ⅲ	175.0	C	中	2		
265	-85022.400	48021.020	116.264	B2	E21-1G	Ⅲ	50.0	C	無	2		チャート製礫
266	-85022.510	48021.130	116.322	B2	E21-1G	Ⅲ	70.0	C	中	2		
267	-85022.850	48018.350	116.400	B2	E21-1G	Ⅲ	85.0	C	中	2	200	敲磨間接合8
268	-85023.680	48020.560	116.228	B2	E21-1G	Ⅲ	95.0	C	強	2		
269	-85023.540	48020.650	116.228	B2	E21-1G	Ⅲ	65.0	C	中	2	250	敲磨間接合11
270	-85023.490	48020.850	116.218	B2	E21-1G	Ⅲ	80.0	B	強	2		
271	-85023.590	48020.750	116.200	B2	E21-1G	Ⅲ	185.0	B	強	2		チャート製礫
272	-85023.320	48020.320	116.327	B2	E21-1G	Ⅲ	25.0	C	弱	2		
273	-85022.800	48020.890	116.223	B2	E21-1G	Ⅲ	195.0	C	強	2		
274	-85022.490	48020.640	116.268	B2	E21-1G	Ⅲ	45.0	C	弱	2		
275	-85023.620	48017.610	116.338	B2	E21-1G	Ⅲ	300.0	C	中	2	209	敲磨間接合9
276	-85023.610	48017.260	116.282	B2	E21-1G	Ⅲ	285.0	B	強	2		
277	-85023.800	48017.150	116.312	B2	E21-1G	Ⅲ	85.0	C	中	2		
278	-85023.190	48017.080	116.311	B2	E21-1G	Ⅲ	175.0	C	強	2		
279	-85024.070	48017.610	116.300	B2	E21-1G	Ⅲ	70.0	A	無	2		チャート製礫
280	-85024.220	48017.250	116.325	B2	E21-1G	Ⅲ	50.0	C	中	2		
281	-85022.490	48020.320	116.240	B2	E21-1G	Ⅲ	210.0	C	強	2		
282	-85022.980	48015.700	116.418	B2	E21-1G	Ⅲ	75.0	C	中	2		
283	-85022.800	48015.510	116.376	B2	E21-1G	Ⅲ	145.0	B	強	2		
284	-85023.130	48015.080	116.418	B2	E21-1G	Ⅲ	200.0	C	強	2		
285	-85023.380	48020.410	116.227	B2	E21-1G	Ⅲ	270.0	C	強	2	SI1-134	黒石と敲磨の接合
286	-85023.040	48020.510	116.313	B2	E21-1G	Ⅲ	80.0	C	強	2	9	敲磨間接合3
287	-85022.780	48020.350	116.226	B2	E21-1G	Ⅲ	210.0	C	中	2		
288	-85023.220	48019.920	116.252	B2	E21-1G	Ⅲ	525.0	C	強	2		
289	-85022.540	48020.000	116.220	B2	E21-1G	Ⅲ	525.0	C	中	2		
290	-85022.920	48020.340	116.233	B2	E21-1G	Ⅲ	270.0	C	強	2		
291	-85022.790	48020.050	116.260	B2	E21-1G	Ⅲ	120.0	B	強	2	292	敲磨間接合12
292	-85022.890	48020.460	116.242	B2	E21-1G	Ⅲ	95.0	B	強	2	291	敲磨間接合12
							総重量	118715.0				
							1点あたりの平均重量	408.0				

第23表　縄文時代早期出土礫観察表④

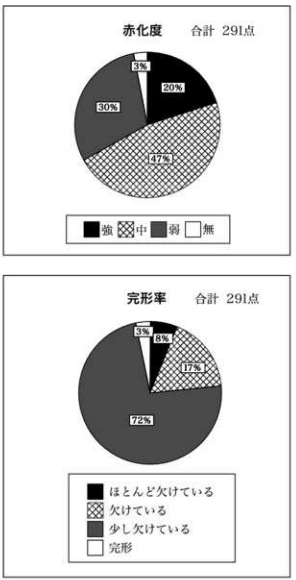
集石遺構が検出された縄文時代早期面から集石遺構周辺を中心に291点の礫が検出された（集石遺構を構成する礫は除く）[第88図]。集石遺構の解説で述べたとおり、集石遺構を構成する礫との接合、散礫間の接合等も認められた［第93図］。集石遺構との関連を含めて、ここで礫の状況を述べることにする。

検出された礫291点中、７点（チャート３点、ホルンフェルス１点、他）を除く284点は在地礫の尾鈴山酸性岩類である。

礫の総重量は、118.715kgを量り、礫１点あたりの平均重量は408.0gを量る。

礫の赤化度、完形率は第94・95図のとおりである。

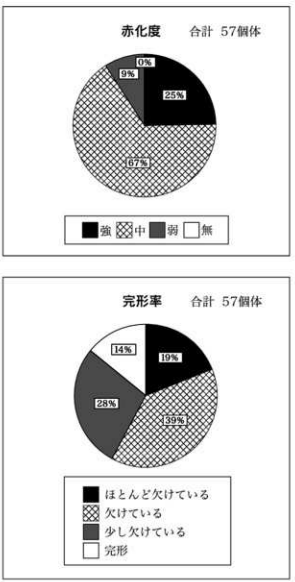
礫のほとんどに赤化が認められ、約３分の２の礫（赤化度中・強67％）には明瞭な赤化を認める。礫の赤化の要因は被熱によるもの、鉄分等の酸化によるもの、検出層の土色が影響したもの等々が考えられる。礫の完形率をみると約90％以上の礫が何らかの作用による割れ（欠損）部分を残す。分割礫が生じる要因としては、被熱による分割、人的な作用（例えば、意図的に礫を割る、石器製作の過程で割



【図の見方】

※完形率：A＝ほとんど欠けている（０％～　）
　　B＝欠けている（４０％～　）
　　C＝少し欠けている（８０％～）
　　K＝完形礫（１００％）
※赤化度：無＝赤化していない　　弱＝部分的に赤化している
　　中＝全体的に赤化している　強＝非常に赤化している

第94図　礫の赤化度・完形率



第95図　接合礫（集石遺構を構成する礫）の赤化度・完形率

【表の見方】　※パターン　：　A（同一集石遺構内接合）　B（集石遺構間接合）　C（散礫間接合）　D（集石遺構と散礫間接合）
※完形率　：　A＝ほとんど欠けている（0％～　）　B＝欠けている（40％～　）　C＝少し欠けている（80％～）　K＝完形礫（100％）
※赤化度　：　強＝非常に赤化している　中＝全体的に赤化している　弱＝部分的に赤化している　無＝赤化していない
※接合礫番号及び礫番号は整理の都合上、便宜的に付けた任意の番号である。

遺構番号	接合礫番号	パターン	礫番号										接合最短距離 (m)	接合最長距離 (m)	接合礫のデータ 重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	接合後の完形率	赤化度	備考
SI1	1	A	12	19	36	46	59	64	124	170					615.0	13.2	7.0	6.5	B	強	集石内接合
	2	A	53	79	87										805.0	12.8	11.4	8.1	C	強	集石内接合
	3	A	88	99	166										450.0	10.8	8.0	5.0	K	中	集石内接合
	4	A	39	61	76										100.0	7.8	6.9	2.2	K	中	集石内接合
	5	A	44	54	72	77	168	169							265.0	11.5	7.4	3.8	C	強	集石内接合
	6	A	37	60	73	91									210.0	10.5	9.5	2.7	C	中	集石内接合
	7	A	43	92	159										370.0	11.5	11.3	3.9	B	強	集石内接合
	8	A	20	49											190.0	6.6	5.7	4.3	B	強	集石内接合
	9	A	45	126											180.0	8.2	4.5	4.3	B	強	集石内接合
	10	A	34	162											270.0	10.6	7.5	3.9	A	弱	集石内接合
	11	A	55	171											85.0	5.5	4.6	3.4	C	中	集石内接合
	12	A	38	118											205.0	7.3	6.4	3.4	K	中	集石内接合
	13	A	63	78	114	149									133.0	7.2	5.4	3.4	A	中	集石内接合
	14	A	84	147											245.0	9.3	7.3	4.6	B	中	集石内接合
	15	A	28	112											210.0	14.0	7.5	2.5	K	中	集石内接合
	16	A	7	102											190.0	7.0	5.5	5.6	B	中	集石内接合
	17	A	51	71											35.0	5.5	3.5	2.0	C	中	集石内接合
	18	A	30	69											180.0	12.0	5.0	3.7	K	強	集石内接合
	19	A	134	敷285									0.70		815.0	16.3	10.8	4.7	A	強	集石内接合
														計	5553.0	187.7	135.2	78.0			
														1個体あたりの平均	292.3	9.9	7.1	4.1			
SI2	1	A	5	54											370.0	8.4	6.6	6.9	K	中	集石内接合
	2	A	51	73											155.0	7.9	4.1	4.6	A	中	集石内接合
	3	A	32	85											115.0	9.8	6.9	2.5	C	中	集石内接合
	4	A	69	70	82										70.0	7.0	5.6	1.8	B	中	集石内接合
														計	710.0	33.1	23.2	15.8			
														1個体あたりの平均	177.5	8.3	5.8	4.0			
SI3	1	A	29	30	31	37									6000.0	25.8	16.8	11.8	C	強	集石内接合
														1個体あたりの平均	6000.0	25.8	16.8	11.8			
SI4	1	A	29	43											133.0	7.8	6.5	2.4	C	中	集石内接合
	2	A	35	36	55	58									435.0	9.6	7.7	5.6	B	強	集石内接合
	3	A	42	49											375.0	7.4	7.1	5.4	B	中	集石内接合
	4	A	45	57											485.0	11.5	9.3	4.2	B	中	集石内接合
	5	A	14	70											170.0	7.1	7.1	3.9	B	中	集石内接合
	6	A	3	32	51	59	69	71	72						980.0	20.0	9.1	5.9	B	強	集石内接合
	7	A	19	21	28										370.0	10.8	8.5	4.6	C	中	集石内接合
	8	A	52	56											305.0	9.3	6.0	4.7	B	強	集石内接合
	9	A	44	53											135.0	8.7	6.1	2.7	B	強	集石内接合
	10	A	47	64											275.0	10.0	9.7	3.4	B	中	集石内接合
	11	A	27	65											250.0	13.5	5.1	3.8	C	弱	集石内接合
	12	A	6	7											155.0	7.9	6.6	4.3	C	弱	集石内接合
	13	A	23	26											220.0	8.5	6.8	4.6	A	中	集石内接合

第24表　縄文時代早期出土接合礫観察表①

遺構番号	接合礫番号	パターン	礫番号								接合最短距離(m)	接合最長距離(m)	接合礫のデータ 重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	接合後の完形率	赤化度	備考
S I 4	14	B	31	SI8 19								1.58	160.0	6.7	5.8	3.8	C	強	集石内接合
	15	B	54	SI8 14								1.38	230.0	10.2	9.8	2.5	C	中	集石内接合
	16	D	1	4	18	22	散3					6.43	2500.0	16.2	13.6	7.2	A	中	集石と散礫の接合
	17	D	46	61	散125	散201					3.32	7.22	4860.0	20.3	17.5	9.0	B	中	集石と散礫の接合
												計	25632.5	−	−	−			
												1個体あたりの平均	1507.8	16.4	12.1	7.1			
S I 5	1	A	39	60	87	95							140.0	12.0	8.0	1.5	C	中	集石内接合
	2	A	31	69	86								310.0	13.3	8.5	2.4	K	中	集石内接合
	3	A	22	55	88								300.0	9.7	5.7	6.6	C	中	集石内接合
	4	A	13	25									580.0	10.2	10.8	4.0	A	弱	集石内接合
	5	A	12	28									145.0	7.7	6.8	3.2	C	中	集石内接合
	6	A	45	56	57								250.0	10.2	5.7	4.4	A	中	集石内接合
	7	A	44	53									485.0	10.3	9.0	6.2	K	中	集石内接合
	8	A	1	18									730.0	12.4	8.2	6.2	B	中	集石内接合
												計	2940.0	−	−	−			
												1個体あたりの平均	367.5	11.0	7.8	4.3			
S I 6	1	A	22	78									690.0	14.4	11.4	4.8	B	中	集石内接合
	2	A	28	81									220.0	8.9	7.3	3.8	B	中	集石内接合
	3	A	43	47									260.0	12.2	9.2	2.5	A	中	集石内接合
	4	A	46	75									80.0	4.9	4.7	3.2	A	中	集石内接合
	5	A	60	63									160.0	7.8	4.6	3.5	A	中	集石内接合
												計	1410.0	−	−	−			
												1個体あたりの平均	282.0	9.6	7.4	3.6			
S I 7	1	A	7	18									305.0	10.4	8.2	5.5	B	中	集石内接合
												1個体あたりの平均	305.0	10.4	8.2	5.5			
S I 8	1	A	27	30									40.0	5.0	4.1	1.9	B	弱	集石内接合
	2	D	34	散257								6.80	200.0	8.0	5.7	5.0	B	中	集石と散礫の接合
												計	240.0	−	−	−			
												1個体あたりの平均	120.0	6.5	4.9	3.5			
散礫	1	C	39	186	248	249					0.13	5.00	4500.0	22.3	13.5	12.0	B	強	散礫間接合
	2	C	291	292								0.3	525.0	8.8	5.6	4.9	B	強	散礫間接合
	3	C	9	286								1.48	470.0	11.2	8.7	6.4	C	強	散礫間接合
	4	C	250	269								0.60	140.0	6.8	6.5	4.2	C	強	散礫間接合
	5	C	217	219								0.45	200.0	12.7	9.2	2.0	C	強	散礫間接合
	6	C	195	242	180						0.28	4.38	6575.0	23.8	20.8	10.8	B	強	散礫間接合
	7	C	200	267								1.58	385.0	11.5	5.4	5.5	B	中	散礫間接合
	8	C	155	157								0.43	240.0	8.0	7.0	4.5	B	中	散礫間接合
	9	C	34	205								0.20	365.0	10.8	7.3	5.0	C	中	散礫間接合
	10	C	32	44								5.43	505.0	14.7	8.0	6.2	A	強	散礫間接合
	11	C	196	197								0.15	13000.0	26.0	23.0	18.8	A	強	散礫間接合
	12	C	209	275								1.30	520.0	16.6	10.0	3.0	C	強	散礫間接合
												計	27115.0	−	−	−			
												1個体あたりの平均	2259.6	14.4	10.4	6.9			

項目		重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
集石遺構	礫総計	29193.0	−	−	−
	接合礫1個体あたりの平均重量	512.2	10.4	7.6	4.4
散礫	礫総計	27115.0	−	−	−
	接合礫1個体あたりの平均重量	2259.6	14.4	10.4	6.9

赤化度	強	中	弱	無	計
集石遺構	14	38	5	0	57
(%)	24.6	66.6	8.8	0	100
散礫	9	3	0	0	12
(%)	75	25	0	0	100

完形率	A	B	C	K	計
集石遺構	11	22	16	8	57
(%)	19.3	38.6	28.0	14.0	100
散礫	2	5	5	0	12
(%)	16.6	41.7	41.7	0	100

第25表　縄文時代早期出土接合礫観察表②

る、または割れる等）による分割、人的な作用以外の外的な圧力による分割等が考えられる。赤化礫、分割礫が比較的多く認められたことはこれらの礫が集石遺構の周辺部から集中して検出されていることを考えると、一部の礫においては被熱による赤化、分割の可能性も十分残される。

集石遺構を構成する礫の接合に関しては、57個体の接合礫の内52個体は同一集石遺構内での接合であった。２個体は集石遺構間（SI４とSI８）の接合、３個体は集石遺構と散礫間（SI４と散礫２個体、SI８と散礫１個体）の接合を認めた。

接合礫の赤化度と完形率の状況については第95図に示した。

赤化については、接合礫のうち約４分の１には非常に強い赤化が認められ、約３分の２についても赤化が認められた。礫の形状については同一集石遺構内での接合礫52個体中８個体は接合礫そのものが完形をなす。それらの礫は意図的に割って集石遺構を構成する礫として使ったか、被熱によって割れた礫である可能性がある。

なお、集石遺構を構成する礫の接合に関しては、その個体数やデータ量が十分とは言えない。事実のみを報告することとし、これ以上の言及は避けることにする。

（２）遺物

縄文時代早期面での出土遺物は石器17点（石鏃４点、剥片13点）と縄文土器片２点、磁器片１点の計20点である。それらの遺物分布については第96図に示したとおりである。

磁器片については土層のクラックや樹根痕等の影響を受け落ち込んだ遺物である。

①石器

出土した石器のうち、製品である石鏃４点（第97図：281～284）のみを掲載した。なお、出土した石器の器種・石材の内訳は第26表のとおりである。

石鏃（第97図：281～284）

281は流紋岩製の鉛地型石鏃である。背面は局部的に磨きを認める。先端部は欠損しているものの脚部は良好に残り、脚部に向かって窄まる。脚部に浅いU字の抉りを入れている。

器種／石材	石鏃	二次加工のある剥片	剥片	砕片	計
チャート	2	1	6	1	10
赤色チャート			1		1
黒曜石（桑ノ木津留）	1				1
流紋岩	1				1
ホルンフェルス			4		4
計	4	1	11	1	17

第26表　縄文時代早期石器器種・石材別数量表

283は桑ノ木津留産黒曜石製の石鏃である。ほぼ正三角形を呈し、脚部は平基となる。

282・284はチャート製の石鏃である。282は脚部のみの石鏃である。残存脚部から推定して３㎝を超す、他に比して大型の石鏃である。U字もしくはV字の抉りを認める。284は二等辺三角形を呈し脚部に浅い抉りを入れている。

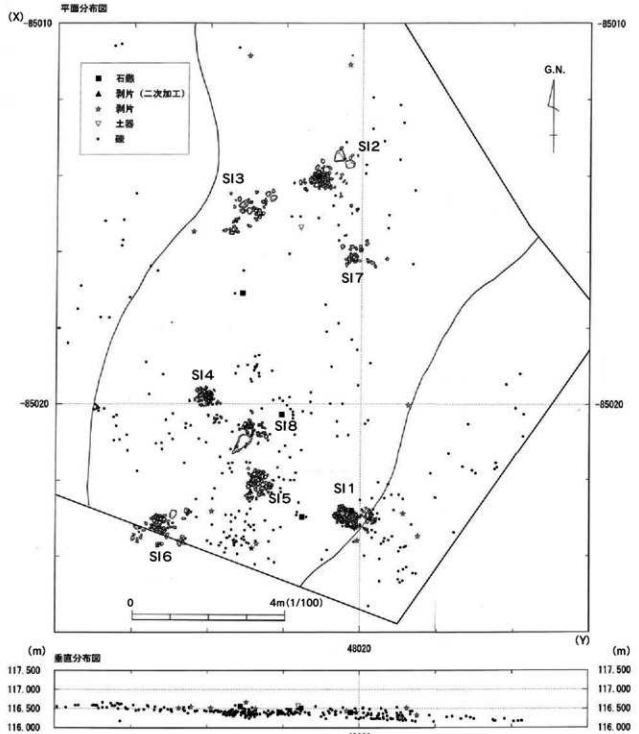
剥片

出土した13点中、１点は二次加工のある剥片（D21-4出土：チャート製）である。石材はチャート製が８点と最も多い。赤色チャート製、黒曜石製の剥片も１点ずつ出土した。接合については確認できなかった。

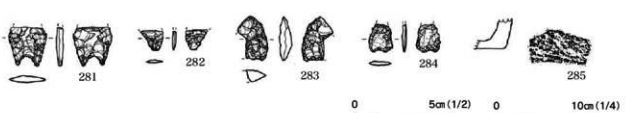
②土器（第97図：285）

土器片のうち１点は塞ノ神式土器の胴部で、外内面ともに風化が著しいが沈線及び縄文が認められる。

285は深鉢の底部である。内外面ともに風化が激しく調整や文様等は不明瞭であるが、条痕が認められる。



第96図　集石遺構集中域周辺の遺物・礫分布図（1/100）



第97図　縄文時代早期石器・土器実測図（281～284：1/2、285：1/4）

No.	Gr. No.	出土層	注記No.	器種	石材	X座標	Y座標	Z座標 (標高:m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
281	D20-3	皿	6	石鏃	頁岩	-85017.090	48016.880	116.553	(2.05)	2.00	0.40	1.90	鋸歯石鏃、先端部欠損。
282	D21-4	IV	17	石鏃	チャート	-85022.810	48019.790	116.394	(1.00)	(1.20)	0.20	0.20	基部のみ。
283	D21-4	皿	11	石鏃	凝灰岩(後ノ木神層)	-85020.280	48017.930	116.399	(1.50)	1.30	0.21	0.60	基部一部欠損。
284	D21-4	皿	12	石鏃	チャート	-85022.980	48014.840	116.512	2.30	(1.60)	0.70	1.80	先端部欠損。

第27表　縄文時代早期石器計測表

No.	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量 口径	法量 底径	法量 器高	残存	手法・調整・文様他 外面	手法・調整・文様他 内面	色調 外面	色調 内面	胎土の特徴	備考
285	縄文土器	深鉢底部	B	D20-3G	−	−	−	良好	風化が激しく、文様・調整等不明瞭 糸底をかすかに認める	風化が激しく、文様・調整等不明瞭	明赤褐色　橙 5YR5/6 7.5YR6/6	明赤褐色 5YR-5/6	2mm以下の灰白色、褐灰色、無色透明ガラス質の微細粒を含む　にぶい赤褐色粒を僅かに含む	

第28表　縄文時代早期土器観察表

第4節　弥生時代後期の遺構と遺物

表土除去後、鬼界アカホヤ火山灰検出面にて精査した結果、弥生時代後期の溝状遺構1条（SE10）を検出した。

以下に溝状遺構と遺構内の出土遺物について記述する。

1　遺構（溝状遺構）

ＳＥ10（第98図）

ＳＥ10はＢ１区北から南南東方向にＳ字を描きながら延び、農道を挟んでＢ２区に続き、南東方向に緩やかなＳ字を描いて調査区外へと続く形で検出された。ＳＥＩ・２・３・４によって切られる。検出面において長さ約9.0m、最大幅約0.6m、最深部約0.06mを測る。

遺構の形状に特色をもつ。Ｂ１区ではＳ字状の屈曲をなし、Ｂ２区においても緩やかではあるがＳ字状を描く。埋土については最下層部は砂や小石を多く含む砂礫層である。

遺物も遺構内から多数出土した。底面直上から出土した遺物は取上げ番号を付し個々に取り上げ、埋土上層～下層にかけての出土遺物は埋土上・中・下の３層に分け一括して取り上げた。

底面直上からは、238箇所、470点（石器７点、土器463点）の遺物が出土した。石器の内訳は石鏃１点、二次加工のある剥片３点、剥片３点である。土器は弥生土器片である。

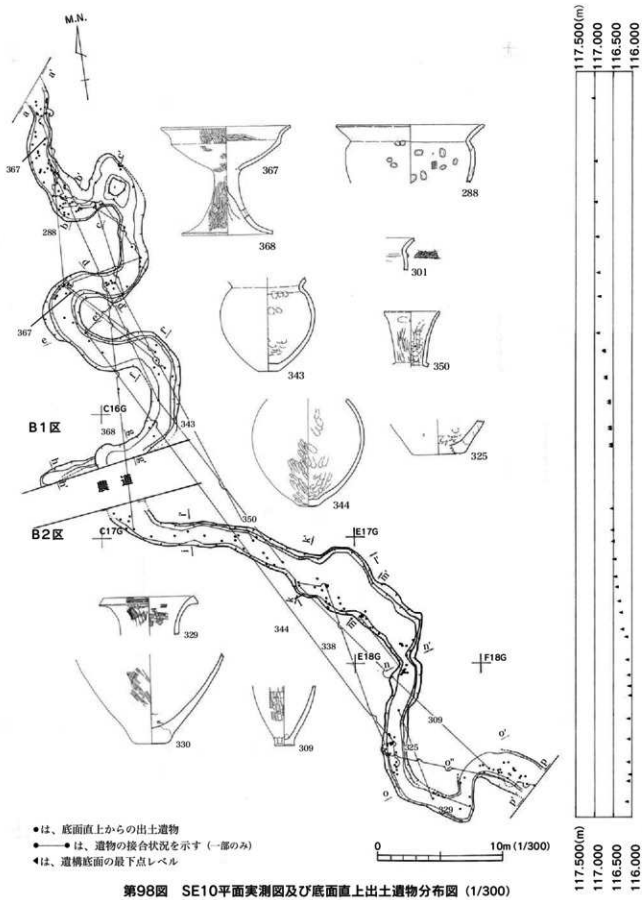
埋土からは1492点（上層：184点、中層：10点、下層：1298点）の遺物が出土した。その内訳は、石鏃１点、土師器37点、陶器１点、残りは弥生土器片である。

底面直上から出土した土器片の分布状況を第98図に示している。また本書に掲載した弥生土器片の中で底面直上から出土した土器片同士の接合状況も合わせて示している。

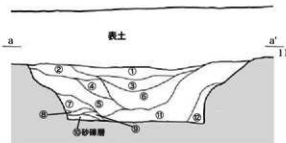
遺構の形状、埋土の状況、遺物の分布と接合状況等を総合的に検討すると、当時、この遺構は自然の流路であった可能性がある。土器片は５～10m以上離れて接合しているものもあり水流によって動かされた可能性がある。

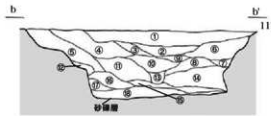
また遺構最下部のレベルをつなぐとＢ２区南東方向に向けて緩やかに傾斜を認める（第98図）。このことから、遺跡内では北から南東方向に向けて流れていたと推定できる。

この遺構は当時、土器の廃棄場であったと考えられる。本遺跡（一～四次）調査では確認できなかったが遺跡周辺に弥生時代の集落が存在した可能性も残るであろう。



第98図　SE10平面実測図及び底面直上出土遺物分布図（1/300）





【土層注記】SE10（断面a－a'）

①黒色土（7.5YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。1～2㎜程度の黄橙色粒を極少量含む。ざらざらしている。全体的に褐炭粒を非常に多く含む。

②黒色土（7.5YR-1.7/1）しまりは弱く、粘性はやや強い。指ともざらざらする。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。全体的に褐炭粒を非常に多く含む。

③黒色土（7.5YR-1.7/1）しまりは弱く、粘性はやや強い。指ともぼろぼろした感じで、指り跡が毛羽立つ。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。全体的に褐炭粒を非常に多く含む。

④黒色土（7.5YR-3/2）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の白色粒をやや多く含む。

⑤黒色土（7.5YR-2/1）しまりは強く、粘性は非常に強い。1㎜以下の白色粒をやや多く含む。粘性が非常に強くべたついている。指り跡が毛羽立つ。

⑥黒色土（7.5YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。指ともざらざらしている。砂質粒を含む。

⑦黒褐色土（7.5YR-3/2）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の白色粒を少し含む。粘性はあるが、べたべたした感じではない。

⑧暗褐色土（10YR-3/4）しまり、粘性ともに強い。指ともざらざらしている。粘土質である。

⑨黒褐色土（10YR-3/1）しまり、粘性ともに強い。ざらざらする。1㎜以下の黄橙色粒を少量含む。

⑩褐色土（10YR-4/4）しまりは弱く、粘性はやや強い。砂礫層である。

⑪黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに非常に強い。ブロックでとれば落ちる。全体的に褐炭粒をやや多く含む。1㎜以下の白色粒を極少量含む。

⑫黒褐色土（10YR-3/1）しまり、粘性ともに強い。ざらざらする。1㎜以下の白色粒を極少量含む。べたべたした感じである。

【土層注記】SE10（断面c－c'）

①黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。指ともる羽が少し立つ。1㎜以下の黄橙色粒を極少量含む。

②黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1㎜以下の白色粒を少し含む。

③黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は非常に強い。指ともる毛羽が立つ。他の土粒は認められない。

④黒褐色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。指ともる毛立つ。1～2㎜以下の黄橙色粒を少し含む。

⑤暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い。指ともる毛羽立つ。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。

⑥黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに非常に強く指ともる毛羽立つ。1～2㎜程度の黄橙色粒・白色粒を少し含む。

⑦黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の白色粒を極少量含む。

⑧黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに強い。砂礫層の為、ぼろぼろしている。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。

⑨黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。ざらざらしている。

⑩暗黒色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。ざらざらしている。

⑪暗褐色土（10YR-3/4）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を少し含む。ざらざらしている。

⑫黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに弱い。砂礫層の為、ぼろぼろしている。

⑬黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに弱い。砂礫層の為、ぼろぼろしている。1～3㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。

【土層注記】SE10（断面b－b'）

①黒色土（7.5YR-1.7/1）しまりは強く、粘性は非常に強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含み、1～2㎜程度の黄橙色粒を少し含む。全体的に褐炭粒を非常に多く含む。1～3㎜程度の炭化物を少し含む。

②黒色土（7.5YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。①よりも粘性がある。1㎜以下の白色粒を非常に多く含み、1㎜以下の黄橙色粒を極少量含む。全体的に褐炭粒をやや多く含む。1～3㎜程度の炭化物を少し含む。①よりも粘性がある。

③黒色土（7.5YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。ざらざらした感じがする。全体的に褐炭粒をやや多く含む。

④黒褐色土（7.5YR-2/3）しまりは強く、粘性はやや強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。1～2㎜程度の黄橙色粒を極少量含む。ざらざらしている。全体的に褐炭粒を多く含む。

⑤暗褐黒色土（7.5YR-2/3）しまりはやや強く、粘性は強い。1～2㎜程度の小石を非常に多く含む。指ともぼりがりする。1㎜以下の白色粒を非常に多く含み、1㎜程度の黄橙色粒をやや多く含む。

⑥黒色土（7.5YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含み、1～2㎜程度の黄橙色粒を極少量含む。全体的に褐炭粒を多く含む。

⑦黒褐色土（7.5YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。全体的に褐炭粒を多く含む。

⑧黒色土（7.5YR-1.7/1）しまりは強く、粘性は非常に強い。1㎜以下の黄橙色粒をやや多く含む。

⑨黒色土（7.5YR-2/1）しまりは強く、粘性は非常に強い。1㎜以下の白色粒を多く含む。

⑩黒色土（7.5YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。黒色の帯状の部分が確認される。1㎜以下の白色粒を少し含む。

⑪黒褐色土（7.5YR-2/1）しまり、粘性ともに非常に強い。べたべたしており粘土質である。1～2㎜程度の炭化物を少し含む。

⑫黒褐色土（7.5YR-2/2）しまり、粘性ともに強い。他の土粒はほとんど認められない。

⑬黒色土（7.5YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。

⑭黒色土（7.5YR-1.7/1）しまり、粘性ともに非常に強い。黒色の帯状の層が確められる。1㎜以下の白色粒を少し含む。粘土質である。

⑮黒色土（7.5YR-1.7/1）しまり、粘性ともに非常に強い。1㎜以下の炭化物を少し含む。

⑯黒色土（7.5YR-2/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1～3㎜程度の小石・砂粒を非常に多く含む。1～2㎜程度の黄橙色粒をやや多く含む。

⑰黒褐色土（7.5YR-2/2）しまり、粘性ともに非常に強い。1～2㎜程度の黄橙色粒・白色粒を少し含む。指ともる毛羽立つ。

⑱暗褐色土（7.5YR-3/3）しまり、粘性ともに非常に強い。1～2㎜程度の小石、砂粒を非常に多く含む。砂礫層である。

【土層注記】SE10（断面c'－c'）

①黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の白色粒を多く含む。全体的に褐炭粒を多く含む。

②黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の白色粒を極少量含む。全体的に褐炭粒を多く含む。

③黒色土（10YR-2/1）しまりは強く、粘性はややない。全体的に褐炭粒を多く含む。

④黒色土（10YR-2/1）しまりは強く、粘性は強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。ざらざらしている。

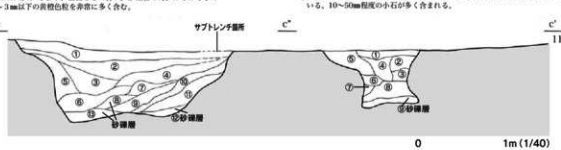
⑤暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の白色粒と1～3㎜程度の黄橙色粒を非常に多く含む。

⑥暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の白色粒を少し含む。全体的に褐炭粒を多く含む。

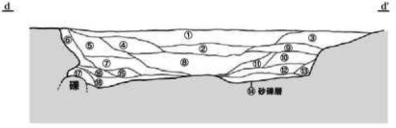
⑦黒褐色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。ざらざらしている。1㎜以下の白色粒を少し含む。

⑧黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。多少ざらざらしている。1㎜以下の白色粒を多く含む。

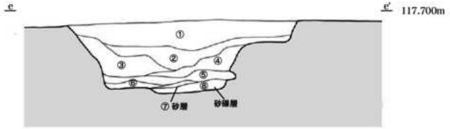
⑨黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに強い。砂礫層の為、ぼろぼろしている。10～50㎜程度の小石が多く含まれる。



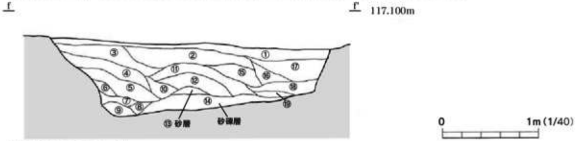
第99図　SE10断面実測図①（1/40）



【土層注記】ＳＥ10（断面ｄ－ｄ'）
①黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は弱い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含み、1～3㎜程度の黄橙色粒を少し含む。全体的に褐鉄鉱をやや多く含む。
②黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含み、1㎜以下の黄橙色粒を極少量含む。
③黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。ぼろぼろしている。1㎜以下の白色粒を極少量含む。全体的に褐鉄鉱を非常に多く含む。
④黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1㎜以下の白色粒を多く含む。1㎜程度の黄橙色粒を少し含む。
⑤黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1㎜以下の白色粒を少し含む。削ると毛羽立つ。
⑥黒色土（10YR-2/1）しまりはやや強く、粘性は弱い。ざらざらしている。1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑦黒色土（10YR-1.7/1）しまりは強く、粘性は非常に強い。削ると毛羽立つ。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を少し含む。
⑧黒色土（10YR-1.7/1）しまりは非常に強く、粘性は強い。1～2㎜程度の炭化物をやや多く含む。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。
⑨黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。削ると毛羽立つ。1～5㎜程度の黄橙色粒を極少量含む。
⑩黒色土（10YR-1.7/1）しまりは強く、粘性は非常に強い。1～3㎜程度の黄橙色粒を少し含む。粘土質である。
⑪黒色土（10YR-2/1）しまりは強く、粘性は非常に強い。1～3㎜程度の炭化物を少し含む。
⑫黒色土（N-1.5/0）しまり、粘性ともに非常に強い。粘土質である。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。
⑬黒色土（10YR-2/1）しまりはやや強く、粘性は強い。にぶい黄褐色土（10YR5/4）のブロックを非常に多く含む。特ににぶい黄褐色土は粘性が強い。
⑭暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに非常に弱い。砂礫層である。1～50㎜程度の砂粒、小石が多く含まれている。
⑮黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに弱い。1㎜程度の黄橙色粒・白色粒・黒色粒を非常に多く含む。ざらざらして、砂質である。
⑯黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。べたべたしていて削ると毛羽立つ。
⑰黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1～4㎜程度の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。全体的に褐鉄鉱をやや多く含む。
⑱黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1～3㎜程度の黄橙色粒を少し含む。1～100㎜程度の砂粒、石を多く含む。

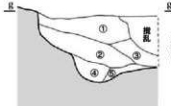


【土層注記】ＳＥ10（断面ｅ－ｅ'）
①黒色土（7.5YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。削ると毛羽立つ。1㎜以下の白色粒を非常に多く含み、1～3㎜程度の黄橙色粒を少し含む。全体的に褐鉄鉱をやや多く含む。
②黒色土（7.5YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含み、1～2㎜程度の黄橙色粒を極少量含む。①よりも粘性が強い。
③黒色土（7.5YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。粘土質である。1～3㎜程度の炭化物を少し含む。1～3㎜程度の黄橙色粒を少し含む。
④黒褐色土（10YR-3/1）しまり、粘性ともに非常に強い。粘土質である。1㎜以下の白色粒を少し含む。1～3㎜程度の炭化物を少し含む。
⑤黒色土（10YR-1.7/1）しまりは、粘性ともに非常に強い。上層に砂質の帯状の埋土が入る。1㎜程度の炭化物を極少量含む。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1㎜程度の黄橙色粒を非常に多く含む。ざらざらしている。1～2㎜程度の炭化物を極少量含む。
⑦暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに弱い砂質の為、ざらざらしている。
⑧暗褐色土（10YR-3/3）しまりはやや強く、粘性は強い。砂礫層である。20～100㎜程度礫が入る。1㎜程度の黄橙色粒をやや多く含む。

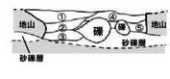


【土層注記】ＳＥ10（断面ｆ－ｆ'）
①黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや弱い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。全体的に褐鉄鉱を多く含みざらざらしている。
②黒色土（10YR-1.7/1）しまりは非常に強く、粘性は強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。全体的に褐鉄鉱を非常に多く含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。全体的に褐鉄鉱を非常に多く含む。
④黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の白色粒を少し含む。削ると毛羽立つ。全体的に褐鉄鉱を少し含む。
⑤黒色土（10YR-2/1）しまりはやや強く、粘性は強い。削ると毛羽立つ。2㎜程度の黄橙色粒を極少量含む。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。削ると毛羽立つ。1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑦黒褐色土（10YR-2/3）しまりは弱く、粘性はやや弱い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。ざらざらしている。
⑧黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。1～3㎜程度の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。
⑨黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。削ると毛羽立つ。2?程度の黄橙色粒を極少量含む。
⑩黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒・炭化物をやや多く含む。少しざらざら感がある。
⑪黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。ざらざらしている。1～3㎜程度の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
⑫黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。ざらざらしている。3～5㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
⑬極暗褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに弱い。ぼろぼろしている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。1～4㎜程度の炭化物を多く含む。
⑭極暗褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに弱い。ぼろぼろしている。30～50㎜程度の砂粒、小石を非常に多く含む。
⑮黒色土（10YR-2/1）しまりは非常に強く、粘性は強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。1～3㎜程度の炭化物を少し含む。
⑯暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い。ざらざらしている。1㎜程度の白色粒を非常に多く含む。砂質層である。
⑰黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。少しざらざらしている。1㎜以下の白色粒を多く含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
⑱黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに非常に強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
⑲黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに非常に強い。砂質帯状の筋が入る。1～2㎜程度の炭化物を極少量含む。

第100図　SE10断面実測図②（1/40）

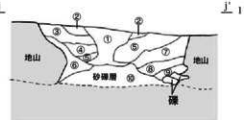


【土層注記】SE10（断面g－g'）
①黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。3㎜以下の褐鉄鉱をやや多く含む。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
②黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに上より強い。3㎜以下の褐鉄鉱をやや多く含む。酸化も毛斑立つ。1㎜以下の白色粒を少し含む。
③黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに②より強い、2㎜程度の黄橙色粒・炭化物をやや多く含む。多少ざらざらしている。
④暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに非常に強い。酸化も毛斑立つ。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
⑤黒褐色土（10YR-3/2）しまりはやや強く、粘性は強い。砂礫が入っている為、ぼろぼろしている。1㎜程度の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。

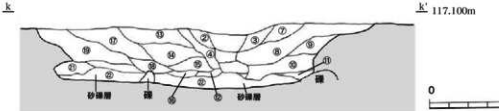


【土層注記】SE10（断面i－i'）
①黒色土（10YR-2/1）しまりは強く、粘性はやや強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
②黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。にぶい黄褐色土（10YR5/3）のブロック(小)入る。1㎜以下の黄橙色粒を多く含む。
③黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに非常に強く、粘土質である。他の土粒は認められない。
④暗褐色土（10YR-3/3）しまりは強く、粘性はやや強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。少しざらざらしている。
⑤暗褐色土（10YR-3/1）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を少し含む。

【土層注記】SE10（断面h－h'）
①黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。酸化と少し毛斑立つ。3㎜以下の炭化物を極少量含む。2㎜程度の黄橙色粒を極少量含む。
②黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。酸化と毛斑立つ。にぶい黄褐色土（10YR4/3）のブロックを1箇所認める。1㎜以下の白色粒を少し含む。
③黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。酸化と毛斑立つ。1～2㎜程度の黄橙色粒を極少量含む。

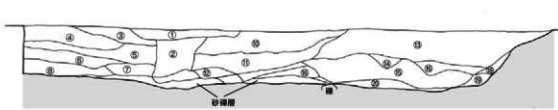


【土層注記】SE10（断面j－j'）
①黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや弱い。さらさらしている。1～2㎝下の白色粒と1㎜程度の黄橙色粒を非常に多く含み、1～3㎜程度の炭化物を少し含む。
②黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い。少しざらざらしている。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。1～3㎜程度の黄橙色粒を多く含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや強い。酸化と毛斑立つ。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒をやや多く含む。
④黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒を少し含む。
⑤黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。全体的に褐鉄鉱を非常に多く含む。
⑥黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに強い。酸化と毛斑立つ。1㎜以下の白色粒を極少量含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
⑦黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに非常に強い。酸化と毛斑立つ。1㎜以下の白色粒を少し含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
⑧黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。ざらざらしている。酸化と毛斑立つ。1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑨黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに非常に強い。酸化と毛斑立つ。全体的に褐鉄鉱を少し含む。
⑩暗褐色土（10YR-3/4）しまり、粘性ともに強い。砂礫層の為、ぼろぼろとした感じである。1～3㎝程度の黄褐色粒（10YR5/6）を非常に多く含む。30～50㎜程度の小石を非常に多く含む。

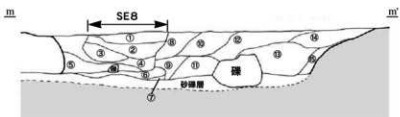


【土層注記】SE10（断面k－k'）
①黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに非常に強い。さらさらしている。1㎜以下の白色粒・黄橙色粒をやや多く含む。
②黒褐色土（10YR-2/2）しまりはやや強い。粘性は強い。黒色土が現状に混じっている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまりはやや強く、粘性はやや強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒をやや多く含む。褐鉄鉱を少し含む。
④黒褐色土（10YR-3/2）しまり、粘性ともにやや強い。ざらざら感がある。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
⑤黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。ぼろぼろしてる。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。ぼろぼろしている。50㎜程度の黄褐色土ブロック(小)1箇所認められる。1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑦黒褐色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑧黒褐色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。多少ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。全体的に褐鉄鉱を少し含む。
⑨黒褐色土（10YR-3/2）しまりはやや強く、粘性は強い褐黄色土のブロックが現状に入る。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒・炭化物を多く含む。
⑩黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。
⑪黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い。ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
⑫黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。ぼろぼろとしている。
⑬黒褐色土（10YR-3/2）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。ざらざらしている。
⑭黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒を多く含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
⑮黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや強い。ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒を多く含む。多少ぼろぼろする。
⑯黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。ざらざらしている。1㎜程度の黄橙色粒を非常に多く含む。
⑰黒色土（10YR-3/2）しまり、粘性ともにやや強い。さらさらしている。1㎜以下の白色粒を多く含む。全体的に褐鉄鉱をやや多く含む。
⑱黒褐色土（10YR-3/2）しまり、粘性ともに強い。ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
⑲黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い。さらさらしている。1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑳黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒・炭化物をやや多く含む。
㉑黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。砂礫層の為、ぼろぼろしている。1㎜以下の黄橙色粒を多く含む。10～30㎜程度の小石を非常に多く含む。

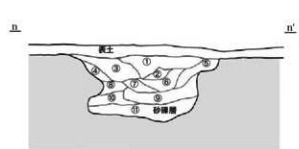
第101図　SE10断面実測図③（1/40）



【土層注記】SE10（断面 l－l'）
①黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに非常に弱い。1㎜以下の白色粒を多く含む。
②黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに強い。2㎜程度の黄橙色粒を少し含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまりは強く、粘性は弱い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
④黒色土（10YR-1.7/1）しまりは中強く、粘性は弱い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
⑤黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。2㎜程度の黄橙色粒を少し含む。
⑦黒色土（10YR-1.7/1）しまりは非常に弱く、粘性は弱い、ぼろぼろとしている。1㎜以下の黄橙色粒を少し含む。
⑧黒褐色土（10YR-1.7/1）しまりは非常に弱く、粘性は弱い。5㎜程度の黄橙色粒をやや多く含む。
⑨褐色土（10YR-4/6）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い、さらさらしている。
⑩黒色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに弱い、さらさらしている。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。
⑪黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒・炭化物を多く含む。
⑫暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともにやや強い、ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
⑬黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い、さらさらしている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を少し含む。
⑭黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い、多少ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒を少し含む。
⑮黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い、ざらざらしている。褐色土が斑状に入る。1㎜程度の黄橙色粒を少し含む。
⑯暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い、ざらざらしている。5㎜程度の小石を非常に多く含む。
⑰暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い、ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒を多く含む。
⑱黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに強い、2㎜程度の黄橙色粒・黒色粒を多く含む。
⑲暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い、砂礫層の為、ぼろぼろとしている。10㎜以下の小石を多く含む。
⑳暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い、砂礫層の為、ぼろぼろとしている。

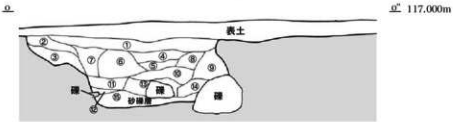


【土層注記】SE10（断面m－m'）
①黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに弱い、さらさらしている。1㎜程度の黄橙色粒を少し含み、1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。
②黒色土（10YR-2/1）しまりは非常に強く、粘性は強い、固まると毛割立つ。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
④黒褐色土（10YR-2/3）しまりはやや強く、粘性は強い、1～2㎜程度の黄橙色粒と1㎜程度の白色粒を非常に多く含む。
⑤黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い、固まると毛割立つ。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒をやや多く含む。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い、1～3㎜程度の黄橙色粒と1㎜以下の白色粒をやや多く含む。
⑦黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い、ぼろぼろとしている。1～4㎜程度の黄橙色粒と1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑧黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしている。固まると毛割立つ1㎜以下の白色粒をやや多く含む。
⑨黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや強い、1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑩黒褐色土（10YR-2/2）しまりは強く、粘性はやや強い、1㎜程度の黄橙色粒を極少量含み、1㎜以下の白色粒をやや多く含む。
⑪黒褐色土（10YR-2/3）しまりはやや強く、粘性は弱い、ざらざらしている。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。
⑫黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしているが固まると毛割立つ。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を少し含む。
⑬黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い、やや ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
⑭黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしているが固まると毛割立つ。1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑮暗褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い、ざらざらしている。1～3㎜程度の黄橙色粒を多く含み、1㎜以下の白色粒を多く含む。

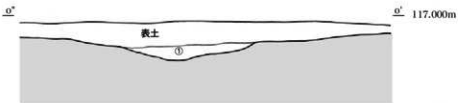


【土層注記】SE10（断面 n－n'）
①黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い、さらさらしている。1㎜程度の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
②黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い、多少ざらざらしている。1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。
③暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い、1㎜程度の黄橙色粒と1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。
④暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに強い、1㎜程度の黄橙色粒と1㎜以下の白色粒を非常に多く含む。全体的に褐鉄鉱をなす。
⑤黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしている。1㎜以下の白色粒を多く含む。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。
⑦黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに強い、ぼろぼろとしている。1㎜以下の黄橙色粒を多く含む。
⑧黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い、多少ざらざらしている。1㎜以下の白色粒を多く含む。
⑨黒褐色土（10YR-2/2）しまりは非常に弱く、粘性は弱い、ぼろぼろとしている。1㎜程度の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。
⑩黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに強い、さらさらしている。1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑪暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに非常に強い、砂礫層の為、ぼろぼろとしている。10～50㎜程度の小石を非常に多く含む。

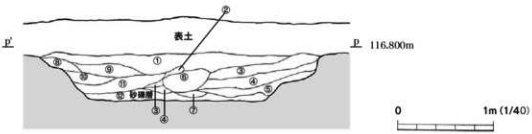
第102図　SE10断面実測図④（1/40）



【土層注記】SE10（断面o－o'）
①黒色土（10YR-1.7/1）しまりは非常に強く、粘性は弱い。さらさらしている。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。
②黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い。さらさらしている。1㎜以下の白色粒を少し含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや強い。さらさらしている。1㎜以下の白色粒を少し含む。
④黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。
⑤黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。ぼろぼろとしている。1㎜以下の黄橙色粒を多く含む。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を少し含む。
⑦黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに強い。削ると毛羽立つ。褐鉄鉱をやや多く含む。
⑧黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜程度の黄橙色粒・白色粒をやや多く含む。
⑨黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに強い。削ると やや毛羽立つ。強の土粒はほとんど認められない。
⑩暗褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに弱い。砂質の為、ぼろぼろとしている。50㎜程度の小石が非常に多い。
⑪黒色土（10YR-3/1）しまり、粘性ともに強い。削ると毛羽立つ。1㎜程度の黄橙色粒を極少量含む。褐鉄鉱がやや多い。
⑫黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや弱く、粘性は強い。削ると毛羽立つ。50㎜以下の小石を少し含む。
⑬黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに弱い。砂質の為、ぼろぼろとしている。1㎜程度の黄橙色粒・白色粒・黒色粒を非常に多く含む。
⑭黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともに強い。さらさらしている。1㎜程度の炭化物を少し含む。
⑮暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに非常に弱い砂礫層の為、ぼろぼろとしている。10～200㎜程度の小石、礫を非常に多く含む。



【土層注記】SE10（断面o"－o'）
①黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともに弱い。さらさらしている。1㎜以下の黄橙色粒・炭化物を少し含む。



【土層注記】SE10（断面p－p'）
①黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。多少ざらざらしている。2㎜以下の黄橙色粒を少し含む。
②暗褐色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともにやや強い。ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒を非常に多く含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや弱い。多少ざらざらしている。3㎜程度の褐鉄鉱を少し含む。
④黒褐色土（10YR-2/2）しまりはやや弱く、粘性はやや強い。削ると少し毛羽立つ。
⑤黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや弱い。少しざらざらする。
⑥黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。削ると少し毛羽立つ。1㎜程度の黄橙色粒を多く含む。2㎜以下の褐鉄鉱を少し含む。
⑦黒色土（10YR-2/1）しまりはやや弱く、粘性はやや強い。ざらざらしている。1㎜程度の黄橙色粒を少し含む。
⑧黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや弱い。ぼろぼろとしている。2～4㎜程度の黄橙色粒をやや多く含む。
⑨黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。削ると多少毛羽立つ。2～4㎜程度の黄橙色粒・炭化物を多く含む。
⑩黒色土（10YR-2/1）しまりは弱く、粘性はやや弱い。ぼろぼろとしている。1㎜以下の白色粒を少し含む。
⑪黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。多少ざらざらしている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒をやや多く含む。
⑫黒色土（10YR-3/3）しまり、粘性ともに非常に弱い砂礫層の為、ぼろぼろとしている。100～700㎜程度の小石・大礫を非常に多く含む。

第103図　SE10断面実測図⑤（1/40）

2　遺物（第104～107図286～386）

ＳＥ10内からは多数の弥生土器片が出土した。土器の中から101点を掲載した。

甕（286～325）

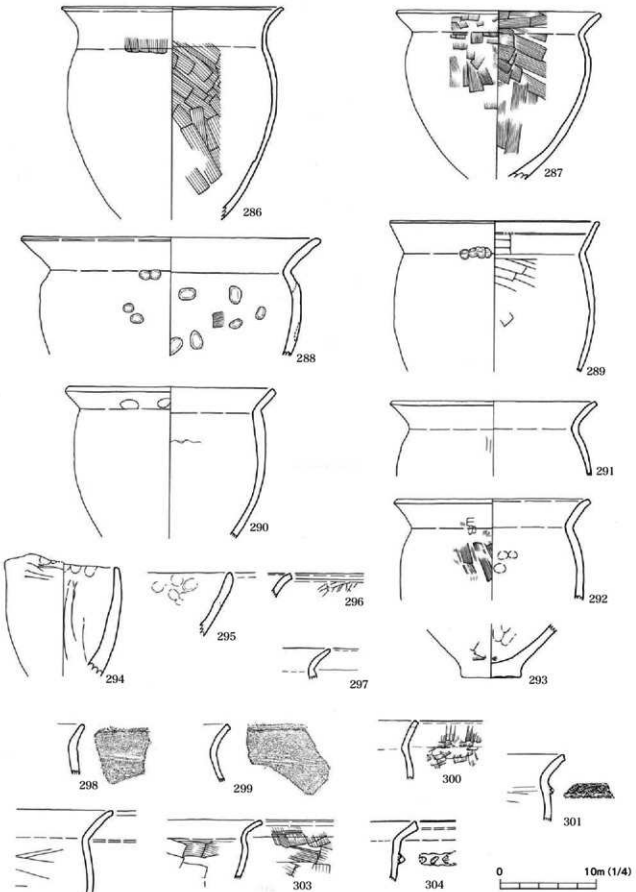
286～314は後期前半～中葉の甕である。286は緩やかにＳ字状に屈曲する口縁部をもち、全体的に風化が著しいが外面にスス、内面に黒斑を認める。287は明瞭に「く」の字に屈曲する頸部をもち、内外面の底部付近に黒斑を残す。288は推定口径30cmを超し、頸部は大きく「く」の字に屈曲する。内面に指頭圧痕を残す。289～292の頸部は緩やかに「く」の字に屈曲する。290は風化と鉄分付着（浅黄橙色を呈す）のため内外面の調整が明確ではない。292と293は同一個体と考えられ、293の内面には黒斑を認める。294の口縁部は不規則に波打ち、胴部からほぼ直立する。295の口縁部も胴部から直立する。風化が著しい。296は外反する口縁部で、口唇部が凹面状に窪む。297は頸部が残る口縁部で、明瞭に「く」の字に屈曲する。298と299は内外面にタタキを施す。300の頸部は緩やかに屈曲し、口唇部は平面状をなす。301～304は口縁部から胴部を残す。302と303の頸部は緩やかに「く」の字を描く。301と304は頸部下に斜位の刻目をもつ貼付突帯を施す。305は胴部で僅かに底部を残す。内外面に明瞭なハケメを認め条線が入る。306は胴部で、上部に縦の刻目を認める。307～311は胴部から底部である。307の底部は平底で端部が僅かに張り出す。308も平底であるが端部は張り出さない。309～311は上げ底で309は端部が僅かに張り出し、310と311は張り出しを認めない。312～314は底部である。上げ底であるが、312と313は端部が僅かに張り出し、314は張り出しがやや大きく脚台状をなす。

315～325は後期後半の甕である。315は口縁部から胴部を残し、頸部が「く」の字に屈曲する。外面にタタキを認める。316～321は口縁部である。316～318の口唇部は明確な平面状をなす。また318の口縁部は外反する。322は口縁部から頸部を残し、口縁部が口唇部に向け外反する。323と324は頸部から胴部である。口縁部は頸部の状態から緩やかに立ち上がると推定される。325は胴部から底部付近を残し、底部に黒斑を認める。

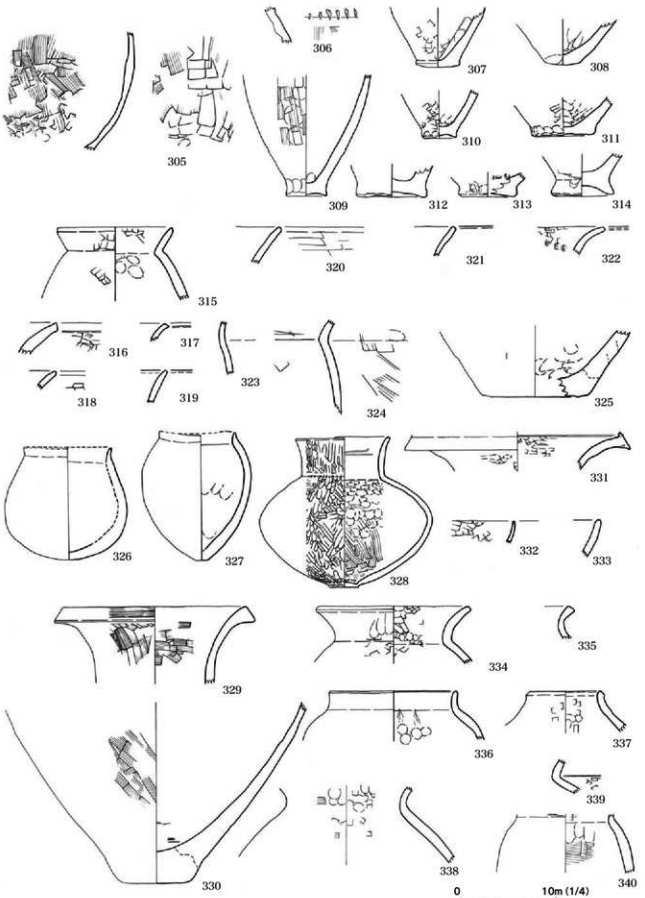
壺（326～366）

326～349は後期前半～中葉の壺である。326～328は口縁部から底部を残すほぼ完形に近い壺である。326は短頸で若干外反する口縁部をもち、胴部最大径が胴部下部に位置する寸胴形をなす。底部は平底であるが底径1.7cmと僅かに接地する。327は短頸で口縁部がほぼ直立し長胴形をなす。底部は平底で底径1.15cmを測り接地面は僅かである。328は寸胴形の偏球胴をもつ直口縁の壺で、口縁上部はやや外反する。底部はやや貼付的な平底である。329と330は同一個体の口縁部から頸部及び胴部から底部であり、大型の壺である。329の口唇部は平面状をなしハケメ調整を施す。頸部の内外面にもハケメ調整を施す。330は平底で胴部外面にハケメ調整を施す。331～333は口縁部である。331は口縁部形態が二重口縁をなす。332と333はやや内湾する口縁部である。334～337は口縁部から胴部上である。334と335の口縁部は緩やかに外反し、336と337は短頸で口縁部が僅かに外反する。338～340は頸部から胴部である。338は頸部は緩やかに屈曲し、339はややはっきり屈曲する。340は僅かに頸部を認める。341と342は貼付突帯をもつ胴部である。343は頸部から底部である。頸部はやや屈曲し底部は平底である。344はやや風化気味ではあるが、内外面とも丁寧な調整である。345～349は胴部下部から底部である。345～347は平底ではあるが、底部外周はやや浮いた状態である。また345と346の胴部下部は緩やかに外反しながら立ち上がる。349は平底で、胴部下部はほぼ直線的に立ち上がる。

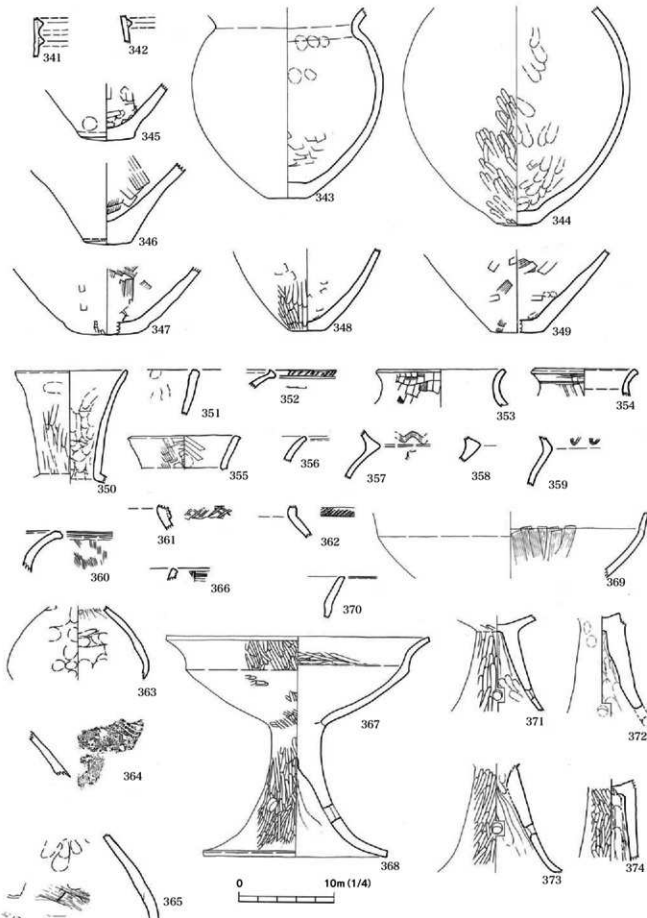
350～363は後期後半の壺である。350は頸部がほぼ直立的に長く伸び、口縁部で若干外反している長頸壺である。口径は11.4cmを測る。351は口縁部であるが風化が激しく調整が不明瞭である。352も口縁部で、二重口縁と推定され斜位の刻目を施す。353～356は口縁部から頸部である。353と354の口縁部は緩やかに外反し、弧を描きながら立ち上がる。



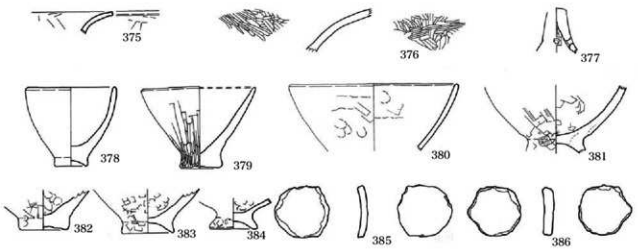
第104図　SE10出土弥生土器実測図①（1/4）



第105図　SE10出土弥生土器実測図②（1/4）



第106図　SE10出土弥生土器実測図③（1/4）



第107図　SE10出土弥生土器実測図④（1/4）

355と356は口縁部が僅かに外反する。357～360は二重口縁部である。357は口縁部に櫛描波状文を施す。358は風化気味で不明瞭であるが薄く櫛描波状文を残す。359も口縁部に櫛描波状文を認める。360は頸部から口縁部に向けて外反し二重口縁をなす。粘土のつなぎ痕を認める。361と362は頸部付近で、361は格子状の刻目文を施す貼付突帯を有し、362は斜位の刻目文を施す貼付突帯を有する。363と364は肩部から胴部で、364の外面には沈線と櫛描文を認める。

365と366は時期不明の壺である。365は胴部、366は口縁部で二重口縁である。366は直線的な深い条痕を縦と横に鋭く残す。

高坏（367～377）

367～374は後期前半～中葉の高坏である。367と368は同一個体である。367の坏部は一度明瞭に屈曲し、口縁部は外反しながら立ち上がる。368の脚部は短くラッパ状に開く。円形三方透かしの高坏である。369と370は坏部で、口縁部が屈曲後緩やかに外反気味に立ち上がる。371～374は脚部である。371～373は円形四方透かしの高坏である。371と372は体部の立ち上がり部分を一部残す。373は裾部を残し、374は脚柱部分を残す。

375～377は後期後半の高坏である。375は坏部で口縁部を残す。口縁部は外反しながら立ち上がる。376は坏部で口縁部は認められない。内外面にヘラミガキを施す。体部が外反してせり上がる。377は小型の高坏脚部で円形四方透かしを認める。

鉢（378～384）

378～383は後期前半から中葉の鉢である。378は風化が著しく調整が不明瞭である。器高８cm強を測る。底面は上げ底で端部の張り出しを若干認める。胴部は内湾しながら立ち上がる。379も器高8cm強を測る。底部は若干の上げ底で端部が張り出す。胴部は僅かに内湾しながら立ち上がる。底部から胴部、口縁部に黒斑を認める。380は口縁部から胴部の一部を残す。内湾気味に立ち上る。381～383は胴部から底部である。いずれの底部も上げ底をなすが、382は端部に広がりを見せず、380と381は脚台状の底部をもつ。

384は後期後半の鉢で、胴部から底部である。底部の端部に明確な張り出しを認め、脚台状を呈す。胴部は、脚部から緩やかに立ち上がると推定される。

土製円盤（385・386）

385と386は土製円盤である。風化が激しく調整は不明瞭であるが、ナデを認める。角が取れ、丸みを帯びる。

No.	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量 口径	法量 底径	法量 器高	焼成	手法・調整・文様他 外面	手法・調整・文様他 内面	色調 外面	色調 内面	胎土の特徴	備考
286	弥生土器	甕 口縁部〜底部付近	B	SE10	(22.8)			良好	風化が著しい 縦方向のハケメの後横ナデ スス付着	横ナデ 斜め方向のハケメ 黒斑	にぶい黄橙色 10YR-7/2	にぶい黄橙色 10YR-7/4	3.5mm以下の褐灰色、灰黄褐色、灰白色粒を多く含む 2.5mm以下の明褐色粒ごく僅かに含む	
287	弥生土器	甕 口縁部〜底部	B	SE10	(21.1)			良好	風化気味 縦方向のハケメ 板状工具による縦方向のナデ	縦・横方向のハケメ	橙色 7.5YR-6/6	橙色 7.5YR-7/6	2mm以下のにぶい赤褐色粒、褐灰色粒を含む	
288	弥生土器	甕 口縁部〜胴部付近	B	SE10	(30.7)			良好	横ナデ ナデ 指頭圧痕 スス付着	工具による横方向のナデ 指頭圧痕 黒斑	明赤褐色 5YR-5/8	明赤褐色 5YR-5/8	2mm以下の灰白色粒、黄灰色粒、2.5mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の透明光沢粒を含む 3mm以下のにぶい黄褐色粒をごく僅かに含む	
289	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10	(21.8)			良好	斜め方向のナデ 横ナデ 指頭圧痕 スス付着	風化気味 板状工具による斜め方向の丁寧なナデ、横方向のナデ	にぶい黄橙 10YR-7/3	淡黄色 2.5Y-8/4	3mm以下の灰褐色、灰白色粒、2.5mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	
290	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10	(21.3)			良好	風化が著しい ハケメ？ 鉄分付着	風化が激しく調整不明瞭 ナデ？	浅橙色 10YR-8/4	浅橙色 10YR-8/4	2.5mm以下の茶色、灰色粒を含む	
291	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10	(21.4)			良好	風化が激しく調整不明瞭 縦方向のハケメ？	風化が激しく調整不明瞭 縦方向のハケメ？	にぶい黄橙色 10YR-7/3	にぶい黄橙色 10YR-6/4	5mm以下のにぶい黄褐色、褐色、褐灰色、灰白色粒を含む 1mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を僅かに含む	
292	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10	(19.9)			良好	斜め方向のハケメ 横ナデ スス付着	工具による横ナデ 指頭圧痕	明褐色 にぶい黄橙色 7.5YR-5/6 10YR-7/4	橙色 7.5YR-6/6	1mm以下の透明光沢粒、灰褐色粒を含む	
293	弥生土器	甕 胴部〜底部	B	SE10		(5.4)		良好	ハケメ 工具による縦方向のナデ	丁寧なナデ 黒斑	橙色 5YR-6/6	黒褐色 2.5YR-3/1	5mm以下の乳白色粒、4mm以下の褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	
294	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10	(11.0)			良好	ヘラ状工具による縦・斜め方向のナデ	ナデ 指頭圧痕後ナデ 黒変	橙色 褐灰色 5YR-6/6 5YR-4/1	明褐色 褐灰色 5YR-5/6 7.5YR-5/1	3mm以下の灰色、茶色、褐色粒、黒色光沢微細粒、ガラス質微細粒を含む	
295	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10				良好	風化が著しい 横ナデ	風化が著しい 横ナデ 指頭圧痕	にぶい橙色 7.5YR-7/4	浅黄橙色 7.5YR-8/6	5mm以下の白色粒、4mm以下の透明光沢粒、3mm以下の明赤褐色粒、灰白色粒を含む	
296	弥生土器	甕 口縁部	B	SE10				良好	ヘラミガキ 黒斑	風化気味 ナデ 黒斑	にぶい黄橙色 黒褐色 10YR-6/4 10YR-3/2	にぶい黄橙色 黄灰色 10YR-6/4 2.5Y-4/1	微細〜1mm以下の灰白色粒を含む 微細〜1.5mm以下の浅黄橙色粒を含む	
297	弥生土器	甕 口縁部〜頸部	B	SE10				良好	風化している ナデ	風化している 横ナデ	にぶい黄橙 10YR-7/4	橙色 7.5YR-7/4	2mm以下の灰褐色、灰白色粒を含む 2mm以下の白色粒を僅かに含む	
298	弥生土器	甕 口縁部〜頸部	B	SE10				良好	風化が著しい ミガキ	風化が著しい ミガキ	明褐色 橙色 10YR-5/4 7.5YR-6/6	にぶい黄褐色 10YR-5/4	4mm以下のにぶい黄褐色、明褐色、灰白灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を含む	
299	弥生土器	甕 口縁部〜頸部	B	SE10				良好	風化が著しい ミガキ スス付着	風化が著しい ミガキ	にぶい橙色 7.5YR-7/4 10YR-4/6	にぶい黄褐色 10YR-5/3	1mm以下の褐灰色、明褐灰色粒、1.5mm以下の透明光沢粒を含む	
300	弥生土器	甕 口縁部〜頸部	B	SE10				良好	縦方向のハケメ	丁寧なナデ	橙色 7.5YR-7/4	にぶい黄橙色 10YR-7/4	1mm以下の透明光沢粒、1.5mm以下の砂粒を多く含む	
301	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10				良好	刻目貼付突帯 ナデ	ナデ ハケメ 黒変部有り	浅黄橙色 7.5YR-8/4	浅黄橙色 褐灰色 10YR-8/4 10YR-5/1	3mm以下の赤褐、灰褐色粒を多く含む 微細な透明光沢粒を少し含む	
302	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10				良好	風化が激しく調整不明瞭 ナデ	工具によるナデ、横ナデ	にぶい橙色 7.5YR-7/4	浅黄橙色 7.5YR-8/4	5mm以下の灰色、茶色、褐色岩片と同色粒を含む	
303	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10				良好	ハケメ後横ナデ、ナデ	ハケメ 風化気味	橙色 5YR-8/6	にぶい橙色 7.5YR-7/4	4mm以下の白灰色、灰色岩片、1mm以下の濃灰色、茶色粒を含む	
304	弥生土器	甕 口縁部〜胴部	B	SE10		4.1		良好	刻目貼付突帯横ナデ	風化著しく調整不明	にぶい橙 7.5YR-7/4	にぶい黄橙 10YR-6/4	2.5mm以下の灰色光沢粒、2mm以下の黒色、透明光沢粒を含む 2mm以下のにぶい褐色、灰白色粒を多く含む	
305	弥生土器	甕 胴部〜底部付近	B	SE10				良好	斜め方向のハケメ 指頭圧痕 黒斑	縦・横・斜め方向のハケメ 指頭圧痕 黒斑	にぶい褐色 7.5YR-5/4	にぶい褐色 7.5YR-5/4	微細〜2mm以下の褐灰白色粒、微細〜3mm以下の灰白色を含む 4mm以下の浅黄橙色粒を一部に認める	
306	弥生土器	甕 胴部	B	SE10				良好	縦方向のハケメ ナデ 刻目	風化激しく調整不明	橙色 浅黄橙色 5YR-7/6 7.5YR-8/4	浅黄橙色 10YR-8/3	4mm以下の灰、灰白、茶色の岩片と同色粒を多く含む	
307	弥生土器	甕 頸部〜底部	B	SE10		(4.5)		良好	縦・横・斜め方向にハケメ 縦方向にナデ 黒斑	斜め方向にハケメ 縦方向にナデ 指頭圧痕	にぶい黄橙色 10YR-6/4	にぶい黄橙色 明褐色 7.5YR-5/6	2.5mm以下の暗褐色、にぶい黄褐色粒、1.5mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒褐色粒を含む	
308	弥生土器	甕 頸部〜底部	B	SE10		3.45		良好	ナデ 指頭圧痕後ナデ	上方向の指頭圧痕後ナデ	にぶい黄橙色 10YR-6/4	橙色 5YR-6/6	1.5mm以下の褐色、灰白、黒色粒、ガラス質の微細粒を含む	

第29表　SE10出土弥生土器観察表①

No.	種別	器種部位	図上区	出土地点	法量 口径	底径	器高	成	手法・調整・文様色 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
309	弥生土器	壺 頸部～底部	B	SE8・SE10		(4.0)		良好	縦方向にハケメ、ナデ 黒斑 指頭圧痕	丁寧なナデ 黒斑 指頭圧痕	赤褐色 にぶい褐色 5YR4/6 7.5YR5/4	にぶい褐色 にぶい褐色 10YR5/4 10YR6/3	6mm以下の炭黄色粒、4mm以下のにぶい黄橙色粒を含む 2mm以下の炭灰色粒、6mm以下の灰黄色粒を多く含む	
310	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		3.7		良好	縦・横・斜め方向のナデ 指頭圧痕 黒斑	横・斜め方向の丁寧なナデ 指頭圧痕	にぶい橙色 明赤褐色 2.5YR6/4 5YR5/8	オリーブ黒色 黒褐色 5Y3/1 5YR5/8	微細～1mm以下の炭白色粒、微細な光沢粒を含む 1～3mm以下の明赤褐色粒を少し含む	
311	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		6.7		良好	風化が著しい 指頭圧痕 黒斑	縦・横・斜め方向の丁寧なナデ 黒斑	浅黄色 2.5YR7/3	オリーブ黒色 褐色 5Y3/1 7.5YR4/3	2mm以下の灰白色粒を含む 3mm以下の浅黄色粒、4mm以下の黄色粒を多く含む	
312	弥生土器	壺 底部	B	SE10		7.42		良好	ナデ	ナデ 指頭圧痕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	6mm以下の褐色、灰色、白色、光沢粒を含む 1.5mm以下の光沢粒を少し含む	
313	弥生土器	壺 底部	B	SE10		(2.6)		良好	指頭圧痕 黒斑	縦・横・斜め方向にハケメ 黒斑	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐色 2.5Y-3/1	3mm以下のにぶい黄褐色粒を含む	
314	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		6.05		良好	ナデ 指頭圧痕	ナデ 指頭圧痕	にぶい褐色 7.5YR-6/3	黒褐色 明褐色 7.5YR3/1 7.5YR5/6	5mm以下の褐色、灰色、黒色、白色粒を含む 1.5mm以下の透明光沢粒を少し含む	
315	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10	(11.9)			良好	縦・横・斜め方向のナデ ナデキの後工具による多方向のナデラ	工具による丁寧なナデ? 指頭圧痕	浅黄橙色 褐色 10YR8/4 10YR4/6	明黄褐色 10YR-7/6	微細～2.5mm以下の黒色光沢粒、2.5mm以下の灰白色粒を含む 微細～1mm以下の透明光沢粒、2mm以下の白色粒を少し含む	
316	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10				良好	風化が激しく調整不明瞭 縦・斜め方向のハケメ後、ナデ?	風化が激しく調整不明瞭 ハケメ後、ナデ?	浅黄橙色 7.5YR-8/4	にぶい黄橙色 10YR-7/3	2mm以下の灰白色、黒色、褐灰色、褐色、白色粒を含む	
317	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	横ナデ	横ナデ	にぶい赤褐色 5YR-5/4	浅黄橙色 7.5YR-8/6	3mm以下の灰白色、灰色、茶色、褐色、ガラス質粒を多く含む、光沢のある微細粒を僅かに含む	
318	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	縦方向の工具による調整後、ナデ	横ナデ	灰白色 2.5Y-8/2	にぶい黄橙色 10YR-7/2	2mm以下のガラス質粒、褐色粒、光沢のある微細粒を含む	
319	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	縦・横方向のナデ	丁寧なナデ	にぶい橙色 7.5YR-7/4	にぶい橙色 10YR-7/4	1mm以下の黄土色、灰色、白色粒、ガラス質粒、枝状黒色光沢粒を含む	
320	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	工具によるナデ ススス付着	風化が激しく調整不明瞭 強いナデ 黒斑	橙色 7.5YR-6/8	橙色 7.5YR-6/6	5mm以下の灰白色粒、2mm以下の灰褐色粒、透明ガラス質のキラキラ光る微細粒を含む	
321	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	風化気味 丁寧なナデ 強い工具痕	風化気味 丁寧なナデ	橙色 5YR-7/6	橙色 7.5YR-7/6	微細～1mm以下の白色粒を少し含む 1mm以下の灰色粒を僅かに含む	
322	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10				良好	ハケメの後にヨコナデ	横方向のハケメ ナデ 黒斑色	にぶい黄橙色 10YR-7/4	にぶい黄橙色 10YR-6/4	3mm以下の橙色粒を おおく含む・1mm以下の黒白色粒を少し含む。	
323	弥生土器	壺 胴部～胴部	B	SE10				良好	ナデ	ナデ	浅黄橙色 7.5YR-8/4	浅黄橙色 10YR-8/4	41mm以下の黒色粒と灰・褐色・ガラス質の微細粒を含む	
324	弥生土器	壺 胴部～胴部	B	SE10		2.1		良好	縦・斜め方向のハケメ ナデ	工具による横・斜め方向のナデ	にぶい黄橙色 10YR-7/4	明褐色 7.5YR-5/6	1.5mm以下の白色粒、褐色粒を多く含む	内・外面に鉄分付着
325	弥生土器	壺 胴部～底部付近	B	SE10		(11.0)		良好	摩耗が著しい ナデ 黒斑	ナデ 指頭圧痕	橙色 2.5YR-7/8	浅黄橙色 10YR-8/4	4mm以下の黒、灰、茶、褐色の岩片と同色粒を多く含む	
326	弥生土器	壺 口縁部～底部	B	SE10	9.05	1.7	11.8	良好	ナデ 黒斑	ナデ	にぶい黄橙色 10YR-5/4	橙色 7.5YR-6/6	微細～1mm以下の透明粒、～1.5mm以下の黒色光沢粒、～2mm以下の乳白色粒を含む	
327	弥生土器	壺 口縁部～底部	B	SE10	7.8	1.15	13.2	良好	ナデ 黒斑	ナデ 指頭圧痕	浅黄橙色 黒色 7.5YR-8/4 7.5YR-2/1	褐色 7.5YR-4/4	4mm以下の乳白色、褐色粒、3mm以下の灰色粒、透明粒、光沢粒を少し含む 8mm大の灰色粒を1箇所混める	内・外面に鉄分付着
328	弥生土器	壺 口縁部～底部	B	SE10	(9.5)	3.1	15.7	良好	ハケメの後ミガキ 指頭圧痕 黒斑	丁寧なナデ ハケメ後ミガキ 指頭圧痕	にぶい黄橙色 褐色 10YR-7/4 7.5YR-4/6	明黄褐色 褐色 10YR-7/6 7.5YR-4/4	4mm以下の灰白色粒を多く含む 4mm以下の明赤褐色粒を少し含む	
329	弥生土器	壺 口縁部～頸部	B	SE10	(18.0)			良好	斜め方向にハケメ後横方向にナデ 縦方向にハケメ	横・斜め方向にハケメ	橙色 7.5YR-7/6	橙色 7.5YR-7/6 6/6	4mm以下の乳白色粒、3mm以下の灰色粒を多く含む 0.5mm以下の黒色光沢粒を多く含む	
330	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		5.2		良好	斜め方向にハケメ ナデ	ナデ 工具痕有り	にぶい黄橙色 10YR-7/4	浅黄橙色 10YR-8/4	6mm以下の灰色粒、3mm以下の赤褐色粒を多く含む 3mm以下の黒色粒を多く含む	粘土接合痕による欠損
331	弥生土器	壺 口縁部(二重口縁)	B	SE10	(24.6)			良好	工具調整後粗い指ナデ 指頭圧痕 粘土紐の接合痕	風化気味 横方向の指ナデ 工具による横・斜めの方向のナデ	橙色 7.5YR-7/6	灰色 5Y-4/1	4mm以下の白色粒、3mm以下の明赤灰色粒、2.5mm以下の灰白色粒を含む 3.5mm以下の暗灰色粒を少し含む	二重口縁
332	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	風化激しく調整不明瞭 工具によるナデ?	工具による横・斜め方向の丁寧なナデ	灰黄色 2.5YR-7/2	にぶい黄橙色 褐色 10YR-7/3 7.5YR-4/6	1mm以下の白色粒、透明光沢粒を含む	
333	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	横方向に工具による丁寧なナデ	横方向に工具による丁寧なナデ	にぶい黄橙色 10YR-6/4	にぶい黄橙色 10YR-6/4	1.5mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の無色透明光沢粒、3mm以下の黒褐色粒を含む	
334	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10	(15.7)			良好	縦・斜め方向の丁寧な指ナデ 痕跡工具による縦方向、多方向のナデ	丁寧なナデ 指頭圧痕	にぶい橙色 7.5YR-7/4	にぶい黄橙色 10YR-7/4	微細～1mm以下の無色透明粒、微細～1.5mm以下灰白粒、微細～2.5mm以下の褐灰色粒を含む	

第30表　SE10出土弥生土器観察表②

No.	種別	器種部位	出土区	出土遺存	法量 口径	法量 底径	法量 器高	焼成	手法・調整・文様他 外面	手法・調整・文様他 内面	色調 外面	色調 内面	胎土の特徴	備考
335	弥生土器	壺 口縁部～頸部	B	SE10				良好	縦方向のハケメ	縦・横・斜め方向のハケメ	橙色 5YR-6/6	にぶい黄橙色 10YR-7/3	5mm以下の灰黄褐色粒を多く含む	
336	弥生土器	壺 口縁部～頸部	B	SE10	(13.3)			良好	風化が激しく調整不明 指頭圧痕 粘り痕	風化が激しく調整不明	浅黄色 2.5Y-7/3	にぶい黄橙色 褐色 10YR-7/4 5YR-7/6	5mm以下の黒褐色粒を多く含む 3mm以下の赤褐色粒を少し含む	
337	弥生土器	壺 口縁～頸部	B	SE10	(7.4)			良好	縦・横・斜め方向にハケメ	縦・横・斜め方向にハケメ 指頭圧痕	にぶい褐色 7.5YR-5/4	にぶい赤褐色 5YR-5/4	4mm以下の浅黄色、3mm以下のにぶい赤褐色、赤褐色、2mm以下の無色透明光沢粒、2mm以下の褐灰色粒を含む	
338	弥生土器	壺 頸部～胴部	B	SE10				良好	縦・横・斜め方向のハケメ 指頭圧痕	ナデ 横ナデ 縦・横・斜め方向のハケメ	にぶい黄橙色 10YR-7/3	暗灰黄色 2.5Y-5/2	4mm以下の暗褐色粒、2mm以下の黒色粒を含む 2mm以下の灰白色粒、2.5mm以下の褐色粒を多く含む	
339	弥生土器	壺 頸部～胴部	B	SE10				良好	ナデ 縦・横・斜め方向にハケメ	縦・横・斜め方向にハケメ 指頭圧痕	にぶい褐色 褐灰色 10YR-6/4 5YR-5/6	にぶい褐色 にぶい褐色 10YR-6/4 10YR-5/4	3mm以下の灰白色粒を多く含む	
340	弥生土器	壺 胴部	B	SE10				良好	ナデ?	ハケメ 指頭圧痕	灰白色 2.5Y-8/2	灰黄色 2.5Y-7/2	3.5mm以下の灰白色粒、3mm以下の褐灰色粒、3.5mm以下のにぶい褐色粒を含む	
341	弥生土器	壺 胴部	B	SE10				良好	粘土突帯	風化著しく調整不明	明褐色 7.5YR-5/6	にぶい黄褐色 10YR-5/4	2mm以下の灰黄色、灰色粒、2.5mm以下の黄灰色、灰白色粒を含む	
342	弥生土器	壺 胴部	B	SE10				良好	粘土突帯	風化著しく調整不明 スス付着	明褐色 7.5YR-5/6	暗褐色 黒褐色 10YR-3/4 2.5YR-3/2	1mm以下の黒色粒を含む 5mm以下の灰白色粒を多く含む	
343	弥生土器	壺 頸部～底部	B	SE10		4.4		良好	ナデ	ナデ 指頭圧痕	にぶい褐色 褐色 7.5YR-6/3 7.5YR-4/6	黒褐色 にぶい褐色 5YR-5/6 5YR-4/4	5mm以下の灰白色、3mm以下の赤茶、黒、白色粒を含む	
344	弥生土器	壺 頸部～底部	B	SE10	頸最径9 (23.6)	(4.4)		良好	ナデ 黒斑	ナデ 指頭圧痕	浅黄色 2.5Y-7/3	にぶい黄橙 10YR-7/4	3mm以下の灰白色粒、1.5mm以下の黒色光沢粒を含む 2mm以下の明赤褐色粒を少し含む	
345	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		5.7		良好	風化が著しい 指頭圧痕 黒斑	縦・横・斜め方向のハケメ 指頭圧痕	灰黄色 2.5Y-7/2	橙色 5YR-6/6	3mm以下の灰白色、2mm以下の透明光沢粒、暗灰黄色粒を含む 3mm以下の灰色粒を多く含む	
346	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		5.0		良好	風化が著しい ナデ?	丁寧なナデ	暗灰黄色 暗黄褐色 2.5Y-5/2 10YR-6/6	明褐色 灰黄色 7.5YR-5/6 10YR-4/2	2.5mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の透明光沢粒、2mm以下の黒色光沢粒、3mm以下のにぶい黄色粒を多く含む	
347	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		(6.7)		良好	縦方向のハケメ後ミガキ、ナデ	日の粗い工具による縦、斜め方向のハケメ 黒斑	黒褐色 暗褐色 10YR-3/1 10YR-3/3	黄灰色 2.5YR-4/1	1.5mm以下の褐色粒を含む	外面は鉄分付着 黒斑のところどころに部分付着
348	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE6+SE10		3.7		良好	縦・横方向にハケメ 縦方向にミガキ 黒斑	縦・横・斜め方向にハケメ 風化が著しい 黒斑	にぶい橙色 10YR-7/4	にぶい橙色 にぶい赤色 2.5YR-6/3 10YR-7/4	3mm以下のにぶい黄褐色、2.5mm以下の灰白粒を含む 2mm以下の透明光沢粒、3mm以下の灰色粒を多く含む	
349	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		(5.5)		良好	ナデ ハケ目 黒斑	縦・横・斜め方向のハケメ 指頭圧痕	にぶい黄橙色 灰黄色 10YR-7/3 2.5YR-7/2	灰色 にぶい赤褐色 5YR-5/1 5YR-4/4	2.5mm以下の灰白色、灰黄褐色粒、2mm以下の明黄褐色粒を含む	
350	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10	6.4			良好	ナデ後縦方向のヘラミガキ	粒り痕 指頭圧痕	浅黄橙色 10YR-8/4	にぶい橙色 5YR-7/4	微細～4mm以下の灰白色粒、微細～2mm以下の暗灰色光沢粒を含む	
351	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	風化が激しく調整不明瞭 ナデ?	風化が激しく調整不明瞭 指頭圧痕	橙色 7.5YR-7/6	浅黄橙色 10YR-8/4	4mm以下の褐色、灰色、白色粒を多く含む	
352	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	工具による調整痕、ナデ	横ナデ、黒斑	浅黄橙色 10YR-8/4	灰色 5Y-4/1-5/1	3mm以下の灰色、浅灰色、褐色粒、柱状の弧雲色光沢粒、ガラス質の微細粒を含む	
353	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10	(13.1)			良好	縦方向のハケメ後ナデ	ナデ	にぶい橙色 7.5YR-7/4	にぶい黄橙色 10YR-7/4	4mm以下の灰色、茶色、褐色、白色粒、ガラス質の光沢粒を含む	
354	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10	(10.5)			良好	縦・斜め方向のハケメ後、横ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色 7.5YR-6/3 10YR-7/4	にぶい黄橙色 10YR-7/4	3mm以下の灰色、茶色、赤褐色岩片と同色粒を含む	
355	弥生土器	壺 底部	B	SE10				良好	斜め方向にハケメ	板状工具によるナデ にぶい黄褐色	にぶい黄橙色 10YR-5/3	にぶい褐色 にぶい褐色 7.5YR-5/3 5YR-4/4	1.5mm以下の灰色粒、3mm以下の灰黄色粒を多く含む	
356	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10				良好	横方向の丁寧なナデ	ナデ	にぶい橙色 7.5YR-6/4	にぶい黄橙色 10YR-6/4	3mm以下の褐色粒、2mm以下のにぶい橙色、灰色粒を含む	
357	弥生土器	壺 口縁付近(二重口縁)	B	SE10				良好	横・斜め方向のハケメ	風化気味	にぶい褐色 にぶい褐色 10YR-7/4 7.5YR-6/6	にぶい褐色 にぶい褐色 10YR-6/4 7.5YR-4/3	4mm以下の灰黄褐色粒、2mm以下の灰白色粒を含む	
358	弥生土器	壺 口縁付近(二重口縁)	B	SE10				良好	横方向のハケメ	全体的に風化気味	にぶい黄橙色 10YR-7/3	にぶい黄橙色 10YR-7/4	2mm以下の黒色光沢粒、3mm以下の灰白色粒、3mm以下の灰色粒を含む	
359	弥生土器	壺 口縁付近(二重口縁)	B	SE10				良好	縦・横・斜め方向のハケメ	風化が著しい 縦・横・斜め方向にハケメ	にぶい黄橙色 黄褐色 10YR-7/4 2.5YR-5/4	にぶい黄橙色 明褐色 10YR-6/4 7.5YR-5/6	2mm以下の灰白色粒、無色透明光沢粒を多く含む	
360	弥生土器	壺 口縁部(二重口縁)～頸部	B	SE10				良好	縦・斜め方向のハケメ	風化が激しく調整不明	橙色 7.5YR-6/6	橙色 7.5YR-7/6	1mm以下の白色、灰灰色粒を僅かに含む	
361	弥生土器	壺 頸部	–	表土一括				良好	頸目粘付突帯	ナデ	橙色 5YR-7/6	浅黄橙色 10YR-8/4	1.5mm以下の白・褐色粒、灰色光沢粒、透明ガラス質微細粒を含む 乳白色粒を多く含む	

第31表　SE10出土弥生土器観察表③

No.	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量 口径	法量 底径	法量 器高	焼成	手法・調整・文様他 外面	手法・調整・文様他 内面	色調 外面	色調 内面	胎土の特徴	備考
362	弥生土器	壺 頸部～胴部	B	SE10				良好	刻目貼付突帯 ナデ	ナデ	灰白色 10YR-8/2	浅黄橙色 10YR-8/3	1.5㎜以下の灰白、灰褐色粒を含む	
363	弥生土器	壺 頸部～胴部	B	SE10				良好	ナデ　指頭圧痕	ナデ　指頭圧痕 黒斑　粘土の絞り痕	浅黄橙色 7.5YR-8/4-8/6	浅黄橙色　灰色 7.5YR-8/4　5Y-5/1	12㎜以下の灰、灰白、褐色の岩片と同色粒を多く含む	
364	弥生土器	壺 胴部	B	SE10				良好	ナデ　櫛描文	ナデ	にぶい橙色 5YR-7/4	浅黄橙色 10YR-8/4	4㎜以下の灰・茶・褐・白色粒を多く含む	
365	弥生土器	壺 胴部	B	SE10				良好	ナデ　摩耗気味	斜め方向のハケメ	にぶい黄橙色 10YR-7/2-7/3	灰色 5Y-5/1-4/1	4㎜以下の黒、茶、褐色の岩片と同色粒を含む	時期不明
366	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10				良好	鋸歯状文　横ナデ	横ナデ	浅黄橙色 7.5YR-8/4　10YR-8/4	浅黄橙色 10YR-8/4	3㎜以下の灰色、褐色粒を僅かに含む	時期不明
367	弥生土器	高坏 口縁～坏部	B	SE10	(27.5)			良好	ハケメ後ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色 10YR-4/3	にぶい橙色 7.5YR-7/4	2㎜以下の茶、灰、褐色粒、透明なガラス質粒を含む	
368	弥生土器	高坏 脚部	B	SE10		19.05		良好	ハケメ後ミガキ	ナデ　黒斑　絞り痕	にぶい黄橙色 10YR-7/4	にぶい黄橙色 10YR-7/4	1㎜以下の褐色粒、灰・白岩片、ガラス質微細粒を含む	三方透かし
369	弥生土器	高坏 坏部	B	SE10				良好	ハケメ	ハケメ	にぶい黄橙色 10YR-7/4	にぶい褐色 7.5YR-6/4	2㎜以下の灰灰色粒、3㎜以下の灰白色粒を含む	
370	弥生土器	高坏 坏部	B	SE10				良好	丁寧なナデ　黒斑	風化激しく調整不明瞭　丁寧なナデ?	オリーブ黒色 10Y-3/1	橙色 7.5YR-7/6	微細～2㎜以下の灰白色粒、キラキラ光る微細粒を含む	
371	弥生土器	高坏 坏部～脚部	B	SE10				良好	縦方向のヘラミガキ	下・斜め方向の指ナデ（指頭圧痕） 丁寧なナデ	にぶい橙色 5YR-7/4　7.5YR-7/4	にぶい黄橙　褐色 10YR-7/4　7.5YR-4/6	6㎜以下の暗赤褐色粒、3㎜以下の褐灰色粒、2㎜以下の透明ガラス質粒を少し含む　3㎜以下の灰白色粒を含む	四方透かし
372	弥生土器	高坏 坏部～脚部	B	SE10	基部径 4.7			良好	風化著しく調整不明　指頭圧痕	下・斜め方向の指ナデ（指頭圧痕） 絞り痕	浅黄橙色 10YR-8/3	黒褐色　灰白色　黄灰色 2.5Y-3/1　2.5Y-8/2　2.5Y-4/1	2㎜以下の赤褐色粒、黒色粒を少し含む　4㎜以下の灰白色粒を含む	四方透かし
373	弥生土器	高坏 脚部	B	SE10				良好	ミガキ　黒斑	ナデ	橙色 5YR-6/6	橙色 2.5YR-6/6	3㎜以下の黒、灰、白、透明、赤色粒を含む	四方透かし
374	弥生土器	高坏 脚部	B	SE10	基部径 5.5			良好	縦・斜め方向のヘラミガキ	縦方向の指ナデ 絞り痕	にぶい赤褐色　橙色 5YR-4/4　7.5YR-7/4	にぶい赤褐色　橙色 5YR-4/4　5YR-6/6	微細～3㎜以下の灰白色粒を含む　暗灰色粒を僅かに含む	内面に串先端部で刺した様な痕跡を認める
375	弥生土器	高坏 坏部	B	SE10				良好	風化により調整不明瞭工具によるナデ?	風化気味　ナデ 黒斑	にぶい橙色　褐色 7.5YR-7/4　7.5YR-4/6	橙色 7.5YR-7/6	3㎜以下で乳白色、2?以下で黒褐色粒を含む	
376	弥生土器	高坏 坏部	B	SE10				良好	縦・横・斜め方向のヘラミガキ	斜め方向のヘラミガキ	にぶい黄橙色 10YR-7/4	にぶい黄橙色　にぶい橙色 10YR-7/4　7.5YR-6/4	灰白色、キラキラ黒色微細粒を含む　2㎜以下の赤褐色、2㎜以下の黒褐色粒を少し含む	
377	弥生土器	高坏 脚部	B	SE10				良好	風化激しく調整不明	絞り痕　指ナデ?	浅黄橙色 10YR-8/4　7.5YR-8/4	浅黄橙色 7.5YR-8/4	浅黄橙色　微細～2㎜以下の灰白色粒、1㎜以下の黒褐色粒を含む　1㎜以下の赤褐色粒を僅かに含む	小形の高坏 四方透かし
378	弥生土器	鉢 口縁部～底部	B	SE10	(8.9)	(3.3)		良好	風化が激しく調整不明瞭　ナデか?	風化が激しく調整不明瞭　ナデか?	橙色 5YR-7/6　2.5YR-6/6	橙色 7.5YR-7/6	4㎜以下の白色、白灰色、灰色、茶褐色、黒色岩片とガラス質の微細粒を含む	
379	弥生土器	鉢 口縁部～底部	B	SE10	11.75	4.0		良好	横ナデ　ナデ 板ナデ　黒斑	横ナデ	にぶい橙色 7.5YR-7/3	にぶい橙色 7.5YR-7/4	4㎜以下の灰色、茶褐色、白色岩片を含む	
380	弥生土器	鉢 口縁部～底部	B	SE10	(17.3)			良好	ナデ　指頭圧痕	斜め方向の丁寧なナデ	橙色 7.5YR-6/6	橙色 5YR-6/6	1㎜以下の灰白色、透明光沢粒を含む　キラキラ光る微細粒を多く含む	
381	弥生土器	鉢 胴部～底部	B	SE10				良好	ハケメの後ナデ 黒斑	ハケメの後ナデ 黒斑	浅黄橙色　橙色　黒色 10YR-8/3　7.5YR-6/6　7.5YR-2/1	にぶい黄橙色　オリーブ黒 10YR-6/4　5Y-3/1	6㎜以下の茶、褐色、灰色の岩片と同色粒、ガラス質粒、微細光沢粒を含む	
382	弥生土器	鉢 胴部～底部	B	SE10				良好	ハケメの後ナデ つまみ調整	ハケメの後ナデ 指頭圧痕	浅黄橙色　橙色 7.5YR-8/6　2.5YR-7/6-7/8	浅黄橙色 10YR-8/4	3㎜以下の茶、褐色、灰白色の岩片と同色粒、ガラス質の微細粒を含む	
383	弥生土器	甕 胴部～底部	B	SE10		5.4		良好	縦・横・斜め方向にハケメ　ナデ	風化が著しい　縦・横・斜め方向にハケメ	にぶい褐色　褐色 7.5YR-5/3　7.5YR-4/6	にぶい黄橙色　橙色　橙色 10YR-7/4　5YR-6/6　7.5YR-6/6	4㎜以下の灰色粒、2㎜以下の灰白色粒、2㎜以下の透明光沢粒を含む	
384	弥生土器	甕 底部	B	SE10		(4.8)		良好	ナデ　斜め方向のハケメ　指頭圧痕	縦・斜め方向のハケメ　粘土接合痕	にぶい黄橙色 10YR-6/4	浅黄色 2.5Y-7/4	2㎜以下の灰白色粒を含む	
385	弥生土器	土製円盤 ―	B	SE10				良好	風化著しく調整不明	ナデ　黒斑	浅黄橙色 7.5YR-8/4	灰色　明褐色 5Y-4/1　7.5YR-5/6	3㎜以下の灰白色、4?以下の灰色粒、5㎜以下の褐灰色粒を含む　1㎜以下の褐色粒を少し含む	
386	弥生土器	土製円盤 ―	B	SE10				良好	風化著しく調整不明	風化著しく調整不明瞭（刷毛）調整か?	にぶい黄橙色 10YR-7/4	にぶい橙色 7.5YR-6/4	2㎜以下で灰白色粒を多く含む　1㎜以下の赤褐色粒を僅かに含む	

第31表　SE10出土弥生土器観察表④

第５節　中世以降の遺構と遺物

１　遺構（溝状遺構）と遺物

表土除去後、K-Ah面で揃えて精査した結果検出された溝状遺構のうち、中世以降の溝８条について報告する。

ＳＥ１・ＳＥ６（第108図）

ＳＥ１とＳＥ６はＢ２区の中央部付近で検出された。ＳＥ１はＳＥ10（弥生時代の溝状遺構）を切り、ＳＥ６に切られている。

ＳＥ１はＢ２区の北側中央から南南西に向けてほぼ直線的に延び調査区外へと続く遺構である。検出面において長さ約35m、最大幅約2.50m、最深部約0.30mを測る。断面形は弓形を呈する。

ＳＥ６はD-20～D-21グリッドにかけてＳＥ１を切り、沿う形で検出された。長さ約8.0m、最大幅約0.8m、最深部約0.20mを測る。部分的な検出のため、断面形は不明である。埋土から遺物は検出されず、明確な時期は不明である。

ＳＥ１の埋土から遺物が22点出土した。石器２点、弥生土器片１点、土師器片７点、陶磁器片12点である。石器は中世の火打石？と石英の砕片が出土した。陶磁器片には中国龍泉窯系青磁碗片２点、京焼風陶器片１点、備前焼陶器片１点が含まれる。387は、底面直上から出土した16世紀頃の中国産の青花碗口縁部である。

ＳＥ２・ＳＥ３・ＳＥ５（第110図）

ＳＥ２・ＳＥ３・ＳＥ５はＢ２区、ＳＥ１の東側に並行して検出された。ＳＥ２はＳＥ10を切り、ＳＥ３とＳＥ５、ＳＥ８に切られる。ＳＥ３はＳＥ８に切られる。

ＳＥ２は農道南縁から南南東方向に延び、長さ約37.5m、最大幅約1.75m、最深部約0.35mを測る。断面形は弓形を呈する。検出面南端部E-20グリッド付近で東北東方向に屈曲し、約3.5m程延び、それ以降は残存しない。区画溝の可能性を残す。

ＳＥ２の埋土から遺物は21点出土した。内訳は石器５点、土師器片５点、陶磁器片11点である。

石器はチャート製の剥片、砕片である。そのうち１点は中世の火打石、２点は火打石使用時に割れた砕片の可能性がある。陶磁器片のうち２点を掲載した。388は陶器で糸切り底の皿底部である。胎土目積み技法をもつ。時期、産地は不明である。389は17世紀中頃の磁器碗の高台部である。内面見込みに蛇の目釉剥ぎを施す。

ＳＥ３もＳＥ２同様、農道南縁から南南東方向に延びＳＥ２を切る。長さ約22.5m、最大幅約1.25m、最深部約0.24mを測る。断面形は弓形である。ＳＥ８に切られる南側約2.5m程は削平部分も重なり検出されない部分がある。

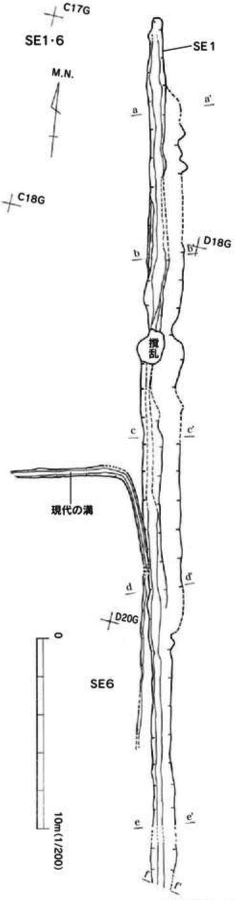
ＳＥ３の埋土から遺物は34点出土した。石器８点、弥生土器片４点、土師器片８点、須恵器１点、陶磁器片13点である。

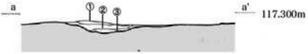
石器は、船野型細石刃核（第６節：第118図405）、チャート製、石英製、姫島産黒曜石製の剥片、砕片等が出土した。

砕片は火打石使用時に割れた砕片と思われる。第111図390は中世に使用されたと思われるチャート製火打石である。亜円礫を素材とする。火打石は鉄（火打金）と打ち合わせて火花が出る硬い石を指す。火打石を見分ける観点は、特徴的な稜線の摩耗・石器刃部相当部分以外に残された微細剥離にある。陶磁器には、外面に銅緑釉をかけた土瓶片１点、擂鉢片１点が含まれる。391は須恵器で、東播系中世須恵器鉢である。体部～底部を残す。

ＳＥ５はD-18～D-19グリッドにかけてＳＥ３を切る形で検出された。約9.0m、最大幅約0.6m、最深部約0.06mを測る。溝の一部分のみの検出のため、断面形は不明である。

遺物は埋土から４点の弥生土器片が出土した。そのうち３点は接合した。遺構の切り合い関係から判断して流れ込みの土器片である。遺構の明確な時期は不明である。

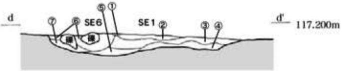




【土層注記】SE1（断面a－a'）
①黒褐色土（10YR-2/3）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い。鉄分が多く含まれている。1mm以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。10mm程度の小石をやや多く含む。
②黒褐色土（10YR-2/2）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い。さらさらしている。1mm以下の白色粒を少し含む。
③黒褐色土（7.5YR-2/2）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い。さらさらしている。鉄分が非常に多く含まれている。

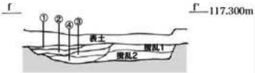
【土層注記】SE1（断面b－b'）
①黒褐色土（10YR-2/3）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い。鉄分が多く含まれている。1mm以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。10mm程度の小石をやや多く含む。
②黒褐色土（10YR-2/2）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い。さらさらしている。1mm以下の白色粒を少し含む。
③黒褐色土（7.5YR-2/2）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い。さらさらしている。鉄分が非常に多く含まれている。
④黒褐色土（7.5YR-2/3）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い。1mm以下の白色粒を極少量含む。褐鉄鉱を多く含む。
⑤黒褐色土（7.5YR-2/2）しまりはやや弱く、粘性も弱い。1mm以下の黄橙色粒・白色粒をやや含む。
⑥黒褐色土（10YR-2/2）しまりは弱く、粘性はやや弱い。10mm程度の暗褐色土を含んで斑状になる。削ると毛羽が立つ。2mm程度の黄橙色粒を極少量含む。

【土層注記】SE1（断面c－c'）
①黒褐色土（7.5YR-2/2）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い。さらさらしている。鉄分が非常に多く含まれている。
②黒褐色土（7.5YR-2/2）しまりはやや弱く、粘性も弱い。1mm以下の黄橙色粒・白色粒をやや含む。
③黒褐色土（10YR-2/3）しまりはやや弱く、粘性も弱い。K-Ah（アカホヤ火山灰土）が混じる。さらさらしている。
④黒褐色土（10YR-2/2）しまりは弱く、粘性はやや弱い。10mm程度の暗褐色土を含んで斑状になる。削ると毛羽が立つ。2mm程度の黄橙色粒を極少量含む。
⑤黒色土（10YR-2/1）しまりはやや弱く、粘性は強い。削ると毛羽が立つ。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまりは弱く、粘性は強い。⑤よりも更に粘性が強い。1mm程度の黄橙色粒を極少量含む。



【土層注記】SE1（断面d－d'）
①黒褐色土（10YR-2/3）しまりは強く、粘性は弱い。さらさらしている。K-Ah（アカホヤ火山灰土）を多く含み、斑状になっている。
②黒褐色土（10YR-2/3）しまりは強く、粘性は弱い。
③黒褐色土（7.5YR-2/2）しまりはやや弱く、粘性も弱い。1mm以下の黄橙色粒・白色粒をやや含む。
④黒褐色土（10YR-2/3）しまりはやや弱く、粘性も弱い。K-Ah（アカホヤ火山灰土）が混じる。さらさらしている。
⑤黒褐色土（7.5YR-2/1）しまり、粘性とも弱い。1mm程度の黄橙色粒を極少量含む。
⑥黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性とも弱い。1mm程度の黄橙色粒を少量含む。
⑦黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性とも弱い。全体にK-Ah（アカホヤ火山灰土）が混じる。

【土層注記】SE1（断面e－e'）
①黒褐色土（10YR-2/3）しまりはやや強く、粘性は弱い。上層（1～2mm程度）に褐鉄鉱が含まれる。1～2mm程度の黄橙色粒・白色粒を少し含む。
②黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに弱い。ややべたついた感じがする。1mm程度の黄橙色粒を少し含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまりは弱く、粘性はやや弱い。1～2mm程度の黄橙色粒をやや多く含む。



【土層注記】SE1（断面f－f'）
①黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は弱い。1mm以下の白色粒をやや多く含む。
②黒色土（10YR-1.7/1）しまりはやや強く、粘性は弱い。褐鉄鉱を非常に多く含む。1mm以下の黄橙色粒を少し含む。
③黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強いざらざらとしている。1mm程度の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
④黒褐色土（10YR-2/2）しまりはやや弱く、粘性は非常に強い。削ると毛羽が立つ。べたっとしている。1mm程度の黄橙色粒・白色粒・明黄褐色粒を多く含み混在している。

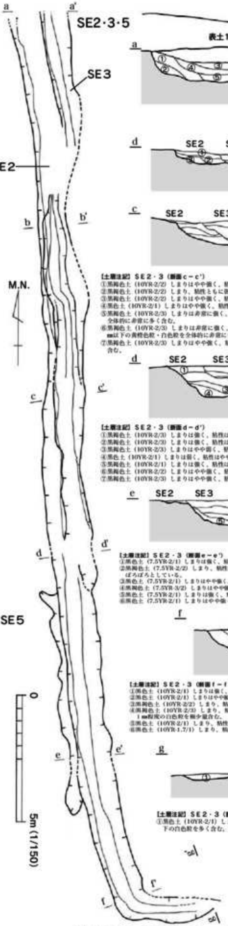
0　1m (1/40)

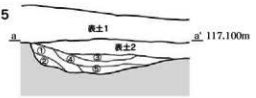
第108図　SE1・6実測図（平面1/200、断面1/40）

387

0　10cm (1/3)

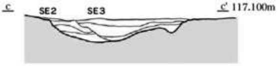
第109図　SE1出土遺物実測図（1/3）



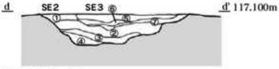


【土層注記】ＳＥ２・３（断面a－a'）
①黒褐色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜程度の黄褐色粒・白色粒をやや多く含む。
②黒褐色土（10YR-3/1）しまり、粘性ともにやや強いが、触るとぼろぼろとした感じがする。1～3㎜程度の黄橙色粒・白色粒をやや多く含む。
③黒褐色土（10YR-2/3）しまりがやや強く、粘性は弱い。ざらざらしている。1～4㎜程度の黄橙色粒をやや多く含む。
④黒褐色土（10YR-2/3）しまりがやや弱く、粘性はやや強い。1～2㎜程度の黄橙色粒・白色粒を多く含む。ややぼろぼろとした感じである。
⑤黒褐色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。上層に砂質の灰色土が帯状に入る。1～2㎜程度の黄橙色粒を多く含む。

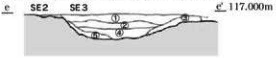
【土層注記】ＳＥ２・３（断面b－b'）
①黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに弱い。さらさらしている。1㎜以下の黄橙色粒を少量含む。
②黒褐色土（10YR-2/2）しまりはやや強く、粘性は弱い。1㎜以下の黄橙色粒を極少量含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまりはやや弱く、粘性は弱い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
④黒色土（7.5YR-1.7/1）しまり、粘性ともに弱い。明褐色土が混じり、斑状になっている。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
⑤黒褐色土（7.5YR-2/2）しまり、粘性ともに褐鉄鉱が帯状に入る。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。



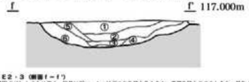
【土層注記】ＳＥ２・３（断面c－c'）
①黒褐色土（10YR-2/2）しまりはやや強く、粘性は弱い。1㎜程度の黄橙色粒をやや多く含む。
②黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともに弱い。上層に褐鉄鉱が多く含まれている。1㎜程度の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまりはやや強く、粘性は弱い。1㎜以下の黄橙色粒を少し含む。
④黒色土（10YR-2/1）しまりはやや強く、粘性は強い。1㎜以下の白色粒を極少量含む。
⑤黒褐色土（10YR-2/3）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い。さらさらしている。褐鉄鉱及び1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を全体的に非常に多く含む。
⑥黒褐色土（10YR-2/3）しまりは非常に強く、粘性は非常に弱い（⑤よりはやや粘性は強い）。さらさらしている。褐鉄鉱及び1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を全体的に非常に多く含む。
⑦黒褐色土（10YR-2/3）しまりはやや強く、粘性は弱い。褐灰色土が帯状に入る。1㎜以下のの黄橙色粒・白色粒を全体的に多く含む。



【土層注記】ＳＥ２・３（断面d－d'）
①黒褐色土（10YR-2/3）しまりは強く、粘性は弱い。全体的に褐鉄鉱を多く含む。さらさらしている。
②黒褐色土（10YR-2/3）しまりは強く、粘性はやや弱い。1㎜以下の白色粒を極少量含む。
③黒褐色土（10YR-2/3）しまりはやや弱く、粘性も弱い。さらさらしている。1㎜以下の白色粒と1㎜程度の黄橙色粒を少し含む。
④黒色土（10YR-2/1）しまりは弱く、粘性はやや強いK-Ah（アカホヤ火山灰土）のブロックが含まれる。1㎜以下の白色粒を極少量含む。
⑤黒褐色土（10YR-2/1）しまりは強く、粘性は非常に弱い。全体的に1㎜以下の褐鉄鉱を非常に多く含む。
⑥黒褐色土（10YR-2/2）しまりはやや強く、粘性はやや弱い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を多く含む。
⑦黒褐色土（10YR-2/3）しまりはやや強く、粘性は弱い。褐灰色土が帯状に入る。1㎜以下のの黄橙色粒・白色粒を多く含む。

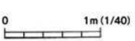


【土層注記】ＳＥ２・３（断面e－e'）
①黒色土（7.5YR-2/1）しまりは強く、粘性は弱い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を非常に多く含む。上層に褐鉄鉱をやや多く含む。
②黒褐色土（7.5YR-2/2）しまり、粘性ともに弱い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒をやや多く含む。①よりもしまりが弱く、ぼろぼろとしている。
③黒色土（7.5YR-2/1）しまりはやや強く、粘性は弱い。1～3㎜程度のK-Ah（アカホヤ火山灰土）粒と1㎜以下の白色粒を多く含む。
④黒褐色土（7.5YR-3/2）しまりはやや強く、粘性も強い。褐灰色土が帯状に入る。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒をやや多く含む。
⑤黒色土（7.5YR-2/1）しまりは強く、粘性はやや強い。1㎜以下の白色粒を少量含む。
⑥黒色土（7.5YR-2/1）しまりはやや強く、粘性は弱い。1～3㎜程度の黄橙色粒・白色粒・褐鉄鉱を非常に多く含む。



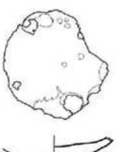
【土層注記】ＳＥ２・３（断面f－f'）
①黒色土（10YR-2/1）しまりは強く、粘性は弱い。1㎜以下の白色粒を多く含み、黄橙色粒をやや少し含む。黒色土が斑状に入る。
②黒色土（10YR-2/1）しまりはやや強く、粘性は弱い。1㎜以下の白色粒を多く含み、黄橙色粒をやや少し含む。黒色土が斑状に入る。
③黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや強い。粘土質である。1㎜以下の白色粒を極少量含む。
④黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強い。1～3㎜程度のK-Ah（アカホヤ火山灰土）粒をやや多く含む。1㎜程度の白色粒を極少量含む。
⑤黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い。1㎜以下の黄橙色粒・白色粒を極少量含む。

【土層注記】ＳＥ２・３（断面g－g'）
①黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともに弱い。1㎜以下の黄橙色粒をやや多く含む。1㎜以下の白色粒を多く含む。さらさらしている。



第110図　SE2・3・5実測図（平面1/200、断面1/40）

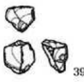
SE2



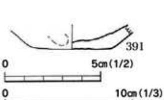
388

389

SE3



390



391

第111図　SE2・3出土遺物実測図
（390は1/2、388·389·391は1/4）

ＳＥ４（第112図）

ＳＥ４はＳＥ１とＳＥ２に挟まれて検出された。ＳＥ10（弥生時代の溝状遺構）を北端部で切る。Ｂ２区北部中央から南南東方向に延び、ＳＥ２に交差する手前まで検出された。長さ約16.3m、最大幅約1.1m、最深部約0.18mを測る。断面形は弓形である。

埋土から遺物は確認できなかったが、埋土の状況は他の陶磁器等を含む遺構と類似しており、明確に時期は確定できないが、中世以降の遺構と推定される。

ＳＥ７（第113図）

ＳＥ７はＢ１区北端部から南東方向にかけて調査区中央を走る農道までの間で検出された。農道に接する付近で東側へ屈曲している様相を示し、区画溝の可能性を残す。

長さ約37.5m、最大幅約1.20m、最深部約0.15mを測る。断面形は弓形である。

遺物は埋土から89点出土した。石器（ホルンフェルス製剥片）１点、弥生土器片66点、土師器片19点、須恵器片１点、陶磁器片２点を認めた。土師器片には叩き目技法を施すもの１点が含まれる。

392は合わせ口で焼成した口縁部が口禿の磁器皿である。底面は蛇の目釉剥ぎを施す。時期は13世紀後半から14世紀のものである。393は東播系中世須恵器鉢で、体部～底部を残す。

ＳＥ８（第113図）

ＳＥ８はＢ２区東側でＳＥ10（弥生時代の溝状遺構）を切る形で検出された。またＳＥ２・３を切る。長さ約37.0m、最大幅約1.50m、最深部約0.14mを測る。断面形はU字形である。

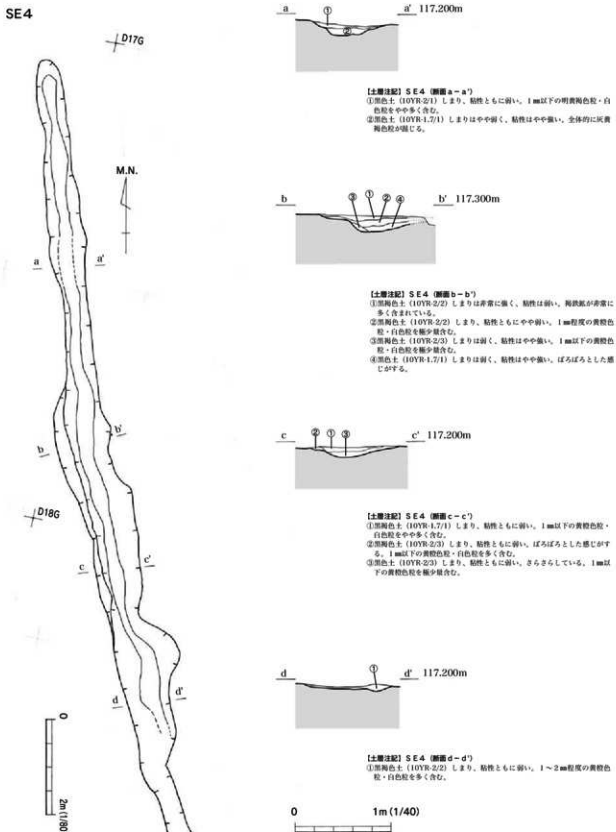
遺物は埋土から８点（弥生土器片、土師器片）出土した。土器片のいくつかはＳＥ10出土の土器片と接合した。これらの土器片はＳＥ10の埋土から浮き上がった土器片ではないかと想定される。ＳＥ８はＳＥ２・３を切って検出されたことから明確に時期は確定できないが中世以降の遺構と推定される。

ＳＥ９（第115図）

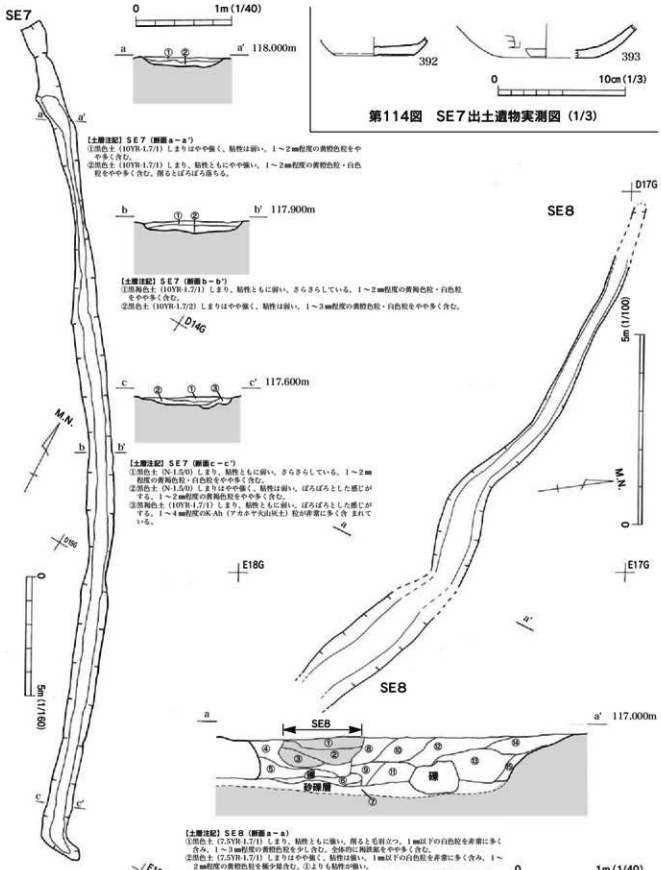
ＳＥ９はＢ１区東端側、農道として利用されていた区画の下から検出された。農道が調査区北側にある耕作地への出入り用であるため、出入りに影響のない範囲で調査を進めた。遺構の全容は明らかにできていない。ＳＥ７とほぼ並行に走り、南東方向に延び、調査区中央農道へと消える。遺構南部で２方向に分かれる様相を呈す。樹根痕１箇所を認めた。長さ約26.5m、最大幅約2.75m、最深部約0.80mを測る。断面形は弓形である。

遺物は埋土から砥石、土器、須恵器、陶磁器等30点が出土した。埋土下層からは、中世の壺または甕と思われる須恵器、京焼風陶器片等４点が出土している。

394は砥石である。石材は砂岩である。長さ約10㎝、幅約５㎝を測る。三次調査区の表土等からも砥石を検出したが、この砥石は他に比して大型である。395は15世紀の中国産白磁皿である。口縁の一部～高台部を残す。396は埋土下層から出土した中国産龍泉窯系の青磁端反皿である。時期は14～16世紀後半の範疇に入るが、明確に時期を絞ることは避けたい。397は埋土一括で取り上げた磁器皿で口縁部～体部を残す。時期は15世紀である。398は瓶である。高台部外面に赤絵の圏線を施す。内面表層は鉄分の酸化により赤変している。399は内外面ともに刷毛目文様を施す碗である。体部（下部）を残す。398、399ともに時期は近世後半である。

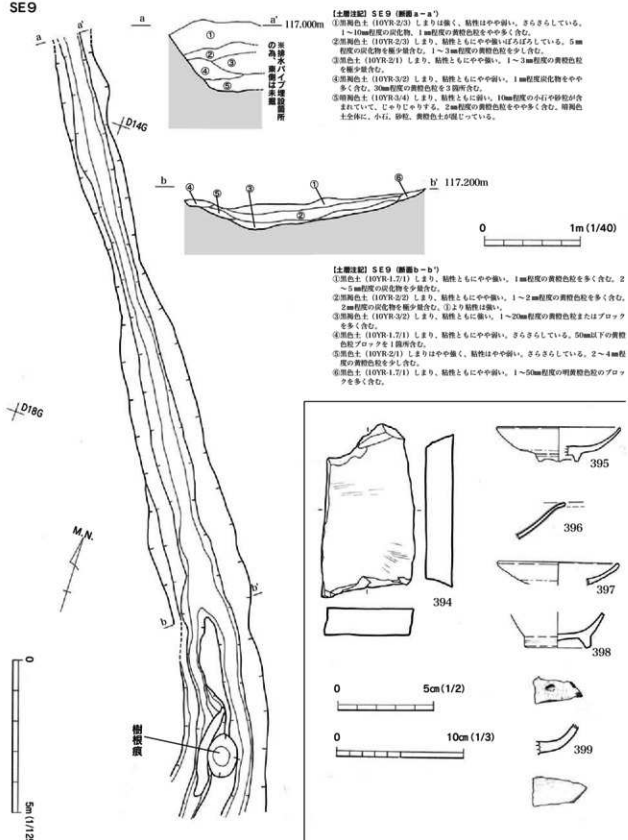


第112図　SE4実測図（平面1/80、断面1/40）



第113図　SE7・8実測図（SE7平面1/160、SE8平面1/100、断面1/40）

SE9



【土層注記】SE9（断面a－a'）
①黒褐色土（10YR-2/3）しまりは強く、粘性はやや弱い、さらさらしている。1～10mm程度の炭化物、1mm程度の黄橙色粒をやや多く含む。
②黒褐色土（10YR-2/3）しまり、粘性ともにやや強いがろがろしている。5mm程度の炭化物を極少量含む、1～3mm程度の黄橙色粒を少し含む。
③黒色土（10YR-2/1）しまり、粘性ともにやや強い、1～3mm程度の黄橙色粒を極少量含む。
④黒褐色土（10YR-3/2）しまり、粘性ともにやや強い、1mm程度炭化物をやや多く含む、30mm程度の黄橙色粒を3箇所含む。
⑤暗褐色土（10YR-3/4）しまり、粘性ともに強い、10mm程度の小石や砂粒が含まれていて、じゃりじゃりする。2mm程度の黄橙色粒をやや多く含む、暗褐色土全体に、小石、砂粒、黄橙色土が混じっている。

【土層注記】SE9（断面b－b'）
①黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い、1mm程度の黄橙色粒を多く含む、2～5mm程度の炭化物を少量含む。
②黒褐色土（10YR-2/2）しまり、粘性ともにやや強い、1～2mm程度の黄橙色粒を多く含む、2mm程度の炭化物を極少量含む、①より粘性は強い。
③黒褐色土（10YR-3/2）しまり、粘性ともに強い、1～20mm程度の黄橙色粒またはブロックを多く含む。
④黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしている。50mm以下の黄橙色粒ブロックを1箇所含む。
⑤黒色土（10YR-2/1）しまりはやや強く、粘性はやや弱い、さらさらしている。2～4mm程度の黄橙色粒を少し含む。
⑥黒色土（10YR-1.7/1）しまり、粘性ともにやや強い、1～50mm程度の明黄橙色粒のブロックを多く含む。

第115図　SE9実測図（平面1/125、断面1/40）

第116図　SE9出土遺物実測図（394は1/2、395～399は1/3）

No.	種別	器種 部位	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様他 外面	内面	釉調 外面	内面	胎土の特徴	備考
387	磁器	碗 口縁部～体部	SE1				回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	明緑灰	明緑灰	灰白 精良	青花碗 染付
388	陶器	皿 体部～底部	SE2		6.2		回転ナデ、施釉	回転ナデ、仕上げナデ 施釉	エメラルドグリーン（透明）	エメラルドグリーン（透明）	灰白 精良	糸切り底 胎土目 積み 胎土に灰色微粒粒を含む
389	磁器	碗 高台部	SE2	(4.1)高台径:推定復元径			回転ヘラケズリ、施釉	回転ナデ、無釉、施釉	灰白	明緑灰	灰白 精良	蛇の目釉剥ぎ ケズリ出し高台
391	土器	鉢 体部～底部	SE3		(6.2)		工具によるナデ?（風化が激しい）	ナデ？（風化が激しい）	暗灰黄	灰黄	灰白 精良	東播系
392	磁器	皿 体部～底部	SE7		(6.2)		回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	灰白	灰白	灰白 精良	口禿 合わゼロ
393	土器	鉢 体部～底部	SE7		(8.0)		工具による横方向のナデ？（風化が激しい）	調整不明（風化が激しい）	灰白	灰白	灰白 精良	東播系
395	陶器	皿 口縁部～高台部	SE9	(9.5)	2.7	(3.1)	回転ナデの後、施釉、露胎、貫入	回転ナデの後、施釉	灰白	灰白	灰白 精良	切り高台
396	青磁	皿 口縁～底部	SE9				回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	オリーブ灰	オリーブ灰	灰白 精良	龍泉窯 端反皿
397	磁器	皿 口縁部～体部	SE9	(9.3)			回転ナデ、回転ヘラケズリ、施釉	回転ナデ、施釉	灰白	灰白	灰白 精良	
398	磁器	瓶 底部	SE9	(5.7)高台径:推定復元径			回転ナデ、施釉、圏線（赤絵）	無釉、表層は明赤褐色	灰白	灰白	明赤褐色 灰白 精良	赤絵 内面表層は鉄分酸化
399	陶器	皿 体部～底部	SE9				回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	灰白 淡黄(透明)	灰白 淡黄(透明)	暗赤褐色 精良	外面に横方向の細毛目条線

第33表　SE1・2・3・7・9出土陶磁器等観察表

No.	出土地点	注記No.	器種	石材	X座標	Y座標	Z座標（標高：m）	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
390	SE3	SE3-28	火打石	チャート	－	－	－	1.75	1.60	1.30	3.40	亜円礫素材　節理を認める
394	SE9	SE9	砥石	砂岩	－	－	－	9.25	4.90	1.45	112.70	表面に砥面　上・下部欠損

第34表　SE3・9出土石器計測表

第6節　その他の遺構と遺物

本節では、時期不明の遺構、表土一括として取り上げた遺物や流れ込みの遺物等について概説する。

1　遺構

ＳＥ11（第117図）

ＳＥ11はＢ２区東側で現在の農道に沿い、弧を描く形で検出された。K-Ah層を切る溝状遺構である。検出面において長さ約20m、最大幅約1.95m、最大深約0.32mを測る。

埋土は黒色土～黒褐色土を呈し黄橙色粒を若干量含む。下層には一部に砂礫も認められＳＥ10の様相に似ている部分もあり、ＳＥ10と同時期の溝とも考えられるが、埋土中からは遺物が確認できなかったため、時期を断定することは避け、時期不明の遺構とした。

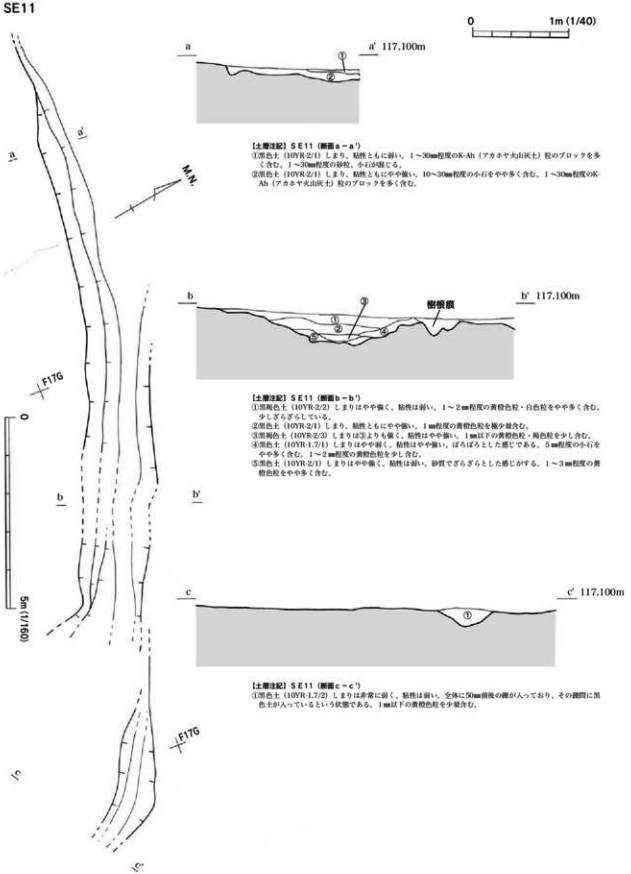
2　遺物

表土一括として取り上げた遺物（423点）や遺構の認定した時代にそぐわない遺物、遺構埋土一括の遺物等の中から主な石器、土師質土器、須恵器、陶磁器を掲載した。

(1)　石器（第118図400～418）

石鏃

400はＳＥ10の底面直上、401は埋土から出土した石鏃である。400はチャート製で二等辺三角形を呈し、基部は平基をなす。401は姫島産黒曜石製石鏃で欠損の為脚部のみを残す。402も姫島産黒曜石製の石鏃である。ほぼ正三角形を呈し、基部に浅い抉りを認める。403はチャート製の石鏃である。背面右部分には細かい調整痕を残す。未製品の可能性がある。404はホルンフェルス製の石鏃である。風化が著しく剥離痕も不明瞭である。402～404は表土一括として取り上げた遺物である。



第117図　SE11実測図（平面1/100、断面1/40）

船野型細石刃核

405は宮崎県宮崎郡佐土原町（現宮崎市佐土原町）船野遺跡出土例を標識とする流紋岩製船野型細石刃核である。ＳＥ３の埋土から出土した。旧石器時代に相当する石器である。

剥片

406～408はＳＥ10の床面直上からの出土である。406は流紋岩製で右側部及び下部に微細剥離のある剥片である。使用による剥離痕の可能性がある。407はチャート製の二次加工のある剥片である。両側部及び上部に腹面からの加工痕を認める。弥生時代のものと思われる。408は頁岩製である。礫面を残す礫片を使った石器で、腹面の周辺を加工しており刃部を作った可能性も残される。“小型の石斧状の剥片”とも言えよう。

石斧

409は砂岩製の石斧である。元は粗い砥石であった痕跡を残す。割れ口の稜も潰れており、砥石としての使用がうかがわれる。砥石のリサイクル品として敲打具、石斧として使用したと考えられる。

砥石

410～415は砥石である。410～413は頁岩製である。410は表裏面、左右両側面に砥面を残す。411は節理によって分割した状態で出土した。表裏面に砥面を残す。412は表面のみに砥面を認める。周囲に加工痕を認める。413は表面に砥面を認める。414は表面に砥面を残す砂岩製の砥石である。415は表裏面に砥面を残すホルンフェルス製の小型の砥石である。

火打石

416～418はチャート製火打石である。表土から出土した遺物であるので時期は明確には断定できないが、中世以降の溝状遺構から出土した火打石と石材、形状、大きさ等が類似している。418には表面に鉄分の付着を認める。火打金との関連を類推できる。

(2) 土器・須恵器・陶磁器（第119図419～441）

表土や遺構埋土等より中世から近世にかけての土器・須恵器・陶磁器が数多く出土した。器種も甕、壺、碗、皿、杯、瓶、擂鉢、土鍋等様々である。

いくつか例を示すと、土器では口縁部の残る土鍋片が出土した。須恵器では東播系中世須恵器片が出土している。陶磁器は輸入陶磁器として、中国龍泉窯系青磁片、景徳鎮窯磁器片等が出土している。国内産陶磁器では、中世の常滑焼陶器片、近世前半の京焼風陶器、近世後半の内野山窯陶器片等が、また磁器は18世紀の波佐見焼くらわんか手磁器片等が出土した。

以下、中世と近世に分けて主な遺物を掲載する。掲載した23点はすべて表土一括の取り上げ遺物である。

中世（419～429）

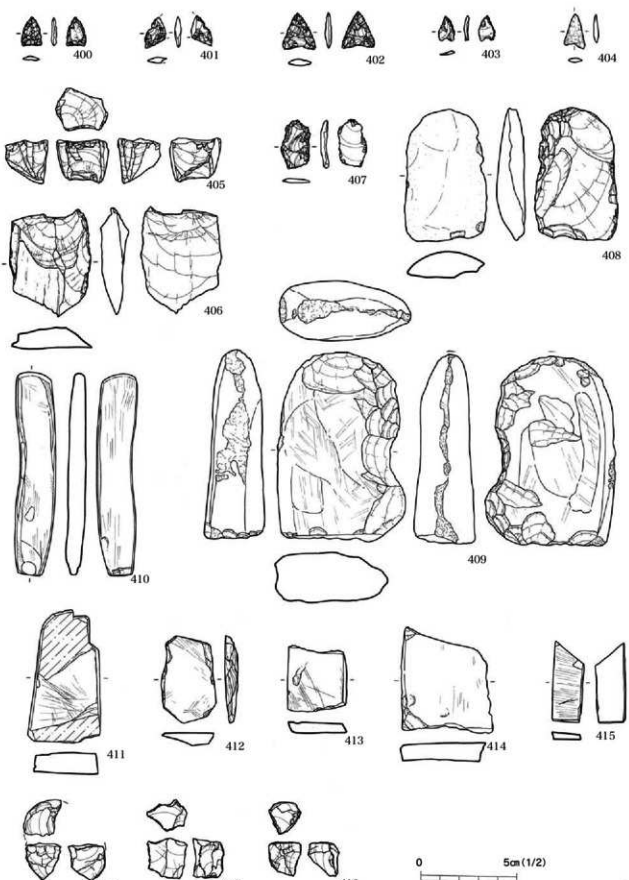
419～425は中国産龍泉窯系の青磁である。419は青磁碗で蓮弁文を施す。１㎜ほどの厚い釉がかけてある。体部から高台部付近を残す。14～15世紀にかけてのものである。420も釉の厚い線描蓮弁文の青磁碗体部である。421は体部～高台部を残す青磁皿である。釉が厚い。422は青磁皿である。体部～底部付近を残す。見込部分に線描多重輪状文様を施す。423～425は龍泉窯系終末期にあたる16世紀の青磁碗である。外面に施されている線描蓮弁文が雑になる。423・424は口縁部、425は体部である。

426は東播系中世須恵器鉢の口縁部である。427は備前の甕の口縁部である。口縁部は胎土を内側から外側へ折り曲げて成形している。428は備前の擂鉢である。櫛目は内面左上から右下方向に走り、４条以上を一単位とし、幅1.5cm以上を認める。

429は土器で、中世後半の土鍋である。内外面ともにハケメを施す。口縁部を「く」の字に屈曲させ、端部を上方に引き上げている。

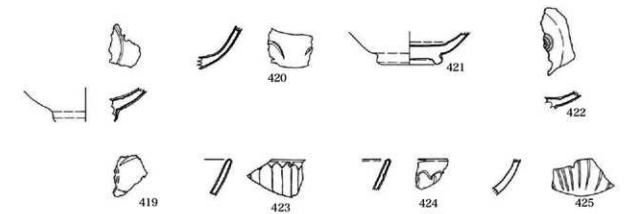
近世（430～441）

430は白磁の小杯である。体部～高台部を残す。17世紀中頃のものと推定される。431は近世の碗である。体部下部外面と高台外面に圏線を施す。432は18世紀後半、波佐見焼のくらわんか手の碗である。433は内外面に圏線を施し、外面には亀甲文様を施す碗である。434は18世紀の草花文の染付を外面に施すくらわんか手の碗口縁部である。435は内面に刷毛目文様を施す皿の高台部である。重ね焼きによ

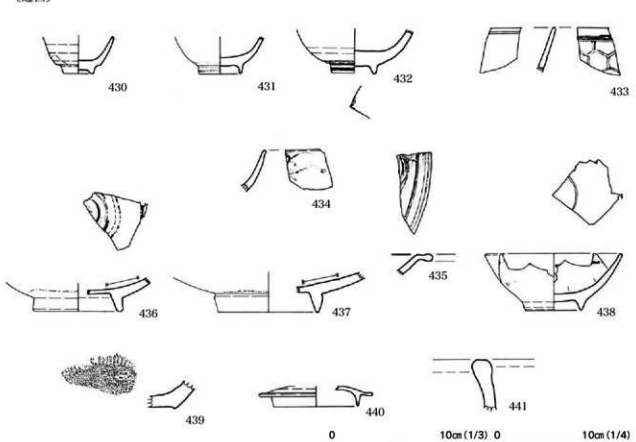


第118図　その他の遺物（石器）実測図（1/2）

〔中世〕



〔近世〕



第119図　その他の遺物（土器・須恵器・陶磁器）実測図（1/3、429は1/4）

り見込みに釉の剥がれた痕を認め、高台接地面の一部に灰白の釉が付着している。436は皿の高台部である。見込に蛇の目釉剥ぎを認める。437は陶器皿の口縁部で近世後半のものである。内面に刷毛目文様を施す。438は口縁部の一部から高台部を残す刷毛目文様のある碗である。砂目積みによる重ね焼きの痕を見込み部分に認める。近世後半のものである。439は堺系の擂鉢底部である。櫛目は一単位10条以上、2.9cm以上を認める。440は薩摩焼の土瓶蓋である。時期は近世後半にあたる。外面は釉を施し内面は無釉である。441は火鉢の口縁部である。外面にはススが付着しているのを認める。

No.	出土地点	注記No.	器種	石材	X座標	Y座標	Z座標(標高：m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
400	SE10	SE10-146	石鏃	チャート	－	－	－	1.50	1.02	0.30	0.50	二等辺三角形　平基
401	SE10	SE10	石鏃	黒曜石(姫島)	－	－	－	(1.60)	(1.10)	0.30	0.40	欠損品　脚部のみ
402	表土一括	ギンザ1B	石鏃	黒曜石(姫島)	－	－	－	1.90	1.70	0.38	0.80	ほぼ正三角形　基部に浅い抉り
403	表土一括	ギンザ1B	石鏃	チャート	－	－	－	1.30	0.80	0.29	0.20	未製品の可能性？
404	表土一括	ギンザ1B	石鏃	ホルンフェルス	－	－	－	1.80	1.10	0.25	0.40	風化が著しい
405	SE3	SE3-16	船野型船石刃核	流紋岩	－	－	－	2.30	2.70	2.20	16.20	
406	SE10	SE10-124	微細剥離のある剥片	流紋岩	－	－	－	5.60	4.30	1.45	29.20	
407	SE10	SE10-41	二次加工のある剥片	チャート	－	－	－	2.50	1.50	0.40	1.70	弥生時代？
408	SE10	SE10-16	二次加工のある剥片	頁岩	－	－	－	6.95	4.30	1.50	54.60	礫面を残す礫片　小型の石斧状の剥片
409	表土一括	ギンザ1B	石斧	砂岩	－	－	－	10.00	6.80	3.20	250.00	元は礪石　礪石のリサイクル品
410	表土一括	ギンザ1B	礪石	頁岩	－	－	－	10.80	2.10	2.10	37.20	表裏、左右両側に砥面
411	表土一括	ギンザ1B	礪石	頁岩	－	－	－	7.00	3.85	1.10	44.60	表裏に砥面
412	表土一括	ギンザ1B	礪石	頁岩	－	－	－	4.60	2.90	0.70	9.00	表に砥面
413	表土一括	ギンザ1B	礪石	頁岩	－	－	－	3.50	3.10	0.60	13.40	表に砥面
414	表土一括	ギンザ1B	礪石	砂岩	－	－	－	5.50	4.90	1.10	45.60	表に砥面
415	表土一括	ギンザ1B	礪石	ホルンフェルス	－	－	－	4.20	1.65	0.40	4.10	表裏に砥面
416	表土一括	ギンザ1B	火打石	チャート	－	－	－	2.00	1.90	2.00	6.80	円礫素材　節理を認める
417	表土一括	ギンザ1B	火打石	チャート	－	－	－	2.10	2.10	1.70	6.70	節理を認める
418	表土一括	ギンザ1B	火打石	チャート	－	－	－	1.80	1.70	2.20	4.70	SI7-SI8に比べ良質の石　鉄分付着

第35表　その他の遺物（石器）計測表

No.	種別	器種部位	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様他		釉調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
419	青磁	碗 体部～高台部付近	表土一括				回転ナデ、施釉、線描蓮弁文	回転ナデ、施釉	浅黄色に近い緑	浅黄色に近い緑	灰白　精良	釉が厚い
420	青磁	碗 体　部	表土一括				回転ナデ、施釉、線描蓮弁文	回転ナデ、施釉	オリーブ灰	オリーブ灰	灰色　精良	
421	青磁	皿 体部～高台部	表土一括				回転ナデ、施釉、貫入	回転ナデ、施釉、貫入	明緑灰	明緑灰	黄灰　精良	ケズリ出し高台
422	青磁	皿 体部～底部付近	表土一括				回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	オリーブ灰	オリーブ灰	灰　精良	内面に多重輪状の文様有り
423	青磁	碗 口縁部	表土一括				回転ナデ、施釉、線描蓮弁文	回転ナデ、施釉	オリーブ灰	オリーブ灰	灰黄褐色　精良	
424	青磁	碗 口縁部	表土一括				回転ナデ、施釉、貫入	回転ナデ、施釉、貫入	オリーブ黒	オリーブ黒	灰　精良	外面に線描蓮弁文
425	青磁	碗 体　部	表土一括				回転ナデ、施釉、線描蓮弁文	回転ナデ、施釉、線描蓮弁文	オリーブ灰	オリーブ灰	灰黄	釉は薄い　気泡痕様の微細なくぼみ有り
426	土師	鉢 口縁部	表土一括				回転ナデ	回転ナデの後、扇毛状工具による調整	無釉	無釉	灰白色の微細粒を少し含む	東播系
427	陶器	壺 口縁部	表土一括				回転横ナデ、工具による回転ナデ、施釉	回転横ナデ、回転ナデ、施釉	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	褐灰	備前
428	陶器	擂鉢 口縁部	表土一括				ナデの後、櫛方向の扇毛目　摩耗気味	ヨコナデ　横方向の扇毛目　摩耗気味	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の灰白、白、黒、褐色粒、黒色粒状光沢粒を含む	備前擂鉢　内面にスス付着
429	土師	土鍋 口縁部～胴部	表土一括				回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	灰白 浅黄（透明）	灰白 浅黄（透明）	明赤褐色　精良	外面に横方向の扇毛目条線
430	磁器	小杯 体部～高台部	表土一括	(2.4)	高台径：推定復元径		回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	灰白	灰白	灰白　精良	
431	磁器	碗 体部～高台部	表土一括	(5.7)	高台径		回転ナデ、施釉、圏線　淡い呉須	明オリーブ灰	明オリーブ灰	灰白　精良		
432	磁器	碗 体部～高台部	表土一括	(3.3)	高台径：推定復元径		回転ナデ、施釉、圏線	回転ナデ、施釉	明緑灰 オリーブ黒色	明緑灰	灰白	くらわんか手 高台内面に染付
433	磁器	碗 口縁部～体部	表土一括				回転ナデ、施釉、圏線　亀甲文様	回転ナデ、施釉、圏線	灰白　黒	灰白　灰	灰白　精良	
434	磁器	碗 口縁部～体部	表土一括				回転ナデ、施釉、染付　梅花文	回転ナデ、施釉	明緑灰　青灰明オリーブ	明緑灰	灰白	くらわんか手
435	陶器	皿 口縁部	表土一括				回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉 灰白釉による波状文様	黒褐	黒褐　灰白	にぶい赤褐　精良	
436	陶器	皿 口縁部～高台部	表土一括	(6.8)	高台径：推定復元径		回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	暗オリーブ褐	オリーブ黄 灰白	にぶい赤褐　赤灰 精良	
437	陶器	皿 体部～高台部	表土一括	(8.0)	高台径：推定復元径		回転ヘラナデ、施釉	回転ナデ、施釉	オリーブ褐	オリーブ褐	にぶい橙	
438	磁器	碗 口縁部～高台部	表土一括	(10.4)	高台径 (4.4)	(4.5)	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉、砂付着	明緑灰 暗オリーブ	明緑灰 暗オリーブ	灰　精良	
439	陶器	擂鉢 底　部	表土一括				回転ナデ	回転ナデ、櫛状工具による斜め方向、放射状の調整	－	－	明赤褐	堺系
440	陶器	土瓶蓋 口縁部～天井部	表土一括	(9.0)			回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	暗オリーブ	－	黒褐　にぶい赤褐	
441	土師	火鉢 体部～底部	表土一括				回転ナデ、スス付着	回転ナデ	－	－	にぶい黄橙	

第36表　その他の遺物（土器・陶磁器等）観察表

第Ⅵ章　まとめ

1　旧石器時代

本遺跡では旧石器時代の遺構は確認されず、一・二・四次調査でナイフ形石器・剥片など５点が、三次調査で船野型細石刃核１点が出土したのみである。ナイフ形石器・剥片は、第Ⅳ章で述べたように石器の形態や石材からKr-Kb～ＭＬ２相当の時期に帰属するものと判断した。

周辺遺跡における当該期の調査成果をみると、南西側に隣接する銀座第２遺跡のＭＬ１～Kr-Kb相当層およびＭＬ２相当層でそれぞれ文化層が確認されている。特に前者では流紋岩を中心とした石器・剥片などが200点近く出土しているが、接合資料が少なく、礫群も見られない。後者では礫群が２基とされるが、礫が散漫で赤化が弱く、炭化物も確認されないなど人為的なものとは断定しづらい状況である。

さらに南へ丘陵斜面を登った先には銀座第３Ａ遺跡・蔵座村遺跡があるが、やはり石器類が散漫に出土する状況で、銀座第３Ａ遺跡の礫群も第２遺跡同様の特徴を示すものである。

こうした点からすると、本遺跡周辺は旧石器時代人の行動半径内にはあたるが、起居する場そのものではないということになるであろう。

遺跡周辺は扇状地上の凹部に位置し、現在でも湧水が見られるため、そうした水を求めた可能性があると思われる。

2　縄文時代早期

縄文時代早期の文化層は、本遺跡では三次調査Ｂ２区南部（約500㎡）においてのみ認められた。

集石遺構を８基検出し、遺構周辺を中心に礫を291点検出した。遺物は石器17点（石鏃４点、剥片13点）、縄文土器片２点の計19点出土した。

○遺構

集石遺構は８基確認された。本遺跡の一次・二次・四次調査区域、近隣の銀座第２遺跡、銀座第３Ａ遺跡からは認められていない。

集石遺構は一般的に長軸・短軸ともにそれぞれ0.5m～２m程度の範囲に礫が密に集まっている遺構で、構成礫の赤化度、炭化物の有無等、人為的に礫を集め、使用した痕跡が認められる。動植物を調理する機能を有する施設跡や炉跡、石器製作の為の準備礫の集積、廃棄礫の集積等が想定されている。

本遺跡の集石遺構の主な特色を述べる。

構成している礫の石材については、在地礫である尾鈴山酸性岩類のみであったことが特色である。遺構周辺に点在した礫の97％以上が同石材であった。

遺構の形状として、掘込みが認められなかったことも特色としてあげられる。構成礫は、ＳＩ１・２・４・５・６においては礫が遺構中心部に重なるように配置されていて、他に比べて密である。礫の大きさ（重量）で比較するとＳＩ３については大型礫（１点あたり約0.60ｇ程度）を使用している。他は１点あたり約0.20～0.30ｇ程度の礫で、ＳＩ６の構成礫の半分以下の重量の礫で構成されている。

ＳＩ２・３・６からは炭化物が認められ、ＳＩ６においては遺構中心部に炭化物の集中域を認める。礫の赤化状況と合わせて火を使用した可能性を認める。

８基の集石遺構は、本遺跡南西部縁辺の最も低い部分で検出された。南北約12m、東西約７mの範囲に集中し、ほぼ同レヴェルで検出された。

集石遺構は更に調査区外に広がると予想され、当時、遺構群として一定の範囲をもって形成されていたと考えられる。ただし、遺構周辺の出土遺物数が僅かであり他の遺構も認められない等の状況から、これ以上遺構に関する言及は避けることにする。

○遺物

縄文時代早期の遺物としては、石器17点（石鏃４点、剥片13点）、縄文土器片２点を認めた。４点の石鏃のうち、１点が県西部の桑ノ木津留産

の黒曜石であった。関連する砕片等の出土は認められないことから、石鏃は遺跡外から持ち込まれた可能性があり、本遺跡が石器製作の場であった痕跡は積極的には認められない。

石鏃のうち281は帖地型石鏃であった。帖地型石鏃は大久保型石鏃（長崎県大久保遺跡：渡邊康之氏1997）とも呼称される。帖地型石鏃は鹿児島県帖地遺跡出土の形態が特徴的な石鏃に対して、報告者の永野達郎氏が型式設定したものであり、更に２つに類型化している（永野1999）。

Ａタイプは「縦長の二等辺三角形で、先端部は鋭く尖り、断面は直線的で薄く、平均３㎜を測り、基部にわずかに抉りの入ったもので、最大幅が基部の下端から４分の１付近にある」ことを特徴とする。Ｂタイプは「縦長の五角形で左右の側縁部の肩部が張り出し、基部で狭まるもので、先端部は鋭く尖り、基部にわずかに抉りが入る」ことを特徴とする。本遺跡出土の281は先端部は欠損しているが、Ｂタイプの特色をもつ。帖地遺跡では、アカホヤ火山灰層の下層から出土し、条痕文土器と塞ノ神式土器が出土している。本遺跡で出土した２点の土器は、同様に条痕文土器と塞ノ神式土器である。

宮崎県内で出土した帖地型石鏃は、チャート、赤色チャート、玉随、桑ノ木津留産黒曜石、多久サヌカイト製の出土を計20点余認める。本遺跡で出土したこの石鏃は特色として石材が流紋岩製であり、しかも背面に磨きを認める。宮崎県内では他に類例を見ないものであった。

剥片はチャート製の剥片が11点中６点を数える。剥片同士の接合は認めず、剥片の性格も断定できるまでには至らなかった。剥片に限らず、本文化層出土の石器17点のうち10点がチャート製であったことは特色としてあげられよう。

土器片の出土は２点にとどまった。出土数が僅かであったことは、何らかの点を意図するものであるかも知れないが、狭小の範囲での調査であり、検出した集石遺構との関連も明確ではないため土器について具体的な言及は避けることにする。他遺跡の同文化層の調査結果を待ちたい。

３　弥生時代

当該期の土器はほとんどが溝状遺構から出土している。特に一・二・四次調査ＳＥ17・21、三次調査ＳＥ10からはまとまった量の出土が見られた。これらの溝は他と比べると大きく蛇行しており、自然流路である可能性が高い。ただしそれらの帰属時期比定については、水流による攪拌と緩慢な堆積を繰り返したと考えられることから断定はしがたい。そうした中でも三次調査ＳＥ10については、弥生土器と後世の遺物との量差や出土状況（第98図）から、弥生時代に流路として存在していたものと判断される。

土器の様相は一～四次調査で共通しており、後期前半頃を中心とする土器群と後期後半～終末を中心とする土器群が認められ、一部が古墳時代初頭にまで下る。特に後期後半の土器がまとまっており、遺跡の近隣に当該期の集落が存在することを示唆する。

川南の段丘上では中期以前に遡る遺跡が少数であるにもかかわらず、後期後半を中心とする遺跡が町域南部を中心として密に展開していることが知られているが、本遺跡の出土状況もそうした傾向を裏付けるものである。

後期前半の土器は三次調査区に多く見られるが、本遺跡の南方丘陵上には数少ない中期～後期初頭の遺跡である藏座村遺跡が位置することに関係するかもしれない。

いずれにしても「後期後半における遺跡激増現象」を追認する結果が得られたのみであり、その背景に迫りうるものとはなりえなかった。

外来系の遺物としては瀬戸内系の小型高坏があり、当時の地域間交流の一端をうかがわせる資料が得られた。

4　中世～近世

○遺構

中世から近世における本遺跡の性格は、「縦横に走る溝によって方形に区画された土地に成立した集村」とすることができる。ただし文中では「区画溝」と性格づけたものの、ほとんどの溝状遺構は蛇行したり、角部でも緩いカーブを描いたりしており、溝どうしの接点・交点もきちんと直交する方が少ない。このように必ずしも整然としているとは言い難い状況であるが、そうした中においてもいくつかの規格性を見いだすことができる。

第一にD区ＳＥ31とC区ＳＧ2との位置関係である。これら二つの遺構は完全に並行して走るわけではないが、互いの間隔は調査区北西縁付近で約54mを測り、1町が約109mとするとほぼ半町に相当する（第120図①）。

第二にA区ＳＥ3は南西端部をコーナーと見た場合、南北幅が約47mである。これだけでは半端な数字となっているが、南東に隣接するＳＥ1・3間の帯状の空閑地が幅約8mを測り、これを合算すると約55mでやはり半町に相当する（第120図②・③）。

第三に同様な帯状の空閑地がD区ＳＥ31・44間にも存在することである。ＳＥ44が蛇行しており測定しづらいが、同一遺構と考えられるE区ＳＥ49から通る直線を引くと幅約8mが得られ、先述した空閑地と同規模である（第120図④）。そうしてみると、④の空閑地の南西側にある区画①は単独で半町を有するため、ＳＥ44・49によって区画された部分が南北幅47m前後の規模である可能性が想定できる（第120図⑤）。

第四として溝状遺構が複雑に切り合う区画①・②間については他ほど明瞭な区画を想定しづらいが、A区ＳＥ3とC区ＳＧ2間を測定すると約22mであり、0.2町（4分の1町？）に相当する。

これらの点から、概ね半町を基礎として方形区画がなされ、それぞれに宅地などが存在した可能性を指摘できよう。

次にこの区画がなされた時期が問題となるが、遺物の出土している溝状遺構について遺物の様相を整理し、存続年代の推定を試みたい。ただし宮崎平野部における中世土器編年は進んでおらず、生産地や大規模消費地の調査・研究によって導きだされた陶磁器類の年代観を参考とせざるをえないため、現段階での大まかな傾向把握にとどまることを明記しておく。

ＳＥ1は中世遺物が最もまとまって出土した遺構である。中国産青磁・白磁の年代観は15世紀代を中心とし、一部が16世紀代に下る。国産陶器類もほぼ15世紀代の所産で、1点のみ掲載したくらわんか碗をはじめとする近世後半の陶磁器は埋没の過程で流れ込んだと判断される。

ＳＥ3の備前焼擂鉢は15世紀後半頃と思われ、ＳＥ6の中国産青磁・白磁は14世紀代～15世紀初頭の、備前焼擂鉢も15世紀前葉の年代を示す。

ＳＥ31は14世紀前半～15世紀中頃と陶磁器の年代観に幅があるが、ＳＥ44は概ね14世紀後半～15世紀初頭の年代を示す。

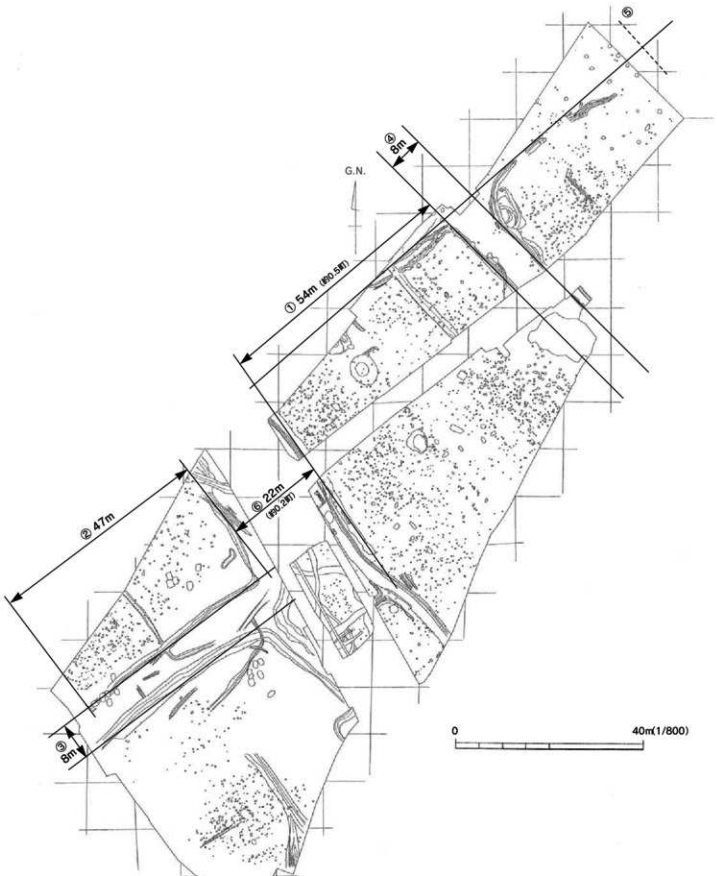
これらを総合すると15世紀代とされる陶磁器類が目立ち、溝の存続年代の一端がそこにあると判断されよう。16世紀代に入ると出土量が増加する中国産青花がほとんど見られないことも上記年代の傍証になる。

ただし看過できないのは第Ⅳ章の最後でも触れたように近世陶磁器の存在である。ＳＥ1の近世陶磁器について流れ込みとしたが、その判断根拠について触れねばなるまい。

実は本遺跡と類似する調査内容の遺跡が、宮崎平野部で他に2例確認されている。一つは同じ川南町の前ノ田村上第1遺跡であり、もう一つが宮崎市の池開・江口遺跡である。

前ノ田村上第1遺跡は宮崎平野北部の扇状地上に位置し、平成13年度から平成15年度にかけて宮崎県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、方形区画と多数の掘立柱建物跡などを検出した（第121図）。

池開・江口遺跡は大淀川河口付近の砂丘上に位置し、平成15年度に宮崎市教育委員会によって調査が行われ、やはり溝状遺構による方形区画に



第120図　銀座第１遺跡の方形区画（1/800）

囲まれた掘立柱建物群が検出されている（第122図）。

ここで改めて３遺跡の共通点をあげるならば、
①当時の主要交通路に近接
②溝による方形の区画を有する
③攪乱・削平によりかなりの遺構が消滅
④溝状遺構出土遺物の年代幅
という４つがあげられる。

まず①についてみるならば、銀座第１遺跡・前ノ田村上第１遺跡はいずれも現在の県道都農・綾線沿いに立地するが、この道路は鬼塚久美子氏の想定する古代官道にあたっている（鬼塚1997）。一方の池開・江口遺跡は宮崎平野の海沿いを南北に走る山崎街道沿いにあり、この道も式内社である江田神社の存在などからやはり古代道に由来する可能性が高いと考えられている。

次は②についてである。銀座第１遺跡では先述したように方形区画が半町を基礎とするとみられた。

前ノ田村上第１遺跡では遺構の重複が激しく、それぞれの存続時期・先後関係確定には困難が伴うが、ほぼ東西南北に走る溝が方形区画をなし、ほとんどの建物が溝と軸を揃えて建てられている。区画の規模も測定しづらいが、担当者によって区画溝８の西辺が約62m（第121図①）、区画溝５の東辺が39m（同②）との測定値が提示され、１町ないし半町に近い単位を基礎とした傾向があるとされる。強いて言えば、区画溝８の62mは半町の55mに銀座第１遺跡の帯状空閑地幅である８mを加えた値に近似する。また区画溝４・５間や区画溝８・12間は帯状の空閑地のようにも見られる。

池開・江口遺跡は調査範囲が限られるためやはり規模の測定が難しいが、担当者により池開遺跡ＳＥ３・10間が約45mとされるほか（第122図①）、ＳＥ２・11間も45m程度の距離をもつ可能性がある（同②）。半町にはやや短いが、周囲の状況が不明でありこれ以上の追求はしづらい。

２遺跡における分析では、銀座第１遺跡ほどの規格性を見いだすには至らなかったが、溝の配置

第121図　前ノ田村上第１遺跡の方形区画（1/800）

に何らかの基準があることは想定してもよいだろう。

次の③・④はいずれも遺跡の分析における障害となるものである。

③については、3遺跡全てが耕地としての基盤整備などにより中世の生活面を削平されていることによる。このため集落の構造把握は困難な状況である。

また④が本題の近世陶磁器混入に深く関わる部分であるが、3遺跡ともほとんどの溝状遺構から中世～近世の陶磁器が混在して出土するということである。このため区画溝ひいてはそれに基づく集落の存続時期を絞り込めない恨みがある。

ただし銀座第1遺跡、池開・江口遺跡では中国産青磁（雷文帯や蓮弁を施す碗ほか）・白磁（抉入高台の皿ほか）、備前焼（壺・甕・擂鉢）などが主体をなし、15世紀代を中心とする年代を想定しうるものである。加えて池開遺跡ＳＥ1出土漆器碗の年代測定結果が1440AD～1480ADを示していることも傍証となろう。

前ノ田村上第1遺跡は遺物の年代幅が最も広いが、中世墓と考えられるＳＤ1～3が区画溝内に軸を揃えて掘られており、区画が中世に遡ることを示唆する。

それではどうして遺物の混在が起こるのか、という疑問が生じるが、その回答を得るためにヒントとなりそうなのが池開・江口遺跡の溝状遺構の埋土で確認されたテフラである。

池開ＳＥ1・2・9・10、江口ＳＥ1・3・9では埋土中より桜島3テフラ（Sz-3：15世紀後半頃噴出と推定）が検出され、さらに池開ＳＥ2・10、江口ＳＥ3ではその上位に霧島新燃享保テフラ（Kr-SmK：1717年噴出と推定）が検出されている。

つまり上記7本の溝は少なくとも15世紀後半頃には掘削されており、さらに一部の溝は18世紀前半頃までは窪地化しつつも存続していたと判断されるのである。担当者は上層からも中世の青磁が多数出土することから、水の流れなどによる堆積土の攪拌がしばしば起こったと推定しているが、その攪拌は桜島3テフラを流失させるようなものではなく、さらには霧島新燃享保テフラの噴出時までにはある程度の堆積があり、溝がやや浅くなっていたと考えたい。

これに掘立柱建物のほとんどが溝と軸を揃え、一部は確実に近世後半期まで下る（例えば銀座第1遺跡ＳＢ14など）ことを合わせ考えると、集落の断続はあるかもしれないが、区画自体は中世から近世に至るまで踏襲されていたことになり、その結果として近世遺物が溝に流れ込んだとの解釈が導きだされる。

これらの区画は1町あるいは半町単位を基礎とするとも判断されることや、前ノ田村上第1遺跡で正方位を示し、銀座第1遺跡では約45°斜行することなどから、条里制地割が淵源となっているとも想定しうるが、明確に12世紀以前に遡りうる遺物がほとんど確認できないため、可能性の指摘にとどまらざるをえない。

○遺物

中世陶磁器類の概要は既に述べたので、ここでは中世土師器について考察する。

本遺跡では溝状遺構・掘立柱建物跡の柱穴・土坑などから土師器が出土している。それらは杯・小皿の二種に大別され、さらに製作時における底部の切り離し技法によってヘラ切り・糸切りの二種が存在する。製作技法が全国的に糸切りへと転換した後も宮崎県下の中世土師器にヘラ切りが残ることについては既に指摘があり、これは九州地方においても特異な現象であるとされる（山本・山村1997など）。

県内の研究としては近年、都城盆地の中世土師器について菜畑光博氏が編年を提示しているが（菜畑2004）、宮崎平野部の編年は岡本武憲氏の作業（岡本1995など）以降は目立ったものが見られず、停滞状況にあることは先にも記した。

そのような中で検討を進めていかなければならないが、本遺跡の調査でも編年を検討しうる良好な一括資料等には恵まれていない。よって陶磁器類が15世紀代を中心とすることから、大きく見て中世後半期の一様相として、そこに見られる特

徴・問題点を提示しておきたい。

本遺跡出土の中世土師器にヘラ切り・糸切りの二者が存在するとしたが、その内のヘラ切りの土師器においてのみ見られる特徴がある。

一つ目は「外底面の回転ヘラ切り痕の上から施されるハケメ状の調整痕」である。これは一見、いわゆる板状圧痕（スノコ痕）にも類似するように思われるが、残存良好な資料ならば圧痕ではなく粘土が一方向へと引きずられているのが観察できること、また底面中央部のみに見られ、さらにその部分のみが凹む資料が目立つことなどにより別種のものと捉えたい。

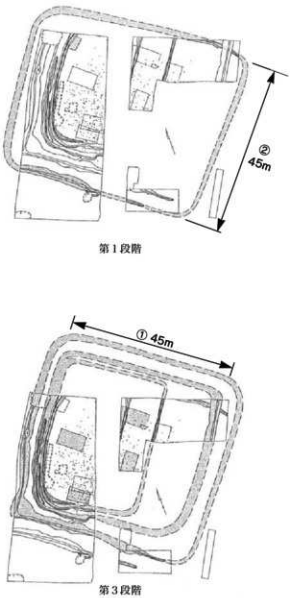
ヘラ切りの場合、手元を見下ろしながらヘラを入れるためか、どうしても外底面中央部が突出するようで安定がよくない。第74図151などはその最たる例である。それをわずかでも解消するため、切り離した後におそらく板の木口部分でなでつけるような調整を施すのではないかと想像される。

それを裏付けるかのように、この調整痕は糸切り痕を残す土師器には全く見られなかった。これは糸切りの場合、ヘラ切りとは逆に外底面が自然と上げ底状になることと関係すると思われる。

次に「内底面の指頭による横位のナデ」がある。これは内底面に回転ナデとは明らかに方向の異なるナデが確認できるものであるが、おそらく内底面の盛り上がりをならす意図で行われていると考える。この調整もやはり糸切りの土師器には観察できなかった。

胎土についても、二種の土師器で異なる印象があった。すなわちヘラ切りの土師器は赤褐色の粒子（風化礫片か）を比較的多く含み、胎土は粉質で触ると指に粉が残るようで、一方の糸切りの土師器は器表がややざらつき、指を滑らせると引っかかるような感触があるようなものが多かったように思われる。ただし現時点では主観的な判断の域を出るものではない。

以上の点から見ると、ヘラ切りと糸切りの土師器は、生産技術の系譜や担い手が全く異なっている可能性は指摘してもよいと思われる。類似する現象が都城盆地の資料でも確認されており、日向



第122図　池開遺跡の方形区画（1/1,000）

国全体で検討すべき課題である（都城市教育委員会1993、薬畑2004）。

ただし上述してきような土師器にみえる特徴を即座に宮崎平野部で普遍的な現象であるとするのは早計であり、今後同様な視点で分析を進めていきたいと考えている。

最後にＳＤ16出土の特徴的な土師器杯について触れておきたい。

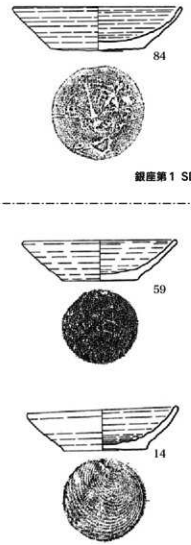
第64図84（第123図上に再掲載）はヘラ切りの土師器杯であるが、体部内外面に成形時の調整痕

が明瞭に残り、本遺跡出土土師器の中でも異彩を放つ資料である。

実はこれに酷似する土器が、豊後地方では15世紀末～16世紀前半頃に特徴的に出現する在地系土師器とされている（坂本2001、坪根・塩地2001など）。

実際に大友氏館跡・中世大友府内町跡出土の資料と84とを並べる機会を得たが、器形・胎土の特徴は極めて似ており、底部がヘラ切りであることが異なるのみで、底部を見せずに並べたら区別が付かないほどであった。ただし豊後では12世紀代には完全に糸切りへと転換しているため、豊後の影響を受けつつも日向で作られた土師器としておきたい。その帰属時期については、豊後の編年を参考にすると15世紀末～16世紀前半頃ということになるが、中世陶磁器類の中でも新しい一群と年代が合致する。

なお豊後地方の土師器との比較検討にあたっては、坪根伸也氏はじめ大分市教育委員会の方々から様々なご教示を得た。末筆ながら謝意を記したい。



第123図　土師器杯の形態比較（1/3）

引用・参考文献

【論文等】

茂山　護・大野寅夫　1977　「児湯郡下の旧石器」『宮崎考古』第３号　宮崎考古学会

川南町　1983　『川南町史』

岡本武憲　1991　「日向における古代末の土器　宮崎学園都市遺跡群を中心として」『中近世土器の基礎研究』Ⅶ　日本中世土器研究会

岡本武憲　1995　「九州南部」『概説　中世の土器・陶磁器』　真陽社

鬼塚久美子　1997　「宮崎平野の古代交通路に関する予察」『宮崎県史研究』第11号　宮崎県

山本信夫・山村信榮　1997　「九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集　国立歴史民俗博物館

坂本嘉弘　2001　「考古学から見た中世大友府内城下町の成立と構造」『南蛮都市・豊後府内　都市と交易』中世大友再発見フォーラム　大分市教育委員会・中世都市研究会

坪根伸也・塩地潤一　2001　「豊後国の土器編年」『大分・大友土器研究会論集』　大分・大友土器研究会

幸畑光博　2004　「都城盆地における中世土師器の編年に関する基礎的研究（１）」『宮崎考古』19号　宮崎考古学会

【発掘調査報告書等】

高鍋町教育委員会　1982　『持田中尾遺跡　発掘調査概要報告書』

川南町教育委員会　1983　『川南町の埋蔵文化財　遺跡詳細分布調査報告書』

都城市教育委員会　1993　『天神原遺跡』都城市文化財調査報告書第23集

宮崎県埋蔵文化財センター　1997　『霧島遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第４集

後牟田遺跡調査団・川南町教育委員会　2002　『後牟田遺跡』

宮崎県埋蔵文化財センター　2002　『蔵座村遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第53集

宮崎県埋蔵文化財センター　2003　『東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第76集

宮崎県埋蔵文化財センター 2003『北牛牧第５遺跡・銀座第３Ａ遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第80集

宮崎市教育委員会　2004　『池間・江口遺跡』宮崎市文化財調査報告書第59集

宮崎県埋蔵文化財センター　2004　『東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第91集

宮崎県埋蔵文化財センター　2005　『東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第111集

宮崎県埋蔵文化財センター　2005　『銀座第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第115集

宮崎県埋蔵文化財センター　2005　『前ノ田村上第１遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第116集

大分県教育庁埋蔵文化財センター　2005　『豊後府内１　中世大友府内町跡第５次・第８次調査区』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第１集

大分県教育庁埋蔵文化財センター　2005　『豊後府内２　中世大友府内町跡第９次・第13次・第21調査区』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第２集

※なお中・近世陶磁器の分類等については主として以下の文献によった

【中国産白磁】

森田　勉　1982　「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会

田中克子　2002　「博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁（その二）」『博多研究会誌』第10号　博多研究会

田中克子　2003　「博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁（その三）」『博多研究会誌』第11号　博多研究会

新垣　力・瀬戸哲也　2005　「沖縄における14世紀～16世紀の中国産白磁の再整理」『紀要　沖縄埋文研究』３　沖縄県立埋蔵文化財センター

【中国産青磁】

太宰府市教委区委員会　『大宰府条坊跡ⅩⅤ　陶磁器分類編』太宰府市の文化財第49集

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会

【中国産青花】
小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会

【古瀬戸】
藤澤良祐　2001　「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通　研究の現状と課題」『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品』資料集　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
藤澤良祐　2005　「瀬戸系（施釉陶器生産技術の伝播）」『中世窯業の諸相　生産技術の展開と編年』　全国シンポジウム「中世窯業の諸相　生産技術の展開と編年」実行委員会

【常滑焼】
中野晴久　1995　「生産地における編年について」『常滑焼と中世社会』　小学館
中野晴久　2005　「常滑・渥美系」『中世窯業の諸相　生産技術の展開と編年』　全国シンポジウム「中世窯業の諸相　生産技術の展開と編年」実行委員会

【備前焼】
乗岡　実　2000　「中世の備前焼甕（壺）の編年案」『第２回中近世備前焼研究会資料』　中近世備前焼研究会
乗岡　実　2000　「備前焼擂鉢の編年について」『第３回中近世備前焼研究会資料』　中近世備前焼研究会
乗岡　実　2005　「備前」『中世窯業の諸相　生産技術の展開と編年』　全国シンポジウム「中世窯業の諸相　生産技術の展開と編年」実行委員会

【東播系須恵器】
森田　稔　1986　「東播系中世須恵器生産の成立と展開　神出古窯址群を中心に」『神戸市立博物館研究紀要』第３号　神戸市立博物館
森田　稔　1995　「中世須恵器」『概説　中世の土器・陶磁器』　真陽社
荻野繁春　2005　「須恵器系（須恵器系陶器の編年と生産技術の展開）」『中世窯業の諸相　生産技術の展開と編年』　全国シンポジウム「中世窯業の諸相　生産技術の展開と編年」実行委員会

【堺・明石系擂鉢】
白神典之　1988　「堺摺鉢について」『堺環壕都市遺跡（ＳＫＴ79地点）発掘調査報告』堺市文化財調査報告書第37集　堺市教育委員会
白神典之　1990　「堺摺鉢と明石摺鉢」『江戸の陶磁器』　江戸遺跡研究会

【肥前系陶磁器】
九州近世陶磁学会　2000　『九州陶磁の編年』

図　　版

A区全景

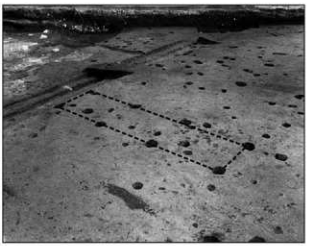
ＳＥ１土層断面（北西より）

ＳＥ３土層断面（西より）

ＳＥ４土層断面（南より）

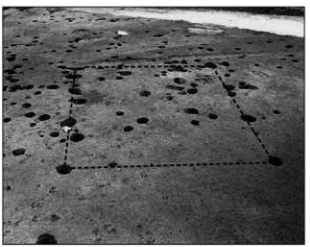
ＳＥ６土層断面（北より）

ＳＢ１（北西より）



ＳＢ５（北西より）

ＳＢ６（北西より）

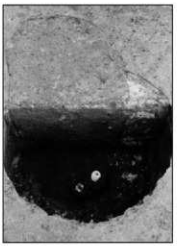


ＳＢ７（北より）

ＳＢ11・12（北東より）

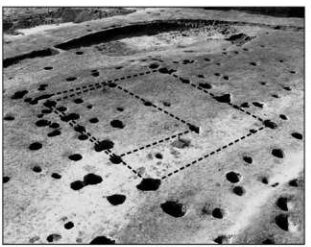
ＳＢ14（南西より）

SB14－P1遺物出土状況（石臼）



SB14－P4遺物出土状況（銭貨）

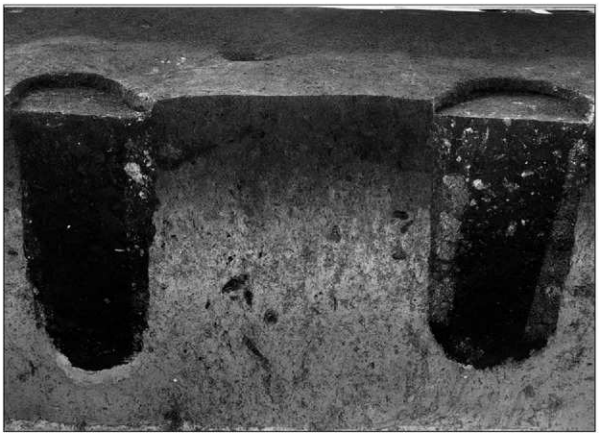
SB15（東より）



SB17・18（東より）

SB19（南東より）

SB21（東より）



ＳＢ14－Ｐ３・Ｐ４土層断面（柱痕跡）

ＳＢ14土層剥ぎ取り（薬品塗布）

ＳＢ14土層剥ぎ取り（布がけ）

作業風景①

作業風景②